

## 審査意見への対応を記載した書類(8月)

### 目次

文学部 教育学科

#### 1.<養成する人材像が不明確>

養成する人材像について、新設学部等の目的では「建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成」及び「地域貢献のできる人材」を揚げる一方、教育学科の教育目標では、「いのちを活かす人材」、「教育現場で真に活躍できる教員の育成」及び「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人材の育成」などを挙げているが、設置の趣旨等を記載した書類においては、養成する人材像が明示的に規定されておらず、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの整合性が確認できない。については、前提となる社会的背景等を踏まえ、養成する人材像を確定した上で、設置計画全体が整合するよう是正すること。

(是正事項)・・・・・・・・ 1

#### 2.<教育学科を文学部に設置する理由が不明確>

教育基本法の理念が本学の人材育成目標と合致すること及び本学には教員養成を旨とする学科が必要であること等が説明されているが、いずれも教育学科を文学部に設置する理由とはなっていない。については、教育学科を文学部に設置する理由をあらためて明確に説明するか適切に改めること。

(改善事項)・・・・・・・・ 2

#### 3.<学生確保の見通しの根拠について>

学生確保の見通しについて、下記の点が不明確であることから適切に対応すること。

- (1) 「受験生確保の可能性」の説明として「同系大学と比較してもカリキュラム内容が斬新であり、魅力を訴えられる力がある」としているが、本学のカリキュラムのどの部分が「斬新」であるかが不明確であることから同系大学のカリキュラムと比較した上で説明すること。
- (2) 学生確保の見通しの根拠資料として、指定校進路指導部に対するアンケート結果が示されているが、「進学を検討するか」との設問に対する回答の主体が不明であり、客観的な根拠として取り扱うには疑義があることから、内容について精査するか適切に改めること。

(改善事項)・・・・・・・・ 3

#### 4. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性に疑義があることから、以下について是正すること。

(1)カリキュラムの特徴として「理論的な学びと体験的な学びを二つの大きな柱として設定し、それらを繋ぐ体験サポート科目群によって理論と実践の結合をはかり、学びの内実化をはかっている。」としているが「理論的まなび」と、「体験的まなび」のつながりや往還関係について明確に説明するとともに、カリキュラム構造図において各科目の対応関係が読み取れないことから適切に修正すること。

(2)カリキュラム構造図において、体験的科目と課題探求科目とが架橋されているが、それぞれの科目群が教育課程上どのようなつながりを持っているかについて明確に説明すること。

(3)履修科目の年間登録上限を50単位と定めているが、設定の考え方についての説明がなされていないため、妥当性について判断できない。個々の授業科目に対する学生の十分な学修時間の確保の観点を踏まえ、設定の考え方について説明すること。

(4)教育課程上の専任教員が担当しない必修科目の中に主要と思われる科目が見受けられるので、本学の主要授業科目の考え方をシラバスも示して説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・4

#### 5. <履修コースの設定について>

「児童教育コース」及び「幼児教育コース」の2つの履修コースが設けられているが、コースごとの教育課程が示されておらず、体系的な教育課程が整備されているか不明であるため、コースごとの教育課程を示すとともに、複数免許取得者の履修モデルも示すこと。また、コースごとの定員を設けるのか、どの時期からコースごとに学生を配置するのか、学生がコース選択を行う時期や学生の選抜方法、進路選択の相談体制などコースの運用方法全般が不明確であることから、それぞれ明確に説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・5

#### 6. <「体験学習」の詳細が不明確>

本学科の教育課程上に「体験学習」を設定する趣旨の説明が十分ではないことから、これらについて改めて明確に説明するとともに、以下の点について適切に対応すること。

(1) 体験実習科目のうち必修科目である「学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱ」、「地域体験Ⅰ～Ⅳ」の各科目のシラバスでは各回の授業計画については、「連携教育委員会との合意プログラムの概要」や「団体ごとに作成した活動計画に従って行う。」こととされており、別途示された概要資料を見ても実習内容の詳細やその水準が不明確である。については、体験実習科目の実習要綱など各実習科目の詳細（各回の授業内容、到達目標、指導体制、成績評価等）が分かる資料を明示し、大学教育としてふさわしい実習の水準が確保されることを明らかにすること。

また、各科目の体験学習の内容については、前述した体験学習についての趣旨の説明とも

結びつけて体系立った説明を行うこと。

(2) 体験学習を行う各施設への具体的な巡回指導計画が示されていないため、科目の担当教員が、その他の担当授業科目や自身の研究活動の時間を確保した上で、巡回指導を適切に実施できる時間割となっているかが判断できない。については、巡回指導計画を明示した上で、計画の妥当性について具体的に説明すること。

(3) 「高野山大学特任マイスター」について、どのような者がどのように科目の支援に関わることになるのか不明瞭であることから、具体的な学生サポート内容や役割を明確にし、あわせて専任教員の負担減につながることにについて説明すること。なお、教員ではないマイスターが、学生の成績評価を行うことがないよう留意すること。

(是正事項)・・・・・・・・6

#### 7. <教育目標と教育課程の整合性について>

教育目標において「Web を利用した英語力の育成」を掲げているが、教育課程全体として具体的にどのような科目により当該目標を実現することとなるのかが不明瞭であるため、明確に説明すること。

なお、カリキュラム構造図に記載のある「Web 利用の英語」及び「English Communication I」のシラバスにおける「e-learning」の詳細についてもあわせて説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・7

#### 8. <実習科目の実施体制等が不明確>

教育実習及び保育実習に関して、年間計画、事前・事後の指導計画の詳細、巡回指導の実施体制、実施頻度、教員の負担及び成績評価の基準について、実習科目ごとの実習計画が示されておらず実習科目の内容の妥当性が判断できないため、実習要綱等を明示した上でこれらについて明確に説明すること。

なお、実習科目のシラバスにおける成績評価基準について、「実習校からの評価」や「実習施設による評価」との記述があるが、適切な評価方法とは認められないため、修正すること。

(是正事項)・・・・・・・・8

#### 9. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

(是正事項)・・・・・・・・9

#### 10. <共用施設の使用計画が不明確>

校地・校舎及び施設・設備を他法人の設置する短期大学及び高等学校と共用する計画となっ

ているが、各教室及び図書館、医務室、学生自習室、学生控室、情報処理学習施設、語学学習施設、運動場、食堂及びクラブ室等厚生補導施設について、学生が支障なく使用できるのかが判然としないため、各共用施設の使用方針及び完成年度における利用計画を明らかにした上で、学生に不利益が生じないことを説明すること。

なお、完成年度における本学科及び施設等を共用する短期大学の授業時間割が示されているが、具体的に使用する教室等の名称及び当該教室等の収容可能人数が示されておらず、各時間の空き教室がどこであるかについても分かりにくいいため、あらためて示すこと。

(是正事項)・・・・・・・・10

#### 11. <教職支援センター>

教職支援センターが設置される予定であることが示されているが、どの校地に設置される予定であるかや具体的な運営体制について不明確であることから、明確に説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・11

#### 12. <図書等の整備計画が不明確>

図書及び学術雑誌の整備計画について既存の冊数や寄贈された冊数については示されているが、教育研究の実施に十分な内容であるか疑義があることから、その妥当性について改めて検討し、必要に応じて適切に改めること。あわせて、新規に整備予定の図書及び学術雑誌のリストを示すこと。

(是正事項)・・・・・・・・12

#### 13. <機械・器具等の整備計画が不明確>

校舎等施設について、既設の短期大学の施設を借用する旨説明されているが、機械・器具等に関しては、例えば、ピアノの台数が示されていないなど、教育研究の実施に十分な内容となっているか確認できないことから、本学科の教育研究に必要となる機械・器具等について新規に整備するものも含めリストを示すこと。

(是正事項)・・・・・・・・13

#### その他 1 <審査意見外の対応>

1.教職課程認定申請書類への指摘事項に対する対応について・・・・・・・・14

(是正事項) 文学部 教育学科

1.<要請する人材像が不明確>

養成する人材像について、新設学部等の目的では「建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成」及び「地域貢献のできる人材」を掲げる一方、教育学科の教育目標では、「いのちを活かす人材」、「教育現場で真に活躍できる教員の育成」及び「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人材の育成」などを挙げているが、設置の趣旨等を記載した書類においては、養成する人材像が明示的に規定されておらず、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの整合性が確認できない。については、前提となる社会的背景等を踏まえ、養成する人材像を確定した上で、設置計画全体が整合するよう是正すること。

(対応)

ご指摘の通り、設置趣旨文中に人材像について明確に規定していなかった。本学の人材育成目標や、中教審答申等で指摘されている現下の教育事情や今後の課題等を踏まえて、養成する人材像を明確にし、それを実現するための教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関連性を明確に示すように設置趣旨を修正した。具体的には、「シンビオゲネシス」の項を「教育学科の教育理念および講演する人材像」と修正した。

本学学則には養成する人材像を明確にしており、それを基に文学部の教育理念が掲げられている。それらを基に、今日の社会的背景、教育事情を踏まえて教育学科が養成する人材像を定めている。今日の教育事情を鑑みると益々必要とされるべき人材像であり、その養成は本学教育学科の使命でもある。こうした人材養成を実現するために、資質・能力を整理してディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを設定している。なお、大学の重点的機能や研究上の中心的な学問分野についても明確になるように追記した。

高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜芸種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示しており、文学部では、それに基づき「「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する」（高野山大学履修規程 第2条(1)）との教育理念を掲げている。

本学の教育理念のキーワードは「いのち、文化、創造」である。弘法大師空海は、密教をわが国に伝えた宗教者であるだけでなく、書や文に秀でた文化人であり、教育者であり、民衆教育の創始者でもあった。こうした空海の思いに応えて、教師は「社会に貢

献する人間性豊かな人材」として成長しなければならない。よって、教育学科が養成しようとする人材像を以下のように定める。

#### ◎教育学科が養成する人材像

「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」

本学教育学科は、教員養成を旨とする学科であり、幼児教育や初等教育の教員を養成することを目的としている。教育現場で活躍しうる教員を目指す、今日の学校現場では、不登校児童や校内での暴力行為、日本語指導が必要な外国人児童などが急激に増加している。教員には、教科や教職の知識・技術だけでなく教職者としての使命感や倫理意識、子どもたちに寄り添い耳を傾ける心、保護者の気持ちを理解し対応できる姿勢、異なった価値観を互いに理解しあう心やコミュニケーションの力など、道徳性や人間性をも併せ持つことが求められる。したがって、上記の人材像を実現するための教育理念を、以下のように設定する。

#### ◎教育学科の教育理念

「教育学科は、建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成を目的とするとともに、地域貢献のできる人材を養成する。」

真言密教の教えは、世界に存在するものすべてに価値を見出すものであり、多様な文化や価値観を理解するために必要な視点を示している。道徳性や豊かな人間性、国際的視野（広く多角的にとらえられる視野）を培うための基礎となる教えであり、教育目標の達成に間違いなく寄与する。

また、教育再生実行会議は、「学び続ける社会、全員参加型社会、地方創成を実現する教育の在り方について」（第6次提言、H27..3.4）において、1.「学び続け、挑戦できる社会」、2.「全員参加型社会」、3.「教育がエンジンとなって地方創成」の3点の提言を行い、「教育の力で地域を動かす」という方向性を強く打ち出した。

同年度末には、中教審答申「新しい時代の教育や地方創成の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（H27.12.21）が出されて、「学校と地域の連携・協働の必要性」の認識のもと、今後の連携・協働の姿を以下の3点に纏めている。

1. 地域とともにある学校への転換
2. 子どもも大人も学びあい育ちあう教育体制の構築
3. 学校を核とした地域づくりの推進

このように、学校と地域の連携の必要性はますます大きくなっており、教員は校内での教育活動だけでなく、地域の人々とも連携・協働していくことが求められる。したがって教員養成においても、これに関連する資質・能力の育成を視野にいれておかねばならない。本学教育学科の教育目標に、地域連携を入れているのは、こうした社会的背景にも基づくものである。

教育学科の教育理念を達成するために、ディプロマ・ポリシーを以下のように定め、その実現のためにカリキュラム・カリキュラム・ポリシーを設定している。

### 【教育学科 学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）】

文学部教育学科のカリキュラムにおいて卒業要件を満たす単位を取得し、初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につけると共に、次の資質・能力を備えた学生に学士（教育学）の学位を授与する。

#### 1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力

（1）授業構成力、教材開発力を身につけ、学習活動を適切に運営できる力を有する。

（2）子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働してものごとを完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する。

（3）子どもたちの悩みを受けとめ、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する。

#### 2. 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力

（1）地域社会および生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。

（2）地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する。

ディプロマ・ポリシーでは、学位授与の前提として、卒業要件を満たす単位取得とともに、「初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につける」ことを求めており、加えて、本教育学科が求める人材像「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」の実現の要件となる資質・能力を規定し、それらを身に付けることを求めたものである。

一つは、「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」であり、二つめには「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」である。

この実践力や人間力の内実として、前者では（１）授業構成力、教材開発力、学習活動の運営力、（２）子供たちに寄り添い、仲間と協働して困難を克服する力、（３）カウンセリング・マインドや心理ケアの知識・能力、後者の地域貢献にかんする人間力では、（１）地域社会・文化を大切にし、ケアの心で支援できる知識・能力、（２）協力して地域活性化に貢献できる知識・能力、をあげている。

これによって、教育学科のもとめる教員像の基本的な姿も明確になると考える。

### 【教育学科 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

本学の教育理念と教育目的に基づき、大きく「専門科目」群、「基礎科目」群とでカリキュラムを編成し、「専門科目」の中に、「理論的科目」群と「体験的科目」群を置く。「理論的科目」群には、「教職関連科目」や「心理関係科目」に加えて、「体験サポート科目」群を特別に配置する。「体験サポート科目」群は、「体験的科目」の学びと、「理論的科目」の学びを繋ぎ、体験と理論的な学び、経験と知識との結合を図るために配する。

1. 「理論的科目」では、教職や心理関係についての専門的知識・技能を育み、実践力のある教師や社会人としての資質・能力の育成を目指す。
2. 「体験的科目」は、本学の最も特徴的な科目群であり、教員に必要な資質・能力を育成するために設定した科目群である。1年次から、学校や地域において多様な体験を積み重ね、地域での様々な年齢層・職種の人々とのふれあいを通して、相手の話に耳を傾け、分かりやすく伝えられるコミュニケーション力や、相手の気持ちに寄り添うことのできる能力、困難にぶつかってもやり遂げられる力、仲間と協力してものごとを完成させる実践力などを育むことを目的とする。
3. 「体験サポート科目」によって、実践と理論をつなぎ、大学での学びを確かに内実化することを目指す。
4. 「基礎科目」は、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指す。



ディプロマ・ポリシーで掲げた知識や資質・能力の獲得を実現するために、カリキュラム・ポリシーにおいて、課程編成の基本的な方針を示し、それによって教育学科の課程を編成している。

#### 教育学科の重点的な機能と研究対象とする中心的な学問分野

教員という職業は高度に専門的であり、かつ人間的な力が求められている。教育学科は、こうした教員養成を行う目的大学であり、「高度専門職業人」の養成のための基礎的基盤的な学習を提供し、実践力のある教員養成に重点を置く。

また、様々な地域団体での体験を積み上げて、教員として必要な資質・能力の形成に寄与するように課程編成を行っているが、それによって培われる人間力は、地域の安心や活性化の原動力となれる教員を育てることにつながると考えている。

社会貢献は、本学教育学科の教育理念の柱である。したがって、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）で示された7種類の高等教育機能の内、本学教育学科は、「高度専門職業人養成」を重点に置き、同時に「社会貢献機能（地域貢献）」をも大学の機能とする。

これらの重点的機能を研究的に支える研究分野は、教育学、教科教育学、英語学、心理学、社会福祉の分野である。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（pp4-9）

新	旧
<p><u>(削除)</u></p>	<p><u>(4) シンビオゲネシス：新しい高等教育機関の創出を目指して</u>  <u>高野山大学と大阪千代田短期大学は、共に弘法大師の教育理念で結びついている。しかし、一方は短期大学、他方は博士課程まで有する4年制大学であり、別法人である。今日では、別法人の大学による連携事業が進んでいるが、4年制大学と短期大学の連携は初めての試みだと思われる。われわれの連携は、高野山大学が大阪千代田短期大学のキャンパスの空き教室を利用するという単なる便宜的なもの</u></p>

ではなく、学位の異なる両機関が、それぞれの特徴を活かしながら教育研究活動の連携を深めることにより、従来なかった新たな教育機関を創出する意図を含んだものである。

生物界では、単細胞生物同士の結合により多細胞の新しい生物が進化の中で登場して革命的な飛躍をとげたと言われている。こうした新しい生物の創出として「シンビオゲネシス」という概念がある。これは互いに独立した営みを行っていた生物が、何かのはずみで組み合わせることによりこれまでになかった機能を有する新しい生物が創出されることを表す概念である。重要であるのは、組合わされる際、一方が他方を飲み込み一方のみが肥大化するのではなく、お互いが独立性を保ちながら一つに組織化され、それぞれが機能的役割を果たすように進化することで新しい生物が創出されるという点にある。我々人間も体内に多様な細菌やバクテリアなどを所有し、それらの働きによって腸内環境が保たれ、健康が保持される。あるいは、細胞内に存在するミトコンドリアが、もともとは好気性細菌という別の生物が取り込まれたものだというのは有名な話であるが、こうした現象が、今日の様々な多細胞生物を産み出してきたものであり、シン・ビオ・ゲ

<p><u>(4) 教育学科の教育理念および養成する人材像</u></p> <p><u>高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜芸種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示しており、文学部では、それに基づき「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する」（高野山大学履修規程 第2条（1））との教育理念を掲げている。</u></p> <p><u>前述してきた設置趣旨や上述の高野山大学の教育理念を踏まえて、本学教育学科の教育理念と養成する人材像を以下のように定める。</u></p> <p><u>・教育学科の教育理念</u></p> <p><u>本学の教育理念のキーワードは「いのち、文化、創造」である。弘法大師空海は、密教をわが国に伝えた宗教者であるだけでなく、書や文</u></p>	<p><u>ネシス sym・bio・genesis =共生による創出という概念の本質である。</u></p> <p><u>われわれは、高等教育機関におけるシンビオゲネシスを行ないたいとの希望をもって、今回の連携を行なっている。教員免許など資格取得の学びの在り方、人間教育を根底にした教養教育、国際的な視点と地域連携などのグローバルな学びなど、多くの課題に関する教育研究を両者で組織的に行なっていくように検討している。未解決の部分が多いが、教育学科設置は、このスタートと位置づけるものである。</u></p> <p><u>(追加)</u></p>
--	--

に秀でた文化人であり、教育者であり、民衆教育の創始者であった。綜芸種智院の思想は、様々な学問や技術を、学びたいと思う人すべてに無料で提供するというものであり、空海がいかに教育を大切にしていたかが理解できる。学習内容は、九流・六芸)・十蔵)・五明が例として挙げられているが、仏教だけでなく広く世間の学問や技芸を含んだものである。「九流」には陰陽家や儒家、墨家などに加えて農家があり、農業技術や農の思想が含まれる。「六芸」は、礼節(礼儀)、音楽、弓術、馬術、文学(書道)、数学(算術)であり、「五明」は、工巧明(工芸・工学技術、天文暦学)、医方明(医学と薬学)、声明(言語と文法学、文学)、因明(論理学)、内明(仏教学)である。農業や工芸から馬術や弓術なども含まれる。

なぜこのような様々な学びを含む教育課程を目指したのか。空海は、「九流六芸は代を救うの舟梁、十蔵五明は人を利するのこれ宝なり」と述べている。綜芸種智院での学びは、人間的成長と人々や社会のための学びだというのである。

人間の教育に携わる教師は、こうした空海の思いに応じて「社会に貢献する人間性豊かな人材」として成長しなければならない。よって、教育学科が養成しようとする人材像を以下のように定める。

#### ◎教育学科が養成する人材像

「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」

本学教育学科は、教員養成を旨とする学科であり、幼児教育や初等教育の教員を養成することを目的としている。教育現場で活躍しうる教

員を目指すが、今日の学校現場では、不登校児童や校内での暴力行為、日本語指導が必要な外国人児童などが急激に増加している。たとえば、平成29年度のデータでは、小学校で35,032人、中学校108,999人、高等学校49,643人、合計で193,674人もの児童生徒が不登校だという。しかも、小・中学校では、年々増加の傾向にある（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文科省、平成29年度）」）。

教員には、教科や教職の知識・技術だけでなく教職者としての使命感や倫理意識、子どもたちに寄り添い耳を傾ける心、保護者の気持ちを理解し対応できる姿勢、異なった価値観を互いに理解しあう心やコミュニケーションの力など、道徳性や人間性をも併せ持つことが求められる。したがって、上記の人材像を実現するための教育理念を、以下のように設定する。

#### ◎教育学科の教育理念

「教育学科は、建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成を目的とするとともに、地域貢献のできる人材を養成する。」

真言密教の教えは、世界に存在するものすべてに価値を見出すものであり、多様な文化や価値観を理解するために必要な視点を示している。道徳性や豊かな人間性、国際的視野（広く多角的にとらえられる視野）を培うための基礎となる教えであり、教育目標の達成に間違いなく寄与する。

また、教育再生実行会議は、「学び続ける社会、全員参加型社会、地方創成を実現する教育の在り方について」（第6次提言、H27..3.4）において、1.「学び続け、挑戦できる社会」、

2. 「全員参加型社会」、3. 「教育がエンジンとなって地方創成」の3点の提言を行い、「教育の力で地域を動かす」という方向性を強く打ち出した。

同年度末には、中教審答申「新しい時代の教育や地方創成の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(H27.12.21)が出されて、「学校と地域の連携・協働の必要性」の認識のもと、今後の連携・協働の姿を以下の3点に纏めている。

1. 地域とともにある学校への転換
2. 子供も大人も学びあい育ちあう教育体制の構築
3. 学校を核とした地域づくりの推進

このように、学校と地域の連携の必要性はますます大きくなっており、教員は校内での教育活動だけでなく、地域の人々とも連携・協働していくことが求められる。したがって教員養成においても、これに関連する資質・能力の育成を視野にいれておかねばならない。本学教育学科の教育目標に、地域連携を入れているのは、こうした社会的背景にも基づくものである。

上述したように、真言密教の教えは、多様な文化や価値観を理解する視点を示しており、地域の様々な人々と連携・協働するためにも有益であると考える。

教育学科の教育理念を達成するために、ディプロマ・ポリシーを以下のように定め、その実現のためにカリキュラム・カリキュラム・ポリシーを設定している。

—

教育学科学位授与」に関する方針

(略)

ディプロマ・ポリシーでは、学位授与の前提として、卒業要件を満たす単位取得とともに、「初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力を身につける」ことを求めており、加えて、本教育学科が求める人材像「人間や自然、多様な文化の価値を大切にし、地域社会や文化の発展に貢献しうる人間性豊かな人材」の実現の要件となる資質・能力を規定し、それらを身に付けることを求めたものである。

一つは、「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」であり、二つめには「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」である。

この実践力や人間力の内実として、前者では（１）授業構成力、教材開発力、学習活動の運営力、（２）子供たちに寄り添い、仲間と協働して困難を克服する力、（３）カウンセリング・マインドや心理ケアの知識・能力、後者の地域貢献にかんする人間力では、（１）地域社会・文化を大切にし、ケアの心で支援できる知識・能力、（２）協力して地域活性化に貢献できる知識・能力、をあげている。

これによって、教育学科のもとめる教員像の基本的な姿も明確になると考える。

#### 教育課程の編成方針（略）

ディプロマ・ポリシーで掲げた知識や資質・能力の獲得を実現するために、カリキュラム・ポリシーにおいて、課程編成の基本的な方針を示し、それによって教育学科の課程を編成している。課程全体を「専門科目」と「基礎科目」の二つの群で構成し、「専門科目」群に、上記の資質・能力を育成するための工夫をした。

「基礎科目」は、建学の精神に基づく人間的成長と社会認識を育む学びである。ポリシーで

は、「社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育む」としている。

「専門科目」群は、教職に関する基礎的専門的な知識・技能を習得するとともに、教員に必要な資質・能力を育成するための科目群である。詳しくは、「教育課程編成の特色」の項で説明する。

#### (5) 教育学科の重点的な機能と研究対象とする中心的な学問分野

中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(H27.12.21)では、今日の社会に対して「知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など」大きな社会変化が起きており、「新たな知識や技術の活用により、一層社会の進歩や変化のスピードは速まる可能性がある。」と述べて、わが国の将来の発展と繁栄の維持のためには、「様々な分野で活躍できる質の高い人材育成が不可欠である。こうした人材育成の中核を担うのが学校教育であり、その充実こそが我が国の将来を左右する」と、教員養成の重要性を指摘している。

答申では、このような社会的背景のもと、「これからの時代の教員に求められる資質・能力」として、従来から必要とされてきた使命感や責任感、教育的愛情、教育・教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力等に加えて、以下のような資質・能力の必要性をあげている。

- ・学び続ける姿勢
- ・情報の収集・選択・活用能力や知識を有機的に結び付け構造化する力
- ・アクティブラーニングの視点からの授業改



善、道徳教育、外国語教育、ICT活用、  
特別支援教育等の課題に対応できる力  
・「チーム学校」の考えの下、多様な専門性  
を持つ人材との効果的な連携・分担、  
組織的・協働的に課題解決に取り組む力

教員という職業がいかに専門的であり、かつ  
人間的な力が求められているのかが分かる答  
申である。教育学科は、こうした教員養成を行  
う目的大学であり、「高度専門職業人」の養成  
のための基礎的基盤的な学習を提供し、実践力  
のある教員養成に重点を置く。

また、様々な地域団体での体験を積み上げ  
て、教員として必要な資質・能力の形成に寄与  
するように課程編成を行っているが、それによ  
って培われる人間力は、地域の安心や活性化の  
原動力となれる教員を育てることにつなが  
ると考えている。

社会貢献は、本学教育学科の教育理念の柱で  
ある。すでに河内長野市教育委員会とは地域の  
教育に関わる事項で連携協定を結んでいるこ  
とに加えて、地域体験活動のために協力をお願  
いした各団体ともそれぞれ連携協定を交わし  
ている。地域の活性化等に貢献できる条件は整  
っており、今後さらに進展することが期待でき  
る。

連携している大阪千代田短期大学も、河内長  
野市を中心とする地域と連携・協力しているこ  
とから、本学と共同運営する「地域教育・福祉  
総合センター（仮称）」の設置を構想している。  
同センターは、研究部門、地域貢献部門/貢  
献部門、事業部門の3部門で構成し、地域の  
様々な機関、団体等と連携して地域貢献を進め  
ていくように構想している。（構想図は「XVII  
社会的・職業的自立に関する指導等及び体制、3.  
適切な指導体制について」p.73に掲載）

したがって、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）で示された7種類の高等教育機能の内、本学教育学科は、「高度専門職業人養成」を重点に置き、同時に「社会貢献機能（地域貢献）」をも大学の機能とする。

これらの重点的機能を研究的に支える研究分野は、教育学、教科教育学、英語学、心理学、社会福祉の分野である。

教育学分野では、教育方法論、教育課程論、教育社会学、生涯学習論などの研究分野で教育・研究を行う。

教科教育学の分野では、社会、理科、国語、家庭、体育、音楽、初等英語の各分野で教育・研究をすすめる。各科の教育内容や方法、教材開発などの研究を深め、幼児教育や初等教育の教育にも反映する。

英語学分野では、英語コミュニケーションや、異文化理解などの研究に加えて、英語教育についての研究も行う。

心理学の分野では、主として臨床心理学分野で教育・研究を進め、心理ケアに関する実践的な対応も行う。

社会福祉の分野では、社会福祉学に関する教育・研究を進め、学校教育や、保育分野、地域支援などに活かす。

(略)

p.11

「1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力」は、文学部ディプロマ・ポリシーで示す「専門的な知識・方法論に基づく、問題解決や価値創造の能力」に対応しており、「2.

(略)

「1. 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力」は、文学部ディプロマ・ポリシーで示す「専門的な知識・方法論に基づく、問題解決や価値創造の能力」に対応しており、「2. 地域の安心安全や活性化に

<p>地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」は、「人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力」とも対応するものである。なお、こうした「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」や「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」を育むには、教室における知識・理論の学びだけでは十分でない。教育現場における体験的な学びや、地域の多様な職業・年齢の人々との交流の機会などを十分に保証することで初めて、目的とする資質・能力の形成が可能となる。</p> <p><u>したがって、教育現場以外での体験学習は、地域の活性化に寄与しうる資質・能力を形成するだけでなく、教職者として成長するための教職の学びを補完し強化する役割をも担っている。教育課程はそうした考えのもとに編成している。</u></p>	<p>貢献しうる人間力」は、「人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力」とも対応するものである。なお、こうした「教育現場で活躍しうる実践力・人間力」や「地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力」を育むには、教室における知識・理論の学びだけでは十分でない。教育現場における体験的な学びや、地域の多様な職業・年齢の人々との交流の機会などを十分に保証することで初めて、目的とする資質・能力の形成が可能となる。</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>教育課程はそうした考えのもとに編成している。</p>
--	--

(新旧対象表) 別紙 1-1

新	旧
基本計画書 教員数 (新)	基本計画書 (旧)

(改善事項) 文学部 教育学科

2.<教育学科を文学部に設置する理由が不明確>

教育基本法の理念が本学の人材育成目標と合致すること及び本学には教員養成を旨とする学科が必要であること等が説明されているが、いずれも教育学科を文学部に設置する理由とはなっていない。ついては、教育学科を文学部に設置する理由をあらためて明確に説明するか適切に改めること。

(対応)

綜藝種智院を源流とした本学にとって、教員という人材の養成は極めて重要なものである。今回、文学部人間学科を改組して念願の教育学科とするが、教育学科の理念が、既存の文学部の教育理念と一致していることや、文学部で中心的に学ぶ密教の教えが、教員養成にとっても重要な視点を与えるものであり、文学部内に設置することに積極的な意味があること、文学部内で適切に学科運営できるなどの理由で、文学部に設置するものである。

ご指摘にしたがって、文学部の教育理念等を記載し、文学部に教育学科を設置する理由を改めて説明し、そのことで学部教育理念が大きく変わることはないことも付け加えた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (pp.12-14)

新	旧
<p>文学部に教育学科を設置する理由</p> <p>すでに見たように、高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜藝種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示している。また<u>文学部では、それに基づき「「いのち」のあらゆる営みを尊び、人間とその環境の共存共生をはかり、諸民族諸地域の文化を理解し、新しい文化を創造して、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する。」との教育理念を掲げている</u>（高野山大学履修規程第2条(1)）。</p> <p>文学部ディプロマ・ポリシーにおいても、「生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に</p>	<p>文学部に教育学科を設置する理由</p> <p>すでに見たように、高野山大学では、学則第1条に「弘法大師の綜藝種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的」とした「人材育成目標」を示している。また <u>(追加)</u></p> <p>文学部ディプロマ・ポリシーにおいても、「生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に</p>

理解する能力を有する学生」に学位を授与するとしており、学問や文化の伝承や発展に寄与しうる人材の育成を重要な目標としている。

このように本学文学部は弘法大師の教えを基礎に、人間存在や文化の価値を大切に、地域社会や文化の発展に貢献しうる人材の育成を基本としており、こうした考えは、教育学科の教育目標とまったく一致する。

文学部の真言密教の教えは、世界に存在するものすべてに価値を見出すものであり、多様な文化や価値観を理解するために必要な視点を示している。これは、様々な子どもや保護者と向き合わなければならない教員の姿勢に通じるものであり、今後、日本人以外の子どもが多くなると予想される学校教育の場でも必要な視点である。

また、空海は宗教者であると同時に、文化人であり、教育者であり、わが国で初めての民衆教育の創始者でもあった。こうした「社会や人のために生きる」という姿勢が密教の学びの根底であり、教育の役割や教職の使命の深化を育むうえで、基本的な考え方を植え付けることができる。別の学部ではなく、文学部内に教育学科を設置することが重要であると考えている。

文学部密教学科に教職課程を有していることも、文学部に教育学科を設置する理由である。

密教学科では、中学校・高等学校教諭免許（国語）の取得が可能であり、教育学科の小学校国語科や幼稚園領域（言葉）について教育研究上の連携がとりやすく、内容を深めることが可能となる。小学校での「教科担任制」の実施が目前となっていることから、国語科について教育研究を進めることが可能とな

理解する能力を有する学生」に学位を授与するとしており、学問や文化の伝承や発展に寄与しうる人材の育成を重要な目標としている。

（追加）

る。

(削除)

また、本教育学科は、文学部人間学科を改組して設置するものであり、現在の人間学科教員の一部が教育学科の専任教員として移籍して教育研究活動に従事する。教育学科の教育課程も文学部の教員の協力支援をうけて編成している。したがって、理念的にも、人的・教育課程的にも、文学部に教育学科を設置することに無理はなく、文学部が母体となる学科として適切に運営できると考えている。

(削除) 文学部に学士（教育学）の学位を持つ教育学科を設置する例はいくつかあり、近年においては、金沢学院大学、東北学院大学などが文学部に教育学科を設置している。

(削除)

教育基本法ではその前文において、「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と述べている。人間性の育成とともに、伝統の継承、文化の創造が重要な柱としてあげられているが、この教育基本法が掲げる理念は、「学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成する」とする本学の人材育成目標に合致するものであり、弘法大師の綜藝種智の教育理念にぴったり沿うものである。綜藝種智院を源流とした高野山大には、教員養成を旨とする学科こそ必要なものである。

（追加）本教育学科は、文学部人間学科を改組して設置するものであり、現在の人間学科教員の一部が教育学科の専任教員として移籍して教育研究活動に従事する。教育学科の教育課程も文学部の教員の協力支援をうけて編成している。したがって、理念的にも、人的・教育課程的にも、文学部に教育学科を設置することに無理はなく、文学部が母体となる学科として適切に運営できると考えている。

また、文学部に学士（教育学）の学位を持つ教育学科を設置することに設置基準上の問題はない。実際、近年においても、金沢学院大学、東北学院大学など文学部に教育学科を設置が認可されしている大学はいくつも存在する。

なお補足的であるが、本学のような学生定員の少ない大学の場合、財務状況の点からも

<p><b>Ⅱ 学部、学科等の特色</b></p> <p><b>1. 概要</b></p> <p>(略)</p> <p>設置予定の教育学科は、初等教育および幼児教育の教員養成を主たる目的とする学科であり、教育現場で活躍しうる教員を輩出するとともに、地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力を身につけることを目指している。</p> <p><u>文学部密教学科は、「真言密教の智慧を学び、現代社会に生かしていく」ことを主目的とし、真言僧侶の育成を軸としながら、真言密教の教えを備えた社会人の育成を目指している。</u></p> <p><u>文学部人間学科は、「地域デザインコース」と「心理ケアコース」の2コースを設置し、「人を支え、地域を支える人」の育成をめざしてきた。今回、教育学科に改組することで人間学科は募集停止するが、人間学科が養成しようとしてきた人材像は、密教学科と教育学科に発展的に引き継がれる。</u></p> <p><u>「地域デザインコース」で目指してきた社会学的な学びは、地域で活動する僧侶にとっても重要な学びであり、密教学科に取り入れることで密教学科の学びをより豊かにできる。</u></p> <p><u>「心理ケアコース」では、高野山で培われてきた精神修養の伝統と臨床心理学に</u></p>	<p><u>文学部に設置することに利点が多いことも述べておきたい。</u></p> <p><b>Ⅱ 学部、学科等の特色</b></p> <p><b>1. 概要</b></p> <p>(略)</p> <p>設置予定の教育学科は、初等教育および幼児教育の教員養成を主たる目的とする学科であり、教育現場で活躍しうる教員を輩出するとともに、地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力を身につけることを目指している。</p> <p><u>(追加)</u></p>
--	---

手法を学び、生と死を深く見つめる心を育む「スピリチュアルケア師」資格の取得が可能であった。密教学科では、すでに「スピリチュアルケア師」と「臨床宗教師」の両資格を取得可能としており、「心理ケアコース」の内容を引き継ぐことで、より充実した教育研究活動が可能になる。

心理ケアの学びは、教育学科においても人材養成の重要な要素であり、人間学科における心理ケアの学びの一部を教育学科でも展開する。

したがって、人間学科を教育学科に改組することで、従来の文学部の教育理念が大きく変わることはない。



(改善事項) 文学部 教育学科

3.<学生確保の見通しの根拠について>

学生確保の見通しについて、下記の点が不明確であることから適切に対応すること。

(1) 「受験生確保の可能性」の説明として「同系大学と比較してもカリキュラム内容が斬新であり、魅力を訴えられる力がある」としているが、本学のカリキュラムのどの部分が「斬新」であるかが不明確であることから同系大学のカリキュラムと比較した上で説明すること。

(2) 学生確保の見通しの根拠資料として、指定校進路指導部に対するアンケート結果が示されているが、「進学を検討するか」との設問に対する回答の主体が不明であり、客観的な根拠として取り扱うには疑義があることから、内容について精査するか適切に改めること。

(対応)

- (1) 教員養成系大学において、地域団体での体験学習を必修科目として設定している例は聞かない。

学校現場に、1年次から参加する例は多くなったが、農業や林業、地域自治会、里山 NPO など、教育現場以外の団体でこうした体験を授業として行う例は聞かない。以下、近隣の同系列大学の例を挙げる。

大阪大谷大学

同大学では、「なりたい教員」を目指すとして、小学校教諭コースや中・高の英語あるいは国語の教諭を目指すコース設定をしている。3年生以降のゼミで、4つの学際的な学びを設定している工夫が魅力的であり、その中に「協働ゾーン」として、他者をつながり、他者をつなげる」ということを目指す学びが設定されている。本学の考えに共通するものだが、内容は「心理学」や「学級経営」の学びを現場と連携して行うものだと説明されている(「大阪大谷大学 2020 年度大学案内」)。したがって、連携先は学校教育現場が中心であると考えられる。カリキュラム表には、他にキャリア教育科目として「教育インターンシップ」があるが、それ以外の地域連携に関する科目は見当たらない。

桃山学院教育大学

同大学は、「現場主義」を人間教育の特徴として掲げている点で、本学と共通する教育観がうかがえる。「子どもたちのことを最後まであきらめない教育者をめざす」とするメッセージは素晴らしいものであり、共感できる。そうした現場主義のプログラムとして、「現場体験 4 年間のステップ」がまとめられている。もっともその内容は以下のようなものである。

「小学校教育課程」の例

- 1 年次 介護体験指導、 見学実習、
- 2 年次 介護等体験 学校園インターンシップ
- 3 年次 教育実習（幼・小）
- 4 年次 教育実習（特別支援）

これらは、通常の教員養成課程の実習体験である。これらに加えて、全コース共通として、インターンシップ ABCD、海外インターンシップが挙げられているが、それらはどのようなものだろうか。HP の小学校教育コース説明でははっきりとしないが、「履修の手引き」によると、学校インターンシップ（部活動指導や体力測定など）であり、主として教育現場の補助を行うようである。他にフィールドワークという科目があるが、地域における社会貢献活動や、地域の子どもの体力向上を目指すプログラムの企画・運営などがあげられている。いずれも 1 年次配当の選択科目である。

四天王寺大学

四天王寺大学教育学部教育学科（小学校教育コース）では、小学校教諭免許取得に加えて特別支援や中高英語などを選択して 2 種類の免許が取得できることをうたい文句としている。したがって、カリキュラム上で特に地域連携を主とした体験学習が用意されていない。

大阪総合保育大学

本学の思想に最も近いプログラムをおこなっているのが大阪総合保育大学である。「1 年間同じ場所(保育所・幼稚園・小学校)に週 1 回、朝から夕方までの 1 日をインターンシップ先で過ごす」プログラムを実施している。I, II 年次では授業の一環として単位認定も行っており、本学の教育現場体験と同様なプログラムである。教育現場以外のプログラムは用意されていないので、本学とは異なっている。

他にも、大阪成蹊大学など有力大学があるが、いずれの大学にも体験学習を意図的に授業プログラムとしている大学は見当たらない。

見てきたように、ほとんどの教員養成系大学では、学内における学びに加えて、教育現場での体験を早くから行うようになってきたが、それらはインターンシップとして行うことが多く、選択科目としての実施である。教育関係以外の地域団体等での体験学習を必修の授業として行う大学はどこにもない、と思われる。

こうした多様な体験の積み重ねが、困難にぶつかってもくじけずにやり遂げる力や、仲間と協力して物事を成し遂げる力、相手の話に耳を傾け、相手に寄り添って考えられる力など、教員に必要な資質・能力の育成に大きな寄与をするにちがいないと考えている。

(2) 平成 30 年 1 月から 2 月にかけての「指定校進路指導部に対するアンケート結果」に関する指摘であるが、本文 p.16 に述べているように、教育学科設置を計画するにあたって、高校進路指導部を訪問しアンケートを実施したものであり、教育学科の可能性を探るための検討材料としたものである。回答の主体は高校進路指導部の担当教員であり、本学の総務課入試広報担当がアンケートの実施を行ったものである。高校生の入学意向調査の補足として加えたが、第 3 者によるものではないので、記述においても「第 3 者機関による意向調査」とは区別して記載したが、指摘の疑義を避けるために、この調査結果の扱いを補足的なものとし、第三者機関による入学意向調査 2 件の後に掲載して以下のように修正する。

p.4

今回、教育学科の設置場所が大阪府河内長野市となり学生の通学条件がまったく異なること、目的が明確であり、卒業後の進路がはっきりしていること、同系大学と比較してもカリキュラム内容が斬新であり、魅力を訴えられる力があることなど、入学生を確保できる条件は格段に改善した。

他大学にはない本学のプログラムの特徴は、地域体験学習を 1 年次から必修科目として実施することである。その内容は、農業体験や、林業・木工、ものづくり、里山保全、馬術、まちづくり、文化活動など多彩な活動を、様々な地域団体と連携して行う。

教員養成系大学では、学校現場に 1 年次から参加する例は多くなったが、ほとんどがインターンシップで選択科目として行うものであり、農業や林業、地域自治会、里山 NPO など、教育現場以外の団体で、必修の授業科目としてこうした体験を行う例は聞かない。近隣の O 大学、M 大学、S 大学など、大阪には教員養成系の有力大学があるが、いずれも、インターンシップ的な取り組みである。

通学条件について述べれば、高野山キャンパスの場合、通学圏は南海高野線沿線に限られ、しかも和歌山県北部の橋本市までとなり、大阪府や和歌山市などからの通学は事実上困難である。入学対象となるこの地域の高校生（H30 年度高校 1 年生）の生徒数は、1600 人弱の規模である（後掲 p.7 表-6「和歌山県紀北地域高校生徒数」参照）。

p.16

### ③指定校進路指導部担当教員に対するアンケート結果

教育学科設置を検討するにあたって、本学の指定校 66 高校の進路指導部担当教員に対して訪問調査を行った（2018.1.23-2.5）。調査は、本学総務課入試企画担当職員が訪問し、(表

-18)に示した項目について担当教員から回答いただいた。本学が実施したものであるので、第三者によるものにくらべて客観性は低い、アンケート内容自体は妥当なものであり、一定の客観性を有すると考えられるので、補足資料として提示する。

以下は、アンケート結果である。

新	旧
<p><b>受験生確保の可能性</b></p> <p>今回、教育学科の設置場所が大阪府河内長野市となり学生の通学条件がまったく異なること、目的が明確であり、卒業後の進路がはっきりしていること、同系大学と比較してもカリキュラム内容が斬新であり、魅力を訴えられる力があることなど、入学生を確保できる条件は格段に改善した。</p> <p><u>他大学にはない本学のプログラムの特徴は、地域体験学習を1年次から必修科目として実施することである。その内容は、農業体験や、林業・木工、ものづくり、里山保全、馬術、まちづくり、文化活動など多彩な活動を、様々な地域団体と連携して行う。</u></p> <p><u>教員養成系大学では、学校現場に1年次から参加する例は多くなったが、ほとんどがインターンシップで選択科目として行うものであり、農業や林業、地域自治会、里山NPOなど、教育現場以外の団体で、必修の授業科目としてこうした体験を行う例は聞かない。近隣のO大学、M大学、S大学など、大阪には教員養成系の有力大学があるが、いずれも、インターンシップ的な取り組みである。</u></p>	<p>p.4</p> <p><b>受験生確保の可能性</b></p> <p>今回、教育学科の設置場所が大阪府河内長野市となり学生の通学条件がまったく異なること、目的が明確であり、卒業後の進路がはっきりしていること、同系大学と比較してもカリキュラム内容が斬新であり、魅力を訴えられる力があることなど、入学生を確保できる条件は格段に改善した。</p> <p>(追加)</p>

通学条件について述べれば、高野山キャンパスの場合、通学圏は南海高野線沿線に限られ、しかも和歌山県北部の橋本市までとなり、大阪府や和歌山市などからの通学は事実上困難である。入学対象となるこの地域の高校生（H30年度高校1年生）の生徒数は、1600人弱の規模である（後掲p.7 表-6「和歌山県紀北地域高校生徒数」参照）。

p.16

③指定校進路指導部担当教員に対するアンケート結果

教育学科設置を検討するにあたって、本学の指定校 66 高校の進路指導部担当教員に対して訪問調査を行った（2018.1.23-2.5）。

調査は、本学総務課入試企画担当職員が訪問し、(表-18)に示した項目について担当教員から回答いただいた。本学が実施したものであるので、第三者によるものにくらべて客観性は低いが、アンケート内容自体は妥当なものであり、一定の客観性を有すると考えられるので、補足資料として提示する。

以下は、アンケート結果である。

通学条件について述べれば、高野山キャンパスの場合、通学圏は南海高野線沿線に限られ、しかも和歌山県北部の橋本市までとなり、大阪府や和歌山市などからの通学は事実上困難である。入学対象となるこの地域の高校生（H30年度高校1年生）の生徒数は、1600人弱の規模である（後掲p.7 表-6「和歌山県紀北地域高校生徒数」参照）。

p.16

①②③の各項目を②③①に並べ変えた  
よって下記①が、左欄③となる

①指定校進路指導部（追加）に対するアンケート結果

教育学科設置を検討するにあたって、本学の指定校 66 高校（追加）に対して訪問調査を行った（2018.1.23-2.5）。

（追加）

以下は、アンケート結果である。

(是正事項) 文学部 教育学科

4. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性に疑義があることから、以下については是正すること。

(1)カリキュラムの特徴として「理論的な学びと体験的な学びを二つの大きな柱として設定し、それらを繋ぐ体験サポート科目群によって理論と実践の結合をはかり、学びの内実化をはかっている。」としているが「理論的まなび」と、「体験的まなび」のつながりや往還関係について明確に説明するとともに、カリキュラム構造図において各科目の対応関係が読み取れないことから適切に修正すること。

(2)カリキュラム構造図において、体験的科目と課題探求科目とが架橋されているが、それぞれの科目群が教育課程上どのようなつながりを持っているかについて明確に説明すること。

(3)履修科目の年間登録上限を 50 単位と定めているが、設定の考え方についての説明がなされていないため、妥当性について判断できない。個々の授業科目に対する学生の十分な学修時間の確保の観点を踏まえ、設定の考え方について説明すること。

(4)教育課程上の専任教員が担当しない必修科目の中に主要と思われる科目が見受けられるので、本学の主要授業科目の考え方をシラバスも示して説明すること。

(対応)

(1)「理論的学び」と「体験的学び」のつながりや往還関係について

明確ではなかったので、意図や文言を修正して、はっきりするように修正した。

体験をより豊かにするためにも、体験を支える知的学びが重要だと考えている。学校体験学習では、教職科目がそうした役割を果たすことが可能であるが、地域の様々な体験活動について、体験活動の基礎になる学びとして別に科目を用意して「体験サポート科目群」とした。

体験サポート科目群の内、「地域体験基礎」および「地域体験特論」では、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶ。非認知的能力と学びとの関連や意義など、今日の教育課題と絡めて、体験学習を行う意味を考える授業として設定している。

また、「科学技術と社会」や「自然と人間」「植物栽培の基本」などは、農業や林業、馬術体験、ものづくり等の基礎となる考え方を学ぶ講義として設定した。「科学技術と社会」と「自然と人間」では、体験を大きく自然や科学技術の面からとらえる観点を学び、「植物栽培の基本」はより具体的な栽培の基礎となる学びを用意したものである

「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門(書道)」は、文化的体験活動のために用意した科目である。文化ホールでの体験活動には多様な内容が含まれており、たとえば書道展やオペラ、演劇、あるいは市民文化祭の支援などが含まれるため、それらに関連する

可能性の高い科目設定をしている。教養科目に設定してもよいが、体験サポート科目として設定することで、学生たちが体験する内容により引き付けて学ぶことができると判断して設定した。

カリキュラム構造図は、各科目群の概念的な関係を示したものであるが、理論的な科目と体験的な科目との対応関係が不明確であるなどのご指摘に従い、個々の科目と体験との関連をより明確にするよう図を修正すると共に、G Pや教育目標との対応についても示すようにした。また、カリキュラムツリーを作成して、学びの過程とG Pとの関連性が明確になるようにした。

設置趣旨中の関連個所についても修正した。

### (2) 体験的科目と課題探求科目とのつながりについて

課題探求科目は、ゼミを中心として、自らが選択する課題を深く掘り下げ、卒表研究へとつなげていくための科目であり、理論的な理解と論文としてまとめる力を見につけることが目的の一つとなっている。こうした理論的な学びに対して、体験での様々な出会いが、視野を広げたり見方を変えたりすることに寄与する場合は多々ある。あるいは理論的な思考が経験によって肉付けされて深い理解に導かれることも多い。また逆に、研究的学びで得る研究方法やものの見方、課題の発見的な思考が、体験で得られる認識を深め広げることにつながる。そういう意味で矢印を入れていたが、分かりにくいので、矢印を削除して修正した。

同時に、設置趣旨中の関連個所を修正した。

### (3) 登録上限 50 単位の考え方

本学文学部は、大学設置基準第二十七条の二(履修科目の登録の上限)に基づき、学生による安易な履修登録を避け、学習すべき授業科目を精選することで学生自身による授業外の学修を促進し、授業科目の学修内容をより深いものとするため、年間登録単位数の上限を設定している。新設の教育学科においても、この設定の考え方に基づき、1年間で履修できる単位数を制限する。上限とする単位数は、小学校教育職員免許取得に必要な教育実習、または幼稚園教員免許・保育士資格に必要な実習参加要件としている科目を3年次までに取得する必要があることから50単位と設定している。

なお、年間登録上限の設定や学生のコース選択、取得希望免許などに関しては、計画的な履修指導を行う予定である。1年次入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」(シラバス)、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマ・ポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導する。そのうえで、学生の進路希望調査を実施し、それに基づいた履修指導を行う。

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行い、適性を見極めながら将来の職業と関連させて個別の指導助言を行う。そのうえで学生本人の希望をもとにコース決定を行う。コース決定以降は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。

履修指導の時期は4月に入学生・在校生(各学年別)履修オリエンテーション、進路希望調査、学生個別履修指導(アドバイザー教員、教務課員)を行い、9月に後期履修変更、個別履修指導を行う。これらの履修指導に加えて、ゼミ科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(1年次)「基礎ゼミⅢ・Ⅳ」(2年次)、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)において、ゼミ担当教員による個別の履修指導も実施する。

これに伴い、設置の趣旨等を記載した書類の「Ⅵ教育方法、履修指導および卒業要件」内「4. 履修科目の年間登録上限、他大学での履修」、「5. 履修指導」の該当部分に加筆修正を加える。

(4)教育課程上の専任教員が担当しない必修科目の中に主要と思われる科目が見受けられるので、本学の主要授業科目の考え方をシラバスも示して説明すること。

科目区分内の科目構成や、必修科目についての説明等が明確ではなかったため、科目構成および必修科目について項目をたてて明記した。

本教育学科では主として、小学校および幼稚園教諭免許、保育士資格の取得を目指すものであるため、教職科目が根幹の科目群である。教育実習および教職の基礎的基盤的な学習のための「教職専門科目」と各種免許に対応する科目群（「小学校教諭関係科目」「幼稚園教諭関係科目」「保育士関係科目」）が、本学の根幹の科目群となる。

しかしながら、教員を目指して入学しても、何らかの事情で免許取得をあきらめざるを得ない場合もありうることから、教員免許取得を卒業要件とするものではない。

教職専門科目の「教育原理」「教職入門」「教育と社会」「教育心理学」「特別支援教育」「教育方法論」「教育相談」の7科目については、卒業必修として設定しているが、その他は選択科目としている。この7科目は、教職に関する基礎的な知識や考え方、心構えなどにつ



いても学ぶ科目群であることや、社会認識や教育観、人間観などを育むものである。教員にならなくとも、これらの学びは重要であることから卒業必修としている。

「地域体験Ⅰ～Ⅳ」、「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」は卒業必修科目としている。これらの科目は教育学科の特徴的科目であり、教師力や人間力を育むための重要な科目である。「Ⅳ-1 教育課程編成の考え方」で述べたように、教員の資質・能力の育成に体験的学びが寄与すること、あるいは、これらの体験で培われる人間力は、たとえ教員にならなくとも将来の大きな財産になるものである。体験的な科目であるので専任教員が担当する。

教育原理、教職入門、教育と社会、教育心理学、特別支援教育、教育方法論、教育相談の7科目のうち、教職入門、教育と社会、教育相談の3科目は専任教員が担当しているが、残り4科目は非常勤教員となっていた。今回の指摘をうけて、教育方法論および教育課程論、保育教育課程論について専任補充をすることとした。

これによって、必修7科目のうち4科目を専任で担当するが、残りの3科目の内、教育原理は、大阪大学の岡部美香教授に担当いただき、曾我部和馬氏と共同での講義をしていただく。岡部教授は、質の高い研究業績と誠実な人柄であり、教育に熱心な教員として知られている。非常勤であっても、学生にとって良質の講義を提供していただける。また、若い研究者である曾我部氏と共同形式で講義することで、将来、曾我部氏が研究業績を積み上げてから専任として迎える準備期間と考えている。

教育心理学は、本学の2名の心理系教員は臨床心理系の専門であり、非常勤講師での開講となったため、和歌山大学の米沢好文教授に担当をお願いした。米沢教授は確かな力量のある教員として著名であり、良質の講義を提供していただける。

特別支援教育は、大阪千代田短期大学の宮本直美講師に担当いただくが、本学教育学科は、同短大の校地・校舎を共同利用の形で開学するものであり、宮本講師は専任講師としてキャンパスで教育・研究活動に従事している。本学は同短大と連携協定を締結しており、教育研究活動においても緊密な連携を行うことで合意しており、学生の教育指導に問題ないサポートをすることができると考えている。

したがって、主要必修科目7科目のうち5科目は実質的な専任体制であり、2科目は著名な教員による講義を提供できる配置となっていることを申し添えたい。

なお、これらの科目のシラバスを資料として添付する。

(1)(2) 教育課程の体系性、理論的学びと体験的学びの往還関係について

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (pp. 25-27)

新	旧
<p><b>p.25</b></p> <p><b>2. 課程編成の特色</b></p> <p><b>(1) 教育学科の教育目標</b></p> <p>文学部の教育理念およびディプロマ・ポリシー、教育学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、教育学科の教育目標を以下のように設定する。<u>( ) 内に、対応する文学部および教育学科のディプロマ・ポリシーを示す。</u></p> <p>① 広い学問教養と新しい時代の教育知識を持つ <u>(文学部DP1)</u></p> <p>② 課題探求力を培い、予測困難な時代に対応できる力を養う <u>(文学部DP1)</u></p> <p>③ 教職理解を高め、教育への意欲と愛情の養成、教育実践力の育成 <u>(教育学科DP1)</u></p> <p>④ 教職の学びに加えて、多様な体験学習による人間力の育成 <u>(教育学科DP1, 2)</u></p> <p>(ア) 様々な人々とのふれあいを通して、コミュニケーション力を身に着ける。</p> <p>(イ) 多様な体験から、相手の立場を理解し、思いを受け止めることができる。</p> <p>(ウ) 仲間と共同してものごとを完成させることができる</p>	<p><b>2. 課程編成の特色</b></p> <p><b>(1) 教育学科の教育目標</b></p> <p>文学部の教育理念およびディプロマ・ポリシー、教育学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、教育学科の教育目標を以下のように設定する。(追加)</p> <p>① 広い学問教養と新しい時代の教育知識を持つ <u>(追加)</u></p> <p>② 課題探求力を培い、予測困難な時代に対応できる力を養う <u>(追加)</u></p> <p>③ 教職理解を高め、教育への意欲と愛情の養成、教育実践力の育成 <u>(追加)</u></p> <p>④ 教職の学びに加えて、多様な体験学習による人間力の育成 <u>(追加)</u></p> <p>(ア) 様々な人々とのふれあいを通して、コミュニケーション力を身に着ける。</p> <p>(イ) 多様な体験から、相手の立場を理解し、思いを受け止めることができる。</p> <p>(ウ) 仲間と共同してものごとを完成させることができる</p> <p>(エ) 困難に遭遇しても、くじけずやり遂げられる力を身につける</p>

(エ) 困難に遭遇しても、くじけずに  
やり遂げられる力を身につける

(オ) 学び続ける力を育む

- ⑤ WEB を利用した英語力の育成と、海外での教育事情視察による国際的視野の獲得 (教育学科DP 1 (1))
- ⑥ 環境や地域貢献などに関する知識と広い視野、地域の各種団体との連携活動による実践的知識・技能や集団での行動力の獲得 (教育学科DP 2)
- ⑦ 心理ケアへの理解を深め、ケアに関わる知識や能力の育成 (教育学科DP 1 (3)、2 (1))

教育学科のカリキュラム・ポリシーに基づいて、科目区分を以下のように設定した。

表－1 文学部教育学科 科目区分表 (別紙)

以上を踏まえたカリキュラム構成原理を資料6「カリキュラム構成概念図」に示す。カリキュラム構成のための基本的な考え方、枠組みをこのように検討した上で、具体的なカリキュラムを構築した。

(削除)

(図－2 削除) 資料に修正版を残す

(オ) 学び続ける力を育む

- ⑤ WEB を利用した英語力の育成と、海外での教育事情視察による国際的視野の獲得 (追加)
- ⑥ 環境や地域貢献などに関する知識と広い視野、地域の各種団体との連携活動による実践的知識・技能や集団での行動力の獲得 (追加)
- ⑦ 心理ケアへの理解を深め、ケアに関わる知識や能力の育成 (追加)

(追加)

表－1 (記載個所を移動した)

これらの目標を実現するための、カリキュラム構成原理を以下の図に示す(拡大図を資料として添付 資料6「カリキュラム構成概念図」)。カリキュラム構成のための基本的な考え方、枠組みをこのように検討した上で、具体的なカリキュラムを構築したが、これらの考え方は、今後実践を重ねる中でより発展的に改善していくべきものであると考えている。

図－2 カリキュラム構造図 (cf. 資料6)

課程は「基礎科目群」と「専門科目群」群で構成し、「専門科目群」に「体験的科目」と「理論的科目」「課題探求科目」を置き、「体験的科目群」は「学校・保育体験」や「地域体験」の科目群からなる。「体験的科目」群は主として、体験的な内容を積み重ねていく学びである。また「理論的科目群」に「体験サポート科目」と「教職関連科目」「心理関連科目」を置いている。

以下の表は、こうした学びを、科目区分表として整理したものである。

表－1 文学部教育学科 科目区分表  
(略)

体験的な学びは、体験だけではその学びを理論化したり自らの認識に高めたりすることが不十分になりやすいため、これらを支える理論的な学びが必要であり、それと組み合わせることで有効な学びとなる。

「教職科目群」における学びは教職に対する理解を深め教職意識や使命観を醸成するが、同時に学校現場の体験をサポートする学びとなる。学校体験と教職科目の学びとがお互いにフィードバックし合って、学生たちの学びの質を高めていくように意図している。

「地域体験学習」でも同様に、体験をサポートする学習が大切である。それが

全体として「基礎科目群」と「専門科目群」群で構成し、「専門科目群」に「体験的科目」と「理論的科目」「課題探求科目」を置き、「体験的科目群」に「学校・保育体験」や「地域体験」学習の科目群を置くからなる。これら「体験的科目」群は主として、体験的な内容を積み重ねていく学びである。また「理論的科目群」に「体験サポート科目」と「教職関連科目」「心理関連科目」を置いている。

以下の表は、こうした学びを、科目区分表として整理したものである。

表－1 文学部教育学科 科目区分表  
(略)

体験的な学びは、体験だけではその学びを理論化したり自らの認識に高めたりすることが不十分になりやすいため、これらを支える（追加）学びが必要であり、それと組み合わせることで有効な学びとなる。

「学校・保険体験学習」では、「教職科目群」における学びが教職理解を深め、同時に学校現場の体験をサポートする学びとなる。学校体験と教職科目の学びとがお互いにフィードバックし合って、学生たちの学びの質を高めていくようになることが願いである。

「地域体験学習」でも同様であって、体験をサポートする学習が必要である。それが「体験サポート科目」である。そこでは、

「体験サポート科目」である。そこでは、農業や林業、環境問題や文化、地域活動などの体験学習の基礎となる学びを設定し、「地域体験学習」とフィードバックし合って学生たちの認識を深めていくように設計している。

「体験サポート科目」群の内、「地域体験基礎」および「地域体験特論」では、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶ。非認知的能力と学びとの関連や意義など、今日の教育課題と絡めて、体験学習を行う意味を考える授業として設定している。

また、「科学技術と社会」や「自然と人間」「植物栽培の基本」などは、農業や林業、馬術体験、ものづくり等の基礎となる考え方を学ぶ講義として設定した。「科学技術と社会」と「自然と人間」では、体験を大きく自然や科学技術の面からとらえる観点を学び、「植物栽培の基本」はより具体的な栽培の基礎となる学びを用意したものである。個々の体験と1対1で対応するように科目設定をせずに大きなくりの科目を置き、基本的な観点や概念の学びにしてるのは、体験活動に追加や変化がありうるので、その際に、対応する科目の追加や削除などが生じないためでもある。

「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」は、文化的体験活動のために用意した科目である。文化ホールでの体験活動には多様な内容が含まれており、たとえば書道展やオペラ、演劇、あるいは市民文化祭の支援などが含まれるため、それらに関連する可能性の高い科目設定をしている。教養科目に設定してもよい

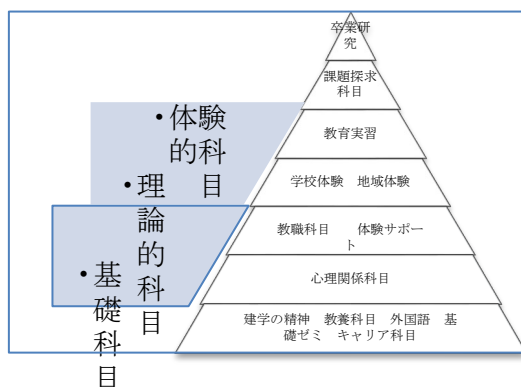
農業や林業、環境問題や文化、地域活動などの体験学習の基礎となる学びを設定し、「地域体験学習」とフィードバックし合って学生たちの認識を深めていくように設計している。

(追加)

が、「体験サポート科目」として設定することで、学生たちが体験する内容により引き付けて学ぶことができると判断して設定した。いずれも、体験する内容を基礎付け、体験を振り返ったり深く捉え直したりすることを期待している。

なおこうした体験活動の積み重ねが教育実習や卒業研究に結実していくように編成している（下図）。

### 教育課程の体系



(カリキュラムの構造図 削除)

「基礎科目」では、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、語学関連科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指している。語学関連科目では、特に英語のコミュニケーション能力の育成を図り、「高野山国際ガイド体験」や留学によって実践力の向上を目指すように設定している。

なおこうした体験活動の積み重ねが教育実習や卒業研究に結実していくように編成している（下図）。

(教育課程の体系図 追加)

(カリキュラムの構造図)

「基礎科目」では、建学の精神に則った本学の特徴的な科目や、教養科目、語学関連科目、僧侶科目などを配し、「いのち」や、社会、文化について理解し、人間を含む世界への豊かで多様な視点を育むことを目指している。語学関連科目では、特に英語のコミュニケーション能力の育成を図り、「高野山国際ガイド体験」や留学によって実践力の向上を目指すように設定している。

(4) 主要科目、必修科目についての考え方  
 (新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (pp.35-37)

新	旧
<p>p.35</p> <p>(7) 専門科目：体験サポート科目</p> <p>科目構成：「<u>地域体験基礎</u>」「<u>地域体験特論</u>」「<u>科学技術と社会</u>」「<u>自然と人間</u>」  <u>「植物栽培の基本」</u>  <u>「日本文化」「文学」「創作研究」</u>  <u>「茶道」「書学入門（書道）」</u></p> <p>地域にて多様な体験学習を行うが、理論と体験を適切に結びつけて体験の理論的背景やその意義などを学ぶために設置した。これによって、体験をより豊かな意味あるものとし、内実化することを願っている。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>(7) 専門科目：体験サポート科目</p> <p>(追加)</p> <p>地域にて多様な体験学習を行うが、理論と体験を適切に結びつけて体験の理論的背景やその意義などを学ぶために設置した。これによって、体験をより豊かな意味あるものとし、内実化することを願っている。</p> <p><u>「地域体験基礎」と「地域体験特論」は、地域体験が持つ教育的意義や機能について掘り下げて学ぶ科目であり、地域コミュニティの連携とグローバルな理解を通して、グローバルな意識を身に着けることを目指している。「植物栽培の基本」や「自然と人間」では、農園や森林センター、馬術クラブ等での体験学習の理論的背景となる学習を行い、「科学技術と社会」では、科学や技術と社会との関わりについて歴史的に学び、環境やエネルギー問題を含めた今日の社会や人間の在り方について学ぶ。「日本文化」や「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」では、文化的活動の背景や基礎知識について多様に学ぶことができるように設置している。</u></p>

「地域体験基礎」および「地域体験特論」では、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶ。非認知的能力と学びとの関連や意義など、今日の教育課題と絡めて、体験学習を行う意味を考える授業として設定している。

また、「科学技術と社会」や「自然と人間」「植物栽培の基本」などは、農業や林業、馬術体験、ものづくり等の基礎となる考え方を学ぶ講義として設定した。「科学技術と社会」と「自然と人間」では、体験を大きく自然や科学技術の面からとらえる観点を学び、「植物栽培の基本」はより具体的な栽培の基礎となる学びを用意したものである。個々の体験と1対1で対応するように科目設定をせずに大きなくりの科目を置き、基本的な観点や概念の学びにしてあるのは、体験活動に追加や変化がありうるので、その際に、対応する科目の追加や削除などが生じないためでもある。

「日本文化」「文学」「創作研究」「茶道」「書学入門（書道）」は、文化的体験活動のために用意した科目である。文化ホールでの体験活動には多様な内容が含まれており、たとえば書道展やオペラ、演劇、あるいは市民文化祭の支援などが含まれるため、それらに関連する可能性の高い科目設定をしている。教養科目に設定してもよいが、体験サポート科目として設定することで、学生たちが体験する内容に引き付けて学ぶことができると考えて設定した。いずれも、体験する内

(追加)



容を基礎付け、体験を振り返ったり深く捉え直したりすることを期待している。

(略)

p.36

(9) 必修科目・選択科目の構成とその理由

本教育学科では、小学校教員免許（1種）、幼稚園教員免許（1種）、保育士資格を取得することを主たる目的とするとともに、建学の精神に基づく「社会に貢献する人間性豊かな人材を養成する」ことを目的としている。したがって、教員養成に関わる科目が根幹の科目群であるとともに、豊かな人間性を培うための科目が主要な科目となる。

教員養成のための科目群は、教職の基礎的基盤的な学習のための「教職専門科目」と各種免許に対応する科目群（「小学校教諭関係科目」「幼稚園教諭関係科目」「保育士関係科目」）、各免許種に対応する実習のための「教育実習科目」群からなる。

したがって、例えば小学校教諭免許を取得しようとする者は、「教職専門科目」および「小学校教諭関係科目」から適切に履修し、実習する必要がある。

しかしながら、教員を目指して入学しても、何らかの事情で免許取得をあきらめざるを得ない場合もありうることから、教員免許取得を卒業要件とするものではない。

教職専門科目の「教育原理」「教職入

(追加)

門」「教育と社会」「教育心理学」「特別支援教育」「教育方法論」「教育相談」の7科目については、卒業必修として設定しているが、その他は選択科目としている。この7科目は、教職に関する基礎的な知識や考え方、心構えなどについても学ぶ科目群であることや、社会認識や教育観、人間観などを育むものである。教員にならなくとも、これらの学びは重要であることから卒業必修としている。

「地域体験Ⅰ～Ⅳ」、「学校・保育現場体験Ⅰ、Ⅱ」は卒業必修科目としている。これらの科目は教育学科の特徴的科目であり、教師力や人間力を育むための重要な科目である。「Ⅳ1 教育課程編成の考え方」で述べたように、教員の資質・能力の育成に体験的学びが寄与すること、あるいは、これらの体験で培われる人間力は、たとえ教員にならなくとも将来の大きな財産になるものである。上述したように、「社会に貢献する人間性豊かな人材を養成する」ことを目的としていることから必修としているものである。

地域体験を適切に学習するために、体験の理論的背景やその意義などを学ぶために〔体験サポート科目〕群を設置しているが、それらの中で「地域体験基礎」は、実際の体験活動に即して学習の意義や目的などを学ぶため、体験にあたって必ず学んでおくべき科目として必修にしている。

基礎ゼミや専門演習などは、課題を発見・解決したり、研究的手法を身につける科目であり、大学教育として重要な科目群であるので、もちろん必修科目とす

<p>る。</p> <p><u>基礎科目の中で、建学の精神科目である「空海思想」、職業観を育成する「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」、教養科目の「ほとけの世界」「日本国憲法」「生涯学習論」「平和教育」「人権と社会」などは、人間や社会、世界観を育成する基礎となる学びである。英語力育成のための「English CommunicationⅠ、Ⅱ」「情報と教育」は、現代社会で必須となってきた英語力や情報知識に関する科目として重要である。したがって、これらの科目を必修科目とした。</u></p>	
---	--

(3) 年間登録上限について

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (pp.41-42)

新	旧
<p>p. 40</p> <p><b>4. 履修科目の年間登録上限、他大学での履修</b></p> <p><u>履修科目の年間登録上限を 50 単位と定める。</u></p> <p><u>学習すべき授業科目を精選することで学生自身による授業科目外の学修を促進し、授業科目の学修内容をより深いものとするため、年間登録単位数の上限を設定する。上限とする単位は、小学校教育職員免許取得に必要な教育実習、または幼稚園教員免許・保育士資格に必要な実習参加要件としている科目を 3 年次までに取得する必要があることから、50 単位</u></p>	<p><b>4. 履修科目の年間登録上限、他大学での履修</b></p> <p><u>履修科目の年間登録上限を 50 単位と定める。</u></p> <p><u>(追加)</u></p>

と設定している。

ただし、基礎ゼミ科目、専門演習科目、教育実習科目、体験実習科目、卒業研究科目は含まないものとする。

大阪千代田短期大学をはじめとする本学と協定を結んでいる他大学との単位互換制度等の活用を促し、南大阪地域大学コンソーシアム、和歌山コンソーシアム等の活用も検討している。

### 5. 履修指導

入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」（シラバス）、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー・ディプロマポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導する。そのうえで、学生の進路希望調査を実施し、それに基づいた履修指導を行う。

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。

「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

2年次進級時にアドバイザー教員が学

ただし、基礎ゼミ科目、専門演習科目、教育実習科目、体験実習科目、卒業研究科目は含まないものとする。

大阪千代田短期大学をはじめとする本学と協定を結んでいる他大学との単位互換制度等の活用を促し、南大阪地域大学コンソーシアム、和歌山コンソーシアム等の活用も検討している。

### 5. 履修指導

入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」（シラバス）、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー・ディプロマポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導する。

(追加)

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

(追加)

<p><u>生一人一人の既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行い、適性を見極めながら将来の職業と関連させて個別の指導助言を行う。そのうえで学生本人の希望をもとにコース決定を行う。</u></p> <p><u>コース決定以降は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。</u></p> <p><u>履修指導の時期は4月に入学生・在校生(各学年別)履修オリエンテーション、進路希望調査、学生個別履修指導(アドバイザー教員、教務課員)を行い、9月に後期履修変更、個別履修指導を行う。これらの履修指導に加えて、ゼミ科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(1年次)「基礎ゼミⅢ・Ⅳ」(2年次)、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)において、ゼミ担当教員による個別の履修指導も実施する。</u></p>	<p><u>(追加)</u> 毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。</p> <p>(追加)</p>
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 資料

新	旧
カリキュラム構成概念図 (修正)	カリキュラム構成概念図
カリキュラム・ツリー	(追加)

(是正事項) 文学部 教育学科

5. <履修コースの設定について>

「児童教育コース」及び「幼児教育コース」の2つの履修コースが設けられているが、コースごとの教育課程が示されておらず、体系的な教育課程が整備されているか不明であるため、コースごとの教育課程を示すとともに、複数免許取得者の履修モデルも示すこと。また、コースごとの定員を設けるのか、どの時期からコースごとに学生を配置するのか、学生がコース選択を行う時期や学生の選抜方法、進路選択の相談体制などコースの運用方法全般が不明確であることから、それぞれ明確に説明すること。

(対応)

本学科に設けるコースは、コース定員・コースごとの卒業要件等を定めないのである。将来の職業に必要な資質・能力を身につけ、必要な資格取得を推奨するためのコースとして設定する。

1年次入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」(シラバス)、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマ・ポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導する。そのうえで、学生の進路希望調査を実施し、それに基づいた履修指導を行う。

2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行い、適性を見極めながら将来の職業と関連させて個別の指導助言を行う。そのうえで学生本人の希望をもとにコース決定を行う。コース決定以降は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。

履修指導の時期は4月に入学生・在校生(各学年別)履修オリエンテーション、進路希望調査、学生個別履修指導(アドバイザー教員、教務課員)を行い、9月に後期履修変更、個別履修指導を行う。これらの履修指導に加えて、ゼミ科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(1年次)「基礎ゼミⅢ・Ⅳ」(2年次)、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)において、ゼミ担当教員による個別の履修指導も実施する。

なお、履修指導の際は、コース毎の履修推奨科目を示した履修規程を用いる。

審査意見を踏まえ、設置の趣旨等を記載した書類の「Ⅱ学部、学科等の特色 1.概要」内の「(6)履修コースの設定」の該当部分に加筆修正を加え、コースごとの教育課程を資料として示す。また、「Ⅵ 教育方法、履修指導および卒業要件」内の「5.履修

指導」「6.履修モデル」に加筆修正を加えるとともに、「学則」参考資料の「履修規程」を修正する。また、複数免許取得者の履修モデルを資料として示す。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(13-14 ページ)

新	旧
<p>II 学部、学科等の特色</p> <p>1. 概要</p> <p>(略)</p> <p>(削除)</p> <p>p.28</p> <p><u>3. カリキュラム編成方針と科目区分の科目構成</u></p>	<p>II 学部、学科等の特色</p> <p>1. 概要</p> <p>(略)</p> <p><u>(6) 履修コースの設定</u></p> <p><u>以上のような考え方にに基づき、具体的には「児童教育コース」「幼児教育コース」の2つの履修コースを設け丁寧な教育活動を行う。</u></p> <p><u>①「児童教育コース」:小学校教諭免許(1種)取得を第一志望とし、幼稚園教諭免許やその他資格は第二志望である学生のためのコース。初等教育における教科内容やその指導法を学ぶと共に、教職理解を深め、生徒指導の具体的な方法や教育相談、特別支援に関する学び、学級経営についての理解を深める。</u></p> <p><u>②「幼児教育コース」:幼稚園教諭免許(1種)および保育士資格取得を第一志望とする学生のためのコース。 幼児教育の各領域の内容や指導法を学び、幼児の心身の発達について理解を深める。保育の現場で必要とされるピアノや造形、運動等の技術をしっかりと学び、保育理論と実践との結合を目指す。</u></p> <p>p.28</p> <p><u>3. カリキュラム編成方針</u></p>

<p>(略)</p> <p><u>(10) 履修コース</u></p> <p>キャリア、人材育成の方向を明確にし、より効果的な教育効果得お徳るため、「児童教育コース」と「幼児教育コース」び2つの履修コースを置く。</p> <p><u>各コースの定員は設けない。</u></p> <p><u>コース選択は、入学時のオリエンテーションで学生の進路希望調査を行い、1年次中はそれに基づいた履修指導を行う。2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の適性を見極めながら将来の職業と関連させて指導助言を行っただうえで、学生本人の希望をもとにコース決定を行う。</u></p> <p><u>なお、履修指導の際はコース毎の履修推奨科目を示した履修規程を用いる。(資料/履修規程別表Ⅰ)</u></p>	<p>(略)</p> <p><u>(9) 履修コース</u></p> <p>キャリア、人材育成の方向を明確にし、より効果的な教育効果得お徳るため、「児童教育コース」と「幼児教育コース」び2つの履修コースを置く。</p> <p><u>(追加)</u></p>
--	--

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書 (42 ページ)

新	旧
<p>VI 教育方法、履修指導および卒業要件</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>5. 履修指導</p> <p><u>1年次入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」(シラバス)、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー、ディプロマ・ポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・</u></p>	<p>VI 教育方法、履修指導および卒業要件</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>5. 履修指導</p> <p>入学時のオリエンテーションでは、「大学要覧」、「講義概要・授業計画」(シラバス)、「時間割」を配布し、本学科のカリキュラムポリシー・ディプロマポリシー、授業科目の構成、単位取得、成績及び単位の認定、履修登録、卒業要件の確認、資格取得に係る履修科目等を解説・指導す</p>



指導する。そのうえで、学生の進路希望調査を実施し、それに基づいた履修指導を行う。

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

2年次進級時にアドバイザー教員が学生一人一人の既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行い、適性を見極めながら将来の職業と関連させて個別の指導助言を行う。そのうえで学生本人の希望をもとにコース決定を行う。

コース決定以降は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。

履修指導の時期は4月に入学生・在校生(各学年別)履修オリエンテーション、進路希望調査、学生個別履修指導(アドバイザー教員、教務課員)を行い、9月に後期履修変更、個別履修指導を行う。これらの履修指導に加えて、ゼミナール科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」(1年次)「基礎ゼミⅢ・Ⅳ」(2年次)、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「専門演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)において、ゼミ担当教員による個別の履修指導も実施

る。(追加)

「大学要覧」には学則、履修規程、履修規程細則他、試験実施規定、資格取得方法等、学修に必要な規程類を記載する。「講義概要・授業計画」（シラバス）には、履修モデル、カリキュラムマップの他、各科目の①授業の到達目標及びテーマ、②授業の概要、③授業計画、④テキスト・参考書・参考資料、⑤評価方法を記載する。

(追加)

2年生以上は毎年度はじめに履修指導オリエンテーションを実施し、既修得単位の確認、当該年度の履修について確認を行う。

また、全学年を対象として基礎ゼミ科目、専門演習科目等の必修科目において教員による履修指導を徹底し、希望者には教員と教務職員によって個別の履修指導を実施する。

<p>する。</p> <p>6.履修モデル          児童教育コース、 幼児教育コースの履修モデル、両コースにまたがる<u>複数免許取得希望の履修モデル</u>を参考資料として添付する。          (資料 8-1 「児童教育コース」、8-2 「幼児教育コース」<u>8-3 「小学校・幼稚園免許取得履修モデル」</u>)</p>	<p>6.履修モデル          児童教育コース、 幼児教育コースの履修モデルを参考資料として添付する。           (資料 8-1 「児童教育コース」、8-2 「幼児教育コース」)</p>
--	--

(新旧対照表)「学則」参考資料 履修規程

新	旧
<u>別表 I (別紙 1)</u>	<u>別表 I (別紙 1)</u>
<u>別表 II (別紙 2)</u>	<u>別表 II (別紙 2)</u>

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類 資料

新	旧
<u>履修モデル 8-3(別紙)</u>	<u>(追加)</u>

(是正事項) 文学部 教育学科

6. <「体験学習」の詳細が不明確>

本学科の教育課程上に「体験学習」を設定する趣旨の説明が十分ではないことから、これらについて改めて明確に説明するとともに、以下の点について適切に対応すること。

(1) 体験実習科目のうち必修科目である「学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱ」、「地域体験Ⅰ～Ⅳ」の各科目のシラバスでは各回の授業計画については、「連携教育委員会との合意プログラムの概要」や「団体ごとに作成した活動計画に従って行う。」こととされており、別途示された概要資料を見ても実習内容の詳細やその水準が不明確である。ついては、体験実習科目の実習要綱など各実習科目の詳細（各回の授業内容、到達目標、指導体制、成績評価等）が分かる資料を明示し、大学教育としてふさわしい実習の水準が確保されることを明らかにすること。

また、各科目の体験学習の内容については、前述した体験学習についての趣旨の説明とも結びつけて体系立った説明を行うこと。

(2) 体験学習を行う各施設への具体的な巡回指導計画が示されていないため、科目の担当教員が、その他の担当授業科目や自身の研究活動の時間を確保した上で、巡回指導を適切に実施できる時間割となっているかが判断できない。ついては、巡回指導計画を明示した上で、計画の妥当性について具体的に説明すること。

(3) 「高野山大学特任マイスター」について、どのような者がどのように科目の支援に関わることになるのか不明瞭であることから、具体的な学生サポート内容や役割を明確にし、あわせて専任教員の負担減につながることにについて説明すること。なお、教員ではないマイスターが、学生の成績評価を行うことがないよう留意すること。

(対応)

「体験学習」設定の趣旨については、ご指摘のとおり趣旨の説明が十分に整理されておらず、明確に伝えきれていなかった。審査意見を踏まえ、あらためてこれを整理し、趣旨を明確化した。具体的には「X 実習関係全体の具体的な計画」で新たな項目「7. 体験学習について」を設け、その(1)で体験学習を設定する趣旨について説明することとした。また審査意見 6. (1)を踏まえ、「7. 体験学習について」の(2)および資料4-2「地域体験実習科目概要」ならびに資料4-3「実習科目の詳細」により体験学習科目の内容詳細について明示し、指導体制および成績評価については続く「7. 体験学習について」の(3)と(4)において説明を行うこととした。同時に、審査意見 6. (2)を踏まえ、「7. 体験学習について」の(3)指導体制および巡回指導計画において巡回指導計画に関する説明を行うこととした。「高野山大学特任マイスター」については、審査意見 6. (3)を踏まえ、「IV 教育課程編成の考え方及び特色 1 教育課程編成の考え方 (4) 体験的学びをふんだんに取り入れたカリキュラム編成」の②において(ア)マイスターの意義・関わる科目(イ)マイスターになる者(ウ)マイスターの役割(エ)成績評価との関連、以上各項目にわたり説明を追

加すると同時に、資料5を「高野山大学特任マイスター」制度および規程について」と変更して規程追加等による明確化を行うこととした。

なお、指導体制に関連し、「XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 3. 適切な指導体制について」において、地域支援センターの発展的改組による指導体制の充実について具体的な説明を加えることとした。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(20-21ページ)

新	旧
<p><b>IV 教育課程編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1 教育課程編成の考え方</b></p> <p><b>(3) 非認知的能力を育む体験的学び</b> (略)</p> <p>したがって本学のカリキュラムでは、体験的活動をできるだけ沢山導入して、<u>多様な人々と多様に関わることを重要な柱とすることにした</u>。農業体験、森林体験、里山保全活動、地域活性化活動、馬術場体験、ものづくり、文化活動などを、地域の各団体と連携しプログラム化した。連携する団体は以下の通りである。</p> <p>1 町づくり 小山田小学校区まちづくり会</p> <p>2 森林・木工・環境 大阪府森林組合南河内支店(木根館)</p> <p>3 里山 NPO 法人森林ボランティアトモロス</p> <p>4 栽培 大阪府立花の文化園</p> <p>5 栽培 公益財団法人河内長野市公園緑化協会</p> <p>6 栽培・農業 和泉体験農園</p> <p>7 栽培・農業 (農) 富田林市南地区協同組合(農業公園サバーファーム)</p>	<p><b>IV 教育課程編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1 教育課程編成の考え方</b></p> <p><b>(3) 非認知的能力を育む体験的学び</b> (略)</p> <p>したがって本学のカリキュラムでは、体験的活動をできるだけ沢山導入して、<u>多様な人々と多様に関わることを重要な柱とすることにした</u>。農業体験、森林体験、里山保全活動、地域活性化活動、馬術場体験、ものづくり、文化活動などを、地域の各団体と連携しプログラム化した。連携する団体は以下の通りである。</p> <p>1 町づくり 小山田小学校区まちづくり会</p> <p>2 森林・木工・環境 大阪府森林組合南河内支店(木根館)</p> <p>3 里山 NPO 法人森林ボランティアトモロス</p> <p>4 栽培 大阪府立花の文化園</p> <p>5 栽培 公益財団法人河内長野市公園緑化協会</p> <p>6 栽培・農業 和泉体験農園</p> <p>7 栽培・農業 (農) 富田林市南地区協同組合(農業公園サバーファーム)</p>

<p>8 農業 NPO 法人里山ひだまりファーム</p> <p>9 果樹園 山口果樹園</p> <p>10 動物 株式会社乗馬クラブクレイン</p> <p>11 芸術 公益財団法人河内長野市文化振興財団（河内長野市立文化会館ラブリーホール）</p> <p>12 工芸 レザークラフト工房テハマナ （資料4-1「地域体験実習先一覧」、 4-2「地域体験実習科目概要」、4-3「実習科目の詳細」）</p>	<p>8 農業 NPO 法人里山ひだまりファーム</p> <p>9 果樹園 山口果樹園</p> <p>10 動物 株式会社乗馬クラブクレイン</p> <p>11 芸術 公益財団法人河内長野市文化振興財団（河内長野市立文化会館ラブリーホール）</p> <p>12 工芸 レザークラフト工房テハマナ （資料4-1「地域体験実習先一覧」、 4-2「地域体験案」）</p>
--	--

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類(22-23 ページ)

新	旧
<p><b>IV 教育課程編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1 教育課程編成の考え方</b></p> <p>（4）体験的学びをふんだんに取り入れたカリキュラム編成 （略）</p> <p>②「マイスター制度」を活用して、充実した学生サポートを行う。</p> <p>「<u>マイスター制度</u>」は、高野山大学の新しい制度である（資料5「高野山大学特任マイスター」制度および規程について）。</p> <p>体験活動を軸にした学習スタイルでは、多くのサポーターが必要となる。大学の専任教職員だけでなく、<u>地域の方々に TA（ティーチング・アシスタント）</u>として支援してもらう仕組である。地域には、多様な経験や知識、技能をもっている有能な人材がたくさんおられる。こうした方々をマイスターとして認定し教育活動に関わっていただくことで、プログラムの円滑な運用が可能になり、学生の</p>	<p><b>IV 教育課程編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1 教育課程編成の考え方</b></p> <p>（4）体験的学びをふんだんに取り入れたカリキュラム編成 （略）</p> <p>②「マイスター制度」を活用して、充実した学生サポートを行う。</p> <p>「<u>マイスター制度</u>」は、高野山大学の新しい制度である（資料5「高野山大学特任マイスター」制度について）。</p> <p>体験活動を軸にした学習スタイルでは、多くのサポーターが必要となる。大学の専任教職員だけでなく、<u>地域の方々に TA（ティーチング・アシスタント）</u>として支援してもらう仕組である。地域には、多様な経験や知識、技能をもっている有能な人材がたくさんおられる。こうした方々をマイスターとして認定し教育活動に関わっていただくことで、プログラムの円滑な運用が可能になり、学生の</p>

人間力育成にも大きな影響を与えてくれる  
ことになることを期待できる。

また退職して時間が十分にあるが、これまでの経験等を活用する場面に出会うことが少ない人にとっても、学生たちに教えることは大きな喜びにつながるであろう。大学と地域との新しい連携の一つとなることを期待している。

(ア) マイスターの意義・関わる科目

本学教育学科が、カリキュラム上の  
特徴とした地域団体における体験学習  
は、農業や林業、果樹栽培、馬術クラ  
ブ、花の文化園、地域自治会、里山 NPO  
など、様々な団体において学生たちが  
体験活動を行うものであり、すべての  
学生がいずれかの体験活動を必ず行う  
ために必修科目として設定している。  
こうした体験活動の積み重ねが、学生  
たちの人間力を培い、教育現場で真に  
必要な資質・能力を形成するという教  
育目的に基づいたものである。

こうした活動を円滑に進めるため  
に、科目の担当教員に加えて、高野山  
大学特任マイスター制度を設けて、TA  
として活動を支える仕組みを工夫し  
た。したがってマイスターは、学校現  
場体験学習と地域体験学習について  
TA としてかかわるものである。

(イ) マイスターになる者

マイスターには、地域団体や住民で、  
様々な分野のプロとして活躍された方

人間力育成にも大きな影響を与えてくれる  
ことになることを期待できる。

また退職して時間が十分にあるが、これまでの経験等を活用する場面に出会うことが少ない人にとっても、学生たちに教えることは大きな喜びにつながるであろう。大学と地域との新しい連携の一つとなることを期待している。

(追加)

に就任いただくが、例えば、農業体験では、農業従事者のベテランの方、馬術クラブでは、馬術クラブで長年指導に当たってきたベテランの方などを予定している。既に多くのマイスターが具体的に決定しており、加えて各団体に複数名のマイスターを用意する。

いずれの方々もその道のプロであり、マイスターの意義を理解した上でサポートいただくことになっている。各団体との個別の説明と合同説明会（H30年、R1年、計2回）を実施済である。

なお、マイスター認定は、以下のいずれかによる。認定審査は、書類審査および面接を実施して行う。

- a. 募集に応募して大学の審査を受ける
- b. 河内長野市教育委員会の推薦による
- c. 連携機関からの推薦による
- d. その他

#### (ウ) マイスターの役割

マイスターは学習プログラムの企画、改善等から教職員との協働に関わり、教育学科の活動支援を行う。これにより教員負担の軽減が図られる。支援活動には一定額の手当を支給する。

#### (エ) 成績評価との関連

実習担当教員はマイスターと密に連携するが、マイスターは成績評価およ

び単位認定に直接関与しない。体験学習が終了した段階で、実習担当教員は学生と個別面談を行う。その際、実習先からの実習評価、提出物、指導記録をもとに、学生が報告、教員は指導を行う。また学生は、実習報告書を提出すると同時に、実習報告会において報告を行う。これらの過程を経て、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。教員はマイスターと共有した情報を一要素として総合的判断の中で勘案するが、直接的に成績評価および単位認定の判断を左右するものではない。

③充実した教育実習を行う。

教育実習は、多くの場合 4 週間ほど学校現場で学ぶ。学生にとっては貴重な経験になっているが、現場での体験と大学での理論的学びとの結合は意外と薄い。したがって、実習体験には大きな感激を示しても、大学での学びとのギャップを感じる学生も少なくない。もちろん教育現場での体験の重さは圧倒的であることも原因のひとつであるが、実習への参加の仕方にも原因があると考えられる。

③充実した教育実習を行う。

教育実習は、多くの場合 4 週間ほど学校現場で学ぶ。学生にとっては貴重な経験になっているが、現場での体験と大学での理論的学びとの結合は意外と薄い。したがって、実習体験には大きな感激を示しても、大学での学びとのギャップを感じる学生も少なくない。もちろん教育現場での体験の重さは圧倒的であることも原因のひとつであるが、実習への参加の仕方にも原因があると考えられる。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(48-61 ページ)

新	旧
<p><b>X 実習関係全体の具体的計画</b>  <u>7. 体験学習について</u>  <u>(1) 体験学習を設定する趣旨</u>            これからの教育において、子供たちには、</p>	<p><b>X 実習の具体的計画</b>  <u>10. 教員の配置並びに巡回指導計画</u>            教職支援センターが中心となり、実習先との連絡・調整を行う。センターには、センタ</p>



対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要と考えられる。同時に、教師には、地域住民とも連携・協力しながらチームとして学校運営を推進していくことが重視される。また新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのアクティブラーニングを充実することが求められている。教員養成系大学には、こうした時代の要請に応えうる教員養成のために、どのような教育課程を設計すべきかが問われる。

一方、中教審や教育再生実行会議等では、教員として必要な資質・能力について、リーダーシップや思いやり、忍耐力、対人関係能力、コミュニケーション力、同僚性、学び続ける力、ファシリテーション・スキルなどに加え、地域や社会の多様な組織等と連携できる力などの必要性があげられてきた。

体験学習を科目設定する上では、体験的な学びが非認知的能力を育むという点も重要視している。非認知的能力の重要性は、近年特に注目されており、今後の教育の中心的課題の一つとなっている。上述の教員に必要な資質能力も非認知的能力であり、多様な人々との交流や、教育関連にとどまらない多彩な体験を通して、より効果的に育まれるものである。

本学のカリキュラムでは、以上のような背景を踏まえ、現場における体験的活動を可能な限り多く導入して、多様な人々と多彩に関わることを重要な柱とし、「体験学習」を科

一長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と専任事務員1名が所属し、実習先との連携協力を行う。実習中の巡回は、上記センター員に加えて全教員が関わる。

センター所属の特任マイスターは、教員歴が長く指導的立場にあった退職教員を予定しているが、マイスター登録は、教育委員会の推薦と公募によって募集するので、センター所属者以外にもそうした人材を用意できる見込みである。教育委員会との合同チームでは、実習先の学校や園に一人ずつ配置して、期間中に常にサポートできる体制の構築ができないかと検討している。具体化できるまでにはもう少し時間がかかるが、ぜひ実現したいと願っている。

### 1.1. 実習施設における指導者の配置計画

上述のように、実習に際しては教職支援センターの他、全教員が指導に関わる。実習校ごとに担当教員を配置し、実習の開始時および終了時には実習校を訪問・指導を行う。研究授業への参加、指導・助言を行うことはもちろんである。

本学の実習では、途中に振り返りの期間（2日予定）を設けて、実習について振り返りを行い、問題点や成果を明らかにし、後半の実習をより有効なものとする予定であり、担当教員はその指導を行う。

本学特任マイスターを各校に一人ずつ配置できれば、実習日誌の指導補佐等のサポートも可能であるので、より実習校の先生方の

目設定した。

学校・保育現場体験学習では、1年次から授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助、授業における児童・幼児への学習指導補助などを取り入れ、大学での学びと教育現場での体験的学びを結合するカリキュラム編成としている。単に学校体験をするだけでなく、体験の目的と体験によって育つ力を明確にし、教師力の育成に寄与する体験プログラムとする。

地域体験学習では、農業体験、森林体験、里山保全活動、地域活性化活動、馬術場体験、ものづくり、文化活動などを、地域の各団体と連携しプログラム化している。連携する団体は、いずれも地域に根ざし存在感をもって活動する諸団体である（各団体と高野山大学との間で連携協定を締結）。

このような体験学習を通じ、個々に多様な多彩な人々や仕事との触れ合い、それを通じたコミュニケーション力の醸成、協力して何かをつくり上げる経験、困難に打ち勝つ体験などを積み重ねていくことになる。教育現場で必要な資質能力の「相手に寄り添うことができる力」や「困難にぶつかってもやり遂げられる力」、「仲間と協力してものごとを完成させる力」などがこうして育まれていく。

これらの学びにおいては、活動に対して主体的に関わることを求められ、体験に関連する理論的な学びを総動員して工夫し、理解を深めることになる。また、事前の準備や、活動途中での振り返り、活動後の展開も一体と

負担減にもつながるのではないかと考えている。

## 1 2. 成績評価体制及び単位認定方法

実習後は、実習担当者と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、提出物、指導記録をもとにして、実習の報告、指導を行うことで成績評価ならびに単位認定を行う。

## 1 3. その他（教職支援センター及び地域支援センターの設置）

教育学科には「教職支援センター」と「地域支援センター」を設置する。

●「教職支援センター」の業務は、教育実習、保育実習、社会福祉施設実習等の連絡調整を主たる業務とする。実習全般における学生指導と支援、教育効果の検討、緊急時の対応、実習に関わる事務的作業、実習時の安全確保、実習先との連絡・調整を行う。センターには、教職支援センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を円滑に図ることを目的とし、実習が円滑に行われるよう調整する。

●「地域支援センター」は、地域連携プロジェクトに関する連絡調整、学生サポート等を主たる業務とする。プロジェクトの実施全般における学生指導と支援、安全確保や緊急時の対応等、プロジェクトの運用が円滑に進むように地域団体との連絡・調整、今後の企

して、こうした体験的活動を構成し、学びに寄与する。こうして「主体的・対話的で深い学び」が生まれ、「主体的に考える力」を培うことができる。同時に、教育現場に必要な実践的な力や、体験的活動に関する知識・技術を身につけることができる。

#### (2) 体験学習の科目内容

体験実習科目では、必修科目として「学校・保育現場体験Ⅰ・Ⅱ」および「地域体験Ⅰ～Ⅳ」を設定している。これらの科目は、体験的な学びを理論的な学びと並ぶ大きな柱に据える本学教育学科カリキュラム上の際立った特徴をなすものである。これを実現するため、学校・保育現場体験を週1日、地域体験を週1日、合わせて週2日を原則として体験実習の日に充て、残り3日を大学での理論的学習とする時間割を採用した。

学生は1年生の第1タームから体験実習に出る。地域体験の場合、1学年を半分ずつ2クラスに分け、片方が地域体験Ⅰ（実習先6か所に分かれる）、もう片方が地域体験Ⅱ（実習先6か所に分かれる）を履修する。毎週1回、定まった曜日に6時間ずつ、のべ5週にわたり体験実習を行う。1科目につき通年で30時間1単位を取得し、一人の学生は1年生の間に地域体験ⅠとⅡの2科目を履修することになる。

地域体験学習は、大学が連携した地域の各団体で、学生が体験的活動を行うものである。

地域体験Ⅰは、1年次で行う。農業・栽培

画運営の検討などを行う。センターには、地域支援センター長、地域体験活動担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。

に関する体験プログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅱは、1年次で行う。地域体験Ⅰで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅲは、2年次で行う。農業・栽培に関する体験プログラムのいずれかに参加する。

地域体験Ⅳは、2年次で行う。地域体験Ⅲで参加した体験活動以外の森林・木工関連の体験、地域活動に関連する体験、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。

いずれにおいても、連携先の方々や、支援いただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。

体験的活動において連携する各団体は以下のとおり。

(地域体験Ⅰおよび地域体験Ⅲの連携団体)

①農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）

②農業・栽培体験（サバーファーム）

③農業・栽培体験（和泉体験農園）

④農業・栽培体験（花の文化園）

⑤農業・栽培体験（公園緑化協会）

⑥果樹・栽培体験（山口果樹園）

（地域体験Ⅱおよび地域体験Ⅳの連携団体）

①地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）

②地域活動体験（森林ボランティアトモロス）

③文化活動体験（文化会館ラブリーホール）

④馬術体験（クレイン）

⑤レーザークラフト体験（工房テハマナ）

⑥森林・木工体験（森林組合南河内支店）

本科目は、通常の科目とは実施形態や内容が異なるため、各回については、団体ごとに作成した活動計画に従って行う。（詳細は上述の資料4-2「地域体験実習科目概要」および資料4-3「実習科目の詳細」を参照）

（3）指導体制および巡回指導計画

地域体験の現場実習に先立ち、事前指導として全学生対象の「実習オリエンテーション」を開催し、実習参加者に受講させる。「実習オリエンテーション」では、事務手続き、実習参加の心得、目的、留意事項等の説明と講義を行い、実習への準備を促す。また、実習参加者には、担当教員による個別の事前指導を行う。実習に対する不安や疑問に対応するとともに、個別の実習先からの連絡、要望を伝える。また、実習に際して持つべき課題を探る。現場指導者も含め、学生が持つ課題

を関係者全員が共有し、適切な指導を図る。

実習に際しては、地域支援センターを中心に、全教員が指導に関わる。実習先ごとに担当教員を配置し、実習の開始時および終了時に実習先の訪問・指導を行う。また、途中で実習について振り返りを行い、問題点や成果を明らかにし、以後の実習をより有効なものとする。担当教員はその指導を行う。なお、本学特任マイスターによる実習日誌の指導補佐等のサポートも可能なため、より指導者の負担減につながる。

実習中の巡回指導は、それぞれの実習先ごとに少なくとも2回以上行う。センターが中心となり、全教員が関わりながら、実習先との連携協力に基づく巡回指導を行う。体験学習の行われる火曜日（学校・保育現場体験）および木曜日（地域体験）には、専任教員のうち10名以上が当該曜日に授業の入らない日程を確保する。同時に行われる体験学習は最大12か所であり、各支援センターと教員により全ての実習先を巡回指導することが可能な計画である。

#### （4）成績評価および単位認定

実習後、実習担当者と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの評価を踏まえ、実習の報告、指導を行う。実習生による実習報告書提出および実習報告会での報告を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。また、実習先、学生の要望と課題を把握し、今後の実

習指導に生かしていく。

## 8. 教職支援センターと地域支援センターの設置

教育学科には「教職支援センター」と「地域支援センター」を設置する。

●「教職支援センター」は、教育実習(小学校・幼稚園)、保育実習、社会福祉施設実習等についての①実習先との連絡調整、②都道府県及び市区町村教育委員会等との連絡調整を主たる業務とする。学生に対しては、センター構成員が、実習全般における学生指導と支援、実習中の巡回指導、教育効果の検討、緊急時の対応、実習に関わる事務的作業、実習時の安全確保、実習先との連絡・調整を行う。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を図り、実習が円滑に行われるよう調整する。また、1年次・2年次の学校現場体験先との連絡調整、学生への指導と支援、緊急時の対応、体験に関わる事務的作業等、情報を一元化し、体験が円滑に行われるよう調整する。センターには、教職課程に必要な資料を揃え、るとともに、学生への貸し出しを行う。センターには、教職支援センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。

●「地域支援センター」は、地域連携プロジェクトに関する連絡調整、学生サポート等を主たる業務とする。プロジェクトの実施全般における学生指導と支援、安全確保や緊急

<p>時の対応等、プロジェクトの運用が円滑に進むように地域団体との連絡・調整、今後の企画運営の検討などを行う。センターには、地域支援センター長、地域体験活動担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。特任マイスターには、地域で様々な分野のプロとして活躍されたベテランの方々の就任を予定している。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を円滑に図ることを目的とし、実習が円滑に行われるよう調整する。</p>	
---	--

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(73-74 ページ)

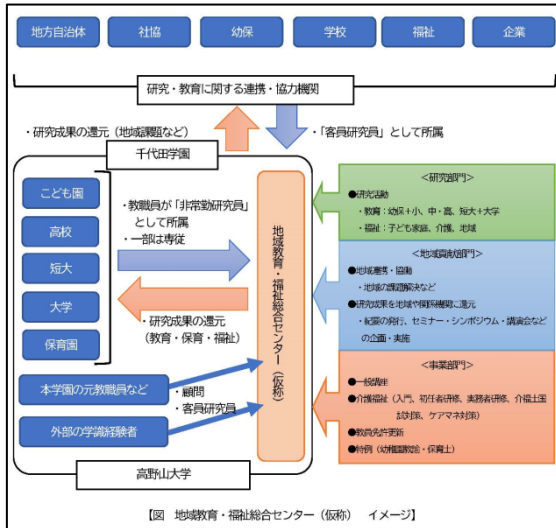
新	旧
<p><b>XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制</b></p> <p><b>3. 適切な指導体制について</b></p> <p>地域体験に関わるプロジェクトについては、「地域支援センター」を設置し、学生の指導・支援や円滑な運用、及びプロジェクトの総括、改善、企画等を行う予定であるが、地域団体の多くの市民と関わることで、社会的職業的自立に関する実質的な知見を獲得できると期待している。</p> <p>センターには、大学教員および事務職員に加えて、地域のマイスターの方に関わっていただく予定になっている。</p> <p>なお、<u>地域支援センターは学校法人千代田学園との連携により設立予定の「地域教育・福祉総合センター」(仮称; 下図)へと発展的に改組していく構想である。両者合同の組織として編成し、学生指導および地域との連携</u></p>	<p><b>XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制</b></p> <p><b>3. 適切な指導体制について</b></p> <p>地域体験に関わるプロジェクトについては、「地域支援センター」を設置し、学生の指導・支援や円滑な運用、及びプロジェクトの総括、改善、企画等を行う予定であるが、地域団体の多くの市民と関わることで、社会的職業的自立に関する実質的な知見を獲得できると期待している。</p> <p>センターには、大学教員および事務職員に加えて、地域のマイスターの方に関わっていただく予定になっている。</p> <p>なお、<u>大阪千代田短期大学においても、地域支援センターを設置する計画を進めているので、大学のスタート時には、両者合同の組織として編成し、学生指導および地域との連携業務を一層活発に行うことが可</u></p>



業務を一層活発に行うことが可能になる。

能になると期待できる。

(図を追加)



(是正事項) 文学部 教育学科

7. <教育目標と教育課程の整合性について>

教育目標において「Web を利用した英語力の育成」を掲げているが、教育課程全体として具体的にどのような科目により当該目標を実現することとなるのかが不明瞭であるため、明確に説明すること。

なお、カリキュラム構造図に記載のある「Web 利用の英語」及び「English Communication I」のシラバスにおける「e-learning」の詳細についてもあわせて説明すること。

(対応)

現在、高野山大学文学部の英語授業科目では、対面講義や Web 会議システム Zoom での講義と並行して、学習者がいつでも何処でも英語、特に listening と reading を学習することができる e-learning 教材の「Lincenglish」という web 教材を使用している。

今後、教育学科においては「English Communication I」、「海外留学体験」、「高野山国際ガイド体験」、「English Communication II・III」の科目において、WEB を利用した英語力の育成のために、新たに「ABLish」という web 教材を e-learning 用として使用する予定である。その理由として「Lincenglish」では英検 5 級から英検 1 級までを学習者の能力別に分けて学習することができたが、指導者や学習者が作成した教材を自由に web 上にアップすることができなかった。したがって教育学科での上記 4 つの科目では、

「Lincenglish」で既存の課題だけでは対応することができないため、プレゼンテーションのための関連情報や高野山ガイドのためのパワーポイントを学習者同士で共有するために適した「ABLish」を使用する予定になっている。

「ABLish」はチエル株式会社が開発した英語 4 技能学習システムである。オンライン上で当該サイトにログインすることによって、教室の内外問うことなく、配信された英語の時事ニュースや過去 5 年間のトピック 700 本以上が活用できるニュース・ライブラリを読んで聞くことができる。これらの教材を用いて、予習と復習の課題を出し、その課題について授業内でのディスカッションやシャドーイングを行う予定である。また、Web システム上に指導者が作成した教材を掲載することもできる。システム上では学生同士の意見交換も可能であり、ディスカッション、課題レポート提出では、学生間でお互いの発言や回答に対してコメントや“Good”ポイントをつけ合うことができる。このように学生相互の関わり合いを深めることで、授業の活性化を図れるものとなっている。

なお、「高野山国際ガイド体験」「English Communication II・III」では e-learning としての「ABLish」だけでなく、無料のライン・アプリを利用する予定である。まず「ABLish」の製作者と協力して、「高野山国際ガイド体験」には、宗教や文化に関するジャンルのトピックを、また「English Communication II・III」ではコミュニケーションに関するトピックを増やして準備している。またラインアプリを使用することに関して、「高野山国際ガイド

体験」では、シャドーイング用のモデル音声を何処からでも学習できる体制を整えるためである。そのアプリには、高野山の観光名所の説明だけでなく、その名所に関わる逸話、さらに仏教に関して法衣や袈裟の説明、弘法大師の法話、精進料理等のテキストを準備し実地でのガイド体験につなげていくことができる。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(29 ページ)

新	旧
<p><b>3. <u>カリキュラム編成方針と科目区分の科目構成とその理由</u></b></p> <p>(削除)カリキュラム編成は、以下の通りである。</p> <p>(略)</p> <p>④オンライン学習システムを利用して、いつでもどこでも学習できる教材を活用した英語学習と、世界遺産高野山を活かした高野山国際ガイド体験や海外留学体験などで、英語力と国際的なセンスを養成する。  <u>「English Communication I」、「海外留学体験」、「高野山国際ガイド体験」、「English Communication II・III」の科目において、WEBを利用して英語4技能を学習できる教材を使用する。オンライン上で、配信された英語の時事ニュースや過去5年間のトピック700本以上が活用できるニュース・ライブラリを読んで聞くことができる。これらの教材を用いて、予習と復習や授業内でのディスカッション、学生同士の意見交換、コメント、“Good”ポイントなど、e-learningによって授業の活性化を図れるものとなっている。</u>            なお、e-learning教材として「高野山国際</p>	<p><b>3. カリキュラム編成方針</b></p> <p><del>具体的な</del>カリキュラム編成は、以下の通りである。</p> <p>(略)</p> <p>④オンライン学習システムを利用して、いつでもどこでも学習できる教材を活用した英語学習と、世界遺産高野山を活かした高野山国際ガイド体験や海外留学体験などで、英語力と国際的なセンスを養成する。</p> <p>(追加)</p>

ガイド体験」には、宗教や文化に関するジャンルのトピックを、また「English CommunicationⅡ・Ⅲ」ではコミュニケーションに関するトピックを増やして準備している。

⑤ 教職理解を高め、教育への意欲と愛情を育成し、専門的職業人としての実践的な力量形成をはかるため、(ア)学級経営能力、(イ)授業力、(ウ)人間関係力、(エ)グローバルな視野・語学力を重視したカリキュラムを配している。

)

⑤教職理解を高め、教育への意欲と愛情を育成し、専門的職業人としての実践的な力量形成をはかるため、(ア)学級経営能力、(イ)授業力、(ウ)人間関係力、(エ)グローバルな視野・語学力を重視したカリキュラムを配している。

(是正事項) 文学部 教育学科

8. <実習科目の実施体制等が不明確>

教育実習及び保育実習に関して、年間計画、事前・事後の指導計画の詳細、巡回指導の実施体制、実施頻度、教員の負担及び成績評価の基準について、実習科目ごとの実習計画が示されておらず実習科目の内容の妥当性が判断できないため、実習要綱等を明示した上でこれらについて明確に説明すること。

なお、実習科目のシラバスにおける成績評価基準について、「実習校からの評価」や「実習施設による評価」との記述があるが、適切な評価方法とは認められないため、修正すること。

(対応)

・実習全体の年間計画については、別紙のとおり資料を添付いたします。(別紙 11 高野山大学「教育実習」「保育実習」及び実習関連活動一覧)

1年次：学校・保育現場体験Ⅰ 6月中旬～12月下旬

地域体験Ⅰ・地域体験Ⅱ

2年次：学校・保育現場体験Ⅱ 6月中旬～12月下旬

地域体験Ⅲ・地域体験Ⅳ

介護等体験

3年次：教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)

教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)

保育実習指導Ⅰ(保育所)

保育実習指導Ⅱ(福祉施設)

教育実習Ⅰ(小)

教育実習Ⅱ(幼1)

保育実習Ⅰ(保育所)

保育実習Ⅰ(福祉施設)

学校・保育現場ボランティア 6月中旬～12月下旬

地域体験ボランティア 6月中旬～12月下旬

4年次：教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)

保育実習指導Ⅱ

保育実習指導Ⅲ

教育実習Ⅲ(幼2)

保育実習Ⅱ

保育実習Ⅲ

「教育実習」と「保育実習」につきましては、次のア～オについて、実習科目ごとにまとめて、実習科目の内容の妥当性について判断いただけるよう設置の趣旨に記載いたします。

また、実習科目のシラバスにおける成績評価基準については、適切な文言に修正します。

- ア. 実習条件
- イ. 事前・事後の指導計画について
- ウ. 実習内容について
- エ. 巡回指導の実施体制について
- オ. 教員の負担について
- カ. 成績評価基準について
- キ. 介護等体験

さらに、実習科目のシラバスを見直した結果、以下のシラバスを修正した。

- ・教育実習Ⅰ(小)
- ・教育実習Ⅱ(幼1)
- ・教育実習Ⅲ(幼2)
- ・保育実習Ⅰ(保育所)
- ・保育実習Ⅰ(福祉施設)
- ・保育実習Ⅱ
- ・保育実習Ⅲ
- ・教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)
- ・教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)
- ・教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)
- ・保育実習指導Ⅰ(保育所)
- ・保育実習指導Ⅰ(福祉施設)

(

新	旧
X 実習関係全体の具体的計画 別紙	X 実習の具体的計画 別紙

以下の授業科目のシラバスの

「学生に対する評価」欄を修正する。

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習Ⅰ(小)</li> <li>・教育実習Ⅱ(幼1)</li> <li>・教育実習Ⅲ(幼2)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習評価(70%)、レポート(10%)、実習日誌(10%)、指導案10%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習Ⅰ(小)</li> <li>・教育実習Ⅱ(幼1)</li> <li>・教育実習Ⅲ(幼2)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習校からの評価(70%)、レポート(100%)、実習日誌(10%)、指導案10%</u></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰ(保育所)</li> <li>・保育実習Ⅰ(福祉施設)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習評価 50%、実習日誌 25%、実習報告(実習報告書、実習報告会での内容)25%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰ(保育所)</li> <li>・保育実習Ⅰ(福祉施設)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習施設による評価 50%、実習日誌 25%、実習報告(実習報告書、実習報告会での内容)25%</u></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅱ</li> <li>・保育実習Ⅲ</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習評価 50%、実習日誌 25%、実習報告(実習報告書、実習報告会での内容)25%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅱ</li> <li>・保育実習Ⅲ</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>実習施設による評価 80%、実習記録の内容20%</u></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)</li> <li>・教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)</li> <li>・教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)</li> <li>・保育実習指導Ⅰ(保育所)</li> <li>・保育実習指導Ⅰ(福祉施設)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>事前準備20%、課題提出、課題到達状況40%、実習後の振り返り・まとめ・報告40%</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)</li> <li>・教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)</li> <li>・教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)</li> <li>・保育実習指導Ⅰ(保育所)</li> <li>・保育実習指導Ⅰ(福祉施設)</li> </ul> <p>学生に対する評価</p> <p><u>課題提出20%、課題到達状況40%、授業に取り組む姿勢・態度40%</u></p>

(是正事項) 文学部 教育学科

9. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

(対応)

教員の年齢構成が高齢に偏っていることは自覚しており、完成年度以降、順次適正化を図りたい。ただ、教育学科設置に際して、適切な教員を配置することは簡単ではなく、審査に合格できる業績を備え、しかも学生の教育にも十分な経験を有する者を選ぶと、現在の教員構成となった。いずれも優秀で熱意ある教員であり、特に、本教育学科の特徴である体験学習に理解がありその推進に寄与しうる教員構成であると思っている。

しかしながら、ご指摘の通り教育研究の継続性の観点からも、若手教員を計画的に採用して年齢構成の適正化を図るように法人と協議して再度、採用計画を作成した。設置の趣旨等を記載した書類の関連する箇所を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (38-40 ページ)

新	旧
<p><b>V 教員組織の編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1. 教員組織構成</b></p> <p>教育学科を構成する教員として、教養(語学含む)関係<u>3</u>名、教職関係<u>3</u>名、教科教育関係<u>8</u>名(内、実務家教員<u>4</u>名)、心理関係2名、社会福祉関係1人合計<u>17</u>人の専任教員(特任を含む)で構成するが、兼担として、本学文学部密教学科の専任教員が関わり、加えて特別な業績や経歴を有した兼任教員を配して教育の充実に努める。</p> <p>(略)</p>	<p><b>V 教員組織の編成の考え方及び特色</b></p> <p><b>1. 教員組織構成</b></p> <p>教育学科を構成する教員として、教養(語学含む)関係<u>2</u>名、教職関係<u>2</u>名、教科教育関係<u>7</u>名(内、実務家教員<u>3</u>名)、心理関係2名、社会福祉関係1人合計<u>14</u>人の専任教員(特任を含む)で構成するが、兼担として、本学文学部密教学科の専任教員が関わり、加えて特別な業績や経歴を有した兼任教員を配して教育の充実に努める。</p> <p>(略)</p>



教育学科の専任教員配置については以下の通りである。

ア) 教科および指導法に関する科目  
国語、社会、理科、生活、体育、家庭、音楽、英語の担当者 (8名)

イ) 教育の基礎的理解に関する科目  
教職入門、教育と社会、教育方法論、教育課程論、保育教育課程論の担当者 (3名)

(略)

## 2. 年齢構成

本学科の所属教員の年齢構成は、70歳以上3名、60～69歳7名、50歳～59歳1名、40歳～49歳4名、30歳～39歳2名となっており、60歳以上の割合が高い (60%)。したがって、できるだけ早期に中間年齢層の教員の充実をはかり、年齢構成のバランスをはかりたい。現在の年齢構成、職位や今後の採用計画による年齢・職位の推移を次節の「今後の教員配置計画」で、推移表としてまとめた。

(略)

また本学科所属教員の(削除)  
博士等の学位取得者数については、下記の表のとおりである。

教育学科の専任教員配置については以下の通りである。

ア) 教科および指導法に関する科目  
国語、社会、理科、~~生活~~、体育、家庭、音楽、英語の担当者 (7名)

イ) 教育の基礎的理解に関する科目  
教職入門、教育と社会、(追加)の担当者 (2名)

(略)

## 2. 年齢構成

本学科の所属教員の年齢構成は、66歳以上5名、60～65歳3名、50歳～59歳1名、40歳～49歳3名、30歳～39歳2名となっており、60歳以上の割合が高い (57%)。したがって、できるだけ早期に中間年齢層の教員の充実をはかり、年齢構成のバランスをはかりたい。(追加)

(略)

また本学科所属教員の職位は、教授 6名、准教授 7名、講師 1人である。なお、職位と年齢や、博士等の学位取得者数については、下記の表のとおりである。

(削除)

(削除)

職位と年齢

	30 ～	40 ～	50 ～	60 ～	70 ～	計
教授				2	4	6
准教授		3	1	1	1	7
講師						1
計					5	14

学位取得者数 (2020年現在)

博士	修士	学士
4	11	2

学位取得者数 (追加)

博士	修士	学士
4	8	2

### 3. 今後の教員配置計画

以下について、計画的に人事を行う。

- ① 完成年度に准教授 4名の教授昇格
- ② 完成年度に講師 1名の准教授昇格
- ③ 完成年度に 70歳を超える教員 5名の退職に伴う補充 (若手教員)
- ④ 公募にて若手教員を採用

その後も、退職に伴う補充と昇格人事を計画的に行い、適切な教員配置を維持したい。

これにより、完成年度後の教員構成は以下の通りとなり、60歳以上の割合は37.5%になる見込みである。

### 3. 今後の教員配置計画

以下について、計画的に人事を行う。

- ① 准教授 3名の教授昇格
- ② 講師 1名の准教授昇格
- ③ 完成年度に 70歳を超える教員 3名の退職に伴う補充 (若手教員)
- ④ 公募にて若手教員を採用

(追加)

これにより、完成年度後の教員構成は以下の通りとなる。

(削除)

(削除)

	30 ～	40 ～	50 ～	60 ～	計
教授		1	1	6	8
准教授	2	2	1	0	5
講師	1				1
計	3	3	2	6	14

(削除)

これでもまだ60歳以上の教員比率  
(43%)が高いので、その後の5年間に、  
さらに65歳を超える教員(3名)の退職  
にともなう若手教員の補充を行いたい。

(追加)

「教育学科 教員構成推移表(10年間)」

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
A 特任教授	72	73	74	75	属用満了					
B 特任教授	73	74	75	76	属用満了					
C 准教授	68	69	特任教授		属用満了					
D 特任教授	69	70	71	72	73	74	75	属用満了		
E 特任教授	67	68	69	70	71	72	73	74	75	属用満了
F 特任准教授	84	85	86	87	特任教授	89	70	71	72	属用満了
G 准教授	63	64	65	66	教授昇格	68	69	70	定年	
H 特任教授	62	63	64	65	66	67	68	属用満了		
I 准教授	59	59	60	61	教授昇格	63	64	65	66	67
J 准教授	50	51	52	教授昇格	54	55	56	57	58	
K 准教授	46	47	48	49	50	51	52	教授昇格	54	55
L 准教授	45	46	47	48	49	50	51	52	教授昇格	54
M 准教授	38	37	38	39	40	教授昇格	42	43	44	45
N 講師	34	35	36	37	38	教授昇格	39	40	41	42
O 特任教授	75	76	77	78	属用満了					
P 特任教授	69	70	71	72	属用満了					
Q 講師	46	47	48	49	教授昇格	51	52	53	54	55
新採用 講師					30代	30代	30代	30代	30代	30代
新採用 准教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代
新採用 特任教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代
新採用 特任教授								60代	60代	60代
新採用 准教授									40代	40代
新採用 講師										30代
新採用 特任教授										60代
新採用 准教授					40代	40代	40代	40代	40代	40代
計	15	17	17	17	18	18	18	18	18	18
属用上割合	80.0%	88.8%	64.7%	64.7%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	31.3%	25.0%
教授	7	7	7	8	7	8	7	8	8	8
准教授	8	8	8	7	8	8	7	6	6	5
講師	2	2	2	2	1	2	2	2	2	3
計	15	17	17	17	16	16	16	16	16	16

(是正事項) 文学部 教育学科

10. <共用施設の使用計画が不明確>

校地・校舎及び施設・設備を他法人の設置する短期大学及び高等学校と共用する計画となっているが、各教室及び図書館、医務室、学生自習室、学生控室、情報処理学習施設、語学学習施設、運動場、食堂及びクラブ室等厚生補導施設について、学生が支障なく使用できるのかが判然としないため、各共用施設の使用方針及び完成年度における利用計画を明らかにした上で、学生に不利益が生じないことを説明すること。

なお、完成年度における本学科及び施設等を共用する短期大学の授業時間割が示されているが、具体的に使用する教室等の名称及び当該教室等の収容可能人数が示されておらず、各時間の空き教室がどこであるかについても分かりにくいいため、あらためて示すこと。

(対応)

共用施設につきましては、学校法人千代田学園様と学校法人高野山学園が締結している「校地・校舎等の借用に関する契約書」(令和3年4月1日から20年間借用契約)に基づき、別紙の校舎及び設備を使用する計画です。施設の使用にあたっては、「施設利用に関する申し合わせ事項」に添って運用することとしている。共用施設の使用方針を定めた「施設利用に関する申し合わせ事項」と、完成年度における時間割表に基づき作成した大阪千代田短期大学様の教室配置と高野山大学の教室配置についてわかるように教室配置表を添付します。教室配置表には、各教室の収容可能人数等を記載しています。

また、図書館、医務室、運動場、食堂、クラブ室等厚生補導施設については、大阪千代田短期大学の学生と高野山大学の学生が共同して利用することに支障がない規模の施設であり、利用上で学生に不利益を生ずることはないと考えている。

(別紙13 教室配置表、別紙14 施設利用に関する申し合わせ事項を添付)

設置の趣旨のⅦ 施設、設備等の整備計画の 2. 校舎等施設の整備計画 の文章を以下のように追記する。

## 2. 校舎等施設の整備計画

本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下:千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室14室、演習室2室、図工室1室、調理室1室、音楽室1室、ピアノ練習室2室、介護実習室1室、体育館、模擬保育室、コンピュータ室(端末76台)、マルチメディア室(端末6台)、図書館、運動場、テニスコート、食堂、医務室、ロッカールーム、クラブ棟、学生ホール等が備えられており、これらを共用施設として借用する。

音楽室やピアノ練習室にはピアノ60台以上が備えられており、さらに高野山大学としても新たにYMLピアノシステム(電子ピアノ24台)を購入する。図書館閲覧席は

59 席あり、現状では支障がないが完成年度に向けて充実を図る。食堂は 240 席であるが、通常 200 席で運営している。さらに食堂テラスにはパラソルを備えたテーブル 6 台に 12 席が用意されているが、スペースには余裕があり拡張が可能である。大学・短大合わせて 460 人の収容定員の約半数の座席が確保されており、他大学の例からみても運用に問題はないと思われる。体育館には体育用フロアと、ダンスフロア、外部には運動場 (4224 m<sup>2</sup>) とは別にテニスコートも設置されている。

教員の研究室は、同敷地内にすでに整備された研究室 32 室のうち 16 室(内 2 名共用 1 室)を確保する。

河内長野キャンパスの校舎面積は、8,534 m<sup>2</sup>であるが、学生の利点も考慮して、高野山キャンパスの校舎一部も利用することとする。図書館も含めて高野山キャンパスの共用校舎面積は 2,610 m<sup>2</sup>とする。

また、本学科は、小学校教員免許取得を目的とした学科であるため、理科室の整備が必要であるが、理科室については、学校法人千代田学園所有の大阪暁光高等学校の理科室および準備室を借用する。河内長野キャンパスから大阪暁光高等学校へは、公共の交通機関(路線バス)を利用して、片道 15 分で移動が可能であるが、学園のスクールバスを利用可能であり、10 分ほどで移動できる。学生の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。

学生は、高野山大学文学部の社会人入学生のために開設している大阪・難波のサテライト教室にて開講する授業も受講することができる。

なお、収容定員が最大となる完成年度の本学科及び大阪千代田短期大学の時間割(案)においても授業運営が可能であると確認されている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (pp.43-44)

新	旧
<p><b>2. 校舎等施設の整備計画</b></p> <p>本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室 14 室、演習室 2 室、図工室 1 室、調理室 1 室、音楽室 1 室、ピアノ練習室 2 室、介護実習室 1 室、体育館、<u>模擬保育室、コン</u></p>	<p><b>2. 校舎等施設の整備計画</b></p> <p>本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室 13 室、演習室 8 室、図工室 1 室、調理室 1 室、音楽室 1 室、ピアノ練習室 2 室、介護実習室 1 室、体育館(追加)</p>

<p> <u>コンピュータ室（端末 76 台）、マルチメディア室（端末 6 台）、図書館、運動場、テニスコート、食堂、医務室、ロッカールーム、クラブ棟、学生ホール等</u>          が備えられており、これらを共用施設として借用する。       </p> <p> <u>音楽室やピアノ練習室にはピアノ 60 台以上が備えられており、さらに高野山大学としても新たに YML ピアノシステム（電子ピアノ 24 台）を購入する。図書館閲覧席は 59 席あり、現状では支障がないが完成年度に向けて充実を図る。食堂は 240 席であるが、通常 200 席で運営している。さらに食堂テラスにはパラソルを備えたテーブル 6 台に 12 席が用意されているが、スペースには余裕があり拡張が可能である。大学・短大合わせて 460 人の収容定員の約半数の座席が確保されており、他大学の例からみても運用に問題はないと思われる。体育館には体育用フロアと、ダンスフロア、外部には運動場（4224 m<sup>2</sup>）とは別にテニスコートも設置されている。</u> </p> <p>         教員の研究室は、同敷地内にすでに整備された研究室 32 室のうち 16 室（内 2 名共用 1 室）を確保する。       </p> <p>         河内長野キャンパスの校舎面積は、8,534 m<sup>2</sup>であるが、学生の利点も考慮して、高野山キャンパスの校舎一部も利用することとする。図書館も含めて高野山キャンパスの共用校舎面積は 2,610 m<sup>2</sup>とする。       </p> <p>         また、本学科は、小学校教員免許取得を目的とした学科であるため、理科室の整備が必要であるが、理科室については、学校法人千代田学園所有の大阪暁光高等学校の理科室および準備室を借用する。河内長野キャンパスから大阪暁光高等学校へは、公共の交通機関（路線バス）を利用して、片道 15 分で移動が可能であるが、学園のスクールバスを利用可       </p>	<p>         が備えられており、これらを共用施設として借用する。       </p> <p> <u>（追加）</u> </p> <p>         教員の研究室は、同敷地内にすでに整備された研究室 32 室のうち 16 室 <u>（追加）</u>を確保する。       </p> <p>         河内長野キャンパスの校舎面積は、8,534 m<sup>2</sup>であるが、学生の利点も考慮して、高野山キャンパスの校舎一部も利用することとする。図書館も含めて高野山キャンパスの共用校舎面積は 2,610 m<sup>2</sup>とする。       </p> <p>         また、本学科は、小学校教員免許取得を目的とした学科であるため、理科室の整備が必要であるが、理科室については、学校法人千代田学園所有の大阪暁光高等学校の理科室および準備室を借用する。河内長野キャンパスから大阪暁光高等学校へは、公共の交通機関（路線バス）を利用して、片道 15 分で移動が可能であるが、学園のスクールバスを利用可       </p>
--	--

<p>能であり、10分ほどで移動できる。学生の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。</p> <p>学生は、高野山大学文学部の社会人入学生のために開設している大阪・難波のサテライト教室にて開講する授業も受講することができる。</p> <p>なお、収容定員が最大となる完成年度の本学科及び大阪千代田短期大学の時間割（案）においても授業運営が可能であると確認されている。</p> <p>（資料 10-1 令和 6 年度（完成年度）「高野山大学文学部教育学科授業時間割（案）」、「大阪千代田短期大学授業時間割（案）」）</p> <p><u>（資料 10-2 教室配置表（案））</u></p> <p><u>（資料 10-3 施設利用に関する申し合わせ事項）</u></p>	<p>能であり、10分ほどで移動できる。学生の履修上支障がないように時間割編成を工夫する。</p> <p>学生は、高野山大学文学部の社会人入学生のために開設している大阪・難波のサテライト教室にて開講する授業も受講することができる。</p> <p>なお、収容定員が最大となる完成年度の本学科及び大阪千代田短期大学の時間割（案）においても授業運営が可能であると確認されている。</p> <p>（資料 10 令和 6 年度（完成年度）「高野山大学文学部教育学科授業時間割（案）」、「大阪千代田短期大学授業時間割（案）」）</p>
--	---

(是正事項) 文学部 教育学科

11. <教職支援センター>

教職支援センターが設置される予定であることが示されているが、どの校地に設置される予定であるかや具体的な運営体制について不明確であることから、明確に説明すること。

(対応)

教職支援センターを河内長野キャンパスに設置する。高野山キャンパスにある教職課程センターでは主として密教学科の教職課程について担当し、教職支援センターは、教育学科の教職課程を担当する。

教職支援センターの業務は、教育実習(小学校・幼稚園)、保育実習、社会福祉施設実習等についての①実習先との連絡調整、②都道府県及び市区町村教育委員会等との連絡調整を主たる業務とする。学生に対しては、センター構成員が、実習全般における学生指導と支援、実習中の巡回指導、教育効果の検討、緊急時の対応、実習に関わる事務的作業、実習時の安全確保、実習先との連絡・調整を行う。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を図り、実習が円滑に行われるよう調整する。また、1年次・2年次の学校現場体験先との連絡調整、学生への指導と支援、緊急時の対応、体験に関わる事務的作業等、情報を一元化し、体験が円滑に行われるよう調整する。センターには、教職課程に必要な資料を揃えるとともに、学生への貸し出しを行う。センターには、教職支援センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。設置趣旨の書類の関連する部分を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (72 ページ)

新	旧
p.72 XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制  3. 適切な指導体制について <u>教職支援センター</u> <u>(削除)</u>	p. 56 XVII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制  3. 適切な指導体制について <u>教職支援センター</u> <u>「教職支援センター」を設置する予定であり、そこでは教職に関するキャリア支援だけでなく、学生課の就職担当窓口と協力しあって、企業団体等への就職などの支援も行う。近年、防</u>



<p><u>教職支援センターを河内長野キャンパスに設置する。高野山キャンパスにある教職課程センターでは主として密教学科の教職課程について担当し、教職支援センターは、教育学科の教職課程を担当する。</u></p> <p><u>教職支援センターの業務は、教育実習(小学校・幼稚園)、保育実習、社会福祉施設実習等についての①実習先との連絡調整、②都道府県及び市区町村教育委員会等との連絡調整を主たる業務とする。学生に対しては、センター構成員が、実習全般における学生指導と支援、実習中の巡回指導、教育効果の検討、緊急時の対応、実習に関わる事務的作業、実習時の安全確保、実習先との連絡・調整を行う。実習についての管理、情報はこのセンターで一元化し、他の組織との連携協力を図り、実習が円滑に行われるよう調整する。その他、1年次・2年次の学校現場体験先との連絡調整、学生への指導と支援、緊急時の対応、体験に関わる事務的作業等、情報を一元化し、体験が円滑に行われるよう調整する。センターには、教職課程に必要な資料を揃えるとともに、学生への貸し出しを行う。</u></p> <p><u>センターには、教職支援センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と事務員1名が所属する。実習についての管理、情報はこの機関で一元化し、他の組織との連携協力を円滑に図ることを目的とし、実習が円滑に行われるよう調整する。</u></p> <p><u>さらに、就業体験報告会や就職ガイダンスや学内企業セミナーを開催し、それに参加を義務付けていくことで、教職だけでなく広く社会で</u></p>	<p><u>災教育の必要性が高まっており、本学でも防災士の資格取得を検討したいと考えている。</u></p> <p><u>(追加)</u></p> <p><u>(追加) 就業体験報告会や就職ガイダンスや学内企業セミナーを開催し、それに参加を義務付けていくことで、教職だけでなく広く社会で必要とされるコミュニケーション能力や教職</u></p>
--	---

<p>必要とされるコミュニケーション能力や教職以外の分野の就業にも力を入れていく。学生個々の状況に応じたキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行い、学生のキャリア形成をサポートしていくこととしている。</p> <p>これらの支援では、学生たちの生涯を通じた就業力を持ち続ける力の養成を目指し、彼らの豊かな人間形成と生涯にわたるキャリア設計に役に立つものにしていく計画である。</p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>以外の分野の就業にも力を入れていく。学生個々の状況に応じたキャリア・カウンセリングや模擬面接の実施、資格取得対策講座の開設、就職に関する情報の個別提供等を精力的に行い、学生のキャリア形成をサポートしていくこととしている。</p> <p>これらの支援では、学生たちの生涯を通じた就業力を持ち続ける力の養成を目指し、彼らの豊かな人間形成と生涯にわたるキャリア設計に役に立つものにしていく計画である。</p> <p><u>センター員として、大学の教職員が常駐するが、加えて、教育現場を熟知し、教員指導にあたってきた元教員（教育長）の方に副センター長として赴任いただく予定である。</u></p>
---	---

(是正事項) 文学部 教育学科

12. <図書等の整備計画が不明確>

図書及び学術雑誌の整備計画について既存の冊数や寄贈された冊数については示されているが、教育研究の実施に十分な内容であるか疑義があることから、その妥当性について改めて検討し、必要に応じて適切に改めること。あわせて、新規に整備予定の図書及び学術雑誌のリストを示すこと。

(対応)

図書及び学術雑誌の整備については、教育研究の実施に十分な内容であるか、改めて検討した結果、設置の趣旨のⅦ 施設、設備等の整備計画の 3. 図書等の資料及び図書館の整備計画の 4 段落目からを以下のとおり、追記する。

図書及び学術雑誌のリストに加えて、新規に整備予定の図書及び視聴覚資料のリストを資料として提出する。

(別紙 15 新規購入図書リスト )

大阪千代田短期大学図書館においては幼児教育(幼稚園教職課程設置)及び介護福祉の図書が整備されている。また、以前に小学校教諭資格関係の蔵書を整備した関係から、同資格取得にかかる図書が豊富に所蔵されている(教育学関連蔵書総計 23,541 冊、うち幼児・初等関連 4,869 冊、教育課程・学習指導・教科教育 2588 冊など)。教育学関連蔵書は、高野山大学既存の学部の教職に係る図書 3,481 冊を合わせて、27,022 冊となる。千代田短大図書館所蔵図書には教育学大事典などの辞典類や、白書類、教育研究論文索引、学校基本調査報告書などの報告書類、日本教育史資料(文部省編)、近代教育百年史叢書、明治以降教育制度発達史などの教育史資料文献など、教育研究上の基本文献となる図書が備えられているが、学校教育関連では新しい図書が少ないため新たに購入する。2020 年度(令和 2 年度)購入予定の図書のリストを資料として添付する(資料 15 )。

教育学科設置に伴い、さらに関連図書の収集については、関係諸機関・個人等に呼掛けて関係する寄贈図書(2019.3 現在、500 冊余が寄贈済)を千代田短期大学図書館へ集約するとともに、近刊の図書資料の購入を含めて 4 年後の完成年度までには 1 万冊を追加し、同館に収書する予定である。それ以後についても、当然のことながら更なる充実を目指して、段階的に整備していくことになる。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (44-45 ページ)

新	旧
<p>図書及び図書室、閲覧室は、本学河内長野キャンパスとする大阪千代田短期大学の図書館と、既存の高野山大学の図書及び図書室、閲覧室を利用する。</p> <p><u>(略)</u></p> <p>大阪千代田短期大学図書館においては幼児教育(幼稚園教職課程設置)及び介護福祉の図書が整備されている。また、以前に小学校教諭資格関係の蔵書を整備した関係から、同資格取得にかかる図書が豊富に所蔵されている(教育学関連蔵書総計 23,541 冊、うち幼児・初等関連 4,869 冊、教育課程・学習指導・教科教育 2588 冊など)。教育学関連蔵書は、高野山大学既存の学部の教職に係る図書 3,481 冊を合わせて、27,022 冊となる。<u>千代田短大図書館所蔵図書には教育学大事典などの辞典類や、白書類、教育研究論文索引、学校基本調査報告書などの報告書類、日本教育史資料(文部省編)、近代教育百年史叢書、明治以降教育制度発達史などの教育史資料文献など、教育研究上の基本文献となる図書が備えられているが、学校教育関連では新しい図書が少ないため新たに購入する。高野山大学図書館所蔵の教育関連図書および 2020 年度(令和 2 年度)購入予定の図書のリストを資料として添付する(資料 )。</u></p> <p>教育学科設置に伴い、さらに関連図書の収集については、関係諸機関・個人等に呼掛けて関係する寄贈図書(2019.3 現在、500 冊余が寄贈済)を千代田短期大学図書館へ集約するとともに、近刊の図書資料の購入を含めて 4 年後の完成年度までには 1 万冊を追加し、同館に収書する予定である。それ以後に</p>	<p>図書及び図書室、閲覧室は、本学河内長野キャンパスとする大阪千代田短期大学の図書館と、既存の高野山大学の図書及び図書室、閲覧室を利用する。</p> <p><u>(略)</u></p> <p>大阪千代田短期大学図書館においては幼児教育(幼稚園教職課程設置)及び介護福祉の図書が整備されている。また、以前に小学校教諭資格関係の蔵書を整備した関係から、同資格取得にかかる図書が豊富に所蔵されている(教育学関連蔵書総計 23,541 冊、うち幼児・初等関連 4,869 冊、教育課程・学習指導・教科教育 2588 冊など)。教育学関連蔵書は、高野山大学既存の学部の教職に係る図書 3,481 冊を合わせて、27,022 冊となる。 <u>(追加)</u></p> <p>教育学科設置に伴い、さらに関連図書の収集については、関係諸機関・個人等に呼掛けて関係する寄贈図書(2019.3 現在、500 冊余が寄贈済)を千代田短期大学図書館へ集約するとともに、近刊の図書資料の購入を含めて 4 年後の完成年度までには 1 万冊を追加し、同館に収書する予定である。それ以後に</p>

についても、当然のことながら更なる充実を目指して、段階的に整備していくことになる。

についても、当然のことながら更なる充実を目指して、段階的に整備していくことになる。

(是正事項) 文学部 教育学科

13. <機械・器具等の整備計画が不明確>

校舎等施設について、既設の短期大学の施設を借用する旨説明されているが、機械・器具等に関しては、例えば、ピアノの台数が示されていないなど、教育研究の実施に十分な内容となっているか確認できないことから、本学科の教育研究に必要となる機械・器具等について新規に整備するものも含めリストを示すこと。

(対応)

機械・器具等の整備計画については、Ⅶ 施設、設備等の整備計画のうち、2. 校舎等施設の整備計画に以下のとおり、追記した上、新規に整備するものも含めリストを提出します。(別紙 16 既存備品リスト, 別紙 17 新規購入備品リスト )

## 2. 校舎等施設の整備計画

本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下:千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室13室、演習室8室、図工室1室、調理室1室、音楽室1室、ピアノ練習室2室、介護実習室1室、体育館、模擬保育室、コンピュータ室(端末76台)、マルチメディア室(端末6台)、図書館、運動場、テニスコート、食堂、医務室、ロッカールーム、クラブ棟、学生ホール等が備えられており、これらを共用施設として借用する(「設置申請書 7.校地・校舎の図面」に掲載)。

音楽室やピアノ練習室にはピアノ60台以上が備えられており、さらに高野山大学としても新たにYMLピアノシステム(電子ピアノ24台)を購入する。図書館閲覧席は60席あり、現状では支障がないが完成年度に向けて充実を図る。食堂は240席であるが、通常200席で運営している。さらに食堂テラスにはパラソルを備えたテーブル6台に12席が用意されているが、スペースには余裕があり拡張が可能である。大学・短大合わせて460人の収容定員の約半数の座席が確保されており、他大学の例からみても運用に問題はないと思われる。体育館には体育用フロアと、ダンスフロア、外部には運動場(4224㎡)とは別にテニスコートも設置されている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (p.43)

新	旧
2. 校舎等施設の整備計画 本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学	2. 校舎等施設の整備計画 本学科は、上述のとおり、大阪千代田短期大学(学

<p>校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室13室、演習室8室、図工室1室、調理室1室、音楽室1室、ピアノ練習室2室、介護実習室1室、体育館、<u>模擬保育室、コンピュータ室(端末76台)、マルチメディア室(端末6台)、図書館、運動場、テニスコート、食堂、医務室、ロッカールーム、クラブ棟、学生ホール等</u>が備えられており、これらを共用施設として借用する(「設置申請書 7.校地・校舎の図面」に掲載)。</p> <p><u>音楽室やピアノ練習室にはピアノ60台以上が備えられており、さらに高野山大学としても新たにYMLピアノシステム(電子ピアノ24台)を購入する。図書館閲覧席は60席あり、現状では支障がないが完成年度に向けて充実を図る。食堂は240席であるが、通常200席で運営している。さらに食堂テラスにはパラソルを備えたテーブル6台に12席が用意されているが、スペースには余裕があり拡張が可能である。大学・短大合わせて460人の収容定員の約半数の座席が確保されており、他大学の例からみても運用に問題はないと思われる。体育館には体育用フロアと、ダンスフロア、外部には運動場(4224㎡)とは別にテニスコートも設置されている。</u></p>	<p>校法人千代田学園、大阪府河内長野市、以下：千代田短大)の校舎を借用して設置する。大阪千代田短期大学には、すでに講義室13室、演習室8室、図工室1室、調理室1室、音楽室1室、ピアノ練習室2室、介護実習室1室、体育館 <u>(追加)</u></p> <p>が備えられており、これらを共用施設として借用する。</p> <p><u>(追加)</u></p>
---	---

その他 文学部 教育学科

1.教職課程認定申請の指摘事項に対する対応について

教職課程認定審査における指摘事項に対応するため、授業科目名の名称を「キャリア教育」から「進路指導・キャリア教育」に変更する。

また、次の科目のシラバス内容を変更する。

「理科内容論」、「生活科内容論」、「音楽科内容論」、「初等英語科内容論」、「国語科指導法」、「理科指導法」、「生活科指導法」、「音楽科指導法」、「体育科指導法」、「幼児と健康」、「幼児と環境」、「幼児と表現」、「保育内容の指導法(健康)」、「保育内容の指導法(環境)」、「保育内容の指導法(音楽表現)」

【補正申請書の対応箇所】

授業科目名の名称変更では「教育課程等の概要」、「授業科目の概要」、「学則」参考資料の「高野山大学文学部教育学科履修規程(案)別表Ⅰ・Ⅱ」、「教員名簿〔教員の氏名等〕」を修正し、シラバス内容の変更では「シラバス(授業計画)」を変更する。

(新旧対照表)教育課程等の概要

新	旧
科目区分『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』	科目区分『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』
「 <u>進路指導・キャリア教育</u> 」	「 <u>キャリア教育</u> 」

(新旧対照表)授業科目の概要(7 ページ)

新	旧
科目区分『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』	科目区分『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』
「 <u>進路指導・キャリア教育</u> 」	「 <u>キャリア教育</u> 」

(新旧対照表)「高野山大学文学部教育学科履修規程(案)別表Ⅰ」

新	旧
区分『選択科目』『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』	区分『選択科目』『専門科目』『理論的科目』『教職専門科目』
「 <u>進路指導・キャリア教育</u> 」	「 <u>キャリア教育</u> 」



## (新旧対照表)「高野山大学文学部教育学科履修規程(案)別表Ⅱ」

新	旧
『免許法施行規則に定める科目区分等』 学科『教育学科』 種類『幼稚園・小学校一種』 科目区分『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』 各科目に含める必要事項『進路及びキャリア教育の理論及び方法』  「 <u>進路指導・キャリア教育</u> 」	『免許法施行規則に定める科目区分等』 学科『教育学科』 種類『幼稚園・小学校一種』 科目区分『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』 各科目に含める必要事項『進路及びキャリア教育の理論及び方法』  「 <u>キャリア教育</u> 」

## (新旧対照表)教員の氏名等

新	旧
33 兼任 講師 松田 修  「 <u>進路指導・キャリア教育</u> 」	33 兼任 講師 松田 修  「 <u>キャリア教育</u> 」

## (新旧対照表)シラバス

新	旧
<u>「理科内容論」(別紙 18)</u>	<u>「理科内容論」(別紙 18)</u>
<u>「生活科内容論」(別紙 19)</u>	<u>「生活科内容論」(別紙 19)</u>
<u>「音楽科内容論」(別紙 20)</u>	<u>「音楽科内容論」(別紙 20)</u>
<u>「初等英語科内容論」(別紙 21)</u>	<u>「初等英語科内容論」(別紙 21)</u>
<u>「国語科指導法」(別紙 22)</u>	<u>「国語科指導法」(別紙 22)</u>
<u>「理科指導法」(別紙 23)</u>	<u>「理科指導法」(別紙 23)</u>
<u>「生活科指導法」(別紙 24)</u>	<u>「生活科指導法」(別紙 24)</u>
<u>「音楽科指導法」(別紙 25)</u>	<u>「音楽科指導法」(別紙 25)</u>
<u>「体育科指導法」(別紙 26)</u>	<u>「体育科指導法」(別紙 26)</u>
<u>「幼児と健康」(別紙 27)</u>	<u>「幼児と健康」(別紙 27)</u>
<u>「幼児と環境」(別紙 28)</u>	<u>「幼児と環境」(別紙 28)</u>
<u>「幼児と表現」(別紙 29)</u>	<u>「幼児と表現」(別紙 29)</u>
<u>「保育内容の指導法(健康)」(別紙 30)</u>	<u>「保育内容の指導法(健康)」(別紙 30)</u>
<u>「保育内容の指導法(環境)」(別紙 31)</u>	<u>「保育内容の指導法(環境)」(別紙 31)</u>
<u>「保育内容の指導法(音楽表現)」(別紙 32)</u>	<u>「保育内容の指導法(音楽表現)」(別紙 32)</u>

審査意見への対応を記載した書類(8月)

別紙資料一覧

- 別紙1 基本計画書 教員数 新旧対照表
- 別紙2 教育課程概念図
- 別紙3 カリキュラム・ツリー
- 別紙4 教職専門科目等 シラバス
- 別紙5 履修規程別表Ⅰ 新旧対照表
- 別紙6 履修規程別表Ⅱ 新旧対照表
- 別紙7 履修モデル(幼・小一種免許取得者用)
- 別紙8 地域体験実習科目概要 新旧対照表
- 別紙9 連携先実習の詳細
- 別紙10 「高野山大学特任マイスター」制度について 新旧対象表
- 別紙11 高野山大学「教育実習」「保育実習」及び実習関連活動一覧
- 別紙12 設置の趣旨及び必要性 実習の具体的計画 新旧対照表
- 別紙13 高野山大学 河内長野キャンパス教室配置表
- 別紙14 大阪千代田短期大学の施設の管理及び使用に関する高野山大学との申し合わせ事項
- 別紙15 高野山大学新規購入図書リスト
- 別紙16 大阪千代田短期大学既存備品リスト
- 別紙17 新規購入備品リスト
- その他1 別紙

## (新旧対象表) 基本計画書 教員数

新								
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	
	人	人	人	人	人	人	人	
新設分	文学部 教育学科	7 (6)	8 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (14)	- (-)	38 (20)
	計	7 (6)	8 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (14)	- (-)	- (-)
既分設	文学部 密教学科	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	50 (50)
	計	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	- (-)
合計		17 (16)	11 (9)	4 (4)	0 (0)	32 (29)	- (-)	- (-)

旧								
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	
	人	人	人	人	人	人	人	
新設分	文学部 教育学科	6 (6)	7 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (12)	- (-)	35 (18)
	計	6 (6)	7 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (12)	- (-)	- (-)
既分設	文学部 密教学科	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	50 (50)
	計	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	- (-)
合計		16 (16)	10 (8)	3 (3)	0 (0)	29 (27)	- (-)	- (-)

# 教育課程概念図

科目区分		DP	教育目標	1年	2年	3年	4年			
専門科目	課題探求科目	文1	2	(基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅣ	卒業研究		
	体験的科目	教育実習科目	1	3	4	専門基礎演習Ⅰ	専門基礎演習Ⅱ	専門演習Ⅰ		
						専門演習Ⅱ	教職実践演習			
		体験実習科目	1	3	4	学校・保育現場体験Ⅰ	学校・保育現場体験Ⅱ	学校・保育現場ボランティア	学校体験学習(授業支援・行事支援・放課後支援)	
	理論的科目	小・幼・保 教職関連科目	教(基礎)	1	3	「国語科内容論」	「図画工作科内容論」	「理科内容論」	「国語科指導法」	「社会科指導法」
						「算数科内容論」	「生活科内容論」	「算数科指導法」	「理科指導法」	「道徳科指導法」
						「家庭科内容論」	「体育科内容論」	「図画工作科指導法」	「家庭科指導法」	「道徳教育の理論と方法」
	基礎科目	教養科目	文1	5	空海の思想入門	ほとけの世界	体育の理論と実技	平和教育	日本国憲法	生涯学習論
					死生観	日本と世界の歴史	情報と教育	AIと世界	世界遺産と観光	人権と社会
					現代社会と医療	世界の医療課題	身体技法(ダンス)			
					常用教典	声明	法式	布教	(僧侶科目)	
基礎科目	外国語コミュニケーション学科目	1(1)	5	English Communication 1		English Communication 2		English Communication 2		
							高野山国際ガイド体験	(海外留学体験)	WEBを利用した英語	
					中国語					
				キャリア科目	3	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅢ		
				基礎ゼミ	2	基礎ゼミⅠ	基礎ゼミⅡ	基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅣ	
建学の精神科目	1	1	空海の思想入門							

## 教育目標

1. 広い学問教養と新しい時代の教育知識を持つ
2. 課題探求力を培い、予測困難「名」時代に対応できる力を養う
3. 教職理解を高め、教育への意欲と愛情の養成、教育実践力の育成
4. 教職の学びに加えて、多様な体験学習による人間力の育成
5. WEBを利用した英語力の育成と、海外での教育事情視察による国際的視野の獲得
6. 環境や地域貢献などに関する知識と広い視野、地域の各種団体との連携活動による実践的知識・技能や集団での行動力の獲得
7. 心理ケアへの理解を深め、ケアに関わる知識や能力の育成

## DP

- 文学部1 総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力  
 文学部2 人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力  
 教育学科基礎 初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力
- 1 教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力
    - 1(1) 授業構成力、教材開発力、HM
    - 1(2) コミュニケーション能力、協働する力、あきらめない心、レジリエンス
    - 1(3) カウンセリング・マインド、心理ケアに関する知識・能力
  - 2 地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力
    - 2(1) ケアの心で人々を支援できる知識・能力
    - 2(2) 地域活性化に貢献できる知識・能力



科目区分	授業科目の名称	履修年	(空白選択)	初等教育や幼児教育、保育に関わる基礎的な知識・能力	教育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力			地域の安心安全に貢献しうる人間力	
					授業構成力、教材開発力を身に付け、学習活動を適切に運営できる	子どもたちに寄り添い、適切なコミュニケーション能力や仲間と協働して物事を完成させる力、困難にくじけず最後まであきらめない心を有する	子どもたちの悩みを受け止め、適切なカウンセリングなど心理ケアに関する知識・能力を有する	地域社会及び生活文化を大切にし、ケアの心で人々を支援できる知識・能力を有する。	地域の人々と協力し合って活動し、地域活性化に貢献できる知識・能力を有する
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅲ(幼2)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅱ(保育所)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅲ(福祉施設)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅲ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		教職実践演習(幼・小)	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		保育実践演習	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門演習Ⅰ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		専門演習Ⅱ	4	◎	◎	◎	◎	◎
専門科目	課題探求科目		卒業研究	4	◎	◎	◎	◎	◎
4年生									
基礎科目	外国語コミュニケーション科目		English CommunicationⅢ	3	◎	◎			
基礎科目	キャリア科目		キャリアデザインⅢ	3	◎				
基礎科目	教養科目		生涯学習論	3	◎	◎			◎
基礎科目	教養科目		平和教育	3	◎	◎			◎
基礎科目	教養科目		人権と社会	3	◎	◎			◎
基礎科目	教養科目		死生観	3	◎				◎
基礎科目	教養科目		常用経典	3					◎
基礎科目	教養科目		声明	3					◎
基礎科目	教養科目		法式	3					◎
基礎科目	教養科目		布教	3					◎
専門科目	理論的科目	教職専門科目	保育教育課程論	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	教職専門科目	総合的な時間の指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	特別活動の指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教育方法論	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教師力養成特講Ⅰ(HRマゼント)	3	◎	◎	◎		
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教師力特講Ⅱ(学校理解)	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	教職専門科目	教職とICT	3	◎	◎			◎
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	算数科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	生活科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	図工科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	小学校教諭関連科目	体育科指導法	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(健康)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(人間関係)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(環境)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(言葉)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(造形表現)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	幼稚園教諭関連科目	保育内容の指導法(音楽表現)	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子ども家庭支援論	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	社会的養護Ⅰ	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子どもの食と栄養	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	社会的養護Ⅱ	3	◎	◎			
専門科目	理論的科目	保育士関連科目	子育て支援	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	理論的科目	心理関連科目	心理身体論Ⅰ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	理論的科目	心理関連科目	心理身体論Ⅱ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅰ(小)	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅱ(幼1)	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅰ(保育所)	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習Ⅰ(福祉施設)	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅰ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	教育実習研究Ⅱ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅰ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	保育実習指導Ⅱ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	学校・保育現場体験ボランティア	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	体験的科目	教育実習科目	地域体験ボランティア	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	課題探求科目		専門基礎演習Ⅰ	3	◎	◎	◎		◎
専門科目	課題探求科目		専門基礎演習Ⅱ	3	◎	◎	◎		◎
3年生									

教職専門科目等 シラバス

1. 教育と社会
2. 生徒指導論
3. 特別支援教育
4. 教育方法論
5. 教育課程論
6. 教育原理
7. 教育心理学
8. 道徳教育の理論と方法
9. 地域体験基礎
10. 地域体験特論

授業科目名： 教育と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 正行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人間が安心して生きられる安全な社会を基盤とし、またそれを支える教育のあり方、そのための学校と教師の役割をテーマとする。そして、これを実践的に理解して、児童生徒を地域の持続的な発展の担い手として育成できる教育的力量の向上を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基軸に学校や教師の役割や課題を講義する。児童生徒が社会の持続可能で公正な開発／発展を進め、超スマート社会（Society 5.0）を担える者となるための学力・体力・徳性・生きる力を身につけさせる授業実践を解説する。「経済再生」と「教育再生」など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。午後のマイスター制度の豊富な教育スタッフの協力による体験学習プログラムやフィールドワークに繋げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の構成、進め方、目標、評価の基準などの説明（シラバスにある諸概念の詳しい解説）</p> <p>第2回：教育と社会を捉える視座—公教育制度と関係法規</p> <p>第3回：学校教育と社会教育の連携とシナジー効果（相乗効果）</p> <p>第4回：学校の基盤としての安全な地域社会—安全教育の役割と課題</p> <p>第5回：児童生徒の家庭生活の理解—学校教育と家庭教育</p> <p>第6回：教師と親・保護者の協力—PTAと相互教育</p> <p>第7回：子供会・少年団の教育的な機能—地域生活における形成と教育</p> <p>第8回：総合的学習とボランティア活動—アクティブ・ラーニングの指導として</p> <p>第9回：地域のグローバル化と学校の役割—外国にルーツのある児童生徒の指導</p> <p>第10回：地域の伝統文化を活用した授業実践（多文化共生の中での日本的アイデンティティ）</p> <p>第11回：地域の人材を活用した授業実践（生涯学習の成果の還元・活用）</p> <p>第12回：学校開放とセーフティネットの構築—安全教育の実践（アクション・リサーチ）</p> <p>第13回：「教育再生」における学校や教師の役割—レジリエンス、生きる力の育成のために</p> <p>第14回：超スマート社会（Society 5.0）に向けた学校や教師の役割—明日の日本を担う子供を教え育てるために</p> <p>第15回：授業のまとめ、振り返り、フィードバック</p> <p>定期試験</p>			



テキスト

最新の研究成果や情報をまとめたレジュメを毎回配付する。

参考書・参考資料等

ジョン・デューイ『学校と社会』岩波文庫。稲垣恭子・岩井八郎・佐藤卓己編著『社会と教育』協同出版。『文部科学省白書』最新版。山田『アイデンティティと時代』同時代社。山田「公共性の実践的構造転換と学習の認識論・Ⅰ―「叢書生涯学習」（1987-1992年）の発展のために―」『大阪教育大学紀要』総合教育科学第68巻

学生に対する評価

授業への積極的参加20%、小レポート30%、定期試験50%。

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今西 幸蔵 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(授業のテーマ)</p> <p>この授業は、学校における生徒指導の在り方や進め方を理解することによって、実際に児童・生徒を指導・支援する具体的方略について理解することを目的とする。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校における児童・生徒に対する指導の意義や原理を把握する。</li> <li>2) 幼児期から少年期に至る児童・生徒の特性を知り、そのための学校の指導体制をつくり、必要な指導や支援について理解できる。</li> <li>3) 発達障害のある児童・生徒について正しく理解し、適切な指導ができる。</li> <li>4) 不登校や問題行動を行う児童・生徒について支援し、指導できる。</li> <li>5) 児童・生徒を指導するための地域ネットワークを構築することの意義が理解できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の学校ではさまざまな問題が生起し、重要課題として児童・生徒に対する適切な指導が求められている。生徒指導の本質を理解し、指導原理をふまえた指導技術を習得することが必要である。不登校や問題行動のある児童・生徒、発達障害のある児童・生徒に対して、教員として適切な指導が行えるよう、多面的な観点からの生徒指導の進め方を講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校と生徒指導の意義</p> <p>第2回：生徒指導の方法原理</p> <p>第3回：生徒指導と教育課程の関係【授業内課題1：教員として生徒指導をどう理解したか】</p> <p>第4回：児童の特性と理解</p> <p>第5回：生徒の特性と理解【授業内課題2：現代の児童・生徒の意識と行動】</p> <p>第6回：学校における児童・生徒への指導体制</p> <p>第7回：教育相談の意義と実践的スキル</p> <p>第8回：スクールカウンセリングの意味と諸機関との連携【授業内課題3：カウンセリングマインド】</p> <p>第9回：児童・生徒全体への指導の進め方</p> <p>第10回：学校行事における学級指導の進め方【授業内課題4：全体指導の実践的能力】</p> <p>第11回：個々の児童・生徒への指導と支援1（問題行動）</p>			

第12回：個々の児童・生徒への指導と支援2（不登校）

第13回：個々の児童・生徒への指導と支援3（発達障害）【期末レポート：個々の児童への指導法】

第14回：「校則」等に見る規範と法制度の理解

第15回：学校と家庭・地域社会との関係づくり

定期試験を実施しない。

テキスト

今西幸蔵・古川 治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』八千代出版

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』教育図書

学生に対する評価

授業内課題（80%）、期末レポート（20%）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮本 直美
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 障害や特別なニーズのある子どもに対する、その子どもを支える教育や制度を理解することにより、特別支援教育の在り方とその方法を理解できることを目標とする。			
授業の概要 現代の特別支援教育に至る今日までの歴史的変遷を、基本理念、制度、教育内容を通して学ぶ。そして、特別支援教育、システム、指導法の基本的な理解をする。			
授業計画 第1回：特別支援教育とは～その概要～ 第2回：特別支援教育に至る障害児教育の歴史的変遷 第3回：特別支援教育の理念、その基本的な考え方 第4回：特別支援教育の対象 第5回：「特別なニーズ教育」と特別支援教育 第6回：個別の教育支援計画と指導計画 第7回：特別支援学校における教育の概要 第8回：特別支援学校における教育課程の特長 第9回：特別支援学校における教育、その自立活動の目標及び内容 第10回：特別支援学校におけるセンター的機能とその役割 第11回：特別支援教育コーディネーターの役割 第12回：幼、小、中学校等における特別支援教育～特別支援学級、通級、その指導の仕組み～ 第13回：幼、小、中学校等における特別支援教育～校内支援体制、その仕組み～ 第14回：幼、小、中学校等における特別支援教育～地域との連携教育体制～ 第15回：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援 定期試験			
テキスト 湯浅恭正著『よくわかる特別支援教育』，ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 定期試験50%、通常授業でのミニレポートの点数及び授業での取り組む姿勢50%			

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八木 英二 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。</p> <p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育方法の基礎的理論と実践に関わる意味と、その在り方(主体的・対話的・深い学びの実現など)を理解しつつ、学習評価の基礎的な考え方まで理解できるようにする。</li> <li>2) 教育目的と指導技術の関係を理解して身につけること(目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点などを含む、様々な学習指導理論を踏まえつつ学習指導案を作成することができるようになること)。</li> <li>3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力(情報モラルを含む)の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけること。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的なVTR事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。また、子どもの成長・発達の観点とも関わらせながら、ICT教材やソフトの活用などを含む授業法等を説明し、実践に役立つ力量の意味を考察したい。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回：教育方法の学び方 ―授業研究等</li> <li>第2回：教育方法の歴史</li> <li>第3回：子ども理解と授業方法</li> <li>第4回：教育目的・目標と教育方法（指導案等を含む）</li> <li>第5回：教材・教具の意味理解</li> <li>第6回：教科書の役割と教科書づくり</li> <li>第7回：板書・発問の方法と子どもの表現</li> <li>第8回：デジタル教科書やICT教具の活用（情報モラルを含む）</li> <li>第9回：アクティブ・ラーニングの意味理解と実践的経緯</li> <li>第10回：教科外・授業外の教育方法 ―教科外活動や生徒指導</li> <li>第11回：探究的な学習の指導 ―総合的な学習の時間</li> </ol>			

第12回：発達階梯と学習形態 ——個別学習、一斉学習、協同学習、協働的な班学習等

第13回：教育評価 ——ルーブリックの作成と活用

第14回：教育評価 ——パフォーマンス評価の意味

第15回：教師の力量形成の発達

小論文の期末レポートを提出。

テキスト

テキストは用いないが、各回で講義プリントを配布。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』『幼稚園学習指導要領』

子安潤編著『教科と総合の教育方法・技術』学文社

学生に対する評価

各回で提示する授業事例等のVTR記録の感想提出（50%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八木 英二 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（授業のテーマ）</p> <p>学習指導要領をふまえ、教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校教育における教育課程の役割、機能、意義について理解する。</li> <li>2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的、改訂の変遷及び主な改訂内容を理解する。</li> <li>3) 学習指導要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育は、目的や価値の実現をめざす活動であり、到達目標を達成するために、教育内容を組織的、体系的に編成するものが教育課程であることを講義する。講義で得た知見をとおして、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方について、学生自身が身につけることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の場を設定する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領及び教育課程編成の意味理解</p> <p>第2回：学習指導要領の歴史的変遷及び改訂内容</p> <p>第3回：国際動向からみた教育課程【授業内課題1】学習指導要領とは何か</p> <p>第4回：教育課程の社会的役割と機能 ー近年の国際的・国内的動向</p> <p>第5回：教育課程編成の基本原則（「教育課程の構造」とコンピテンシー）</p> <p>第6回：教育内容の選択と配列【授業内課題2】教育課程はどのように編成すべきなのか</p> <p>第7回：生徒や学校、地域との連携、協働 ー社会的要請と学校の在り方</p> <p>第8回：児童・生徒の実情を踏まえる指導計画【授業内課題3】子ども理解と学校の在り方</p> <p>第9回：カリキュラム・マネジメントの意義(1) ー発達の階梯と学びのメカニズム</p> <p>第10回：カリキュラム・マネジメントの実施(2) ー教育課程づくりの条件整備</p> <p>第11回：カリキュラム評価(1) ー必要性と意義【授業内課題4】カリキュラム・マネジメントとは</p> <p>第12回：カリキュラム評価(2) ー教育目標・評価論の変遷と機能</p> <p>第13回：カリキュラム評価(3) ー評価の方法と実際</p>			

第14回：グローバルな市民教育カリキュラム(1) ー新学習指導要領を中心に

第15回：グローバルな市民教育カリキュラム(2) ーこれからの社会 (SDGs) と教育課程

小論文の期末レポートを提出。

テキスト

金馬国晴編『カリキュラム・マネジメントと教育課程』学文社

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』

学生に対する評価

授業内課題 (60%)、期末レポート (40%)



授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡部 美香 曾我部 和馬 担当形態：複数
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 <b>【授業のテーマ】</b> 教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出す。 <b>【到達目標】</b> ○教育に関わる基本的な概念を学び、自らの言葉で具体的に説明できる。 ○多様な教育の理念や思想が、どのような歴史的背景のもと現れてきたのかを理解している。 ○現代社会における様々な教育課題やその解決策について、多角的に考察できる。			
授業の概要 <b>【授業の方法】</b> おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。 <b>【準備学習の内容】</b> 毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。			
授業計画 第1回：イントロダクション——教育の原理を学ぶ意義 第2回：「教える」とは何か——人間形成と教育 第3回：「子ども」の誕生と変容 第4回：西洋における教育の歴史と思想①——哲学・キリスト教と教育 第5回：西洋における教育の歴史と思想②——ルネサンス・市民革命と教育 第6回：西洋における教育の歴史と思想③——近現代の学校教育の成立 第7回：西洋における教育の歴史と思想④——科学・ポストモダン時代における教育 第8回：日本における教育の歴史と思想①——近代以前の教育 第9回：日本における教育の歴史と思想②——近代学校の成立 第10回：教育評価の歴史と思想——教育評価と学力観の変遷 第11回：教育とメディア——学習理論と学習指導の形態 第12回：現代社会と教育①——多文化教育 第13回：現代社会と教育②——インクルーシブ教育 第14回：現代社会と教育③——子どもの貧困 第15回：授業のまとめと確認			
テキスト			

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

岡部美香（編著）『子どもと教育の未来を考えるⅡ』北樹出版、2017年

古谷恵太（編著）『教育の哲学・歴史』学文社、2017年

学生に対する評価

授業内試験：授業への貢献度(20%)・コメントシート(30%)・筆記試験(50%)

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米澤 好史 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>こどもの発達、特性を正しく理解し、学習、教育のメカニズムを踏まえた、適切な支援、かかわりができる人材育成をめざす。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育の対象を理解するため、教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。養護教諭として生徒に教育することはもちろん、将来、患者教育や保健指導、臨床指導や看護教育の場面で活用できることをねらい、本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達支援と発達を規定する要因</p> <p>第2回：愛着という視点と人間関係の支援</p> <p>第3回：愛着障害・発達障害の理解とその支援</p> <p>第4回：いじめの理解と支援</p> <p>第5回：不登校の理解と支援</p> <p>第6回：特性の理解と評価</p> <p>第7回：知能の特性とその発達</p> <p>第8回：「わかる」メカニズムとその支援（1）－わかるの落とし穴－</p> <p>第9回：「わかる」メカニズムとその支援（2）－わかる支援に必要なこと－</p> <p>第10回：「覚える」メカニズムとその支援</p> <p>第11回：「学ぶ」メカニズムとその支援（1）－できるとわかるの違い－</p> <p>第12回：「学ぶ」メカニズムとその支援（2）－学び支援のあり方－</p> <p>第13回：「意欲」のメカニズムとその支援</p> <p>第14回：「考える」メカニズムとその支援</p> <p>第15回：まとめ（こどもを支援するということ）</p>			

テキスト

米澤好史（著）「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラムー発達障害・愛着障害 現場で正しくこどもを理解し、こどもに合った支援をするー 福村出版

参考書・参考資料等

米谷淳, 米澤好史, 尾入正哲, 神藤貴昭（編著）『行動科学への招待 [改訂版]ー現代心理学のアプローチー』 福村出版

学生に対する評価

出席及び授業参加意欲、参加態度50%、試験とレポート50%

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曾我部 和馬 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳教育を実践するにあたり、現代社会で生じる道徳的葛藤をはらんだ諸問題に対して、根本的なレベルで批判的考察を加えるために教師に求められる観点や思考力を身につけたうえで、それにもとづいて「特別の教科 道徳」の授業を実際に構想できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育の歴史・理論などの基礎知識を紹介し、道徳教育をめぐる現在の課題や焦点を押さえたうえで、学習指導要領に沿った具体的事例の考察を通じてその理解を深め、授業実践力の育成へとつなげる。授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等を交え、適宜ビデオ教材を用いる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：道徳教育の歴史（1）——戦前</p> <p>第3回：道徳教育の歴史（2）——戦後</p> <p>第4回：市場モラル——「手品師」を例に</p> <p>第5回：道徳性の発達理論</p> <p>第6回：新教育運動における道徳教育</p> <p>第7回：近代教育思想とシティズンシップ教育</p> <p>第8回：学習指導要領の内容項目（1）——自己・他者との関わり：ソーシャルの言語観から</p> <p>第9回：学習指導要領の内容項目（2）——社会との関わり（1）：人種問題 （2）：性の多様性</p> <p>第10回：学習指導要領の内容項目（3）——自然・生命との関わり（1）：ぶたのPちゃん （2）：動物愛護論</p> <p>第11回：道徳授業の指導計画・指導方法・学習評価</p> <p>第12回：学習指導案の作成・検討</p> <p>第13回：模擬授業</p> <p>第14回：模擬授業の評価と改善(振り返り)とまとめ</p> <p>第15回：総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に資料を配布する。</p>			

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき

岡部美香・谷村千絵編（2012）『道徳教育を考える：多様な声に応答するために』法律文化社

苫野一徳（2019）『ほんとうの道徳』トランスビュー

学生に対する評価

出席・授業末に課すミニレポート・授業への参加度40%、学期末試験60%

授業科目名： 地域体験基礎	単位数： 2 単位	担当教員名： 奥田修一郎 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 地域体験の意味を、資質・能力形成と合わせて考える。 (1) 連携団体の特徴、地域の課題等を把握し、地域での活動のあり方を知る。 (2) 地域活動について学ぶことを通して、自らの成長についても振り返ることができる。		
授業の概要 地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な観点を学習する。授業は、課題解決型の形式で行い、調査、グループ討論やプレゼンなど、学習者主体の講義となる。		
授業計画 第1回：オリエンテーション(地域体験の内容、進め方、学習の意味) 第2回：教員としての資質・能力を探る(学習指導要領の「学びに向かう力」とは) 第3回：「学びに向かう力」と非認知的能力 第4回：フィールドワークと非認知的能力 第5回：地域で活動する意味 第6回：地域の方との対話(マイスターと共に) 第7回：地域の課題と私たち(グループ調査活動) 第8回：地域の課題と私たち(調査結果発表と討論) 第9回：連携団体の特徴① 観光農園 第10回：連携団体の特徴② 里山 NPO 第11回：連携団体の特徴③ 馬術クラブ 第12回：連携団体の特徴④ 森林組合 第13回：連携団体の特徴⑤ 地域まちづくり活動 第14回：私たちは地域活動をどうすすめるか(グループ討論) 第15回：まとめと振り返り		
テキスト 資料配布		
参考書・参考資料等 適宜紹介する		
学生に対する評価 最終レポート(50%) 小レポート(25%) プレゼン(25%)		

授業科目名： 地域体験特論	単位数： 2 単位	担当教員名： 岡本正志/柳原高文 担当形態：共同
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 地域での体験活動を教育に活かす 到達目標： 地域で農業体験などのいろいろな体験活動をして、活動の内容・意義を理解するとともに、身体で覚えた経験を教育活動に繋げることができる。		
授業の概要： 地域で農業・栽培などの体験活動をするための目的・意義をしっかりと理解させたうえで、個別の体験活動についての説明を行う。さらに、様々な体験活動を、教育活動につなぐことができるように指導する。		
授業計画 第 1 回：地域体験の目的と意義 第 2 回：農業体験について 第 3 回：栽培体験について 第 4 回：森林整備体験について 第 5 回：木工体験について 第 6 回：地域活動体験について 第 7 回：文化活動体験について 第 8 回：馬術体験について 第 9 回：農業・栽培体験を生かした教育活動(1) 第 10 回：農業・栽培体験を生かした教育活動(2) 第 11 回：森林整備・木工体験を生かした教育活動 第 12 回：地域活動体験を生かした教育活動 第 13 回：文化活動体験を生かした教育活動 第 14 回：馬術体験を生かした教育活動 第 15 回：本講義のまとめと振り返り		
テキスト 毎回の講義の際に、体験先の情報等をまとめたレジュメを配付する。		
参考書・参考資料等 適宜紹介する		
学生に対する評価 授業への参加度：40%、レポートなどの提出物：60%		



(新旧対照表)「学則」参考資料 履修規程別表 I

新										
備考の「半期」「通年」「前期」「後期」「1/4期」は授業科目の単位換算期間。 ◎コースでの履修が望ましい選択科目										
区分	科目名	単位数	必/選	配当年次	開講期	注記	児童教育コース	幼児教育コース		
必修科目 94単位	基礎科目 建学の精神	空海の思想入門	2	必	1年次	半期				
		基礎ゼミⅠ	2	必	1年次	半期				
		基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅡ	2	必	1年次	半期			
			基礎ゼミⅢ	2	必	2年次	半期			
	基礎ゼミⅣ		2	必	2年次	半期				
	外国語コミュニケーション		English communication I	2	必	1年次	通年			
		English communication II	2	必	2年次	通年				
	キャリア科目	キャリアデザインⅠ	2	必	1年次	半期				
		キャリアデザインⅡ	2	必	2年次	半期				
	教養科目	ほとけの世界	2	必	1年次	半期				
		日本国憲法	2	必	1年次	半期				
		情報と教育	2	必	1年次	半期				
		生涯学習論	2	必	3年次	半期				
		平和教育	2	必	3年次	半期				
		人権と社会	2	必	3年次	半期				
	専門科目 理論的科目	教職専門科目	教育原理	2	必	1年次	半期			
			教職入門	2	必	1年次	半期			
			教育と社会	2	必	2年次	半期			
			教育心理学	2	必	2年次	半期			
			特別支援教育	2	必	2年次	半期			
教育方法論			2	必	3年次	半期				
教育相談			2	必	2年次	半期				
小学校教諭関係科目			国語科内容論	2	選必	1年次	半期	20単位 選択必修	◎	
			社会科内容論	2	選必	1年次	半期		◎	
			算数科内容論	2	選必	2年次	半期		◎	
	理科内容論	2	選必	1年次	半期	◎				
	生活科内容論	2	選必	2年次	半期	◎				
	音楽科内容論	2	選必	1年次	半期	◎				
	図画工作科内容論	2	選必	2年次	半期	◎				
	家庭科内容論	2	選必	1年次	半期	◎				
	体育科内容論	2	選必	2年次	半期	◎				
	初等英語科内容論	2	選必	1年次	半期	◎				
	国語科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	社会科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	算数科指導法	2	選必	3年次	半期	◎				
	理科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	生活科指導法	2	選必	3年次	半期	◎				
	音楽科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	図画工作科指導法	2	選必	3年次	半期	◎				
	家庭科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	体育科指導法	2	選必	3年次	半期	◎				
	初等英語科指導法	2	選必	2年次	半期	◎				
	授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2	選必	2年次	半期	◎				
	授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2	選必	2年次	半期	◎				
	音楽Ⅰ(表現技法)	1	選必	1年次	半期	◎				
	音楽Ⅱ(表現技法)	1	選必	2年次	半期	◎				
	幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	2	選必	1年次	半期			◎	
		幼児と人間関係	2	選必	1年次	半期			◎	
		幼児と環境	2	選必	2年次	半期			◎	
		幼児と言葉	2	選必	2年次	半期			◎	
幼児と表現		2	選必	2年次	半期		◎			
保育内容の指導法(健康)		2	選必	3年次	半期		◎			
保育内容の指導法(人間関係)		2	選必	3年次	半期		◎			
保育内容の指導法(環境)		2	選必	3年次	半期		◎			
保育内容の指導法(言葉)		2	選必	3年次	半期		◎			
保育内容の指導法(造形表現)		2	選必	3年次	半期		◎			
保育内容の指導法(音楽表現)	2	選必	3年次	半期		◎				

必修科目 94単位	専門科目	理論的科目	体験サポート科目	地域体験基礎	2	必	1年次	半期	4単位 選択必修			
				科学技術と社会	2	選必	1年次	半期				
				植物栽培の基本	2	選必	1年次	半期				
				自然と人間	2	選必	1年次	半期				
				日本文化	2	選必	1年次	半期				
				文学	2	選必	1年次	半期				
				創作研究	2	選必	1年次	半期				
				茶道	2	選必	1年次	半期				
				書学入門(書道)	2	選必	1年次	半期		◎		
				地域体験特論	2	選必	2年次	半期				
		体験的科目	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	必	1年次	通年				
				学校・保育現場体験Ⅱ	2	必	2年次	通年				
				地域体験Ⅰ	1	必	1年次	通年				
				地域体験Ⅱ	1	必	1年次	通年				
				地域体験Ⅲ	1	必	2年次	通年				
課題探求科目		地域体験Ⅳ	1	必	2年次	通年						
		専門基礎演習Ⅰ	2	必	3年次	半期						
		専門基礎演習Ⅱ	2	必	3年次	半期						
		専門演習Ⅰ	2	必	4年次	半期						
		専門演習Ⅱ	2	必	4年次	半期						
卒業研究	8	必	4年次	通年								
選択科目 30単位	基礎科目	外国語コミュニケーション科目	English communicationⅢ	2	選	3年次	通年					
			高野山国際ガイド体験	1	選	2年次	集中					
			中国語	2	選	2年次	通年					
			キャリアデザインⅢ	2	選	3年次	半期					
		教養科目	体育の理論と実技	2	選	1年次	半期	◎	◎			
			AIと世界	2	選	1年次	半期					
			世界遺産と観光	2	選	1年次	集中					
			死生観	2	選	3年次	半期					
			身体技法(ダンス)	1	選	1年次	半期					
			常用経典	2	選	3年次	集中					
			声明	2	選	3年次	集中					
			法式	2	選	3年次	集中					
			布教	2	選	3年次	集中					
			専門科目	理論的科目	教職専門科目	教育課程論	2	選	2年次	半期	◎	
						保育教育課程論	2	選	3年次	半期		◎
	道徳教育の理論と方法	2				選	2年次	半期	◎			
	総合的な学習の時間の指導法	2				選	3年次	半期	◎			
	特別活動の指導法	2				選	3年次	半期	◎			
	生徒指導論	2				選	2年次	半期	◎			
	幼児理解方法論	2				選	1年次	半期		◎		
	進路指導・キャリア教育	2				選	2年次	半期	◎			
	教師力養成特講Ⅰ(HRマネジメント)	2				選	3年次	半期	◎			
	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2				選	3年次	半期	◎			
	保育士関係科目	教職とICT		2	選	3年次	半期	◎				
		保育原理		2	選	2年次	半期		◎			
		子ども家庭福祉		2	選	2年次	半期		◎			
		社会福祉論		2	選	1年次	半期		◎			
		子ども家庭支援論		2	選	3年次	半期		◎			
		社会的養護Ⅰ		2	選	3年次	半期		◎			
		保育者論		2	選	1年次	半期		◎			
		保育の心理学		2	選	2年次	半期		◎			
		子ども家庭支援の心理学		2	選	2年次	半期		◎			
		子どもの保健		2	選	1年次	半期		◎			
	子どもの食と栄養	2	選	3年次	半期		◎					
	保育内容総論	2	選	3年次	半期		◎					
乳児保育Ⅰ	2	選	2年次	半期		◎						
乳児保育Ⅱ	2	選	2年次	半期		◎						
子どもの健康と安全	2	選	2年次	半期		◎						
障害児保育	2	選	1年次	半期		◎						
社会的養護Ⅱ	2	選	3年次	半期		◎						
子育て支援	2	選	3年次	半期		◎						
表現技術(ピアノ)	2	選	2年次	半期		◎						
表現技術(造形)	2	選	2年次	半期		◎						
区分		科目名	単位数	必/選	配当年次	開講期	注記	児童教育 コース	幼児教育 コース			

選択科目 30単位	専門科目	理論的科目	心理関係科目	発達心理学	2	選	2年次	半期		
				カウンセリング論	2	選	2年次	半期		
				学校臨床心理学	2	選	2年次	半期		
				心理身体論Ⅰ	2	選	3年次	半期		
				心理身体論Ⅱ	2	選	3年次	半期		
		体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅰ(小)	4	選	3年次	通年	◎	
				教育実習Ⅱ(幼1)	2	選	3年次	通年		◎
				教育実習Ⅲ(幼2)	2	選	4年次	通年		◎
				保育実習Ⅰ(保育所)	2	選	3年次	通年		◎
				保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	選	3年次	通年		◎
				保育実習Ⅱ	2	選	4年次	通年		◎
				保育実習Ⅲ	2	選	4年次	通年		◎
				教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1	選	3年次	通年	◎	
				教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	選	3年次	通年		◎
				教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1	選	4年次	通年		◎
				保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	選	3年次	通年		◎
				保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1	選	3年次	通年		◎
				保育実習指導Ⅱ	1	選	4年次	通年		◎
				保育実習指導Ⅲ	1	選	4年次	通年		◎
				体験実習科目	学校・保育現場ボランティア	1	選	3年次	通年	
地域体験ボランティア	1	選	3年次		通年					
海外留学体験	4	選	2年次		通年					
課題探求科目	教職実践演習(幼・小)	2	選	4年次	半期	◎	◎			
	保育実践演習	2	選	4年次	半期		◎			

旧

備考の「半期」「通年」「前期」「後期」「1/4期」は授業科目の単位換算期間。

区分		科目名	単位数	必/選	配当年次	開講期	注記	
必修科目 94単位	基礎科目	建学の精神科目	空海思想入門	2	必	1年次	半期	
		基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	必	1年次	半期	
			基礎ゼミⅡ	2	必	1年次	半期	
			基礎ゼミⅢ	2	必	2年次	半期	
			基礎ゼミⅣ	2	必	2年次	半期	
		外国語コミュニケーション科目	English communicationⅠ	2	必	1年次	通年	
			English communicationⅡ	2	必	2年次	通年	
		キャリア科目	キャリアデザインⅠ	2	必	1年次	半期	
			キャリアデザインⅡ	2	必	2年次	半期	
		教養科目	ほとけの世界	2	必	1年次	半期	
			日本国憲法	2	必	1年次	半期	
			情報と教育	2	必	1年次	半期	
	生涯学習論		2	必	3年次	半期		
	平和教育		2	必	3年次	半期		
	人権と社会		2	必	3年次	半期		
	専門科目 理論的科目	教職専門科目	教育原理	2	必	1年次	半期	
			教職入門	2	必	1年次	半期	
			教育と社会	2	必	2年次	半期	
			教育心理学	2	必	2年次	半期	
			特別支援教育	2	必	2年次	半期	
		教育方法論	2	必	3年次	半期		
		教育相談	2	必	2年次	半期		
		小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	選必	1年次	半期	20単位 選択必修
			社会科内容論	2	選必	1年次	半期	
算数科内容論			2	選必	2年次	半期		
理科内容論	2		選必	1年次	半期			
生活科内容論	2		選必	2年次	半期			
音楽科内容論	2		選必	1年次	半期			
図画工作科内容論	2		選必	2年次	半期			
家庭科内容論	2		選必	1年次	半期			
体育科内容論	2		選必	2年次	半期			
初等英語科内容論	2		選必	1年次	半期			
国語科指導法	2		選必	2年次	半期			
社会科指導法	2		選必	2年次	半期			
算数科指導法	2		選必	3年次	半期			
理科指導法	2		選必	2年次	半期			
生活科指導法	2		選必	3年次	半期			
音楽科指導法	2	選必	2年次	半期				
図画工作科指導法	2	選必	3年次	半期				
家庭科指導法	2	選必	2年次	半期				
体育科指導法	2	選必	3年次	半期				
初等英語科指導法	2	選必	2年次	半期				
授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2	選必	2年次	半期				
授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2	選必	2年次	半期				
音楽Ⅰ(表現技法)	1	選必	1年次	半期				
音楽Ⅱ(表現技法)	1	選必	2年次	半期				
幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	2	選必	1年次	半期			
	幼児と人間関係	2	選必	1年次	半期			
	幼児と環境	2	選必	2年次	半期			
	幼児と言葉	2	選必	2年次	半期			
	幼児と表現	2	選必	2年次	半期			
	保育内容の指導法(健康)	2	選必	3年次	半期			
	保育内容の指導法(人間関係)	2	選必	3年次	半期			
	保育内容の指導法(環境)	2	選必	3年次	半期			
	保育内容の指導法(言葉)	2	選必	3年次	半期			
保育内容の指導法(造形表現)	2	選必	3年次	半期				
保育内容の指導法(音楽表現)	2	選必	3年次	半期				

必修科目 94単位	専門科目	理論的科目	体験サポート科目	地域体験基礎	2	必	1年次	半期	4単位 選択必修
				科学技術と社会	2	選必	1年次	半期	
				植物栽培の基本	2	選必	1年次	半期	
				自然と人間	2	選必	1年次	半期	
				日本文化	2	選必	1年次	半期	
				文学	2	選必	1年次	半期	
				創作研究	2	選必	1年次	半期	
				茶道	2	選必	1年次	半期	
				書学入門(書道)	2	選必	1年次	半期	
				地域体験特論	2	選必	2年次	半期	
	体験的科目	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	必	1年次	通年		
			学校・保育現場体験Ⅱ	2	必	2年次	通年		
			地域体験Ⅰ	1	必	1年次	通年		
			地域体験Ⅱ	1	必	1年次	通年		
			地域体験Ⅲ	1	必	2年次	通年		
			地域体験Ⅳ	1	必	2年次	通年		
課題探求科目		専門基礎演習Ⅰ	2	必	3年次	半期			
		専門基礎演習Ⅱ	2	必	3年次	半期			
		専門演習Ⅰ	2	必	4年次	半期			
		専門演習Ⅱ	2	必	4年次	半期			
		卒業研究	8	必	4年次	通年			

区分		科目名	単位数	必/選	配当年次	開講期	注記			
選択科目 30単位	基礎科目	外国語コミュニケーション科目	English communicationⅢ	2	選	3年次	通年			
			高野山国際ガイド体験	1	選	2年次	集中			
			中国語	2	選	2年次	通年			
		教養科目	キャリア科目	キャリアデザインⅢ	2	選	3年次	半期		
				体育の理論と実技	2	選	1年次	半期		
				AIと世界	2	選	1年次	半期		
				世界遺産と観光	2	選	1年次	集中		
				死生観	2	選	3年次	半期		
				身体技法(ダンス)	1	選	1年次	半期		
				常用経典	2	選	3年次	集中		
	声明			2	選	3年次	集中			
	法式			2	選	3年次	集中			
	布教			2	選	3年次	集中			
	教職専門科目			理論的科目	教育課程論	2	選	2年次	半期	
					保育教育課程論	2	選	3年次	半期	
					道徳教育の理論と方法	2	選	2年次	半期	
					総合的な学習の時間の指導法	2	選	3年次	半期	
		特別活動の指導法	2		選	3年次	半期			
		生徒指導論	2		選	2年次	半期			
		幼児理解方法論	2		選	1年次	半期			
		キャリア教育	2		選	2年次	半期			
		教師力養成特講Ⅰ(HRマネジメント)	2		選	3年次	半期			
		教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2		選	3年次	半期			
		教職とICT	2		選	3年次	半期			
		保育士関係科目			保育原理	2	選	2年次	半期	
					子ども家庭福祉	2	選	2年次	半期	
	社会福祉論			2	選	1年次	半期			
子ども家庭支援論	2			選	3年次	半期				
社会的養護Ⅰ	2			選	3年次	半期				
保育者論	2			選	1年次	半期				
保育の心理学	2			選	2年次	半期				
子ども家庭支援の心理学	2			選	2年次	半期				
子どもの保健	2			選	1年次	半期				
子どもの食と栄養	2			選	3年次	半期				
保育内容総論	2			選	3年次	半期				
乳児保育Ⅰ	2			選	2年次	半期				
乳児保育Ⅱ	2			選	2年次	半期				
子どもの健康と安全	2			選	2年次	半期				
障害児保育	2	選	1年次	半期						
社会的養護Ⅱ	2	選	3年次	半期						
子育て支援	2	選	3年次	半期						
表現技術(ピアノ)	2	選	2年次	半期						
表現技術(造形)	2	選	2年次	半期						

選択科目 30単位	専門科目	理論的科目	心理関係科目	発達心理学	2	選	2年次	半期
				カウンセリング論	2	選	2年次	半期
				学校臨床心理学	2	選	2年次	半期
				心理身体論Ⅰ	2	選	3年次	半期
				心理身体論Ⅱ	2	選	3年次	半期
		体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅰ(小)	4	選	3年次	通年
				教育実習Ⅱ(幼1)	2	選	3年次	通年
				教育実習Ⅲ(幼2)	2	選	4年次	通年
				保育実習Ⅰ(保育所)	2	選	3年次	通年
				保育実習Ⅰ(福祉施設)	2	選	3年次	通年
				保育実習Ⅱ	2	選	4年次	通年
				保育実習Ⅲ	2	選	4年次	通年
				教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1	選	3年次	通年
				教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	選	3年次	通年
				教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1	選	4年次	通年
				保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	選	3年次	通年
				保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	1	選	3年次	通年
				保育実習指導Ⅱ	1	選	4年次	通年
				保育実習指導Ⅲ	1	選	4年次	通年
		体験実習科目	学校・保育現場ボランティア	1	選	3年次	通年	
地域体験ボランティア	1		選	3年次	通年			
海外留学体験	4		選	2年次	通年			
課題探求科目	教職実践演習(幼・小)	2	選	4年次	半期			
	保育実践演習	2	選	4年次	半期			

## (新旧対照表)「学則」参考資料 履修規程別表Ⅱ

## 新

別表Ⅱ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数

## 1. 教科及び教科の指導法に関する科目

学科	種類	区分	科目	免許法科目名・単位数	本学の科目名・必要単位数	幼一 種 必要単位	小一 種 必要単位
教育 学科	小学 校一 種	教科 及 び 教科 の 指 導 法 に 関 する 科 目	教科 に 関 する 専 門 的 事 項	国語(書写を含む。)	国語科内容論 書学入門(書道)	2	<u>2</u>
				社会	社会科内容論	2	<u>2</u>
				算数	算数科内容論	2	<u>2</u>
				理科	理科内容論	2	<u>2</u>
				生活	生活科内容論	2	<u>2</u>
				音楽	音楽科内容論	2	<u>2</u>
				図画工作	図画工作科内容論	2	<u>2</u>
				家庭	家庭科内容論	2	<u>2</u>
				体育	体育科内容論	2	<u>2</u>
				外国語	初等英語科内容論	2	<u>2</u>
		各 教科 の 指 導 法 ( 情 報 機 器 及 び	国語(書写を含む。)	国語科指導法	2	<u>2</u>	
			社会	社会科指導法	2	<u>2</u>	
			算数	算数科指導法	2	<u>2</u>	
			理科	理科指導法	2	<u>2</u>	
			生活	生活科指導法	2	<u>2</u>	
			音楽	音楽科指導法	2	<u>2</u>	
			図画工作	図画工作科指導法	2	<u>2</u>	
			家庭	家庭科指導法	2	<u>2</u>	
			体育	体育科指導法	2	<u>2</u>	
			外国語	初等英語科指導法	2	<u>2</u>	
42単位 必修							
幼 稚 園 一 種	す る 領 域 及 び 保 育 内 容 の 指 導 法 に 関	領 域 に 関 する 専 門 的 事 項	健康	幼児と健康	2	<u>2</u>	
			人間関係	幼児と人間関係	2	<u>2</u>	
			環境	幼児と環境	2	<u>2</u>	
			言葉	幼児と言葉	2	<u>2</u>	
			表現	幼児と表現	2	<u>2</u>	
			保 育 内 容 の 指 導 法 ( 情 報 機 器 及 び 教 材 の 活 用 を 含 む。)	保育内容の指導法(健康)	2	<u>2</u>	
				保育内容の指導法(人間関係)	2	<u>2</u>	
				保育内容の指導法(環境)	2	<u>2</u>	
				保育内容の指導法(言葉)	2	<u>2</u>	
				保育内容の指導法(造形表現)	2	<u>2</u>	
保育内容の指導法(音楽表現)	2	<u>2</u>					
22単位 必修							

旧

別表Ⅱ 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数

1. 教科及び教科の指導法に関する科目

学科	種教科 類科	区分 科目	免許法科目名・単位数	本学の科目名・必要単位数	備考	
教育学科	小学校 一種	教科及び教科の指導法に関する科目	国語(書写を含む。)	国語科内容論	2	
				書学入門(書道)	2	
			社会	社会科内容論	2	
			算数	算数科内容論	2	
			理科	理科内容論	2	
			生活	生活科内容論	2	
			音楽	音楽科内容論	2	
			図画工作	図画工作科内容論	2	
			家庭	家庭科内容論	2	
			体育	体育科内容論	2	
			外国語	初等英語科内容論	2	
			各教科の活用を含む(情報機器及び)	国語(書写を含む。)	国語科指導法	2
				社会	社会科指導法	2
				算数	算数科指導法	2
		理科		理科指導法	2	
		生活		生活科指導法	2	
		音楽		音楽科指導法	2	
		図画工作		図画工作科指導法	2	
		家庭		家庭科指導法	2	
		体育	体育科指導法	2		
		外国語	初等英語科指導法	2		
		42単位 必修				
幼稚園 一種	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門事項	健康	幼児と健康	2	
			人間関係	幼児と人間関係	2	
			環境	幼児と環境	2	
			言葉	幼児と言葉	2	
			表現	幼児と表現	2	
		保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	保育内容の指導法(健康)	2		
			保育内容の指導法(人間関係)	2		
			保育内容の指導法(環境)	2		
			保育内容の指導法(言葉)	2		
			保育内容の指導法(造形表現)	2		
保育内容の指導法(音楽表現)	2					
22単位 必修						



高野山大学文学部教育学科 履修モデル 【幼・小一種免許取得】

	1年次				2年次				3年次				4年次			
	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数	前期	単位 数	後期	単位 数
基礎科目	建学の精神科目	空海思想入門	2													
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	2	基礎ゼミⅡ	2	基礎ゼミⅢ	2	基礎ゼミⅣ	2							
	外国語コミュニケーション科目	English communication I		English communication I	2	English communication II		English communication II	2							
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2									
	教養科目	ほとけの世界	2	体育の理論と実技	2					生涯学習論	2					
		日本国憲法	2	情報と教育	2					平和教育	2	人権と社会	2			
理論的科目	教職専門科目			教育原理	2	教育心理学	2	教育と社会	2	特別活動の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	2	教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	2	
				教職入門	2	特別支援教育	2	教育課程論	2	教育方法論	2	教職とICT	2			
				幼児理解方法論	2	教育相談	2	道徳教育の理論と方法	2	保育教育課程論	2					
								生徒指導論	2							
								進路指導・キャリア教育	2							
	小学校教諭関係科目	国語科内容論	2	社会科内容論	2	図画工作科内容論	2	算数科内容論	2							
		理科内容論	2	家庭科内容論	2	体育科内容論	2	生活科内容論	2							
		音楽科内容論	2													
		初等英語科内容論	2													
						国語科指導法	2	家庭科指導法	2	生活科指導法	2	算数科指導法	2			
					理科指導法	2	初等英語科指導法	2	図画工作科指導法	2						
					社会科指導法	2			体育科指導法	2						
					音楽科指導法	2										
	幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	2	幼児と人間関係	2	幼児と環境	2			保育内容の指導法(健康)	2	保育内容の指導法(環境)	2			
						幼児と言葉	2			保育内容の指導法(人間関係)	2	保育内容の指導法(音楽表現)	2			
					幼児と表現	2			保育内容の指導法(言葉)	2	保育内容の指導法(造形表現)	2				
保育士関係科目																
心理学関係科目																
体験サポート科目	地域体験基礎	2	科学技術と社会	2						書学入門(書道)	2					
体験的科目	教育実習科目								教育実習Ⅰ(小)	教育実習Ⅰ(小)	4					
									教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	1					
									教育実習Ⅱ(幼1)	教育実習Ⅱ(幼1)	2	教育実習Ⅲ(幼2)	教育実習Ⅲ(幼2)	2		
									教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	1	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	1		
	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅰ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2	学校・保育現場体験Ⅱ	2							
	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅰ	1	地域体験Ⅲ	1	地域体験Ⅲ	1								
	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅱ	1	地域体験Ⅳ	1	地域体験Ⅳ	1								
課題探求科目									専門基礎演習Ⅰ	2	専門基礎演習Ⅱ	2	専門演習Ⅰ	2	専門演習Ⅱ	2
														卒業研究	8	
														教職実践演習(幼・小)	2	

小計 20

小計 28

小計 28

小計 26

小計 26

小計 24

小計 4

小計 15

合計 171

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(資料4-2)

新			旧		
<b>【資料4-2】地域体験実習科目概要</b>			<b>【資料4-2】地域体験案</b>		
体験日時			体験日時		
	実施日			実施日	
地域体験Ⅰ	体験先によ って決定 (年度初め に公示する)	週1日× <u>5</u> 日 <u>10:00~16:00</u>	地域体験Ⅰ	体験先によ って決定 (年度初め に公示する)	週1日× <u>4</u> 日 <u>9:20~16:30</u>
地域体験Ⅱ		週1日× <u>5</u> 日 <u>10:00~16:00</u>	地域体験Ⅱ		週1日× <u>4</u> 日 <u>9:20~16:30</u>
地域体験Ⅲ		週1日× <u>5</u> 日 <u>10:00~16:00</u>	地域体験Ⅲ		週1日× <u>4</u> 日 <u>9:20~16:30</u>
地域体験Ⅳ		週1日× <u>5</u> 日 <u>10:00~16:00</u>	地域体験Ⅳ		週1日× <u>4</u> 日 <u>9:20~16:30</u>
地域体験ポ ランティア		週1日× <u>5</u> 日 <u>10:00~16:00</u>	地域体験ポ ランティア		週1日× <u>4</u> 日 <u>9:20~16:30</u>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(資料 4-3)

新	旧
<u>【資料 4-3】 連携先実習の詳細</u>	(追加)

## 連携先実習の詳細

### ① 農業・栽培体験（里山ひだまりファーム）

#### 《目的と達成目標》

農業は、国民の様々な食料のもととなる農産物を生産し、生産するための農地を維持・管理することで環境や国土を保全している。また生産から流通、加工、消費に至る経済活動にも大きな役割を果たしている。

現在の農業には課題解決のための先人の知恵と工夫の積み重ねがあり、中山間地域で農業を体験することはその一部を実感することができる。一方でこれからの農業にも、天候不順や病害虫、鳥獣被害、自然との共生、後継者不足や経営上の問題、農業集落の問題など、時代に応じた様々な自然や社会の課題が避けて通れない状況にある。

教育課程で子供たちに農業を学習・体験させることは、その過去と現状と将来に目を向けさせ、身近な課題から将来に向けた多岐にわたる課題解決のための機会を与えることに意義がある。その目的のためにも教育指導者自身の学習と体験が必要である。

本体験で、農業の現状把握とあわせて、世代を超えた地域との連携を深め、食料、動植物、自然環境、コミュニティ、防災、流通など、多岐にわたる分野について農業を通じた視点で学習し、教育課程における社会科のみならず、理科や家庭科、総合学習など、各科目の指導についても応用されることを目標とする。

#### 《テーマ》

各農作業の中にも多くの苦労、知恵と工夫がある。下記テーマを通じて、天候不順、病害虫や鳥獣対策など多岐にわたる課題とその解決策を学習する。

- 1 育てるから収穫、収穫から食料になるまで
- 2 育てるための維持管理作業と基盤整備事業
- 3 役割分担と共同作業
- 4 農業集落、里山生活の現状把握と情報収集
- 5 未解決課題の現状把握と情報収集

「なぜそうする？次の作業は？そうしたらどうなる？」の疑問をもってマイスターとのコミュニケーション力を養いながら体験に臨むことが、各テーマに共通する取り組み姿勢である。

#### 《内容》

NPO 法人里山ひだまりファームの農業に関する運営や作業を学習・体験する。具体的には、年間を通じた稲作、小麦栽培、小学生への稲作体験のサポート、農地の基盤整備作業、農業集落・里山生活の現状と課題のヒアリングなど。

① 国民の主食を生産する稲作を学ぶ（1）

日本国民の主食である米の栽培を通じて、その課題解決の歴史と新たな課題を見出す。籾蒔きをはじめとする年間を通じた稲作作業を学習する。籾蒔きの準備～籾蒔き～育苗を行う。

② 国民の主食になりつつあるパン用の小麦の生産を学ぶ

パンの原材料となるパン用小麦の栽培を通じて、里山ひだまりファームが取り組んでいる加工から調理、消費に至るまでのプロジェクトを学習し、食に対する課題を見出す。コンバインによる小麦の収穫を補助する。

③ 国民の主食を生産する稲作を学ぶ（2）

日本国民の主食である米の栽培を通じて、その課題解決の歴史と新たな課題を見出す。高齢化、機械化の課題、役割分担や共同作業などを学習する。田植え準備～田植えを行う。

④ 稲作を体験する小学生の学習サポート（1）

小学生の田植え体験を指導・サポートする実習の中で教える立場の心構えを学習する。サポートを通じて、小学生の興味、好奇心、集中力、持続性、充実感を体感し、その理解力や行動力を知る。

⑤ 農地の維持管理の必要性を学ぶ

農地やその周辺環境は地域の生活空間でもある。里山の風景や自然は昔からの農林業が作りあげた日本の文化である。その中でも重要であり苦勞のある草刈り作業を体験し、一連の作業の意義を学習する。

⑥ 稲作を体験する小学生の学習サポート（2）

小学生の稲刈り体験を指導・サポートする実習の中で、教える立場の心構えを学習する。現代の豊かな食生活の中で、食物に対する敬意を学習する。

⑦ 大阪産パン用小麦の普及促進を学ぶ

大阪産のパン用小麦の普及のために取り組んでいる現状と課題を学習する。小麦の種蒔きを行う。

⑧ 大阪産パン用小麦の普及促進と雑木の伐採作業を学ぶ

小麦栽培の風物詩、麦踏み体験しその必要性を理解する。  
農閑期の作業のひとつとして農地周辺の雑木を伐採し、伐採木を再資源として活用することを学習する。資源の活用として、稲作における、わら、モミガラ等の活用も学習する。

## ② 農業・栽培体験（サバーファーム）

### 《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。野菜や花を育成し、栽培する活動は学校教育の重要な活動といえる。栽培活動が食育につながっていくことを甲子園球場約5個分の豊かな緑の中で学生たちに実体験させたい。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。
2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

### 《テーマ》

- 1 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。

基礎づくりの大切さを学ぶ。野菜づくりにはまず土壌作りが重要である。また様々な野菜や花の栽培活動を通して、栽培方法の共通点や異なる点について学ぶ。

- 2 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

観察の重要性、個に応じた対応の大切さを学ぶ。人間の教育ばかりでなく植物においてもタイミング、環境、など十分観察した上で栽培活動を行うことが重要である。水やりのタイミング・株分けのタイミング、定植時期を苗の生育具合を見ながら適切に行うことを知る。

農作物には害虫が付きものであるが、消毒・駆除をしなければ商品価値が皆無となることを知るとともに、消費者に安全な品を提供する過程を学ぶ。

### 《内容》

農業と豊かな自然に親しむ機会を来訪者に提供し、都市と農村の交流を図り、農業の振興と地域の活性化に寄与する作業を四季に応じて体験学習する。

トマト・さつまいも・ピーマン・ししとう・いちご・大根・玉ねぎ・白菜の育成を中心に、四季に応じた野菜の栽培について、また、コスモス・葉牡丹の育成を中心に、四季に応じた花の栽培について、それぞれ育成しながら学んでいく。

- ① 野菜・花の定植の仕方・育成計画を学ぶ

中玉トマト定植、いちご管理、さつまいも定植・マルチ張り、ジニア定植、ピーマン定植、しし唐定植、ミニトマト定植

- ・作業の取り組みとその意義の徹底
- ・計画を立てることの大切さを知る。
- ・作業の手順の大切さを知る。
- ・工夫することの必要性を知る。
- ・生命の継続について知る。
- ・勤労の尊さと喜びを積極的に受け入れる姿勢の大切さを身につける

② 種まき・育成管理について学ぶ

いちご苗管理、いちご定植・管理、葉牡丹播種・ポット上げ、コスモス定植、ダイコン播種

- ・種まきから植え付けまでを通して事業展開の進め方、計画する力を身につける。
- ・植え付けた作物の育成管理を学ぶ。
- ・作業の手順の大切さを知る。
- ・工夫することの必要性を知る。
- ・生命の逞しさを作業することによって学ぶ。

③ 栽培の意義について考える

いちご定植・管理、いちご定植（露地）、玉ネギ定植、レタス定植、ピーマン播種、しし唐播種

- ・苗づくりを通して観察してきたものを定植することにより、成長の過程を見守り、適切なタイミングで作業をいれながら育てていくことの重要性を身につける。
- ・さまざまな野菜の生育について学び、今まで育ててきた野菜作りとの共通点や違いを見出す。
- ・振り返りとまとめを行うことの大切さを身につける。

④ 収穫体験

白菜収穫、ダイコン収穫、いちご管理・いちご狩り案内

- ・収穫方法を知る。また収穫の喜びを知る。
- ・収穫物の利用の仕方によりまた違った大きな価値が生まれることを知る。
- ・いちご狩りの案内をすることによりお客様とのコミュニケーション力を身につける。

⑤ 園内の清掃作業を通して環境について考える

園内清掃、いちご管理・いちご狩り案内

- ・園内の清掃作業をするなかで、勤労奉仕について学ぶ。
- ・成長の過程を見守り、適切なタイミングで作業をいれながら育てていくことの重要性を身につける。

- ・いちご狩りの案内をすることによりお客様とのコミュニケーション力を身につける。



### ③ 農業・栽培体験（和泉体験農園）

#### 《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。食育は、そうした使命を達成するために最も重要な学びである。農の営みを通して食育の大切さを学生たちに実感させることを目指す。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。
2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

#### 《テーマ》

農業の実際に触れ、その基礎的知識・技能を学ぶと同時に、季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。また、農業体験を児童・生徒への教育に敷衍し、より深い学びへとつなげていく。

いちごの育成を通じて同じいちごでも品種により育て方が異なり栽培方法を間違えると大変になることを学ぶ。教育において、児童・生徒の特性を知ったうえで指導することの大切さに通ずる。同じ人間でも生まれながらそれぞれの特性がある。そのことを認知した指導の大切さを学ぶ。

いちごの育成で大切な作業として、一株毎に葉かき、摘花など生育の状態を見ながら的確に行わなければならない。そのタイミングを逸すると収穫量に直接影響する。農家の方々は生計に関わることなので日々真剣に観察し何をすべきかを判断して即作業にあたっている。同様に、児童・生徒に接するときどの時期にどのようなことを教え、指導するかをタイミング、環境、など十分観察した上で行うことが重要である。ただマニュアルのみで愛情のない指導は子供たちの成長を阻害する。教えるタイミング、対応の機敏さの大切さを学ぶ。また、個々の児童・生徒たちの成長にとって指導内容がうまく合っているかの研究は大切である。一人ひとりの指導のメニューを十分研究することの大切さを知る必要がある。

#### 《内容》

いちご・さつまいも・ハロウィンかぼちゃを中心に育成を行う。

- ① 計画の大切さを学ぶ

さつまいも苗の植え付け、ハロウィンかぼちゃの植え付け

- ・作業の取り組みとその意義の徹底
- ・保存食の知恵について知る
- ・生命の継続、子孫の誕生など

② 継続、変更のタイミングの大切さを知る

いちごの苗の管理、さつまいも苗の育成・管理法、ハロウィンかぼちゃの育成・管理

- ・勤労の尊さと喜びを積極的に受け入れる姿勢の大切さを身につける
- ・生命の逞しさを猛暑の中で作業することによって学ぶ
- ・作業の手順の大切さ、工夫次第で苦も楽になることを知る

③ 本格的な展開時の心構えを学ぶ

いちごの本田への植え付け、さつまいもの収穫、ハロウィンかぼちゃ収穫

- ・植え付けからの事業展開(いちごを通じて)と収穫の喜びを知る
- ・事業展開の進め方による展望と計画する力をつける
- ・植え付けた作物収穫と保存について知る

④ 栽培の意義や喜びを子どもたちと共有し、イベント開催のコツを知る

ハロウィンイベント開催、ピザ釜を使っての調理、イチゴの管理

- ・子どもたちと接しながらイベントの歴史にふれる
- ・地域の中におけるイベントとの関わりの持ち方と楽しみ方を身につける
- ・何が大切かを選択して教える大切さを身につける
- ・アウトドアでの楽しみ方を学ぶ。火の起こしかた、手近にあるものでの即興料理のつくりかたと衛生管理について
- ・適当な間引きの大切さを知る
- ・捨てることにより多くのものを得ることの学習

⑤ 振り返り：学んだことを見直し、向学心を高め、次の成功につなげることを学ぶ

収穫物の調理で収穫祭および反省会、さつまいもを使ってのスイートポテトづくり、いちごを使ってのいちごケーキ作り

- ・収穫物の利用の仕方により大きな価値が生まれることを知る

#### ④ 農業・栽培体験（花の文化園）

##### 《目的と達成目標》

大阪府立花の文化園は、花そのものの美しさだけでなく花に関係する様々な文化を学ぶ場であるとともに、工芸・園芸・調理設備を活用したイベントも豊富に実施しており、それらの体験を通じ花の様々な魅力を学び、同時に栽培知識と技能を習得、植物の知識と植物を観察する力を獲得、仕事の心構えを学ぶ。また、ボランティアスタッフの方々と協働で作業することを通じて、やり遂げる力、協力してものごとを完成させる力、コミュニケーション力などを身につける。以上により、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

##### 《テーマ》

以下のテーマをもって植物の管理、ボランティア活動体験を行う。

1. 「花と人との関わり合い」を理解するため、植物に関する知識、観察力、接客の心構えについて、花と憩う・花に学ぶ・花と交流する、の3つを基本コンセプトとして学び培っていく。
2. 植物を愛するボランティアの方々との交流を通じて、理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を養い協力することの喜びを学ぶ。
3. 植物栽培の基礎知識を学び手入れを体験する。
4. 一見美しい花壇も除草との闘いの日々であることを、身をもって体験し学びを向上させる。

##### 《内容》

花がら摘み、除草、灌水など植物の管理や植え付けなど様々な植物に関する作業。地域の人々との協働。

###### ① 植物園の仕事について

各エリアの案内と植物の紹介、植物園の役割の紹介  
・植物に関する知識、観察力、接客の心構えなど

###### ② 植物の管理体験

花壇の花がら摘み、クレマチスの花がら切り、バラの花がら切り、苗の植えかえ、寄せ植えづくり、野草の手入れ、除草など  
・栽培の基礎知識、やり遂げる体験  
・栽培の基礎知識・技能、園芸植物の基礎知識、やり遂げる体験  
・野生植物と生物多様性保全の基礎知識、  
・ガーデンデザインの基礎知識

③ ボランティア活動体験

花の文化園の管理に携わるボランティアに参加

- ・ボランティア活動への理解、コミュニケーション能力、協力しあう体験

## ⑤ 農業・栽培体験（公園緑化協会）

### 《目的と達成目標》

教職員になるにあたって、様々な分野の仕事を体験することは児童・生徒の指導において必ず糧になる。当協会の事業は樹木の剪定や看板の作成などの公園施設の管理や公園でのイベントの運営、公共施設に配付する花苗の育成など多岐に渡る。4月に春市、7～8月に噴水ライトアップ、10月にオータムマーケット、12月にイルミネーションのほか、夏休み子ども工作教室、フラワーアレンジメントの講習会など、年間を通じて様々な催し・イベントが開催される。

これらイベントをはじめ様々な体験を通して学び、教員として児童・生徒を指導する糧とする。

### 《テーマ》

・協会事業の体験を通して、知識・技能を習得する。特に、イベント事業に携わることを通じて、計画の重要性を知り、プレゼンテーション能力を磨く。

実際に世の中で行われている多種多様な仕事を数多く経験しているほど、児童・生徒の指導に自信をもってあたることができる。公園緑化協会では、公園管理、緑化推進を行うにあたり、様々な仕事を体験することができる。

・創意工夫しながら、協力してチームワークでものごとを完成させる力を養う。また、多様な人との協働を通じて、世代を超えた連携を深め、「コミュニケーション力」を身に付ける。

### 《内容》

夏用、冬用花苗ポット上げ・植えつけ、アジサイの剪定、クリスマスイルミネーションのデザイン及び飾りつけ、公園看板の作成、イベント運営の企画・立案、プレゼンテーションなどを行う。

#### ① 公園緑化協会における様々な仕事の知識・技能を学ぶ

夏用花苗ポット上げ、夏用花苗植えつけ、公園看板作成・設置、アジサイの剪定、冬用花苗のポット上げ

- ・花苗ポット上げの方法
- ・花苗植えつけの方法
- ・アジサイの剪定方法
- ・公園看板の作成方法
- ・作業効率の良い役割分担
- ・一度行った作業の確認

- ・更に作業効率の向上
- ・集中力の持続

② 公園緑化協会におけるイベントの運営を経験する

イルミネーションのデザインを考える、イルミネーションのデザイン案を発表する、イルミネーション設置、イルミネーション設置の振り返り・片付け

- ・イルミネーションの基礎知識
- ・イベントの企画力を身につける
- ・作業手順を考える計画性を学ぶ
- ・イベント内容、作業手順を伝えるプレゼン力を磨く
- ・イベント作業を予定通りに行う実行力を身につける
- ・イベント開催の内容を振り返り、次回のイベントをよりよくすることを学ぶ

## ⑥ 森林・木工体験（森林組合南河内支店）

### 《目的と達成目標》

森林の間伐から木材加工、木材の競り体験、木工品の製作に至る一連の過程を通じて、森と人間との関係性を学び、持続的な環境やエネルギー問題などへの関心を喚起しながら、伐採や木工製品製作での技能修得にいたる学習をプログラム化したもの。木材の競り市で、自分たちの企画した製品を作るための木材を競り落とす体験では、ホームセンターで加工済みの木材を購入することとは全く異なる体験を味わう。必要な木材の量と予算との検討が必要となり、計画的に考えなければ目的を達成できないし、大きな木材が驚くほど安い価格で競り落とせることも体験する。日本の木材産業の実情に触れることにもなる。そうして手に入れた木材で製品を設計し製作する活動を通して、デザイン力や木工技術を修得し、共同でものごとをなし遂げる体験を積むことになる。こうした取り組みを通じて、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

### 《テーマ》

1. 知識、体感力の涵養
  - ・森林資源の働き、森林と人々のつながりを知る。
  - ・森林資源を保全することの大切さを理解する。
  - ・河内林業の歴史と、現状を理解する。
  - ・河内林業の川上から川下までを体験し、おおさか河内材の流通を知る。
2. 技能の習得
  - ・河内林業の川上から川下の体験を通し、木材を加工する技術を身につける。
  - ・おおさか河内材の木工加工に必要な工具に対する基本的な技能を身につける。
3. 思考力、判断力、問題解決能力を養う
  - ・体験を通して、森林資源の働きについて考える。
  - ・森林資源を守り育てる人々の工夫や努力を思考する。
  - ・河内林業の従事する方々と接することで、その場における判断力を養う。
  - ・木工加工を通して、問題を解決するための能力を養う。
4. 表現力、共感力、チームビルディング力を身につける
  - ・森林資源の働きや森林資源を守る大切さや必要性について、チーム内で議論共有し表現する。
  - ・体験に主体的に取り組む態度、チームメンバーの特性を理解しながら物事をなし遂げていく。

### 《内容》

1) 森の恩恵

水源林、滝畑ダム、岩湧の森を訪れ、森の多面的機能を体感する。

- ・ 滝畑エリアの水源林と水源を視察し、滝畑ダムの役割と森林保全の関係を知る。
- ・ 岩湧の森を訪れ、四季彩館で森に住む動植物の多様性を知る。
- ・ 鎮守の森として地域に守られる森で森ヨガを体験し、効果を体験する。

2) 河内林業の川上から川下までを体験する。

人工林、競り市、製材所を訪れ、河内林業に携わる人たちから直接学ぶ。

- ・ 実際に人工林に入り、林業家からの指導を受け、間伐体験を行う。
- ・ 間伐された木がどのように競り市で値段を決めるかを体験する。
- ・ 競り市でおとされた木が製材になる様子を製材所で体感する。

3) おおさか河内材で木工製品をつくる

二人一組ないしはチームで、おおさか河内材を使って木工製品を完成させる。

- ・ 設計と必要な製材を割り出し、製材をオーダーする。
- ・ 割り出した製材を加工する。
- ・ 仕上げと完成品のプレゼンテーション



⑦ 地域活動体験（小山田小学校区まちづくり会）

《目的と達成目標》

小山田小学校区の自然環境や社会資源を知り、住民と交流することを通して、地域の実像を具体的に知り、その魅力や課題、地域活性化の方策を探り、住民と共に活性化のための活動を共に行うことを目指す。これらの活動を通して、連携しながらものごとを進めるチームワークの技量を高め、コミュニケーション力の醸成を図ると共に、目ざす教育像を醸成する。

- 1) 地域を知る
- 2) 地域の人々と交流する
- 3) 地域の課題を共に探る
- 4) 地域活性化の方策を考える
- 5) 方策を実行する

《テーマ》

1. 小山田小学校区まちづくり会の人々との交流を図り、自然や社会資源を知り、幅広い知識や情報を身につける。
2. 小山田小学校区の実情を理解し、地域の人々と共に地域の課題をさぐり、活性化の方策を検討する。
3. 地域を活性化するために必要なこと、配慮すべきことなどを理解し、町の人々と協力して活性化のプランを策定する。
4. まちの人々と協力して、活性化のプランを実行する。

《内容》

1. 「小山田小学校区街まちづくり会」の会員の方々と交流する。
2. 地域を詳しく知るために、地域の施設や周辺環境を訪問調査する。
  - ①あやたホール（地域公民館）
    - ・社会教育施設を訪ね、内容を知る（生涯教育の一例、現状を知る）
    - ・施設概要の見学、主催事業や講座種類を知る、人権について学ぶ
  - ②学校給食センター
    - ・清潔・安全に努めて児童・生徒に届ける給食ができるまでを知る
    - ・値段と栄養バランスの努力を知る
  - ③寺が池公園管理事務所
    - ・小山田小学校区の特徴、人口分布や住宅街の形成過程、課題を知る
    - ・住民の生活の工夫を知る、自然災害の対策を考える

④寺が池

- ・「寺が池」の造成と先人の工夫や苦勞、現在の人々への貢献を学ぶ
- ・児童の教材となっていることを知る

⑤障がい者作業施設「聖徳園」

- ・施設の間取りや作業施設を知る
- ・施設職員と作業員との関係を知る

3. 街づくり会の会員と交流し、地域の課題や住民の要望などを探り、活性化の方策を考える。
4. 学生が参加して地域活性化に成功した南花台地区を訪問し、関わった人々からまちづくりについて聞き取りを行い、活動の方向や方法などを検討する。
5. 活性化のプランをまちの人々と協力して実行する。

## ⑧ 地域活動体験（森林ボランティアトモロス）

### 《目的と達成目標》

持続的に森林を良い環境で保全することが人類にとって非常に大切なことを理解して、学校で次世代にしっかり教育出来る技術を習得する。また、良い森林環境を持続するためには、手入れの継続が大切なことを自らが理論と実習でしっかり身につけて、体験に基づいた生きた教育が出来る知識、技術を習得する。

森林や自然環境を守り育てる活動を体験し、その大切さを理解すると同時に、ボランティア活動に必要とされる次のような要素を身につける。

- ①他人から強制されるものではなく、自由意志で行う「自主性（主体性）」
- ②誰もがいきいきと暮らしていけるように、お互いを支えあう「社会性」
- ③人との出会いによって、お金では得られない発見や感動、喜びを得る「無償性」
- ④社会に必要とされる姿を常に考え、先んじて創る「先駆性」

### 《テーマ》

- ①林業、森林保全の現状と、森林ボランティアの必要性と取り組みを学ぶ。
- ②森林の仕組みと機能、森林を取り巻く自然環境、生物多様性について学ぶ。
- ③森林の育成と保全（人工林・里山林）について学び、その技術と安全について体験学習する。
- ④森林に関わるSDGsと学校教育における森林ESDの推進についての理解と小学校森林教育体験。
- ⑤現在社会におけるボランティア活動（テーマ型）の概要と理解。

### 《内容》

- ① 森林の仕組みと働きについて  
森林における菌類か植物、上位動物に至る食物連鎖、生物の多様性、CO2、酸素の循環、水の循環、森林の土壌、などに関わる森林のしくみと働きについて学び、森の大切さを教える資質を備える。
- ② 現代社会におけるボランティア活動とその必要性  
林業の低迷、里山林の活用がなくなったことから来る放置森林の増加と森林ボランティアの発生について理解する。  
経済（営利目的）の活動、行政に関わる活動のほかに、非営利活動、ボランティア活動もこれらを補完する社会活動の要素となっていることを理解する。
- ③ SDGsと森林ESD、森林教育について

SDGs 推進に大きくかかわる森林について学ぶ。よい森林環境を持続させるために、学校における森林教育の大切さと新しい森林 ESD について理解する。

実際の小学生に対する森林 ESD の実践体験を行う。

④ 作業の安全研修

森林作業の実習に備えて危険回避と安全に対する対応方法を学ぶ。

⑤ 人工林（スギ、ヒノキ）見学実習と作業実習

校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。

⑥ 里山林、雑木林の見学と作業実習

校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。

⑦ 竹林整備の作業実習

校内林または上原環境緑地での里山林の施業実習。

⑨ 文化活動体験（文化会館ラブリーホール）

《目的と達成目標》

地域における文化芸術発信の拠点となる文化会館の在り方、また文化振興事業及び生涯学習事業を通して市民相互交流の促進を図り、市の文化振興計画の基本理念である「市民が文化を身近に感じ、いきいきと心豊かに暮らすまち」をどのように形成していくかを考える。

また日々の維持管理などにも目を向け、ホール管理業務にも参加しながら、安全面や利便性など利用者にとっての快適な環境づくりとは何かを考え、実現できるようスタッフと協力して目指す。

《テーマ》

1. 接客業務

ホール来館者または利用者に対する接客業務を通じて、社会に出てから必要となる言葉や知識を身につける。

2. 事業運営補助業務

主催事業の事前準備や当日の接客業務から撤去作業までを行い、ホールを気持ちよく利用してもらおうおもてなしの心を学ぶ。

3. イルミネーション事業の企画及び制作業務

河内長野市の冬の風物詩となったクリスマスイベントのイルミネーション企画と制作に参画し、地域活性化につながる事業の在り方を学ぶ。

《内容》

1. 接客業務

接客業務では、ホール来場者への座席案内やチケットの窓口受付など入場に対する接客サービスを中心に業務を行う。

2. 事業運営の補助業務

事業を実施していく中で必要なこととして、ホールで実施されるオペラやコンサート、映画鑑賞会等はじめ市民のための文化・芸術の催しにかかる本番舞台の準備、出演者控室の準備、客席やロビー受付の準備からお客様が帰られた後の撤去作業など数多くの業務がある。それら作業を通して、働くスタッフとのコミュニケーションの大切さについても学びながら取り組む。

3. イルミネーション事業の企画及び制作業務

12月から一ヶ月間点灯するクリスマスイルミネーションの企画段階から参加し、地域で喜ばれる事業の在り方を考え、地域活性化につながる事業展開に取り組む。

イルミネーション点灯最終日にはクリスマスコンサートも開催される地域の大切なイベントである。また事業開催に必要となる経費の寄附金依頼など地域ネットワークの大切さを学び、人のつながりを生む、地域が輝く事業展開を目指して取り組む。

## ⑩ 馬術体験（クレイン）

### 《目的と達成目標》

乗馬クラブクレインは、経済的・物質的な価値だけでなく、人間としての真の貴さに価値を置き、人の心に満足を与えるものが何であるかを伝え、理想とする目標に対し、可能性を信じ、挫折することなく自らの世界を切り開く努力をすること、また自己本位の満足だけでなく、他の人々、全ての生物をも自己と同じように考えられる心を持つことをモットーとされている。このことは教育者を目指す者の心のあり方にも相通じる。

このような考えのもと、連携プログラムは、馬の世話、厩舎の清掃などの作業から乗馬が可能になるまで30時間のプログラムになっている。馬のような大型動物との触れ合いは、ホースセラピーなどで知られるように、高い教育効果を持ち、子どもたちの生命観に大きな影響を与えて、生命の大切さを強く実感すると報告されている。しかも馬のような大型哺乳動物では、動物の気持ちに寄り添って初めて適切な飼育が可能になり、そうしなければ危険を伴うことにもなる。その一方で、馬の気持ちに寄り添って関わることができれば、まるで心の交流のような素晴らしい体験ができる。

こうして馬術に関する知識・技能を習得すると同時に、馬という動物との触れ合いを通じて、その体験的な学びを得ながら、非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

### 《テーマ》

- ①人と馬との関わりの歴史を学び、馬という動物が持つ能力を、馬に実際に触れ、世話をすることによる体験で学んでいく。
  - ②健康スポーツとしての乗馬や競技スポーツとしての馬術などを動画で学び、ここでは「主役は馬」であることをテーマにした動物学を学ぶ。
  - ③ポニー等を相手にした実習を通じて心の通い合いを学ぶ。
- 以上を基に、教育者を目指す学生が、生きた教材を通じて「心の通い」を学ぶ。

### 《内容》

- ①馬について、人と馬との関わりの歴史を学ぶ。
  - ・馬の起源、人類とのかかわりの歴史
  - ・現代の馬の役割、乗馬と他のスポーツとの違いなど
- ②馬という動物の特徴を学ぶ。
  - ・馬という動物がもつ能力

- ・人が馬に接する際の諸注意
- ③馬に実際に触って学ぶ。
  - ・馬の身体構造、五感、馬のパワーなど
  - ・これから馬に接する際の諸注意
- ④馬の世話を通じて学ぶ。
  - ・馬の1日を学ぶ
  - ・馬のグルーミング体験
- ⑤現在の馬の役割について学ぶ。
  - ・健康スポーツとしての乗馬
  - ・競技スポーツとしての馬術など
- ⑥馬具の理解と実際の装着。
  - ・鞍と頭絡の説明・理解
  - ・馬具の装着、常歩での騎乗、騎乗後の馬と道具の手入れ
- ⑦ポニーを使用した実習。
  - ・ポニー飼育上の諸注意
  - ・ポニーの世話、馬具の装着、ポニーを運動させる
- ⑧総仕上げとしての騎乗と調馬策
  - ・調馬策での騎乗練習
  - ・調馬策で馬を走らせる



## ⑪ レザークラフト体験（工房テハマナ）

### 《目的と達成目標》

河内長野でヌメ革を使用した革製品を制作する工房において、マイスターの指導のもと、スタッフとの協業を通じて、製品づくりの工程を経験し、品質管理や販売、商品として消費者に届ける一連の過程を学ぶ。

- ・革細工の世界に触れて、工芸の意味や意義を理解する。
- ・職人の世界に身を置き、高い専門性や製品の完成度に対する責任感や誇りといった仕事への姿勢に触れ、また協業を通じたやり取りの中でコミュニケーション力を養う。
- ・地域に根つき地域の良さを活かした製品をつくる工房において、地域の魅力や特徴を知る。

こうした体験的な学びを通じ、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

### 《テーマ》

- ・革細工工房における製品づくりに関する知識・技能の習得
- ・工芸の意味・意義に関する理解
- ・表現力、創意工夫を経験し、身につける
- ・職人の世界に触れ、仕事への姿勢を理解する
- ・スタッフとの協業を通じたコミュニケーション力を身につける
- ・地域の魅力や特徴を知る

### 《内容》

- 1) 工芸の意味と職人の世界を理解する
- 2) 皮革の歴史、皮と革、革の種類を理解する
- 3) 道具の種類と特徴：簡単な製品をつくる
- 4) 基本テクニック：少し高度な技能を学び修得する
- 5) モノづくりの楽しさ：自分でデザインし、技能に基づく創意工夫の喜びを知る
- 6) 地域を知る：工房をとりまく地域の関係先、関係者とのインターフェイス

## ⑫ 果樹栽培体験（山口果樹園）

### 《目的と達成目標》

児童・生徒たちを、幸せな社会づくりに貢献できる人間として成長させることが、学校教育の大切な使命の一つである。食育は、そうした使命を達成するために最も重要な学びである。農の営みを通して食育の大切さを学生たちに実感させることを目指す。

果樹園では、柿の栽培を行う。柿の栽培過程を体験することを通じて、果樹栽培の楽しさと難しさを体験し、教育における栽培活動に対する知識・技能を獲得する。

1. 農業の実際に触れ、その基礎的知識と技能を学ぶ。
2. 季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。

こうして農業に関する知識・技能を習得すると同時に、農作業を含むあらゆる体験的な学びを得ながら、また幅広い年代の多様な人々との交流を通じて、コミュニケーション力や非認知的能力を育む。これにより、教師として必要な資質・能力を育むことを達成目標とする。

### 《テーマ》

農業の実際に触れ、その基礎的知識・技能を学ぶと同時に、季節ごと、品種ごとの対応の違い、計画の重要性を知る。また、農業体験を児童・生徒への教育に敷衍し、より深い学びへとつなげていく。

果物（柿）の育成を通じて同じ果物でも品種により育て方が異なり栽培方法を間違えると大変なることを学ぶ。教育において、児童・生徒の特性を知ったうえで指導することの大切さに通ずる。同じ人間でも生まれながらそれぞれの特性がある。そのことを認知した指導の大切さを学ぶ。

果物（柿）を商品として出荷するまでの過程、消費者に安全で価値ある商品として提供するまでの過程を学ぶ。

以上を通じて、マイスターとのコミュニケーション力を養いながら体験に臨む。

### 《内容》

植え付け、施肥、剪定、摘蕾・摘果など一連の果樹栽培過程を経験する。

剪定は果樹栽培で最も重要かつ経験が必要で、プロの栽培においても答えが出ない難しい作業であり、それゆえに奥深く面白い作業となる。

収穫した果物（柿）は、ジュースやジャムなどの加工製品としても流通する。加工にまつわる工程やマーケティングの側面を理解していく。

マイスターに学び、創意工夫と果樹栽培に関する知識・技能の重要性を体感する。  
肥料が多すぎないか、木が若すぎないか、日照不足や干ばつへの対応、病害虫駆除など栽培上の注意事項にも配慮する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(資料5)

新	旧
<p><b>【資料 5】「高野山大学特任マイスター」 制度および規程について</b></p> <p style="text-align: right;">(削除)</p> <p style="text-align: center;">高野山大学教育学科設置準備室</p> <p>高野山大学は、小学校および幼稚園の教員養成を目指す教育学科を、大阪千代田短期大学キャンパス内に設置する計画（<u>2021</u>年予定）を進めています。そこでは、教育現場で本当に活躍できる資質能力を育成するために、教育委員会や地域の様々な団体、施設、個人と連携して、多様な体験学習プログラムを用意する予定です。</p> <p>地域には、様々な分野で活動してこられた優秀な人材がたくさんおられます。こうした方々の知識や技能、経験の蓄積を学生たちのためにぜひ活用していただくため、「高野山大学特任マイスター」制度を設置することにいたしました。</p> <p>1. 「高野山大学特任マイスター」（以下マイスターと略称する）とは</p> <p>高野山大学が地域の方々の能力を認定し、能力に対応した学習プログラムにおいて、大学教員とともに学生たちの教育活動に寄与していただくTA（ティーチングアシスタント、教育助手）制度の一種。支援活動には一定額の手当を支給します。</p> <p>2. 「高野山大学特任マイスター」の認定</p> <p>マイスター認定は、以下のいずれかによります。</p> <p>(1) 募集に応募して大学の審査を受ける</p>	<p><b>【資料 5】「高野山大学特任マイスター」 制度について</b></p> <p style="text-align: right;"><u>2018.10.1</u></p> <p style="text-align: center;">高野山大学新学科設置準備室</p> <p>高野山大学は、小学校および幼稚園の教員養成を目指す教育学科を、大阪千代田短期大学キャンパス内に設置する計画（<u>2020</u>年予定）を進めています。そこでは、教育現場で本当に活躍できる資質能力を育成するために、教育委員会や地域の様々な団体、施設、個人と連携して、多様な体験学習プログラムを用意する予定です。</p> <p>地域には、様々な分野で活動してこられた優秀な人材がたくさんおられます。こうした方々の知識や技能、経験の蓄積を学生たちのためにぜひ活用していただくため、「高野山大学特任マイスター」制度を設置することにいたしました。</p> <p>1 「高野山大学特任マイスター」（以下マイスターと略称する）とは</p> <p>高野山大学が地域の方々の能力を認定し、能力に対応した学習プログラムにおいて、大学教員とともに学生たちの教育活動に寄与していただくTA（ティーチングアシスタント、教育助手）制度の一種。支援活動には一定額の手当を支給します。</p> <p>2. 「高野山大学特任マイスター」の認定</p> <p>マイスター認定は、以下のいずれかによります。</p> <p>(1) 募集に応募して大学の審査を受ける</p>

<p>(2) 河内長野市教育委員会の推薦による</p> <p>(3) 連携機関からの推薦による</p> <p>(4) その他</p> <p>3. 認定審査</p> <p>上記いずれの場合も以下の文書を提出していただき、<u>面接の上</u>で認定されます。</p> <p>(1) 履歴書</p> <p>(2) これまでの活動概略を記した文書</p> <p>(3) マイスターとしての抱負</p> <p>4. 活動内容</p> <p>(1) 教育学科の学習プログラムに関わり、活動支援を行う。</p> <p>(2) 学習プログラムの企画、改善等について教職員と検討する</p> <p>5. 手当</p> <p>高野山大学の非常勤教員の規定に準拠する。</p> <p><u>高野山大学特任マイスター規程</u></p> <p><u>高野山大学教育学科設置準備室</u></p> <p>(設置)</p> <p>第1条 <u>高野山大学文学部教育学科に高野山大学特任マイスター(以下、特任マイスターとする)制度を設置する。</u></p> <p>(目的)</p> <p>第2条 <u>地域人材の活用及び熟練者に対する社会的評価を高めるとともに、学校や事業所等で技能の普及振興の</u></p>	<p>(2) 河内長野市教育委員会の推薦による</p> <p>(3) 連携機関からの推薦による</p> <p>(4) その他</p> <p>3. 認定審査</p> <p>上記いずれの場合も以下の文書を提出していただき、<u>面接の上</u>で認定されます。</p> <p>(1) 履歴書</p> <p>(2) これまでの活動概略を記した文書</p> <p>(3) マイスターとしての抱負</p> <p>4. 活動内容</p> <p>(1) 教育学科の学習プログラムに関わり、活動支援を行う。</p> <p>(2) 学習プログラムの企画、改善等について教職員と検討する</p> <p>5. 手当</p> <p>高野山大学の非常勤教員の規定に準拠する。</p> <p><u>(追加)</u></p>
--	---

ための活動を行っていただくこと  
で、技能が尊重される社会の実現と  
質の高い後継者の育成を目指す。

(構成)

第3条 特任マイスター認定は、1年間10  
名～20名までとする。

(認定基準)

第4条 次の基準を満たす者。

- ・河内長野市教育委員会の推薦  
があること、または、連携協定  
を締結している諸団体の推薦  
があること
- ・当該職種において15年以上の  
実務経験があること
- ・教育者としての見識と自覚な  
らびに学生の教育・指導に対す  
る意欲を有し、本学教職員との  
協働による活動が見込まれる  
こと

(認定手続)

第5条 次の書類を提出し、面接を受けるこ  
と。

履歴書

活動概略を示した文書

特任マイスターとしての抱負

(認定)

第6条 認定基準、認定手続に従い、教育学  
科教授会を経て、学長が決定する。

(任期および契約)

第7条 認定された特任マイスターの任期  
は2年とし、契約は学校法人高野山

学園との間で単年度ごとに締結する。

- 2 特任マイスターは再任を妨げない。なお、マイスターの任期中の退任については、当該マイスターの残任期間とする。

(職務)

第8条 特任マイスターは、教育学科長の求めに応じ、同教育課程のうち、「学校・保育現場体験」及び「地域体験」のTA指導者として、学習プログラムの企画・改善、学生への指導およびアドバイスをを行う。

- 2 特任マイスターの中で職歴や経験によっては、本学教職支援センターや地域支援センターにおける指導およびアドバイスについても業務を委嘱することがある。

(附則)

この規程は、令和3年(2021)4月より適用する。

地域体験受け入れ団体と高野山大学文学部  
教育学科との申し合わせ事項

(目的)

第1条 この申し合わせ事項は、高野山大学における授業科目「地域体験」の企画、運営、支援について、高野山大学と各団体双方が協力して、学生が地域の活動やイベントへの積極的な参加を促し、地域住民との触れ合いの中でコミュニケーション力や

地域の課題等を体験し、教員としての非認知的能力を養うことを目的とする。

(役割)

第2条 各団体と高野山大学の役割については以下のとおりとする。

活動の企画立案

活動の運営

活動を実施する学生へのサポート

(契約)

第3条 各団体と高野山大学は以下の事項について、契約書を締結する。

個人情報の管理について

活動内容について

費用について

保険加入について

ただし、マイスター個人とは別途契約する。

(活動の評価)

第4条 学生の活動評価については、連携団体先の評価を踏まえて、授業科目担当者が評価する。

(その他)

第5条 この申し合わせ事項に定めるもののほか、必要な事項は、双方協議の上、運用する。

(附則)

この申し合わせ事項は、令和3年(2021)4月より適用する。



高野山大学「教育実習」「保育実習」及び実習関連活動一覧

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回生	学校・保育現場体験Ⅰ(火)	説明会・事前指導		←									事後指導
	地域体験Ⅰ(木)	説明会・事前指導		←			事前・事後指導	←					事後指導
	地域体験Ⅱ(木)	説明会・事前指導		←			事前・事後指導	←					事後指導
2回生	学校・保育現場体験Ⅱ(火)	説明会・事前指導		←									事後指導
	地域体験Ⅲ(木)	説明会・事前指導		←			事前・事後指導	←					事後指導
	地域体験Ⅳ(木)	説明会・事前指導		←			事前・事後指導	←					事後指導
	介護等体験(7日間通年)												
3回生	保育実習指導Ⅰ(保育所)	←				→							→
	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	←				→				←			→
	保育実習Ⅰ(保育所)						A ↔	↔ B				A ↔	↔ B
	保育実習Ⅰ(福祉施設)					A ↔	↔ B						
	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	←				→				←			→
	教育実習Ⅰ(小)						↔						
	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	←				→				←			→
	教育実習Ⅱ(幼1)							↔					
	学校・保育現場ボランティア	説明会・事前指導		←									事後指導
地域体験ボランティア	説明会・事前指導		←									事後指導	
4回生	保育実習指導Ⅱ	←	→	←		→						→	
	保育実習指導Ⅲ	←	→	←	→					←	→		
	保育実習Ⅱ						A ↔	↔ B				A ↔	↔ B
	保育実習Ⅲ					A ↔	↔ B						
	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	←	→	←	→					←			→
	教育実習Ⅲ(幼2)		↔										

※1: 保育実習ⅠのB日程は、A日程で人数がオーバーした場合に実施

## 設置の趣旨等を記載した書類

(新) 48 頁

## X 実習関係全体の具体的計画

## 1. 教育実習の考え方

多くの大学では、教育実習にあたっては、事前学習、事後学習と教育現場での4週間程度の実習を行うが、実習中の指導については、現場の指導者の指導に従い、実習中に2度の巡回指導時に、学生の活動内容や課題について把握し個別の指導を行う。実習担当教員は、実習期間中に現場訪問を実施し、研究授業への参加および実習後の反省会で学生に助言・指導を行う。4週間の実習体験の教育効果は大きく、学生の教職への意欲が高まることが多い。しかしその一方で、大学での教育学的学びと教育現場での実践的学びが組み合わさることは少なく、学生にとってはそれぞれが別個の学びとして並行的におさめられる。したがって時として、実習は素晴らしかったが、大学での学習はあまり役立たなかった、などという振り返りがなされることがある。従来型の実習では、両者を結合した質の高い実習にはなりがたいと思われる。

こうしたことを克服するため、下図のように、(イ)1年次から学校・保育の現場体験、地域体験を積み重ねてから本実習に参加する、(ロ)1年次・2年次の大学の講義での理論的知識を基にした教育課題を明確にして3年次からの実習に参加する方式をとる。

本学の教育実習は、1年次・2年次の「学校・保育現場体験Ⅰ」「学校・保育現場体験Ⅱ」

「地域体験Ⅰ」「地域体験Ⅱ」「地域体験Ⅲ」「地域体験Ⅳ」の現場体験を積み重ねるとともに、

大学での理論的知識を活かして、実習前に学生が課題を持って参加することになる。

●**実習形式** 教育実習をより本格的で質の高いものとするため、以下のような形式を採用する。

- ① 大学での学びと現場での実践的学びを結合するため、課題意識をもって実習に参加する。
- ② 実習途中に大学に戻り、実習担当教員とともに振り返りを行い、新たな課題をもって現場に戻る。

- ③ 実習参加以前の 1年次、2年次にも、教育現場や地域体験をふんだんに積み重ねておき、現場の状況や子どもたちの様子、課題などについて一定の理解を深めてから3年次からの本実習に参加する。
- ④ 小学校教諭免許状取得のためには、「教育実習Ⅰ(小)」(4単位)は4週間の実習を行い、幼稚園教諭免許状取得のためには、「教育実習Ⅱ(幼1)」(2単位)は2週間、「教育実習Ⅲ(幼2)」(2単位)は2週間の実習を行う。

## 2. 初等教育領域における実習

### ア. 実習条件 「教育実習Ⅰ(小)」

2年次終了までに下記の科目を修得済みであること。

#### 【教育の基礎的理解に関する科目等】

・教職入門	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育原理	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育心理学	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・特別支援教育	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・教育相談	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・生徒指導論	(2単位)	2年次後期開講	必修科目
・教育と社会	(2単位)	2年次後期開講	必修科目

#### 【教科及び教科の指導法に関する科目】

・国語科内容論	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・社会科内容論	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・算数科内容論	(2単位)	2年次後期開設	必修科目
・理科内容論	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・音楽科内容論	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・家庭科内容論	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・体育科内容論	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・初等英語科内容論	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・国語科指導法	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・社会科指導法	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・理科指導法	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・音楽科指導法	(2単位)	2年次前期開講	必修科目
・家庭科指導法	(2単位)	2年次後期開設	必修科目

「教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

### イ. 事前・事後の指導計画 「教育実習Ⅰ(小)」

事前指導は、「教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)」の授業科目の中で、10時間程度実施する。また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・教育実習の意義
- ・教育実習の内容
- ・教育実習生の立場と心得
- ・教科指導の指導法
- ・教科外指導の指導法
- ・学校及び学級(HR)運営についての学習
- ・学習指導案の作成と研究授業
- ・現場教員によるガイダンス

事後指導は、「教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)」の授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・学習指導案及び教育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習担当教員による教育実習の批判及び指導
- ・実習生による反省会・批判会への参加

### ウ. 実習内容について

- ・校内見学と実習内容に関する説明
- ・授業参観
- ・学校教育の実際に関する説明
- ・学習指導案の作成
- ・教壇実習(できるだけ機会を多くもたせる)
- ・特別教育活動への参加(できるだけ多く参加させる)
- ・生徒指導、教育相談等への参加
- ・実習研究授業(特定日の教壇実習をもってこれにあてる)

- ・実習研究座談会(最終日の午後に行う)
- ・指導方法について

## エ. 巡回指導の実施体制

- ・実習担当教員が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。
  - 1回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに学校長等の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
  - 2回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が実習期間中にできるだけ訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど実習担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
- ・特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反映する。
- ・巡回指導は、実習担当教員が主となって行うが、講義等との重複でやむを得ない場合は、教職支援センター専任事務員と特任マイスターが巡回する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

## オ. 教員の負担について

- ・教育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

(別紙)

## カ. 成績評価基準について

- ・実習校の「教育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の教育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習評価、レポート、指導案をもとにして、実習の報告、指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

## キ. 介護等体験について 「教育実習Ⅰ(小)」

2年次中に、義務教育に従事する者が、障害者や高齢者に対する介護や交流を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期することを目的として特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の介護等実習を行う。

実習に先立って、教職支援センター教職員と実習担当教員を中心に事前指導を行い、終了後は事後指導において、問題点や課題、実習の成果などを共有する。

### 3. 幼児教育領域における実習

#### ア. 実習条件

「教育実習Ⅱ(幼1)」(3年次)

2年次終了までに下記の科目の単位を修得済みであること。

##### 【教育の基礎的理解に関する科目等】

・教職入門	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育原理	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育心理学	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・特別支援教育	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・幼児理解方法論	(2単位)	2年次後期開設	必修科目
・教育相談	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・教育と社会	(2単位)	2年次後期開講	必修科目

##### 【領域及び保育内容の指導法に関する科目】

・幼児と健康	(2単位)	1年次前期開設	必修科目
・幼児と人間関係	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・幼児と環境	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・幼児と言葉	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・幼児と表現	(2単位)	2年次前期開設	必修科目

「教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)」の授業参加状況が悪い場合(4回以上の欠席)は、実習参加を認めない。

「教育実習Ⅲ(幼2)」(4年次)

① 教育実習Ⅰ(小)もしくは教育実習Ⅱ(幼1)の単位を取得していること。

② 年次終了までに開講されている「教育の基礎的理解に関する科目等」、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」を全て修得済であること。

③教育実習の研究Ⅲ（幼2・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

#### イ. 事前・事後の指導計画 「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

事前指導は、「教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)」 「教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)」の各授業科目の中で、10時間程度実施する。また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・教育実習の意義
- ・教育実習の内容
- ・教育実習生の立場と心得
- ・保育の指導法
- ・保育室運営についての学習
- ・指導案の作成と研究保育
- ・現場教員によるガイダンス

事後指導は、「教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)」 「教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)」の各授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習担当教員による教育実習の批判及び指導
- ・実習生による反省会・批判会への参加

#### ウ. 実習内容について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・園内見学と実習内容に関する説明
- ・保育参観
- ・保育の実際に関する説明
- ・指導案の作成
- ・保育実習
- ・園内活動への参加
- ・園児指導、教育相談等への参加
- ・実習研究授業(特定日の保育実習をもってこれにあてる)

- ・実習研究座談会(最終日の午後に行う)
- ・指導方法について

#### エ. 巡回指導の実施体制「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・実習担当教員が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。  
1回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに学校長等の要望等を把握し、  
センター会議において取りまとめを行う。  
2回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が実習期間中にできるだけ訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど実習担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。
- ・特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反映する。
- ・巡回指導は、実習担当教員が主となって行うが、講義等との重複でやむを得ない場合は、教職支援センター専任事務員と特任マイスターが巡回する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

#### オ. 教員の負担について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・教育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

#### カ. 成績評価基準について「教育実習Ⅱ(幼1)」 「教育実習Ⅲ(幼2)」

- ・実習校の「教育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の教育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習評価、レポート、指導案をもとにして、実習の報告、指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

## 4. 保育実習関係

【保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅰ(福祉施設)】

### ア. 事前・事後の指導計画について

事前指導は、「保育実習指導Ⅰ(保育所)」及び「保育実習指導Ⅰ(福祉施設)」の授業科目の中で、10時間程度実施する。



また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導等
- ・実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
- ・実習記録の書き方 ①目的とねらいを理解する、②子どもの動きと保育者の動き
- ・保育計画指導案の立て方 ①ねらいをもった指導案作成について
- ・実習に関わる演習 ①ソーシャルスキルに関わる演習、②手遊び、③絵本の読み聞かせ
- ・実習直前の指導(マナー、一日の流れ等)

事後指導は、「保育実習指導 I (保育所)」「保育実習指導 I (福祉施設)」の授業科目の中で、5 時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習報告会の実施 今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

#### イ. 実習内容について

- ・保育所の役割と機能、施設の役割と機能
- ・子どもの理解
- ・保育内容・保育環境、施設における子どもの生活と環境
- ・保育の計画・観察・記録、
- ・専門職としての保育士の役割と職業倫理

#### ウ. 巡回指導の実施体制について

- ・実習担当者が、実習期間中少なくとも 2 回の巡回指導を行う。
  - 1 回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに園長・施設長の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
  - 2 回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。

特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反省する。

- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

#### エ. 教員の負担について

- ・保育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

#### オ. 成績評価基準について

- ・実習校の「保育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の保育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、実習日誌、実習の報告をもとにして指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

#### 【保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ】

#### ア. 事前・事後の指導計画について

事前指導は、「保育実習指導Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅲ」の授業科目の中で、10時間程度実施する。

また、感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことのない学生には、予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付けている。

事前指導の内容については、以下のとおり。

- ・実習目的の理解、実習目的を基にした実習手続きと実習カードの指導等
- ・実習先の制度等の理解、実習目的に基づく自己課題を明確にする
- ・実習記録の書き方 ①多角的に見る実習とその記録
- ・保育計画指導案の立て方 ①応用的な計画(保育案)の立案
- ・保育計画案の実施と改善ポイント
- ・子育て支援、地域支援の目的について
- ・実習直前の指導(まとめ)

事後指導は、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」の授業科目の中で、5時間程度実施する。

事後指導の内容については、以下のとおり。

- ・保育計画指導案及び保育実習日誌の提出・反省会
- ・実習レポートの提出・反省会
- ・実習報告会の実施 今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

#### イ. 実習内容について

- ・保育所や福祉施設等の役割や機能の具体的展開
- ・観察に基づく保育の理解
- ・施設における支援の実際(福祉施設)
- ・子どもの保育及び保育所・家庭への支援と地域社会等との連携
- ・指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
- ・保育士の業務と職業倫理
- ・自己の課題の明確化

#### ウ. 巡回指導の実施体制について

- ・実習担当者が、実習期間中少なくとも2回の巡回指導を行う。
  - 1回目の巡回で実習生の指導と実習受け入れ担当者ならびに園長・施設長の要望等を把握し、センター会議において取りまとめを行う。
  - 2回目の巡回では、取りまとめの結果をふまえた指導を行う。
- ・実習中は、高野山大学特任マイスターに採用された退職学校教員が訪問し、実習日誌の指導や実習に関連する悩みなど担任教員に協力して実習が円滑に進むように支援する。

特任マイスターは、実習中の問題点や気づいたことなどを教職支援センターに報告し、教職支援センターは、特任マイスターからの報告を管理し、センター会議に反省する。
- ・実習先は河内長野市、南河内地域市町村や和歌山県紀北地域など近畿の府県とするが、遠隔地の実習となる場合は、実習先と電話やメールなどで直接連絡をとり、学生の実習の様子と、実習先からの要望等を把握することとする。

#### エ. 教員の負担について

- ・保育実習担当者に負担のないように、週1日の研究日を確保するように時間割上配慮している。もう一日は、実習関係の授業科目一科目のみが配置されている。

#### オ. 成績評価基準について

- ・実習校の「保育実習成績報告表」、実習生のレポート及び実習日誌・指導案等の資料により、本学の保育実習担当教員が評価する。
- ・実習後は、実習担当教員と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、実習日誌、実習の報告をもとにして指導を行う。また、実習生による実習報告会を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。

## 5. 教育実習先の確保について

小学校、幼稚園、については、河内長野市と連携協定を結び、河内長野市内の実習先を確保すると共に、富田林市や大阪狭山市、堺市など近隣教育委員会に協力を仰ぐことで了解を得ており、実習生受け入れについて、河内長野市 13 小学校、富田林市 16 小学校を中心に、和泉市、橋本市、大阪狭山市、千早赤坂村、堺市教育委員会等から承諾をいただいている。幼稚園や施設等についても十分に確保ができています。

また、介護等体験についても、大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会、和歌山県社会福祉協議会に受け入れの了解をいただき、受け入れが可能になっている。

以上の受け入れ先のリストおよび承諾書については資料として添付した（資料 12 「教育・保育実習先の一覧」）。

実習先へは、教育実習計画書等を提出し、実習内容、指導計画を明確にした上で実習を依頼する。その際に、実習指導者の複数配置を依頼、調整を図ることとする。

実習開始にあたっては、個人情報保護、事故防止等に関する事前指導を綿密に行い、これらに関する誓約書を提出させる。また、実習先とは事前に実習委託契約、実習内諾書を取り交わしていく。

## 6. 教育実習先との連携体制

河内長野市や富田林市教育委員会、近隣市町村教育委員会と全面的な協力体制を組むことによって、地域の小学校、幼稚園、保育園、社会福祉施設との密接な連携を図る。

すでに河内長野市教育委員会とは、合同チームを設置（前述 p.23）し、学校現場体験や教育実習についての意見交換や実習期間中の指導体制を含めた協議が進んでおり、教育学科設置後も継続的に検討・協議を続けることで合意している。

実習先とは、教職支援センターを通して、常時協力体制を構築し、実習が円滑に行われるように学生・実習先双方に働きかける。教育学科のカリキュラムにおいては、講義における教育・保育理論の学びと、実習における実践的学びとの二つを相互に還流するサイクルを工夫して、教育実践力を養うように意図している。なお、高野山大学特任マイスターにも、実習支援をしていただく予定にしている。

## 設置の趣旨等を記載した書類

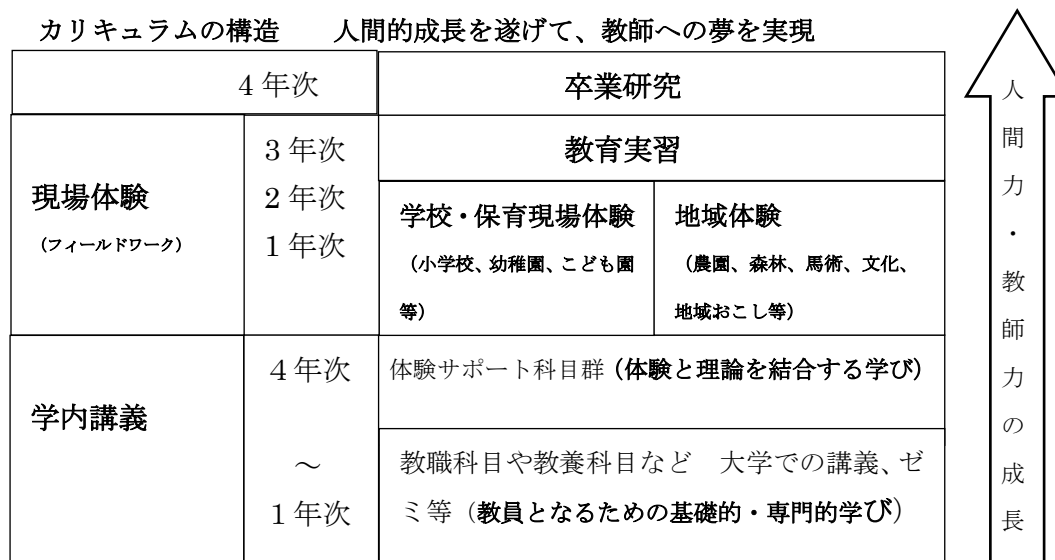
(旧)37 頁

## X 実習の具体的計画

## 1. 実習の考え方

多くの大学では、教育実習にあたっては、事前学習、事後学習と教育現場での4週間程度の実習を行うが、実習中の指導は、現場の先生方に一任し、大学側が関わることは少ない。実習担当教員による実習途中での現場訪問と、研究授業への参加および授業後の反省会での検討等が多いと思われる。4週間の実習体験の教育効果は大きく、学生の意欲が高まることが多い。しかしその一方で、大学での教育学的学びと教育現場での実践的学びが組み合わさることは少なく、学生にとってはそれぞれが別個の学びとして並行的におさめられる。したがって時として、実習は素晴らしかったが、大学での学習はあまり役立たなかった、などという振り返りがなされることがある。従来型の実習では、両者を結合した質の高い実習にはなりがたいと思われる。

こうしたことを克服するため、下図のように、(イ)1年次から教育・保育の現場体験を積み重ねてから本実習に参加する、(ロ)大学の講義で学んだ理論的知識を基にした教育課題を持って実習に参加する方式をとる。



●**実習形式** 教育実習をより本格的で質の高いものとするため、以下のような形式を採用する。

- ① 大学での学びと現場での実践的学びを結合するため、課題意識をもって実習に参加する。
- ② 実習途中に大学に戻り、指導教官とともに振り返りを行い、新たな課題をもって現場に戻る。
- ③ 実習参加以前の1年次、2年次にも、教育現場体験をふんだんに積み重ねておき、現場の状況や子どもたちの様子、課題などについて一定の理解を深めてから本実習に参加する。

④ これを繰り返しながら、合計4週間の実習を行う。

## 2. 初等教育領域における実習

### (1) 学校教育実習

3年次に4週間の小学校教育実習を行う。事前学習および所属ゼミにて、実習に際して持つべき課題を探る。課題は、大学で学んだ教育理論が、教育現場でどのように表れているのか、あるいは表れていないのか、表れているとすればどのように表れているか、表れていないならなぜなのか、等々である。たとえば、教育心理学で「ほうびは意欲を減退させる」と学んだとすれば、実際にはどうなのかを課題意識として持って実習参加し、注意深く観察して解決していくこと等である。もちろん、現場の先生方にも学生が持つ課題を共有していただき、適切な指導をお願いしなければならない。

実習の全体的な流れは、以下のとおりである。

事前学習（10時間）→実習（2週間）→大学に戻り「振り返り」（2日）→実習（2週間）  
→事後学習（5時間）

現場実習期間合計4週間、振り返り期間計2日、事前事後学習15時間

こうして、大学で学んだ理論と結び付けつつ、児童の理解、児童、教員とのコミュニケーション力、児童の指導に関する実践力を形成する。また、小学校の役割や組織、および教員の職務について理解し、小学校教師を目指すための自らの課題を明確にする。

### (2) 介護等体験

2年次中に、義務教育に従事する者が、障害者や高齢者に対する介護や交流を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期することを目的として特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の介護等実習を行う。

実習に先立って、教職支援センター教職員と担当教員を中心に事前指導を行い、終了後は事後指導において、問題点や課題、実習の成果などを共有する。

## 3. 幼児教育領域における実習

### (1) 幼稚園教育実習

「教育実習Ⅱ（幼1）」を3年次に2週間、「教育実習Ⅲ（幼2）」を4年次に2週間行う。学校や保育所を含む児童福祉施設の役割や機能について現場で理解し、大学で学んだ教養や専門知識、指導や支援の方法や技術を実践の場で活用しつつ、実践体験の分析を行い、乳幼児・児童を理解し、関係づくり、働きかけ等に関する実践力を形成することを目的とする。教育課題を持って実習参加することは、小学校実習と同じである。

## (2) 保育士関連実習

「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（福祉施設）」を3年次、「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」を4年次に行う。

## 4. 実習先確保の状況

小学校、幼稚園、については、河内長野市と連携協定を結び、河内長野市内の実習先を確保すると共に、富田林市や大阪狭山市、堺市など近隣教育委員会に協力を仰ぐことで了解を得ており、実習生受け入れについて、河内長野市13小学校、富田林市16小学校を中心に、和泉市、橋本市、大阪狭山市、千早赤坂村、堺市教育委員会等から承諾をいただいている。幼稚園や施設等についても十分に確保ができています。

また、介護等体験についても、大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会、和歌山県社会福祉協議会に受け入れの了解をいただき、実習が可能になっている。

以上の受け入れ先のリストおよび承諾書については資料として添付した（資料11「教育・保育実習先の一覧」）。

## 5. 実習先との契約内容

実習先へは、教育実習計画書等を提出し、実習内容、指導計画を明確にした上で実習を依頼する。その際に、実習指導者の複数配置を依頼、調整を図ることとする。

実習開始にあたっては、個人情報保護、事故防止等に関する事前指導を綿密に行い、これらに関する誓約書を提出させる。また、実習先とは事前に実習委託契約、実習内諾書を取り交わしていく。

## 6. 実習水準の確保

小学校教育実習、幼稚園教育実習を行う学生は、以下の実習基準を設けることで、実習参加を認めることとする。

### (1)教育実習Ⅰ（小学校）（3年次～）

①2年次終了までに下記の科目を修得済みであること。

#### 【教育の基礎的理解に関する科目等】

・教職入門	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育原理	(2単位)	1年次後期開設	必修科目
・教育心理学	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・特別支援教育	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・教育相談	(2単位)	2年次前期開設	必修科目
・生徒指導論	(2単位)	2年次後期開講	必修科目

- ・教育と社会 (2単位) 2年次後期開講 必修科目

【教科及び教科の指導法に関する科目】

- ・国語科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・社会科内容論 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・算数科内容論 (2単位) 2年次後期開設 必修科目
- ・理科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・音楽科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・家庭科内容論 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・体育科内容論 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・初等英語科内容論 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・国語科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・社会科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・理科指導法 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・音楽家指導法 (2単位) 2年次前期開講 必修科目
- ・家庭科指導法 (2単位) 2年次後期開設 必修科目

②「教育実習の研究Ⅰ（小・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

**（2）教育実習Ⅱ（幼稚園1）（3年次～）**

①2年次終了までに下記の科目の単位を修得済みであること。

【教育の基礎的理解に関する科目等】

- ・教職入門 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・教育原理 (2単位) 1年次後期開設 必修科目
- ・教育心理学 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・特別支援教育 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・幼児理解方法論 (2単位) 2年次後期開設 必修科目
- ・教育相談 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・教育と社会 (2単位) 2年次後期開講 必修科目

【領域及び保育内容の指導法に関する科目】

- ・幼児と健康 (2単位) 1年次前期開設 必修科目
- ・幼児と人間関係 (2単位) 1年次後期開設 必修科目



- ・ 幼児と環境 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・ 幼児と言葉 (2単位) 2年次前期開設 必修科目
- ・ 幼児と表現 (2単位) 2年次前期開設 必修科目

②「教育実習の研究Ⅱ（幼1・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

### （3）教育実習Ⅲ（幼稚園2）（4年次～）

- ①教育実習Ⅰ（小学校）もしくは教育実習Ⅱ（幼稚園1）の単位を取得していること。
- ②3年次後期までに開講されている「教育の基礎的理解に関する科目等」、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」を全て修得済であること。
- ③教育実習の研究Ⅲ（幼2・事前事後指導）」の授業参加状況が悪い場合（4回以上の欠席）は、実習参加を認めない。

## 7. 実習の事前指導・事後指導、中間振り返り

全学生対象の「実習オリエンテーション」を開催し、実習参加希望者は「教育実習の研究（小・事前指導）」へ参加させる。事前指導では、事務手続き、実習参加の心得、目的、留意事項等の説明と講義を行い、実習への準備を促す。また、実習参加者には、担当教員による個別の事前指導を行う。実習に対する不安や疑問に対応するとともに、個別の実習先からの連絡、要望を伝える。

また、実習に際して持つべき課題を探る。前述（p.42）のように課題は、大学で教育学的に学んだ教育理論が、教育現場でどのように表れているのか、あるいは表れていないのか、表れているとすればどのように表れているか、表れていないなら何故なのか、等々である。こうした課題について、注意深く観察して解決していくことになるが、そのためには、現場の先生方にも学生が持つ課題を共有していただき、適切な指導をお願いしなければならない。

実習途中、2週間後に、担当教員と共に振り返りを行う。振り返りでは、実習での様子や問題点を明らかにし、問題があれば解決をはかる。また、上記の教育学的課題について議論し、解決された場合には新たな課題を設定して次の実習に参加する。

実習後は、実習担当者と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、提出物、指導記録をもとにして、実習の報告、指導を行う。実習生による実習報告書提出および実習報告会での報告を実施する。これらの過程を通じて、実習担当者会議において審査し、実習担当教員が成績評価を行い、所定の単位を認定する。また、実習先、学生の要望と課題を把握し、今後の実習指導に生かしていく。

## 8. 実習先との連携体制

河内長野市や富田林市教育委員会、近隣市町村教育委員会と全面的な協力体制を組むことによって、地域の小学校、幼稚園、保育園、社会福祉施設との密接な連携を図る。

すでに河内長野市教育委員会とは、合同チームを設置（前述 p.23）し、学校現場体験や教育実習についての意見交換や実習期間中の指導体制を含めた協議が進んでおり、教育学科設置後も継続的に検討・協議を続けることで合意している。

実習先とは、教職支援センターを通して、常時協力体制を構築し、実習が円滑に行われるように学生・実習先双方に働きかける。教育学科のカリキュラムにおいては、講義における教育・保育理論の学びと、実習における実践的学びとの二つを相互に還流するサイクルを工夫して、教育実践力を養うように意図している。なお、高野山大学特任マイスターにも、実習支援をしていただく予定にしている。

## 9. 実習前の準備状況

感染症予防対策として、学生の実習前の健康状態の確認とともに各種予防接種歴、感染症の罹患歴を確認し、麻疹、風疹、水疱瘡に罹患したことがない学生には予防接種を受けることを勧め、インフルエンザの予防接種も毎年積極的に接種するように指導する。社会福祉施設においては、検便の実施を義務付ける。

なお、教育実習に加えて地域体験の取り組みも多く設定しているので、すべての学生が「学生教育研究災害障害保険」および「学研災付帯賠償責任保険」に加入することとしている（資料7「学校・保育現場体験プログラム概要」）。

## 10. 教員の配置並びに巡回指導計画

教職支援センターが中心となり、実習先との連絡・調整を行う。センターには、センター長、実習担当教員2名、特任マイスター2名と専任事務員1名が所属し、実習先との連携協力を行う。実習中の巡回は、上記センター員に加えて全教員が関わる。

センター所属の特任マイスターは、教員歴が長く指導的立場にあった退職教員を予定しているが、マイスター登録は、教育委員会の推薦と公募によって募集するので、センター所属者以外にもそうした人材を用意できる見込みである。教育委員会との合同チームでは、実習先の学校や園に一人ずつ配置して、期間中に常にサポートできる体制の構築ができないかと検討している。具体化できるまでにはもう少し時間がかかるが、ぜひ実現したいと願っている。

## 11. 実習施設における指導者の配置計画

上述のように、実習に際しては教職支援センターの他、全教員が指導に関わる。実習校ごとに担当教員を配置し、実習の開始時および終了時には実習校を訪問・指導を行う。研究授業への参加、指導・助言を行うことはもちろんである。

本学の実習では、途中に振り返りの期間（2日予定）を設けて、実習について振り返りを行い、問題点や成果を明らかにし、後半の実習をより有効なものとする予定であり、担当教員はその指導を行う。

本学特任マイスターを各校に一人ずつ配置できれば、実習日誌の指導補佐等のサポートも可能であるので、より実習校の先生方の負担減にもつながるのではないかと考えている。

## 1 2. 成績評価体制及び単位認定方法

実習後は、実習担当者と学生の個別面談を行う。その際には、実習先からの実習評価、提出物、指導記録をもとにして、実習の報告、指導を行うことで成績評価ならびに単位認定を行う。



## 大阪千代田短期大学の施設の管理及び使用に関する高野山大学との申し合わせ事項

## 目的

第1条 この申し合わせ事項は、大阪千代田短期大学（以下「甲」という。）の施設の管理及び使用に関し、高野山大学(以下「乙」という。)との間で円滑な利用を促進するために、必要な事項を定める。

## 施設

第2条 対象となる甲の施設は、別表1のとおりとする。

## 利用

第3条 乙が甲の施設を利用する場合、互いに支障なく利用できるように協議するものとする。お互いに施設を有効に活用し、教育研究活動の連携を深める。

## 施設管理者

第4条 甲、乙ともに施設管理者を置き、施設管理者長は、甲の施設管理者とする。  
2 施設管理者は、施設の管理及び使用に関する事務を総括する。  
3. 甲、乙ともに施設担当者を置く。

## 施設担当者

第4条 施設担当者は、甲、乙ともに施設担当者を置く。  
2 施設担当者は、次の事務を処理しなければならない。  
①盗難及び火災その他の災害の防止  
②整理清掃及び環境衛生  
③施設の良好な維持保全  
3 施設担当者は、施設管理者を補佐し、必要に応じてその職務を代行する。

## 鍵等の保管

第5条 施設の鍵等は、原則として施設管理者長が保管する。  
2 鍵等を使用しようとする者は、施設管理者の許可を得なければならない。  
3 鍵等の使用後は、速やかに施設管理者に返還しなければならない。

## 施設の使用

第5条 甲の施設について、使用の希望がある場合は、その貸し出しを行うものとする。ただし、甲及び乙の教職員及び学生以外の者（以下「学外者」という。）へ貸し出すことができる施設は、別表2のとおりとする。  
2 次のいずれかに該当するときは、使用を許可しない。  
①教育研究、学内行事または業務に支障があるとき  
②施設を破損または汚損するおそれがあるとき

③施設の用途または目的を妨げるおそれがあるとき

④その他施設管理者が適当でないと認めたとき

#### 遵守事項

第6条 施設の使用及び作業にあたっては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

①火気の取扱いに注意すること

②施設または施設内の物品を破損しないこと

③使用後は、整理清掃し、もとの状態に復すること

④使用を中止または使用を終わったときは、その旨を施設管理者に連絡すること

⑤その他施設管理者の指示に従うこと

#### その他

第7条 この申し合わせ事項に定めるもののほか、施設の管理及び使用に関し必要な事項は、甲及び乙の施設管理者が定める。

#### 改正

第8条 この申し合わせ事項の改正は、甲乙の連携委員会の議を経て甲乙の学長が行う。

## 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
1	基礎から学ぶスポーツリテラシー, 改訂版	大修館書店	1	2,200	
2	スポーツの世界を学ぶ: スポーツ健康科学入門, 増補・改訂版	流通経済大学出版会	1	1,540	
3	よくわかるスポーツ人類学(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ)	ミネルヴァ書房	1	2,640	
4	教養としての健康・スポーツ	玉川大学出版部	1	2,420	
5	健康・スポーツ科学研究: 生活健康科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	3,300	
6	よくわかるスポーツ人類学(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ)	ミネルヴァ書房	1	2,750	
7	観るまえに読む大修館スポーツルール: 2018	大修館書店	1	1,980	
8	ストレングストレーニング&コンディショニング: NSCA決定版, 第4版	ブックハウス・エイティ	1	13,200	
9	コーチングバレーボール: Coaching Volleyball: 基礎編	大修館書店	1	2,530	
10	サッカー選手のパーソナルトレーニング: パフォーマンス向上に役立つ	大修館書店	1	2,530	
11	考えて強くなるラグビーのトレーニング: 戦術アプローチに基づく練習プログラム	大修館書店	1	2,310	
12	英語で案内する日本の伝統・大衆文化辞典: A Dictionary of Japan in English	三省堂	1	3,850	
13	英語で語る日本事情2020: Japan: Then and Now	ジャパントイムズ	1	2,310	
14	研究留学のための英文Eメール・ハンドブック	研究社	1	1,650	
15	英語にまつわるエトセトラ: 51 Stories about English	研究社	1	1,760	
16	英語で聞くカ.: 81のサンプル・リスニングで鍛える!	三修社	1	2,640	
17	日英ことばの文化事典	丸善出版	1	4,180	
18	日常英語連想辞典: A Dictionary of Word Imagery & Associations	三省堂	1	2,420	
19	コンパスローズ英和辞典: Compass Rose English-Japanese Dictionary	研究社	1	6,930	
20	リーダーズ英和辞典: KENKYUSHA'S SHORTER ENGLISH READER'S DICTIONARY, 第2版	研究社	1	5,500	
21	図解英単語イメージ辞典: An Illustrated Dictionary of Common English Words	大修館書店	1	3,520	
22	オックスフォード英語ことわざ・名言辞典	枕風舎	1	16,500	
23	詳説英語イディオム由来辞典: The Origins of English Idioms	三省堂	1	4,290	
24	数の英語表現辞典, 改訂新版	小学館	1	1,760	
25	オックスフォード実例現代英語用法辞典, 第4版	研究社	1	6,600	
26	研究社英語の数量表現辞典: KENKYUSHA'S GUIDE TO QUANTITATIVE EXPRESSIONS IN ENGLISH, 増補改訂版	研究社	1	4,180	
27	イメージ感覚で捉える英語の前置詞: 39の前置詞を集中マスター(一歩進める英語学習・研究ブックス)	開拓社	1	1,980	
28	「国際会議・研究発表・学習イベント」直前の英語表現: INTERNATIONAL CONFERENCE ENGLISH: Towards Logical and Impressive Writing	ベレ出版	1	2,640	
29	英文校正会社が教える英語論文のミス: 分野別強化編	ジャパントイムズ	1	2,200	
30	最新英語論文によく使う表現: 基本編	創元社	1	2,640	
31	諷刺をしないための翻訳英和辞典+22のテクニック, 改訂増補版	DHC	1	1,870	
32	「教える」「学び」のコミュニケーション	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
33	学校教育基礎論 ―これからの学校教育と教師―	学事出版	1	4,537	電子BOOK
34	教育人間学のために	東京大学出版会	1	8,808	電子BOOK
35	現代教育と教師	大学教育出版	1	3,146	電子BOOK
36	創造と教育(創造性研究 4)	共立出版	1	8,470	電子BOOK
37	「学ぶ力」を取り戻す―教育権から学習権へ―	慶應義塾大学出版会	1	7,260	電子BOOK
38	学生時代、学ばなかった君へ―学びの法則―	丸善出版	1	3,388	電子BOOK
39	教育が日本をひらく―グローバル世紀への提言―	慶應義塾大学出版会	1	5,808	電子BOOK
40	遊びが学びに欠かせないわけ―自立した学び手を育てる―	築地書館	1	5,808	電子BOOK
41	教職必修教育の方法と技術	実教出版	1	6,050	電子BOOK
42	カリキュラム・イノベーション―新しい学びの創造へ向けて―	東京大学出版会	1	10,285	電子BOOK
43	教職のための道徳教育	八千代出版	1	4,598	電子BOOK
44	道徳の授業における教師の悩みに関する研究	大学教育出版	1	4,598	電子BOOK
45	道徳科教育講義	武蔵野美術大学出版局	1	4,598	電子BOOK
46	道徳科初めての授業づくり―ねらいの8類型による分析と探究―	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
47	道徳教育の理論と実践	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
48	道徳教育法・特別活動指導法	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
49	最新特別活動論(基礎基本シリーズ 3)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
50	新編特別活動の理論と実践―教職必修―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
51	いじめ・不登校を防止する人間関係プログラム―アクティブラーニングで学校が劇的に変わる!―	学事出版	1	3,630	電子BOOK
52	その手振りが荒れをまねく―落ち着いているときにしておく生徒指導―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
53	荒れには必ずルールがある―間違えた生徒指導が荒れる学校をつくる―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
54	最新進路指導論(基礎基本シリーズ)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
55	最新生徒指導論(基礎基本シリーズ)	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
56	子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導―児童生徒における「社会性の育ちそびれ」の考察―	学事出版	1	4,900	電子BOOK
57	子どもの人権を尊重する生徒指導―権利・人権を学んでいじめ・体罰から子どもを守る―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
58	若手教員の力を引き出す研修でつかえる生徒指導事例50	学事出版	1	3,267	電子BOOK
59	生徒指導24の鉄則―指導に自信を深める「考え方」の原理・原則―新版	学事出版	1	2,904	電子BOOK
60	入門生徒指導―「生徒指導提言」から「いじめ防止対策推進法」まで―新訂版	学事出版	1	3,267	電子BOOK
61	発達や学びをつなぐスタートカリキュラム―スタートカリキュラム導入・実践の手引き―	学事出版	1	2,904	電子BOOK
62	保育指針・教育要領・学習指導要領を読み解く事典―国民形成のナショナル・スタンダードを徹底分析―	大学教育出版	1	8,712	電子BOOK
63	子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク―教師のためのワークブック―	かもがわ出版	1	4,356	電子BOOK
64	「知の総合化」で具体化する21世紀型能力―問題解決力・論理的思考力・コミュニケーション力などのスキルが身につく―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
65	「学び合い」入門―これで、分からない子が誰もいなくなる!―	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
66	クリティカル・シンキング教育―探究型の思考力と態度を育む(早稲田大学エウラボリクス叢書 002)	早稲田大学出版部	1	5,808	電子BOOK
67	はじめての人のためのアクティブ・ラーニングへの近道	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
68	メンタルトレーナー直伝先生の「こきげん道書」で、授業はうまくいく―子どもへの声かけが変わるクラスがまとまる―	誠文堂新光社	1	4,356	電子BOOK
69	学びの心理学―授業をデザインする―(放送大学叢書 020)	左右社	1	6,050	電子BOOK
70	学校の風景そして授業の風景―子どもと教師の学び合い―	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
71	教育の方法(放送大学叢書 011)	左右社	1	6,050	電子BOOK
72	参加型アクティビティ入門―AI型授業が活性化する―	学事出版	1	3,448	電子BOOK
73	子どもの姿で探る問題解決学習の学力と授業―実感的なわかり方と基礎・基本―	学文社	1	10,164	電子BOOK
74	授業づくり、学級づくりの勘どころ―教室を知的に、楽しく―	三省堂	1	5,566	電子BOOK
75	授業の科学と評価―連想調査法を用いた教え方・学び方―	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
76	授業を変えるコトバとワザ―小学校教師のコミュニケーション実践―(新時代教育のツボ選書 3)	くろしお出版	1	3,630	電子BOOK
77	授業研究27の原理・原則―授業力向上のための実践的思考―	学事出版	1	2,904	電子BOOK
78	明日から使える「学び合い」の達人技術	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
79	英語を直伝うまい!授業のつくりかた―身振り手振り、間のとりかた、校とオチ―英語は授業に使えるネタの宝庫―	誠文堂新光社	1	4,356	電子BOOK
80	AI時代の情報教育	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
81	EdTechが変える教育の未来―Education×Technology―	インプレスエデュケーション	1	5,227	電子BOOK
82	プログラミング教育が変える子どもたちの未来―AIの時代を生かすために親が知っておきたい4つのこと―	翔泳社	1	5,808	電子BOOK
83	学びとコンピュータハンドブック	東京電機大学出版局	1	17,722	電子BOOK

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
84	教育システム情報ハンドブック	実教出版	1	11,495	電子BOOK
85	実践情報科教育法―「ものづくり」から学ぶ―	東京電機大学出版局	1	6,188	電子BOOK
86	小学校プログラミング教育がわかる、できる―子どもが夢中になる各教科の実践―	学事出版	1	2,722	電子BOOK
87	情報科教育のための指導法と展開例―教職必修―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
88	情報機器の操作―教員のためのICT活用法：教職必修―	実教出版	1	5,445	電子BOOK
89	情報教育の理論と実践	実教出版	1	5,445	電子BOOK
90	先生のための小学校プログラミング教育がよくわかる本	翔泳社	1	6,050	電子BOOK
91	入門特別活動―理論と実践で学ぶ学級・ホームルーム担任の仕事―	学事出版	1	3,267	電子BOOK
92	こころの作文―綴り、読み合い、育ち合う子どもたち―	かがわ出版	1	4,356	電子BOOK
93	古典のおさらい(おとなの楽習 21)	自由国民社	1	3,630	電子BOOK
94	国語の授業の作り方―はじめての授業マニュアル―	文学通信	1	8,167	電子BOOK
95	国語を教える文法の底力	くろしお出版	1	3,388	電子BOOK
96	国語科教師の学び合いによる実践的力形成の研究―協働学習的アクション・リサーチの提案―	ひつじ書房	1	16,698	電子BOOK
97	国語教育における文学の居場所―言葉の芸術として文学を捉える教育の可能性―	ひつじ書房	1	28,314	電子BOOK
98	国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語 改訂版	くろしお出版	1	3,872	電子BOOK
99	読みの交流と言語活動―国語科学習デザインと実践―	玉川大学出版部	1	6,050	電子BOOK
100	日中漢字文化をいかに上手に語彙指導法―「覚える」から「考える」へ―(早稲田大学学術叢書 47)	早稲田大学出版部	1	7,260	電子BOOK
101	明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究―リテラシー形成メディアの教育文化史―	ひつじ書房	1	45,980	電子BOOK
102	朝倉国語教育講座 全6巻セット	朝倉書店	1	26,378	電子BOOK
103	ここまで変わった日本史教科書	吉川弘文館	1	6,534	電子BOOK
104	女性の視点でつくる社会科授業	学文社	1	6,534	電子BOOK
105	尋常小学「国史」が教えた愛国心	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
106	比較中学歴史教科書―国際派日本人を育てる―	勉誠出版	1	2,662	電子BOOK
107	歴史学者と読む高校世界史―教科書記述の舞台裏―	勁草書房	1	8,712	電子BOOK
108	はじめての人のための中学校理科の「学び合い」	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
109	はじめての人のための理科の授業づくり―学習問題から学習課題へ―	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
110	学校理科で探究する生活科学―生活科学的アプローチによる学校理科の学習転換―	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
111	小学校理科「物理・天文分野」の指導―文科系学生が物理・天文分野の基礎を理解できる―	大学教育出版	1	3,146	電子BOOK
112	理科教育法―独創力を伸ばす理科授業―	講談社	1	8,800	電子BOOK
113	理科教育法―理論をふまえた理科の授業実践―第2版	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
114	子どもと話す原子力発電所―おもしろ学校公開授業の記録―(人間選書 140)	農山漁村文化協会	1	4,837	電子BOOK
115	AI vs. 教科書が読めない子どもたち: Artificial intelligence vs. Children who can't read textbooks	東洋経済新報社	1	1,650	
116	合格水準教職のための憲法	法律文化社	1	2,750	
117	子どもと学校の考現学: 少子化社会の中の子どもの成長	黎明書房	1	2,640	
118	リベラルな学びの声(叢書・ユニベルシタス 1070)	法政大学出版局	1	3,740	
119	教育の危機: 現代の教育問題をグローバルに問い直す	東洋館出版社	1	5,060	
120	図表でみる教育: OECDインディケータ: 2018年版	明石書店	1	9,460	
121	ビデオによるリフレクション入門: 実践の多義創発性を拓く	東京大学出版会	1	2,860	
122	ダイバーシティ時代の教育の原理: 多様性と新たなつながりの地平へ	学文社	1	2,420	
123	なぜからはじめる教育原理 第2版	建帛社	1	2,200	
124	やさしく学ぶ教育原理	ミネルヴァ書房	1	2,420	
125	リベラル・アーツの源泉を訪ねて	東信堂	1	3,520	
126	教育にできないこと、できること: 基礎・実践・探究, 第4版	成文堂	1	3,740	
127	教育の原理とは何か: 日本の教育理念を問う, 改訂版	ナカニシヤ出版	1	2,530	
128	教育をよみとく: 教育学的探究のすすめ	有斐閣	1	1,650	
129	教育原理(よくわかる教職エクササイズ 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
130	教職のための教育原理, 第2版	八千代出版	1	2,310	
131	現代教育の基礎理論(MINERVA TEXT LIBRARY 67)	ミネルヴァ書房	1	2,860	
132	現代教育概論, 第4次改訂版	学陽書房	1	2,640	
133	臨床教育学三十年: その歩みといま	ミネルヴァ書房	1	7,150	
134	教育思想事典, 増補改訂版	勁草書房	1	8,580	
135	批判的教育学事典	明石書店	1	27,500	
136	何が教育思想と呼ばれるのか: 共存と超越性	一藝社	1	2,860	
137	共存の教育学: 愛を黙示するハイデガー	東京大学出版会	1	12,100	
138	教えることの再発見	東京大学出版会	1	4,180	
139	教育の見方・考え方: 教育の思想・歴史	晃洋書房	1	2,970	
140	ポルノ―教育学研究, 上巻, 増補版	風間書房	1	2,970	
141	新しい世界のための教育: 自分をつくる0歳~6歳, 新版	青土社	1	1,760	
142	被抑圧者の教育学, 50周年記念版	健紀書房	1	2,860	
143	「学校教育と社会」ノート: 教育社会学への誘い, 第2版	学文社	1	1,980	
144	フランスの社会階層と進路選択: 学校制度からの排除と自己選択のメカニズム	勁草書房	1	4,840	
145	学校プラットフォーム: 教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう	有斐閣	1	2,860	
146	教育と社会階層: ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差	東京大学出版会	1	4,840	
147	教育社会とジェンダー, 新版	学文社	1	2,310	
148	教育文化の社会学: 人間発達科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	2,860	
149	子どもの貧困対策と教育支援: より良い政策・連携・協働のために	明石書店	1	2,860	
150	大学への教育投資と世代間所得移転: 奨学金は救世主か	勁草書房	1	3,850	
151	著名人輩出の地域差と中等教育機会: 「日本近現代人物履歴事典」を読む	関西学院大学出版会	1	5,280	
152	変動社会と子どもの発達: 教育社会学入門, 改訂版	北樹出版	1	2,310	
153	コミュニティ・スクールの金貌: 全国調査から実相と成果を探る	風間書房	1	4,400	
154	地域コミュニティと教育: 地域づくりと学校づくり(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,080	
155	地域教育再生プロジェクト: 家庭・学校と地域社会(放送大学叢書 045)	左右社	1	1,870	
156	あなたと創る教育心理学: 新しい教育課題にどう応えるか	ナカニシヤ出版	1	2,420	
157	たのしく学べる最新教育心理学: 教職に関わるすべての人に, 改訂版	図書文化社	1	2,200	
158	ようこそ教育心理学の世界へ, 改訂版	北樹出版	1	2,200	
159	基礎からまなぶ教育心理学(ライブラリ基礎からまなぶ心理学 6)	サイエンス社	1	2,750	
160	教育心理学(よくわかる教職エクササイズ 2)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
161	教育心理学者の世紀: ジェームズ、ヴィゴツキー、ブルーナー、バンデューラら16人の偉大な業績とその影響	福村出版	1	9,900	
162	教育心理学特論: 人間発達科学プログラム, 新訂(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	放送大学教育振興会	1	3,190	
163	私たちは子どもに何が出来るのか: 非認知能力を育み、格差に挑む	英治出版	1	1,780	
164	読んでわかる教育心理学(ライブラリ読んでわかる心理学 6)	サイエンス社	1	2,640	
165	発達・学習の心理学: 教職パーシク, 改訂版	北樹出版	1	2,090	
166	保育・教育に生かすOrigamiの認知心理学	金子書房	1	2,200	



# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
167	Allに負けない「教育」(認知科学のフロンティア)	大修館書店	1	1,980	
168	アクティブラーニングのための心理学: 教室実践を支える構成主義と社会的学習理論	北大路書房	1	2,420	
169	バフフル・ラーニング: 社会に開かれた学びと理解をつくる	北大路書房	1	2,860	
170	メタ認知で(学ぶ力)を高める: 認知心理学が解き明かす効果的学習法	北大路書房	1	1,980	
171	拡張的学習の挑戦と可能性: いまだここにはないものを学ぶ	新曜社	1	3,190	
172	学習科学ハンドブック: 第1巻 基礎/方法論	北大路書房	1	4,070	
173	学習科学ハンドブック: 第3巻 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む	北大路書房	1	3,850	
174	自律的な学習意欲の心理学: 自ら学ぶことは、こんなに素晴らしい	誠信書房	1	1,980	
175	いじめからのちを守る: 逃げる、生きるため	金子書房	1	1,430	
176	いじめに対する援助要請のカウンセリング: 「助けて」が言える子ども、「助けて」に気づける援助者になるために	金子書房	1	1,980	
177	エビデンスに基づく学校メンタルヘルスの実践: 自殺・学級崩壊・いじめ・不登校の防止と解消に向けて	明石書店	1	2,750	
178	こころの発達によりそ教育相談	福村出版	1	2,530	
179	スクールカウンセリングと発達支援, 改訂版	ナカニシヤ出版	1	2,640	
180	チーム学校での効果的な援助: 学校心理学の最前線	ナカニシヤ出版	1	3,520	
181	学校コミュニティへの緊急支援の手引き, 第2版	金剛出版	1	4,180	
182	学校メンタルヘルスハンドブック	大修館書店	1	4,730	
183	学校心理学にもとづく教育相談: 「チーム学校」の実践を目指して	金子書房	1	1,980	
184	教育相談(よくわかる教職エクスサイズ 3)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
185	教育臨床の実際: 学校で行う心と発達へのトータルサポート, 第2版	ナカニシヤ出版	1	2,420	
186	子どものこころ, 大人のこころ: 先生や保護者が判断を誤らないための手引書	ナカニシヤ出版	1	2,530	
187	子どもの心の問題支援ガイド: 教育現場に活かす認知行動療法	金剛出版	1	3,740	
188	子ども虐待とスクールソーシャルワーク: チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造	明石書店	1	3,850	
189	絶対役立つ教育相談: 学校現場の今に向き合う	ミネルヴァ書房	1	2,420	
190	子ども・青年の文化と教育(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	2,860	
191	SDGsと環境教育: 地球資源制約の視座と持続可能な開発目標のための学び	学文社	1	3,300	
192	コミュニティ・スクールの成果と展望: スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割	ミネルヴァ書房	1	6,050	
193	シユタイナー教育思想の再構築: その学問としての妥当性を問う	ナカニシヤ出版	1	5,280	
194	国際バカロレアの挑戦: グローバル時代の世界標準プログラム	明石書店	1	3,960	
195	新たな時代のESDサステナブルな学校を創ろう: 世界のホールスクールから学ぶ	明石書店	1	2,750	
196	大都市圏の環境教育: ESD: 首都圏ではじまる新たな試み(持続可能な社会のための環境教育シリーズ 7)	筑波書房	1	2,750	
197	18歳成人社会ハンドブック: 制度改革と教育の課題	明石書店	1	2,750	
198	教師と人権教育: 公正、多様性、グローバルな連帯のために	明石書店	1	3,080	
199	市民を育てる学校: アメリカ進歩主義教育の実験	勁草書房	1	3,850	
200	社会情動的スキル: 学びに向かう力	明石書店	1	3,960	
201	道徳教育と愛国心: 「道徳」の教科化にどう向き合うか	岩波書店	1	2,860	
202	道徳教育の方法: 理論と実践(放送大学叢書 042)	左右社	1	1,870	
203	ブルームと堀田理論に学ぶ: 戦後日本の教育評価論のあゆみ	ミネルヴァ書房	1	6,050	
204	教育現場の「コンピテンシー評価」: 「見えない能力」の評価を考える	ナカニシヤ出版	1	2,640	
205	授業の科学と評価: 連想調査法を用いた教え方・学び方	大学教育出版	1	2,640	
206	教育・心理・言語系研究のためのデータ分析: 研究の幅を広げる統計手法	東京図書	1	3,080	
207	教育・心理系研究のためのデータ分析入門: 理論と実践から学ぶSPSS活用法, 第2版	東京図書	1	3,080	
208	ネオリベラリズム期教育の思想と構造: 書き換えられた教育の原理	東信堂	1	6,820	
209	教育史研究の最前線: 2 創立60周年記念	六花出版	1	2,750	
210	教科書にみる世界の性教育	かもがわ出版	1	2,200	
211	諸外国の教育動向: Recent Trends in Education Overseas: 2017年度版(教育調査 第154集)	明石書店	1	3,960	
212	世界の学校体系(教育調査 第152集)	ぎょうせい	1	4,730	
213	教育から見る日本の社会と歴史, 第2版	八千代出版	1	2,640	
214	日本国民をつつた教育: 寺子屋からGHQの占領教育政策まで	ミネルヴァ書房	1	2,750	
215	近・現代日本教育会史研究	不二出版	1	7,280	
216	大正新教育の受容史	東信堂	1	4,070	
217	戦後改革期文部省実験学校資料集成: 第2期第1巻～第2期第3巻, 編集復刻版	不二出版	1	82,500	
218	戦後改革期文部省実験学校資料集成: 第2期第4巻～第2期第6巻, 編集復刻版	不二出版	1	82,500	
219	戦後日本教育史(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	2,970	
220	前川喜平 教育のなかのマイノリティを語る: 高校中退・夜間中学・外国につながる子ども・LGBT・沖縄の歴史教育	明石書店	1	1,650	
221	包摂と排除の教育史: マイノリティ研究から教育福祉社会史へ, 増補新版	生活書院	1	3,960	
222	ミャンマーの教育: 学校制度と教育課程の現在・過去・未来(明石ライブラリー 164)	明石書店	1	4,950	
223	ヨーロッパにおける移民二世世代の学校適応: スーパー・ダイバーシティへの教育人類学的アプローチ	明石書店	1	3,960	
224	英国の教育	東信堂	1	3,740	
225	イングランドのシティズンシップ教育政策の展開: カリキュラム改革にみる国民意識の形成に着目して	東信堂	1	3,520	
226	ドイツ地理教育改革とESDの展開	古今書院	1	4,840	
227	現代ドイツにおける学校制度改革と学力問題: 進む学校の終日化と問い直される役割分担のあり方	晃洋書房	1	7,920	
228	政治教育の模索: オーストリアの経験から	名古屋大学出版会	1	4,510	
229	現代フランスの教育改革	明石書店	1	6,380	
230	転換期と向き合うデンマークの教育	ひとなる書房	1	1,980	
231	多様性と向きあうカナダの学校: 移民社会が目指す教育	東信堂	1	3,080	
232	アメリカの言語教育: 多文化性の尊重と学力保障の両立を求めて(プリミエ・コレクション 89)	京都大学学術出版会	1	3,520	
233	アメリカ教育改革のポリティクス: 公正を求めた50年の闘い	東京大学出版会	1	6,160	
234	教師の「専門家共同体」の形成と展開: アメリカ学校改革研究の系譜	勁草書房	1	7,920	
235	空間と時間の教育史: アメリカの学校建築と授業時間割からみる(関西学院大学研究叢書 第196編)	東信堂	1	4,290	
236	思考する歴史教育への挑戦: 暗記型か、思考型か、揺れるアメリカ	九州大学出版会	1	3,960	
237	聖書と科学のカルチャー・ウォー: 概説アメリカの「創造vs生物進化」論争	東信堂	1	3,960	
238	移民の子どもと学校: 統合を支える教育政策	明石書店	1	3,300	
239	学校教育制度概論, 第2版(玉川大学教職専門シリーズ)	玉川大学出版部	1	3,080	
240	教育と比較の眼	東信堂	1	2,860	
241	現代教育の制度と行政, 改訂版	福村出版	1	2,530	
242	子どもの貧困と教育の無償化: 学校現場の実態と財源問題	明石書店	1	2,970	
243	持続可能な未来のための教育制度論(ESDでひらく未来)シリーズ	学文社	1	2,530	
244	多文化教育の国際比較: 世界10カ国の教育政策と移民政策	明石書店	1	2,530	
245	地域研究: リーディングス比較教育学	東信堂	1	4,070	
246	教師のための教育法規・教育行政入門	ミネルヴァ書房	1	2,640	
247	市町村教育委員会制度に関する研究: 制度改革と学力政策の現状と課題	福村出版	1	5,500	
248	解説教育六法: 2018	三省堂	1	2,860	
249	教育小六法: 平成30年版	学陽書房	1	2,970	

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
250	どうなる日本の教員養成: 2016.12.4 Symposium Report	学文社	1	1,540	
251	ベストをつくす教育実習 強みを活かす実力を伸ばす	有斐閣	1	2,200	
252	介護等体験安心ハンドブック(よくわかる教職シリーズ)	学事出版	1	1,650	
253	教育実習安心ハンドブック(よくわかる教職シリーズ)	学事出版	1	1,980	
254	教師教育研究ハンドブック: HANDBOOK OF RESEARCH ON TEACHER EDUCATION	学文社	1	6,600	
255	専門職としての教師教育者: 教師を育てるひとの役割、行動と成長	玉川大学出版部	1	3,080	
256	戦後日本教員養成の歴史的研究	風間書房	1	15,400	
257	変動社会の教師教育: Teacher Education, 新版	名古屋大学出版会	1	5,940	
258	学校の情報セキュリティ実践マニュアル: 教育の現場で安心してICTを活用するために	翔泳社	1	2,420	
259	教師の協同を創るスクールリーダーシップ	ナカニシヤ出版	1	2,420	
260	情報時代の学校をデザインする: 学習者中心の教育に変える6つのアイデア	北大路書房	1	2,420	
261	「深い学び」を支える学級はコーチングでつくる: アクティブラーニング	ミネルヴァ書房	1	1,980	
262	アドラー心理学でクラスはよみがえる: 叱る・ほめるに代わるスキルが身につく	創元社	1	1,540	
263	学校教育と情報機器(よくわかる教職エクササイズ 6)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
264	図解実践世界最高の学級経営: 成果を上げる教師になるための50の技術	東洋館出版社	1	2,420	
265	チーム学校に求められる教師の役割・職務とは何か	晃洋書房	1	3,080	
266	はじめて学ぶ教職論	ミネルヴァ書房	1	2,640	
267	教師のメタ認知: 社会的に教育実践を創るために	北樹出版	1	2,310	
268	教師の責任と教職倫理: 経年調査にみる教員文化の変容	勁草書房	1	6,050	
269	教職のしくみと教育のしくみ: 教育制度論	晃洋書房	1	3,080	
270	教職のための課題探究によるアクティブラーニング	ナカニシヤ出版	1	2,420	
271	教職概論: 教師を目指す人のために、第5次改訂版	学陽書房	1	2,640	
272	省察的実践は教育組織を変革するか	ミネルヴァ書房	1	5,500	
273	教員自主研修法制の展開と改革への展望: 行政解釈・学説・判例・運動の対立・交錯の歴史からの考察	風間書房	1	12,650	
274	教職員のための「アサーション」実践50例: 会話で学ぶ豊かなコミュニケーション	第一法規	1	1,980	
275	チーム学校を構築するための教師ストレス研究	ナカニシヤ出版	1	5,060	
276	学校保健マニュアル, 改訂9版	南山堂	1	4,950	
277	学校保健実務必携, 新訂版 第4次改訂版	第一法規	1	4,180	
278	教育とLGBTIをつなぐ: 学校・大学の現場から考える	青弓社	1	2,200	
279	最新Q&A教師のための救急百科: Q&A TEACHER'S FIRST AID HANDBOOK, 第2版	大修館書店	1	4,180	
280	学校事故の責任法理: 2	法律文化社	1	7,150	
281	学校における自殺予防教育プログラムGRIP: 6時間の授業で支えあえるクラスをめざす	新曜社	1	1,980	
282	カリキュラム・マネジメントと授業の質保証: 各国の事例の比較から	北大路書房	1	2,970	
283	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方: キー・コンピテンシーを育てる学校の教育課程の編成と改善	黎明書房	1	2,640	
284	よくわかる教育課程, 第2版(やわらかアカデミズム・くわがる)シリーズ	ミネルヴァ書房	1	2,860	
285	ワークで学ぶ教育課程論	ナカニシヤ出版	1	2,860	
286	教育課程, 第2版(教師教育テキストシリーズ 9)	学文社	1	2,090	
287	教育課程・方法論: コンピテンシーを育てる学びのデザイン, 新版	学文社	1	2,200	
288	交流史から学ぶ東アジア: 食・人・歴史でつくる教材と授業実践	明石書店	1	1,980	
289	自分の「好き」を探究しよう: お茶の水女子大学附属中学校「自主研究」のすすめ	明石書店	1	1,760	
290	社会に開かれたカリキュラム: 新学習指導要領に対応した教育課程論	晃洋書房	1	3,190	
291	新しい時代の教育課程, 第4版(有斐閣アルマ Interest)	有斐閣	1	2,200	
292	ICEモデルで拓く主体的な学び: 成長を促すフレームワークの実践	東信堂	1	2,200	
293	Lesson Study (教育工学選書 2-11)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
294	アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性(学びと成長の講話シリーズ 第1巻)	東信堂	1	1,100	
295	アクティブラーニング入門: 2「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか	産業能率大学出版部	1	1,870	
296	ようこそ、一人ひとりをいかに教室へ: 「違い」を力に変える学び方・教え方	北大路書房	1	2,640	
297	拡張する学校: 協働学習の活動理論	東京大学出版会	1	3,850	
298	学びの共同体の挑戦: 改革の現在	小学館	1	1,760	
299	学習と「ソナリティ」: 「あの子はおとないけど成績はいんですよ」をどう見るか(学びと成長の講話シリーズ 第2巻)	東信堂	1	1,760	
300	学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷, 新訂	東北大学出版会	1	2,200	
301	協同的探究学習で育む「わかる学力」: 豊かな学びと育ちを支えるために	ミネルヴァ書房	1	2,640	
302	教育の効果: メタ分析による学力に影響を与える要因の効果の可視化	図書文化社	1	4,070	
303	教育の方法と技術, 3訂版(教職課程シリーズ)	図書文化社	1	2,200	
304	教育実践の継承と教育方法学の課題: 教育実践研究のあり方を展望する(教育方法 47)	図書文化社	1	2,200	
305	現代社会の児童生徒指導(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,410	
306	最高の授業: スパイダー討論が教室を変える	新評論	1	2,750	
307	深い学び	東洋館出版社	1	2,178	
308	図解実践アクティブラーニングができる本(健康ライブラリー スペシャル)	講談社	1	1,430	
309	成績をハックする: 評価を学びにいかす10の方法	新評論	1	2,200	
310	戦後日本教育方法論史: EDUCATIONAL METHODS THEORIES IN POSTWAR JAPAN: 下 各教科・領域等における理論と実践	ミネルヴァ書房	1	3,850	
311	戦後日本教育方法論史: EDUCATIONAL METHODS THEORIES IN POSTWAR JAPAN: 上 カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜	ミネルヴァ書房	1	3,850	
312	ゲームと教育・学習(教育工学選書 2-3)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
313	学びを支える教育工学の展開(教育工学選書 2)	ミネルヴァ書房	1	2,860	
314	教育工学論文執筆の要点(教育工学選書 2-13)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
315	教育分野におけるレポートフオリオ(教育工学選書 2-2)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
316	現代学カテスト批判: 実態調査・思想・認識論からのアプローチ	東信堂	1	2,970	
317	実践事例でわかる「アクティブラーニング」の学習評価: 小・中学校対応	学陽書房	1	2,200	
318	そろそろ、部活のこれからは話ませんか: 未来のための部活講義	大月書店	1	1,980	
319	ブラック部活動: 子どもと先生の苦しみに向き合う	東洋館出版社	1	1,540	
320	やさしく学ぶ特別活動	ミネルヴァ書房	1	2,640	
321	新しい特別活動の指導原理	ミネルヴァ書房	1	2,640	
322	部活動の不思議を語り合おう	ひつじ書房	1	1,320	
323	ドラマ教育ガイドブック: アクティブな学びのためのアイデアと手法	新曜社	1	1,760	
324	メディア・リテラシー教育: ソーシャルメディア時代の実践と学び	北樹出版	1	2,420	
325	教育のためのICT活用(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,190	
326	主体的・対話的で深い学びの環境とICT: アクティブラーニングによる資質・能力の育成	東信堂	1	2,530	
327	初等中等教育におけるICT活用(教育工学選書 2-9)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
328	情報モラル教育: 知っておきたい子どものネットコミュニケーションとトラブル予防	金子書房	1	1,980	
329	情報教育・情報モラル教育(教育工学選書 2-8)	ミネルヴァ書房	1	2,970	
330	図解プログラミング教育がよくわかる本(健康ライブラリー スペシャル)	講談社	1	1,430	
331	チームで取り組む生徒指導・教育相談: 事例を通して深く学ぶ・考える	ナカニシヤ出版	1	2,970	
332	生きる力を育む生徒指導	福村出版	1	2,530	

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
333	社会科教育と災害・防災学習：東日本大震災に社会科はどう向き合うか	明石書店	1	3,080	
334	子どものための主権者教育：大学生と行政でつくるアクティブ・ラーニング型選挙出前授業	ナカニシヤ出版	1	2,750	
335	「土農工商」はどう教えられたか：小中学校における近世身分学習の展開	ミネルヴァ書房	1	5,500	
336	新教科「道徳」の理論と実践（玉川大学教職専門シリーズ）	玉川大学出版部	1	3,080	
337	哲学する道徳：現実社会を捉え直す授業づくりの新提案	東海大学出版部	1	2,750	
338	道徳教育のキソ・キホン：道徳科の授業をはじめの人へ	ナカニシヤ出版	1	2,200	
339	道徳教育は「いじめ」をなくせるのか：教師が明日からできること	NHK出版	1	1,430	
340	TIMSS2015算数・数学教育/理科教育の国際比較：国際数学・理科教育動向調査の2015年調査報告書	明石書店	1	4,950	
341	主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育：コンテンツとコンピテンシーを見すえて	ミネルヴァ書房	1	3,080	
342	算数教育指導用語辞典 第5版	教育出版	1	4,400	
343	「資質・能力」を育むボール運動の授業づくり：全員参加を保障する体育学習をめざして	大修館書店	1	2,200	
344	初等体育授業づくり入門：Introduction to Elementary School Physical Education	大修館書店	1	1,870	
345	新時代のキャリア教育と職業指導：免許法改定に対応して	法律文化社	1	2,420	
346	やわらかな感性を育む園児工作科教育の指導と学び：アートの体験による子どもの感性の成長・発達	ミネルヴァ書房	1	2,420	
347	イン・ザ・モデル：ナンシー・アドウェールの教室	三省堂	1	2,640	
348	国語科教育に求められるヴィジュアル・リテラシーの探究	ひつじ書房	1	5,830	
349	国語教育指導用語辞典 第5版	教育出版	1	4,400	
350	英語リスニング指導ハンドブック	大修館書店	1	3,190	
351	技能を統合した英語学習のすすめ：小学校・中学校・高等学校での工夫と留意	ひつじ書房	1	2,640	
352	行動志向の英語科教育の基礎と実践：教師は成長する	三修社	1	2,860	
353	小学校英語教育の基礎知識：コア・カリキュラム準拠	大修館書店	1	2,200	
354	小学生に英語の読み書きをどう教えたらいいか	研究社	1	2,310	
355	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版	大修館書店	1	2,530	
356	新編小学校英語教育法入門	研究社	1	2,310	
357	教職論：保育者・教師の仕事をつかむ	ミネルヴァ書房	1	2,860	
358	2E教育の理解と実践：発達障害児の才能を活かす	金子書房	1	1,650	
359	アスペルガー症候群の大学生：教職員・支援者・親のためのガイドブック	日本評論社	1	3,300	
360	インクルーシブ授業の国際比較研究	福村出版	1	7,480	
361	よくわかる！大学における障害学生支援：こんなときどうする？	ジアース教育新社	1	3,080	
362	よくわかる特別支援教育 第2版（やわらかアカデミズム・わかる）シリーズ）	ミネルヴァ書房	1	2,750	
363	基礎から学ぶ特別支援教育の国際比較研究	ミネルヴァ書房	1	2,860	
364	共生社会の時代の特別支援教育：第1巻 新しい特別支援教育	ぎょうせい	1	2,750	
365	共生社会の時代の特別支援教育：第2巻 学びを保障する指導と支援	ぎょうせい	1	2,750	
366	共生社会の時代の特別支援教育：第3巻 連携とコンサルテーション	ぎょうせい	1	2,750	
367	教師と学校が変わる学校コンサルテーション（ハンディシリーズ発達障害支援・特別支援教育ナビ）	金子書房	1	1,430	
368	障がいの重い子どもと係わり合う教育：実践事例から読みとく特別支援教育：1	明石書店	1	4,180	
369	障がいの重い子どもと係わり合う教育：実践事例から読みとく特別支援教育：2	明石書店	1	4,180	
370	人材紹介のプロがつくった発達障害の大学生のためのキャンパスライフQ&A	弘文堂	1	1,980	
371	特別支援教育の基礎：誰かな支援のできる教師・保育士になるために、改訂版	東京書籍	1	3,080	
372	特別支援教育の到達点と可能性：2001～2016年：学術研究からの論考	金剛出版	1	6,600	
373	特別支援教育の理論と実践：S.E.N.S.養成セミナー：1 概論・アセスメント 第3版	金剛出版	1	2,970	
374	特別支援教育の理論と実践：S.E.N.S.養成セミナー：2 指導 第3版	金剛出版	1	3,080	
375	特別支援教育の理論と実践：S.E.N.S.養成セミナー：3 特別支援教育士（S.E.N.S.）の役割・実習 第3版	金剛出版	1	2,530	
376	発達に気になる子へのスムーズステップではじめる生活動作の教え方	中央法規出版	1	1,980	
377	発達障害のある子のケース別サポート事例事典（発達障害を考える 心をつなぐ）	ナツメ社	1	2,750	
378	問題行動解決支援ハンドブック：子どもの視点でポジティブに考える	金剛出版	1	3,520	
379	友だち作りのSST：自閉スペクトラム症と社会性に課題のある思春期のためのPEERSTレーナーマニュアル	金剛出版	1	4,180	
380	20世紀ロシアの挑戦 盲ろう児教育の歴史：事例研究にみる障害児教育の成功と発展（朝日ライブラリー 163）	明石書店	1	4,180	
381	学カ・リテラシーを伸ばそう、難聴児教育：エビデンスに基づいた教育実践	明石書店	1	4,180	
382	手話による教養大学の挑戦：ろう者が教え、ろう者が学ぶ	ミネルヴァ書房	1	3,850	
383	随覚障害児の学習と指導：発達と心理学的基礎	明石書店	1	3,300	
384	学習社会学の構想	晃洋書房	1	2,860	
385	協働型社会と地域生涯学習支援	法律文化社	1	8,140	
386	社会づくりとしての学び：信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動	東京大学出版会	1	5,940	
387	社会教育・生涯学習論：すべての人が「学ぶ」ために必要なこと（ESDでひらく未来）シリーズ）	学文社	1	2,090	
388	諸外国の生涯学習（教育調査 第165集）	明石書店	1	3,960	
389	新しい時代の生涯学習 第3版（有斐閣アルマ Interest）	有斐閣	1	2,310	
390	生涯学習の新たな動向と課題：人間発達科学プログラム（放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科）	放送大学教育振興会	1	3,080	
391	生涯発達と生涯学習 第2版	ミネルヴァ書房	1	3,080	
392	社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版	エイデル研究所	1	4,620	
393	居場所：生の回復と充溢のトポス	春風社	1	2,546	
394	子どものワークショップと体験理解：感性的な視点からの実践研究のアプローチ	九州大学出版会	1	3,080	
395	野外教育学研究法	日本野外教育学会	1	2,750	
396	歌と絵本が育む子どもの豊かな心：歌いかけ・読み聞かせ子育てのすすめ	ミネルヴァ書房	1	2,750	
397	美術教育ハンドブック	三元社	1	2,860	
398	未来の人材は「音楽」で育てる：世界をひらく5つのリベラルアーツ・マインド	アルテスパブリッシング	1	1,980	
399	言語と教育：多様化する社会の中で新たな言語教育のあり方を探る	明石書店	1	4,620	
400	あたりまえを疑え！—臨床教育学入門—	新曜社	1	3,267	電子BOOK
401	ウイットゲンシュタインと教育—言語ゲームにおける生成と変容のダイナミズム—	大学教育出版	1	5,445	電子BOOK
402	ウイットゲンシュタインの教育学—後期哲学と「言語の限界」—	鹿島書院大学出版会	1	14,278	電子BOOK
403	キルケゴールの教育倫理学	大学教育出版	1	3,630	電子BOOK
404	ボリスとしての教育—教育的統治のアルケオロジー—	東京大学出版会	1	15,972	電子BOOK
405	ローティの教育論—ネオ・プラグマティズムからの提言—	八千代出版	1	5,324	電子BOOK
406	わかる・役立つ教育学入門（シリーズ大学生の学びをつくる）	大月書店	1	6,057	電子BOOK
407	教育の正義論—平等・公共性・統合—	勁草書房	1	10,164	電子BOOK
408	教育の倫理学（現代社会の倫理を考える 7）	丸善出版	1	4,598	電子BOOK
409	教育思想のポストモダン—戦後教育学を超えて—（教育思想双書 2-1）	勁草書房	1	9,922	電子BOOK
410	教育思想史で読む現代教育	勁草書房	1	12,826	電子BOOK
411	教育実践学—実践を支える理論—	大学教育出版	1	2,662	電子BOOK
412	教育探求の基礎	税務経理協会	1	8,107	電子BOOK
413	教育哲学	玉川大学出版部	1	8,591	電子BOOK
414	教育力としての言語—シュタイナー教育の原点—	勁草書房	1	7,018	電子BOOK
415	現代教育思想としての塩尻公明—人格主義の教育論—	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
416	最新教育原理	勁草書房	1	6,855	電子BOOK
417	災害と厄災の記憶を伝えるー教育学は何かできるのかー	勁草書房	1	13,915	電子BOOK
418	子どもと哲学をー問いから希望へー	勁草書房	1	7,865	電子BOOK
419	新しい教育通義	武蔵野美術大学出版局	1	8,712	電子BOOK
420	日本教育学の系譜ー吉田龍次・篠原助市・長田新・森昭ー	勁草書房	1	13,915	電子BOOK
421	入門臨床教育学ー課題を抱える子ども・親・教師への支援ー	学事出版	1	3,267	電子BOOK
422	臨床教育学の生成	玉川大学出版部	1	11,253	電子BOOK
423	ベダゴジーの社会学ーバーンステイン理論とその射程ー	学文社	1	10,164	電子BOOK
424	教育の大衆化は何をもたらしたかーフランス社会の階層と格差ー	勁草書房	1	12,342	電子BOOK
425	教育社会学事典	丸善出版	1	79,860	電子BOOK
426	教育臨床社会学の可能性	勁草書房	1	10,043	電子BOOK
427	座席行動の心理学ー着席位置をめぐる心理メカニズムの解明ー	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
428	生活保護世帯の子どもライフストーリーー貧困の世代的再生産ー	勁草書房	1	12,100	電子BOOK
429	半徑5メートルからの教育社会学(シリーズ大学生の学びをつくる)	大月書店	1	5,856	電子BOOK
430	勉強と居場所ー学校と家族の日韓比較ー	勁草書房	1	9,438	電子BOOK
431	教育心理学のための統計学ーテストでココロをはかるー(心理学のための統計学 4)	誠信書房	1	7,018	電子BOOK
432	教育心理学の新しいかたち(心理学の新しいかたち 7)	誠信書房	1	7,744	電子BOOK
433	教育臨床心理学ー愛・いやし・人権そして回復ー	東京大学出版会	1	9,825	電子BOOK
434	子どもたちは教室で何を学ぶのかー教育実践論から学習実践論へー	東京大学出版会	1	11,519	電子BOOK
435	自己と関わり創造学ーセルフスタディの教育研究ー第2版	大学教育出版	1	2,299	電子BOOK
436	超デジタル時代の「学び」ーいかにけん知の復権をめざしてー	新曜社	1	4,247	電子BOOK
437	発達と臨床援助の心理学(教育心理学 2)	東京大学出版会	1	9,825	電子BOOK
438	道徳教育の根拠を問うー大自然の摂理に学ぶー	学文社	1	7,623	電子BOOK
439	道徳教育の方法ー理論と実践ー(放送大学叢書 042)	左右社	1	6,050	電子BOOK
440	子どもの貧困に向きあえる学校づくりー地域のなかのスクールソーシャルワーカーー	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
441	多文化社会を生ききる子どもとスクールソーシャルワーカー	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
442	入門学校教育相談ー知っておくべき基礎基本と実際の対応ー	学事出版	1	3,267	電子BOOK
443	被災地の子どもへの心に寄り添うー臨床心理学からのアドバイスー(早稲田大学ブックレット:「震災後」を考える 12)	早稲田大学出版部	1	2,420	電子BOOK
444	子どもの社会的発達	東京大学出版会	1	9,486	電子BOOK
445	児童文化の中に見られる言語表現	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
446	アメリカ合衆国公立学校で宗教一般を教える際のガイドライン	学事出版	1	2,178	電子BOOK
447	フィンランド・イギリス・アメリカ教育の成功の秘密ー現場教師が見つけた学校再生の決め手ー	学事出版	1	3,448	電子BOOK
448	学校と社会の現代史(放送大学叢書 016)	左右社	1	6,050	電子BOOK
449	教員養成におけるべき地教育プログラムの研究	学事出版	1	5,445	電子BOOK
450	現代子どもの教育と福祉の法規事典	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
451	はじめての日本美術史	山川出版社	1	2,200	
452	天皇の美術史: 1 古代国家と仏教美術	吉川弘文館	1	3,850	
453	天皇の美術史: 3 乱世の王権と美術戦略	吉川弘文館	1	3,850	
454	天皇の美術史: 4 雅の近世、花開く宮廷絵画	吉川弘文館	1	3,850	
455	日本美術のことばと絵(角川選書 571)	KADOKAWA	1	1,980	
456	江戸の美術大図鑑	河出書房新社	1	5,280	
457	日本美術史の近代とその外部(放送大学教材)	放送大学教育振興会	1	3,410	
458	非常時のモダニズム: 1930年代帝国日本の美術	東京大学出版会	1	8,140	
459	明治、このフシギな時代: 2(新典社選書 84)	新典社	1	1,100	
460	演劇のジャポニズム(近代日本演劇の記憶と文化 5)	森話社	1	5,060	
461	地図で見る日本ハンドブック	原書房	1	3,080	
462	留学生のための日本事情入門: 1冊でわかる最新日本の総合的紹介, 改訂版	文理閣	1	2,200	
463	THIS IS JAPAN: 英国保守系Aが見た日本	太田出版	1	1,650	
464	異文化コミュニケーションのA to Z: 理論と実践の両面からわかる, 改訂版	研究社	1	2,530	
465	〈花〉の構造: 日本文化の基層(ミネルヴァ現代叢書 1)	ミネルヴァ書房	1	2,200	
466	大学生のための異文化・国際理解: 差異と多様性への誘い	丸善出版	1	2,420	
467	日本文化入門: その基層から美意識まで	武蔵野書院	1	2,530	
468	日本語: 文字と言葉がつづいた国(講談社選書メチエ 653)	講談社	1	1,650	
469	辺境の思想: 日本と香港から考える	文藝春秋	1	1,980	
470	明治・大正の日本論・中国論: 比較文化学的研究	勉誠出版	1	3,850	
471	ガンコ親父の教育論ー折れない子どもの育て方ー	三和書籍	1	5,445	電子BOOK
472	〈わたし〉の再構築と社会・生涯教育ーグローバル化・少子高齢社会そして大学ー	大学教育出版	1	4,235	電子BOOK
473	シリアスゲームー教育・社会に役立つデジタルゲームー	東京電機大学出版局	1	5,343	電子BOOK
474	よりよい親子関係を築くためにー成長の発達段階に応じた対応ー	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
475	家族の再生のために:(家庭は子どもの教育の原点)	勉誠出版	1	4,840	電子BOOK
476	家庭における人間形成ー子どもの自立を考えるー	勉誠出版	1	4,356	電子BOOK
477	近代日本公民教育思想と社会教育ー戦後公民館構想の思想構造ー	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
478	現代社会教育・生涯学習の諸相 第2巻: 現代編	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
479	社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
480	社会教育における防災教育の展開	大学教育出版	1	4,356	電子BOOK
481	社会教育福祉の諸相と課題ー欧米とアジアの比較研究ー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
482	協働型社会と地域生涯学習支援	法律文化社	1	17,908	電子BOOK
483	人が生きる社会と生涯学習ー弱くある私たちが結びつくことー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
484	世界の生涯学習ー現状と課題ー	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
485	生きることとしての学びー2010年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々ー	東京大学出版会	1	17,545	電子BOOK
486	生涯学習論入門 改訂版	法律文化社	1	6,050	電子BOOK
487	気になる子の本当の発達支援 新版(これからの保育シリーズ 3)	風鳴舎	1	6,776	電子BOOK
488	「はう運動あそび」で育つ子どもたち(河添理論の保育実践 パート2)	大月書店	1	4,259	電子BOOK
489	こうすればうまくいく!自閉症スペクトラムの子どもの保育ーイラストですぐにわかる対応法ー	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
490	障害児保育は「子ども理解」の場づくり	かもがわ出版	1	5,324	電子BOOK
491	生活とあそびで育つ子どもたち(河添理論の保育実践 [パート1])	大月書店	1	4,259	電子BOOK
492	エッセンシャル特別支援教育コーディネーター 第2版	大学教育出版	1	3,388	電子BOOK
493	学習障害「幼」児の学習意欲と遊び学習の支援ー三川村秀忠選集ー	慶應義塾大学出版会	1	9,292	電子BOOK
494	教師と子どもの共同による学びの創造ー特別支援教育の授業づくりと主体性ー	大学教育出版	1	2,420	電子BOOK
495	視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える	慶應義塾大学出版会	1	6,776	電子BOOK
496	視覚障害教育に携わる方のために 5訂版	慶應義塾大学出版会	1	10,164	電子BOOK
497	自閉症児の教育マニュアルー決定版ロヴァス法による行動分析治療ー	ダイヤモンド社	1	36,300	電子BOOK
498	障害の重い子どもの目標設定ガイドー授業における「学習到達度チェックリスト」の活用ー	慶應義塾大学出版会	1	3,388	電子BOOK

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
499	障害児と教育その心―肢体不自由教育を考える―	慶應義塾大学出版会	1	6,201	電子BOOK
500	障害児授業実践の教授学的研究	大学教育出版	1	5,566	電子BOOK
501	知的障害児の教育 第2版	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
502	東日本大震災と特別支援教育―共生社会にむけた防災教育を―	慶應義塾大学出版会	1	10,184	電子BOOK
503	特別支援教育の新たな展開(学習者の多様なニーズと教育政策 続)	勁草書房	1	8,470	電子BOOK
504	特別支援教育はいま(こころの科学 163)	日本評論社	1	4,148	電子BOOK
505	こうすればうまくいくADHDのある子どもの保育―イラストですぐにわかる対応法―	中央法規出版	1	3,872	電子BOOK
506	こうすればうまくいく知的障害のある子どもの保育―イラストですぐにわかる対応法―	中央法規出版	1	3,872	電子BOOK
507	創発の生命学: 生命が1ギガバイトから抜け出すための30章	青土社	1	2,420	
508	生物をシステムとして理解する: 細胞とラジオは同じ!? (共立スマートセレクション 27)	共立出版	1	1,980	
509	時をあやつる遺伝子(岩波科学ライブラリー 275)	岩波書店	1	1,430	
510	文科系のための遺伝子入門: よくわかる遺伝子テラシー	新曜社	1	1,540	
511	遺伝子: 親密なる人類史: 下	早川書房	1	2,750	
512	遺伝子: 親密なる人類史: 上	早川書房	1	2,750	
513	性の進化史: いまの染色体で何が起きているのか(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
514	「糖」が解き明かす人類進化の謎: なぜヒトの脳は大きくなったのか	日本評論社	1	1,870	
515	植物は(未来)を知っている: 9つの能力から芽生えるテクノロジー革命	NHK出版	1	2,200	
516	嗅覚はどう進化してきたか: 生き物たちの匂い世界(岩波科学ライブラリー 278)	岩波書店	1	1,540	
517	愛と分子: 惹かれあう二人のケミストリー	東京化学同人	1	1,850	
518	動物たちの内なる生活: 森林管理官が聴いた野生の声	早川書房	1	1,760	
519	「おしどり夫婦」ではない鳥たち(岩波科学ライブラリー 276)	岩波書店	1	1,320	
520	山極寿一×鎌田浩毅ゴリラと学ぶ: 家族の起源と人類の未来(MINERVA知の白熱講義 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
521	免疫の科学論: 偶然性と複雑性のゲーム	みすず書房	1	5,280	
522	授業力アップアクティブラーニング―グループ学習・IGT活用・PBL―	実教出版	1	6,050	電子BOOK
523	大学カリキュラムの再編成―これからの学士教育―	玉川大学出版部	1	9,880	電子BOOK
524	大学のカリキュラム改革(高等教育シリーズ 122)	玉川大学出版部	1	6,776	電子BOOK
525	キャリア教育論―仕事・学び・コミュニティ―	慶應義塾大学出版会	1	6,776	電子BOOK
526	学生時代にキャリア力を身につけよう(21世紀南山の経済学 8)	日本経済評論社	1	1,270	電子BOOK
527	実践キャリア考―体験からキャリアを考える―	実教出版	1	3,993	電子BOOK
528	大学生の職業意識とキャリア教育―will can must―	勁草書房	1	7,502	電子BOOK
529	大学1・2年生のためのすぐわかる中国語, 改訂版	東京図書	1	2,640	
530	大学2年生のための中国語, 第2版	慶應義塾大学出版会	1	1,540	
531	中日辞典, 第3版	小学館	1	8,250	
532	作家と楽しむ古典: 古事記 日本書紀 心経集 竹取物語 宇治拾遺物語 百人一首	河出書房新社	1	1,430	
533	作家と楽しむ古典: 土佐日記 埴中納言物語 枕草子 方丈記 徒然草	河出書房新社	1	1,540	
534	作家と楽しむ古典: 平家物語 能・狂言 説経節 義経千本桜	河出書房新社	1	1,650	
535	現代作家アーカイヴ: 自身の創作活動を語る: 1 高橋源一郎 古井由吉 瀬戸内寂聴	東京大学出版会	1	2,420	
536	現代作家アーカイヴ: 自身の創作活動を語る: 3 島田雅彦 林京子 黒井千次	東京大学出版会	1	2,420	
537	胃弱・痲癩・夏目漱石: 持病で読み解く文士の生涯(講談社選書メチエ 685)	講談社	1	2,090	
538	村上春樹語訳(ほとんど)全仕事	中央公論新社	1	1,650	
539	大佛次郎: 一代初心(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	3,520	
540	唐木順三: あめつちとともに(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	4,400	
541	保田與重郎: 吾ガ民族ノ永遠ヲ信ズル故ニ(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	4,400	
542	乱歩と正史: 人はなぜ死の夢を見るのか(講談社選書メチエ 655)	講談社	1	2,145	
543	漱石と日本の近代: 下(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
544	漱石と日本の近代: 上(新潮選書)	新潮社	1	1,430	
545	漱石辞典	翰林書房	1	8,580	
546	楠本人麻呂(人物叢書 新装版 通巻288)	吉川弘文館	1	2,310	
547	式子内親王: たえだえかかる雪の玉水(ミネルヴァ日本評伝選)	ミネルヴァ書房	1	3,850	
548	平家物語作中人物事典	東京堂出版	1	4,950	
549	家庭支援論, 第2版(基本保育シリーズ 13)	中央法規出版	1	2,200	
550	児童家庭福祉, 第2版(基本保育シリーズ 3)	中央法規出版	1	2,200	
551	保育実践と児童家庭福祉論	勁草書房	1	2,200	
552	経済学者、待機児童ゼロに挑む	新潮社	1	1,650	
553	東日本大震災・放射能災害下の保育: 福島の実態から保育の原点を考える	ミネルヴァ書房	1	3,850	
554	保育現場の子ども虐待対応マニュアル: 予防から発見・通告・支援のシステムづくり	中央法規出版	1	2,420	
555	保育小六法: Handy Compendium of Japanese Laws on ECCE, 2018	ミネルヴァ書房	1	1,760	
556	社会的養護, 第2版(基本保育シリーズ 6)	中央法規出版	1	2,200	
557	0歳からはじまるオランダの性教育	日本評論社	1	1,870	
558	0歳～6歳子どもの発達と保育の本, 第2版(Gakken保育Books)	学研プラス	1	1,870	
559	テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	ミネルヴァ書房	1	3,080	
560	記入に役立つ保育がわかる実習の記録と指導案: 0～5歳児年齢別実習完全サポート, 改訂新版	ひかりのくに	1	1,540	
561	最新保育資料集: 保育・幼児教育に関する法制と基本データ: 2018	ミネルヴァ書房	1	2,200	
562	子どもの心を育てる新保育論のために: 「保育する」営みをエピソードに綴る	ミネルヴァ書房	1	2,420	
563	子どもの豊かな育ちを支える保育者論	ミネルヴァ書房	1	3,080	
564	子どもの未来を育む保育・教育の実践知: 保育者・教師を目指すあなたに	北大路書房	1	2,530	
565	実習日誌の書き方: 幼稚園・保育所実習, 第2版	萌文書林	1	1,760	
566	保育と心理臨床をつなぐ: 保育者・心理職・保護者の協働をめざして	ミネルヴァ書房	1	2,750	
567	保育の仕事: 子どもの育ちをみつめて	金子書房	1	1,980	
568	保育園・認定こども園のための保育実習指導ガイドブック: 人を育てることは自分自身が育つこと	中央法規出版	1	2,420	
569	保育原理(新しい保育講座 1)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
570	保育原理, 第2版(基本保育シリーズ 1)	中央法規出版	1	2,200	
571	保育実習ガイドブック: 理論と実践をつなぐ12の扉	ミネルヴァ書房	1	2,420	
572	保育実習指導のミニマムスタンダード: 「協働」する保育士養成, Ver.2	中央法規出版	1	3,300	
573	保育者のための教育と福祉の事典, 改訂	建邦社	1	3,300	
574	保育者論(新しい保育講座 2)	ミネルヴァ書房	1	2,420	
575	保育者論, 第2版(基本保育シリーズ 7)	中央法規出版	1	2,200	
576	保育政策の国際比較: 子どもの貧困・不平等に世界の保育はどう向き合っているか	明石書店	1	3,520	
577	「子どもがケアする世界」をケアする: 保育における「二人称的アプローチ」入門	ミネルヴァ書房	1	2,420	
578	レゾ・アプローチ: 世界で最も注目される幼児教育	文藝春秋	1	1,705	
579	保育者のための子どもの「怒り」へのかわり方: アンガーマネジメントのテクニック	中央法規出版	1	1,760	
580	なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか: 子どもの豊かな育ちを保障するために	ミネルヴァ書房	1	3,850	
581	スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用: 子どもから出発する保育実践	新評論	1	2,640	

# 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
582	育み支え合う保育リーダーシップ: 協働的な学びを生み出すために	明石書店	1	2,640	
583	質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする: 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM	ミネルヴァ書房	1	2,860	
584	保育を語り合う「協働型」園内研修のすすめ: 組織の活性化と専門性の向上に向けて	中央法規出版	1	2,200	
585	保育環境における「境の場所」	ナカニシヤ出版	1	7,700	
586	(平成30年施行)保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント	ミネルヴァ書房	1	1,650	
587	10の姿プラス5・実践解説書:「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)と重要事項(プラス5)を見える化!	ひかりのくに	1	2,750	
588	3法令から読み解く乳幼児の教育・保育の未来: 現場で活かすヒント	中央法規出版	1	1,980	
589	保育所保育指針解説	フレーベル館	1	352	
590	保育内容総論 第2版 (基本保育シリーズ 15)	中央法規出版	1	2,200	
591	幼稚園教育要領解説	フレーベル館	1	264	
592	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説: 平成30年3月	フレーベル館	1	385	
593	保育をひらく造形表現 第2版	萌文書林	1	2,530	
594	「体を動かす遊びのための環境の質」評価スケール: 保育における乳幼児の運動発達を支えるために	明石書店	1	2,530	
595	保育と幼児期の運動あそび 第2版	萌文書林	1	2,200	
596	インクルーシブ保育における児童の社会的相互作用と保育者の役割: 誰がいの子どもとない子どもの差はどつち? (埼玉学園大学研究員会 第15巻)	福村出版	1	4,400	
597	エピソードで学ぶ子どもの発達と保護者支援: 発達障害・家族システム・障害受容から考える	明石書店	1	1,760	
598	よくわかる障害児保育 第2版 (やわらかアカデミズム・くわがる)シリーズ	ミネルヴァ書房	1	2,750	
599	多様性がいきるインクルーシブ保育: 対話と活動が生み出す豊かな実践に学ぶ	ミネルヴァ書房	1	2,420	
600	発達に気になる子どもの行動が変わる保育者のためのABI(活動に根ざした介入)実践事例集	福村出版	1	1,980	
601	発達に気になる子どもの療育・発達支援入門: 目の前の子どもから学べる専門家を目指して	金子書房	1	2,310	
602	知っておきたい気になる子どもの手先の器用さのアセスメント: PVT(指接テスト)の手引と検査用具 (乳幼児期における発達障害者の理解と支援 3)	ミネルヴァ書房	1	3,300	
603	子どもの食生活: 栄養・食育・保育 第3版	ななみ書房	1	2,640	
604	カナダ人権史: 多文化共生社会はこうして築かれた (世界歴史叢書)	明石書店	1	3,960	
605	人権入門: 憲法/人権/マイノリティ 第3版	法律文化社	1	2,310	
606	世界の人権保障	三省堂	1	2,860	
607	いちばんやさしい憲法入門 第5版 (有斐閣アルマ Interest)	有斐閣	1	1,760	
608	いま日本国憲法は: 原点からの検証 第6版	法律文化社	1	3,300	
609	プレステップ憲法 第2版 (PRE-STEP 17)	弘文堂	1	1,980	
610	ベーシックテキスト憲法 第3版	法律文化社	1	2,860	
611	基本憲法: 1 基本的人権	日本評論社	1	3,300	
612	憲法 第6版	日本評論社	1	4,180	
613	憲法 第7版 (新法学ライブラリ 2)	新世社	1	3,740	
614	憲法: 1 総論・統治 第2版 (LEGAL QUEST)	有斐閣	1	2,970	
615	憲法: 2 人権 第2版 (LEGAL QUEST)	有斐閣	1	3,190	
616	憲法: Japanese Constitutional Law 第3版	有斐閣	1	6,490	
617	憲法学読本 第3版	有斐閣	1	2,970	
618	憲法入門 6訂	勁草書房	1	1,980	
619	憲法判例: Constitutional Law: Cases and Comments 第8版	有斐閣	1	3,630	
620	事例問題から考える憲法: Rethinking Constitutional Law through Cases (法学教室LIBRARY)	有斐閣	1	2,420	
621	図録日本国憲法	弘文堂	1	2,530	
622	目で見る憲法 第5版	有斐閣	1	1,760	
623	立憲主義と日本国憲法: Constitutionalism and the Constitution of Japan 第4版	有斐閣	1	3,410	
624	歴史から読み解く日本国憲法 第2版	法律文化社	1	2,860	
625	自衛隊と憲法: これからの改憲論議のために (厚の教室-Liberal Arts Lab-)	晶文社	1	1,595	
626	■遊びの創造共育法 全7巻セット	玉川大学出版部	1	59,290	電子BOOK
627	学校文化の比較社会学 一日本とイギリスの中等教育一	東京大学出版会	1	10,527	電子BOOK
628	ユーキャンの園の行事なんでも大百科 二実例つき一 (U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	7,865	電子BOOK
629	ユーキャンの先輩保育者の教科書 (U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	3,630	電子BOOK
630	ユーキャンの保育者1年目の教科書 (U-CANの保育スマイルBOOKS)	ユーキャン	1	3,630	電子BOOK
631	「体験」が感性を育む造形あそび (これからの保育シリーズ 6)	風鳴舎	1	7,502	電子BOOK
632	絵本から広がる遊びの世界 一読みあう絵本一 (これからの保育シリーズ 4)	風鳴舎	1	7,986	電子BOOK
633	好奇心が育む学びの世界 二発見!実験!遊びの中のサイエンス一 (これからの保育シリーズ 5)	風鳴舎	1	7,986	電子BOOK
634	認定こども園がわかる本 (これからの保育シリーズ 2)	風鳴舎	1	7,139	電子BOOK
635	保育士・幼稚園教諭のための保護者支援 一保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援 新版(これからの保育シリーズ 1)	風鳴舎	1	6,776	電子BOOK
636	「遊びの保育」の必須アイテム (保育のなかの遊び論 part2)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
637	3法令から読み解く乳幼児の教育・保育の未来 一現場で活かすヒント一	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
638	こうすればうまくいく!医療的配慮の必要な子どもの保育 一30の病気の対応ポイントがわかる一	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
639	これからの保育と教育 一未来を見すえた人間形成一	八千代出版	1	4,356	電子BOOK
640	育ちあいの場づくり論 (子どもに学んだ和光の保育 希望編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
641	響きあういのちの躍動 (子どもに学んだ和光の保育 葛藤編)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
642	子どもの「遊び」を求めて 二保育実践を支えるリアルティとファンクシーの多層構造一 (敬愛大学学術叢書 14)	白桃書房	1	9,922	電子BOOK
643	子どもをあずかる人のための救命マニュアル	学研メディカル秀潤社	1	6,534	電子BOOK
644	子育て環境と子育て支援 二よい長時間保育のみわけかた一	勁草書房	1	8,712	電子BOOK
645	食をつなげる、食でつなげる 一八国山保育園の食一	新曜社	1	4,174	電子BOOK
646	保育の中の子ども達 二ともに歩む日々一	大学教育出版	1	2,178	電子BOOK
647	保育をゆたかに絵本でコミュニケーション	かがわ出版	1	4,840	電子BOOK
648	幼児教育のデザイン 二保育の生態学一	東京大学出版会	1	8,470	電子BOOK
649	エピソードでわかるクラス運営に役立つスキル (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
650	個性がキラリ0・1・2歳児の指導計画の立て方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
651	個性がキラリ3・4・5歳児の指導計画の立て方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
652	根拠がわかる私の保育終点検 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
653	子どもイキイキ園生活が充実する「すきま遊び」 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
654	自信がもてる育ちを支える食事の基本 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
655	失敗から学ぶ保護者とのコミュニケーション (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
656	写真で学ぶ保育現場のリスクマネジメント (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
657	保育の視点がわかる!観察にもとづく記録の書き方 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
658	遊びにつなぐ!場面から読み取る子どもの発達 (保育わかばbooks)	中央法規出版	1	4,356	電子BOOK
659	「気になる子」と言わない保育 一こんなときどうする?考え方と手立て一 (保育実践力アップシリーズ 1)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
660	記録を書かず書けない人 一楽しく書いて保育が変わるシナリオ型記録一 (保育実践力アップシリーズ 3)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
661	子どもとつながる子どもがつながる 二保育の目的・つけどころ・動・どころ一 (保育実践力アップシリーズ 2)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
662	1・2歳児の自己肯定感の土台を育む 一遊んで笑って育ちあう16人の物語一 (年齢別・保育研究)	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
663	AI時代に勝つ子・負ける子 (週刊東洋経済eビジネス新書 No.265)	東洋経済新報社	1	1,766	電子BOOK
664	おさなごころを科学する 二進化する乳幼児期一	新曜社	1	4,356	電子BOOK

## 内国書

No.	書名詳細	出版社	冊数	納品税込価格	備考
665	なるほど幼児教育 ―育児のために知っておきたいこと―	勉誠出版	1	4,356	電子BOOK
666	個性はどう育つか (大修館・ドルフィン・ボックス)	大修館書店	1	5,142	電子BOOK
667	子どもはテレビをどう見るか ―テレビ理解の心理学―	勁草書房	1	8,833	電子BOOK
668	赤ちゃんの心理学	日本評論社	1	7,986	電子BOOK
669	遊びのリアリティー ―事例から読み解く子どもの豊かさと奥深さ―	新曜社	1	4,356	電子BOOK
670	ふしぎの心をふくらませる (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年中編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
671	ふれる・感じる・気づく (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年少編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
672	冒険する・仲間と学びあう (『自然の教育』カリキュラム: けやの森学園幼稚園・保育園: いっぱいの感動と表現する喜び 年少編)	ひとなる書房	1	6,050	電子BOOK
673	ごっこ遊び ―自然・自我・保育実践―	ひとなる書房	1	7,260	電子BOOK
674	こどもがえがく・こどもがつくる (九州合研ブックレット: 保育っておもしろい!)	かもがわ出版	1	2,178	電子BOOK
675	絵は子どものメッセージ ―聴く楽しさ、響き合うよろこび―	かもがわ出版	1	4,840	電子BOOK
676	心おどる造形活動 ―幼稚園・保育園の保育者に求められるもの―	大学教育出版	1	2,904	電子BOOK
677	生きる力を育む自然の教育 ―幼児にいっぱいの感動と表現する喜びを―	ひとなる書房	1	4,840	電子BOOK
678	幼児の器械運動あそび	大学教育出版	1	1,936	電子BOOK
679	子どもの健康福祉指導ガイド	大学教育出版	1	1,815	電子BOOK
680	子どもの健康福祉指導ガイド 2	大学教育出版	1	1,452	電子BOOK
	合計		680	3,164,535	

外国書

No.	Title	出版社	冊数	納品税込価格
1	Supporting Children and Young People in Schools	Routledge	1	21,129
2	Statistics in Early Childhood and Primary Education	Springer Singapore	1	26,180
3	Understanding Education Research	Routledge	1	24,090
4	Handbook of Giftedness in Children	Springer International Publishing	1	37,950
5	Psychology for Teachers	Sage Pub.	1	17,237
6	Early Childhood Education and Change in Diverse Cultural Contexts	Routledge	1	23,100
7	Learning and Teaching Around the World	Routledge	1	21,175
8	Teaching and Learning for Intercultural Understanding	Routledge	1	21,175
9	The Wiley Handbook of Educational Policy	Wiley	1	29,810
10	Building Effective Professional Development in Elementary School	Routledge	1	19,195
11	Creating Your Dream Elementary Classroom from the Inside Out	Routledge	1	23,870
12	Learning to Teach in the Primary School	Routledge	1	23,870
13	School-based Partnerships in Teacher Education	Springer Singapore	1	19,294
14	Instructional Risk in Education	Routledge	1	21,208
15	Building Competence in School Consultation	Routledge	1	19,195
16	Home-School Relations	Springer Singapore	1	19,294
17	How to Develop Partnerships with Parents	Routledge	1	22,198
18	Academic Achievement Assessment	Springer Verlag	1	19,294
19	Developing Creativity and Curiosity Outdoors	Routledge	1	21,208
20	Contemporary Research and Perspectives on Early Childhood Mathematics Education	Springer International Publishing	1	19,294
21	Problem Solving in Primary Mathematics	Routledge	1	21,208
22	Keywords in the Social Studies	Peter Lang	1	3,091
23	The Wiley International Handbook of History Teaching and Learning	Wiley	1	29,810
24	Geography Education for Global Understanding	Springer International Publishing	1	15,851
25	Understanding and Teaching Primary Geography	Sage Pub.	1	13,255
26	Early Years Science Education	Routledge	1	23,100
27	World Music Pedagogy	Routledge	1	22,198
28	World Music Pedagogy	Routledge	1	22,198
29	Early Childhood Education Redefined	Routledge	1	21,208
30	Learning Theories for Early Years Practice	Sage Pub.	1	13,255
31	Nature and Young Children	Routledge	1	21,208
32	Reconsidering The Role of Play in Early Childhood	Routledge	1	23,226
33	Jumpstart! Assemblies	Routledge	1	26,400
34	Understanding Teaching and Learning in Primary Education	Sage Pub.	1	15,235
35	Transforming Perspectives in Lifelong Learning and Adult Education	Palgrave Macmillan	1	15,851
	合 計		35	736,860



## 視聴覚資料

NO	タイトル	出版社	本数	納入税込価格
1	国語科指導技術シリーズ「授業の効果を高める板書の工夫」全3巻	ジャパンライム株式会社	3	¥27,720
2	国語科指導技術シリーズ2「導入から課題作りへ」全4巻	ジャパンライム株式会社	4	¥38,016
3	子どものためのカウンセリング 全2巻	丸善出版株式会社	2	¥71,280
4	幼児の育ちと造形 全2巻	新宿スタジオ	2	¥59,400
5	主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチ 全4巻	新宿スタジオ	4	¥59,400
6	保育士・幼稚園教諭になるために 全3巻	新宿スタジオ	3	¥89,100
	合 計		18	¥344,916

# 備 品 一 覧

## 備 品 一 覧

階数	設置場所	備 品	数 量	備 考
本館1F	食堂(101)	椅子 6人用机 3人用机 4人用机 掛け時計 造花鉢 掲示板 キャスター付ホワイトボード 長机 モニターTV 絵画 写真額	228 33 5 3 2 4 4 1 2 2 3 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用  高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館1F	事務局(102)	片袖机 事務椅子 両袖机 カウンター カウンター収納 サイドテーブル 整理庫 ファクシミリ ファクシミリ台 ゼロックス レターケース タイムレコーダー 学生机 パソコン プリンター CDラジカセ 応接セット 時計 中央監視盤	12 15 2 13 12 8 1 1 1 1 2 1 2 7 2 8 1 1 1	高野山大学と共用   高野山大学と共用   高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館1F	入学支援課(103)	片袖机 脇机 回転椅子 書棚 保管庫 ホワイトボード 時計 ファイルキャビネット パソコン プリンター	5 1 5 1 1 1 1 1 1 4 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館1F	講師控室(104)	テーブル 椅子 更衣ロッカー 個人用ロッカー レターケース CDラジカセ PC コピー機	3 18 3 3 2 5 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館1F	応接室(106)	サイドボード ソファセット アームチェア	1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用



		回転椅子	17	高野山大学と共用
		文庫架	5	高野山大学と共用
		スチール製書架	109	高野山大学と共用
		大型書架	6	高野山大学と共用
		ビデオキャビネット	1	高野山大学と共用
		新聞書架	2	高野山大学と共用
		目録カード用ロッカー	31	高野山大学と共用
		植木鉢入	3	高野山大学と共用
		雑誌架(大)	4	高野山大学と共用
		雑誌架(小)	1	高野山大学と共用
		ステップ	2	高野山大学と共用
		丸椅子	6	高野山大学と共用
		加湿器	2	高野山大学と共用
		畳コーナー	1	高野山大学と共用
		(カウンター)		高野山大学と共用
		作業机	2	高野山大学と共用
		ブックトラック	3	高野山大学と共用
		ブックカート	1	高野山大学と共用
		肘掛け椅子	2	高野山大学と共用
		回転椅子	1	高野山大学と共用
		保管庫	3	高野山大学と共用
		パソコン	2	高野山大学と共用
		プリンター	2	高野山大学と共用
		机	1	高野山大学と共用
		CDチェンジャー	1	高野山大学と共用
		バーコードリーダー	2	高野山大学と共用
		加湿器	1	高野山大学と共用
		学生検索性PC	2	高野山大学と共用
		コピー機	1	高野山大学と共用
		(事務室)		高野山大学と共用
		事務机	3	高野山大学と共用
		長机	1	高野山大学と共用
		ロッカー	4	高野山大学と共用
		掃除用具用ロッカー	1	高野山大学と共用
		冷蔵庫	1	高野山大学と共用
		保管庫	1	高野山大学と共用
		脇机	1	高野山大学と共用
		テレビ	2	高野山大学と共用
		ビデオ	2	高野山大学と共用
		編集機	1	高野山大学と共用
		ラジカセ	3	高野山大学と共用
		保管庫(小)	1	高野山大学と共用
		TV台	1	高野山大学と共用
		椅子	4	高野山大学と共用
		流し台	1	高野山大学と共用
		(AVコーナー)		高野山大学と共用
		テレビ	7	高野山大学と共用
		ラジカセ	2	高野山大学と共用
		ビデオ	8	高野山大学と共用
		DVD	8	高野山大学と共用
		椅子	14	高野山大学と共用
		回転椅子	7	高野山大学と共用
		レーザーディスク	6	高野山大学と共用
		BSレコーダー	1	高野山大学と共用
		ヘッドホーン	16	高野山大学と共用
		長机	4	高野山大学と共用
本館2F	小講義室(202)	黒板	1	高野山大学と共用
		机	14	高野山大学と共用



		PC ピアノ	1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館3F	小講義室(303)	黒板 長机 椅子 テレビ DVD/VHSデッキ キャビネット 黒板消し 黒板消し クリーナー 時計 掲示版 教卓	1 18 54 1 1 1 3 1 1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
		ビデオプロジェクター PC	1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館3F	小講義室(304)	長机 椅子 黒板 黒板消し 教卓 時計	18 54 1 3 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
		DVD/VHSデッキ ビデオプロジェクター PC	1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館3F	小講義室(305)	長机 椅子 黒板 黒板消し 教卓 時計 掲示版	18 36 1 3 1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
		DVD/VHSデッキ ビデオプロジェクター PC	1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館3F	中講義室(306)	電子ピアノ ピアノ椅子 黒板 長机 椅子 ビデオ オーバーヘッドカメラ(OHC) スライド(TRV-35H) ワイヤレスマイク ワイヤレスマイク ピン型 黒板消し 時計	1 1 2 36 108 1 1 1 1 1 1 6 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
		DVD/VHSデッキ VHSデッキ スライド ビデオプロジェクター PC ピアノ	1 1 1 1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
		作業用机 指導作業用机 丸椅子 糸鋸板 エッチングプレス 色彩パネル	12 1 47 2 2 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用

		粘土作品乾燥棚	1	高野山大学と共用
		版画用具	1	高野山大学と共用
		陶器用焼き窯	1	高野山大学と共用
本館 4 F	調理実習室 (402)	バスタブ	8	高野山大学と共用
		沐浴人形	10	高野山大学と共用
		湯温計	11	高野山大学と共用
		体温計	10	高野山大学と共用
		血圧計	14	高野山大学と共用
		聴診器	10	高野山大学と共用
		洗面器	10	高野山大学と共用
		身長計	1	高野山大学と共用
		体重計	1	高野山大学と共用
		ストップウォッチ	10	高野山大学と共用
		メジャー	8	高野山大学と共用
		ベビーベット	1	高野山大学と共用
		湯タンポ	5	高野山大学と共用
		水枕	5	高野山大学と共用
		ベビー衣料一式	10	高野山大学と共用
		法定伝染病模型	1	高野山大学と共用
		トラコーマ・結膜炎模型	1	高野山大学と共用
		湿疹模型	1	高野山大学と共用
		小児ストロフルス模型	1	高野山大学と共用
		糞便診断模型	1	高野山大学と共用
		水痘模型	1	高野山大学と共用
		麻疹模型	1	高野山大学と共用
		調理台	9	高野山大学と共用
		冷蔵庫	2	高野山大学と共用
		食器ワゴンキャスター付	1	高野山大学と共用
		丸椅子	54	高野山大学と共用
		モニターテレビ	2	高野山大学と共用
		ビデオ	1	高野山大学と共用
		片袖机	1	高野山大学と共用
		肘付き回転椅子	1	高野山大学と共用
		ミキサー	1	高野山大学と共用
		炊飯器	3	高野山大学と共用
		洗濯機	1	高野山大学と共用
		消毒器	1	高野山大学と共用
		片手鍋 大	1	高野山大学と共用
		片手鍋 中	3	高野山大学と共用
		両手鍋	3	高野山大学と共用
		バット 大中小	3	高野山大学と共用
		ざる 大中小	3	高野山大学と共用
		ボール 大中小	3	高野山大学と共用
		だし取りざる	1	高野山大学と共用
		バット (盆)	1	高野山大学と共用
		ヤカン	1	高野山大学と共用
		すり鉢	1	高野山大学と共用
		はかり	1	高野山大学と共用
		食器かご	1	高野山大学と共用
		洗い桶	1	高野山大学と共用
		包丁	3	高野山大学と共用
		軽量カップ	1	高野山大学と共用
		軽量スプーン	1	高野山大学と共用
		缶切り	1	高野山大学と共用
		木杓子	2	高野山大学と共用
		木べら	2	高野山大学と共用
		スリコギ	1	高野山大学と共用
		ゴムベラ	1	高野山大学と共用









		パソコン収納机 ドットプリンター	4 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館6F	進路・就職活動準備室 (601)	長机 椅子 ホワイトボード	10 24 5	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館6F	演習室(605)	黒板 長机 パイプ椅子 キャスター付テレビ台 TV DVDデッキ	1 8 24 1 1 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館7F	学生相談室(701)	パソコン・セット 書架 ソファ ソファ機 回転椅子 両袖机 箱庭(砂入り) 箱庭療法(人形など)	1 5 1 1 1 1 1 500	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館7F	実習・キャリアサポート室2 (702)	テーブル 長机 ラック ロッカー 本棚	2 1 1 2 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館7F	実習・キャリアサポート室 (719)	事務机 ラック 本棚 プリンター PC 流し台	4 4 3 1 3 1	高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用 高野山大学と共用
本館7F	研究室 (703・704・705 706・707・708 709・710・711 712・713・714 715・716・717 718)	机 椅子 本棚 PC 電話	1 1 1 1 1	

※本館内全階、Wi-Fi完備



(内訳)

品名	規格	数量	単価	金額
1、YMLシステム設備				
1) 機器				
教授用楽器(椅子付)	CVP-805B	1	328,900	328,900
学生用楽器(椅子付)	CLP-635	24	184,800	4,435,200
MLアタッチメント	MLA-200	25	66,000	1,650,000
マイク付ヘッドホン	HPH-250M	25	16,500	412,500
ML用シグナルプロセッサ	改造MRX7-D	1	715,000	715,000
YMLコントローラー	特注品	1	990,000	990,000
給電式スイッチングHUB	28PORT	1	247,500	247,500
ディストリビューター	15A	1	44,000	44,000
機器収容架	30u	1	423,500	423,500
小計				9,246,600
			お値引き	665,280
小計				8,581,320
2) 設置工事部材				
UTPケーブル	STPケーブル	26	5,500	143,000
楽器固定金具		24	8,800	211,200
電源配線材		26	6,600	171,600
プロセッサカスタム仕様	特型	1	858,000	858,000
外部スピーカースイッチ	特型	25	33,000	825,000
消耗品雑材料		1	110,000	110,000
小計				2,318,800
3) 設置工事費				
機器組立ATT取付調整		25	11,000	275,000
床面加工及び機器固定費		25	26,400	660,000
通線及び端末調整費		26	8,800	228,800
電源配線調整		26	4,400	114,400
総合調整費(YMLセッティング込)		1	858,000	858,000
外部スピーカースイッチ基板改造費		25	5,500	137,500
小計				2,273,700
4) 楽器機器組立、工事部材工具搬入費、養生費等				715,000
5) 諸経費(出張・宿泊・交通費、レンタカー・燃料代等)				863,500
			計	14,752,320

機器、部材、工具搬入費:(楽器・特機チャーター便、工具・工事資材運送/搬出入、養生費等)  
諸経費:(出張・宿泊・交通費、車両費・燃料代、現場管理費、通信費等)

(内訳)

品名	規格	数量	単価	金額
2、映像システム設備				
1) 機器				
パワーアンプ	GX3	1	77,000	77,000
スピーカー	VX8 (ペア)	1	224,400	224,400
天吊り金具	VX8用金具	2	14,300	28,600
スイッチャー	MSD-702	1	517,000	517,000
50インチディスプレイ	TH-50EQ1J	2	220,000	440,000
23.8型ワイド液晶モニター	EX-LD2381DB	1	23,100	23,100
ブルーレイプレーヤー	DMP-BDT180-K	1	22,000	22,000
コンビネーションカメラ	PTC-400HD-A	1	170,500	170,500
リモートコントローラー	TB-CN4R1	1	143,000	143,000
資料提示装置	PX-10	1	275,000	275,000
延長送信4分配器	HDC-S200	1	132,000	132,000
HDMI延長器受信機	HDC-RH100-D	2	63,800	127,600
電源ディストリビューター	AV-P2803	1	71,500	71,500
特型入力パネル	HDMI,RCA,VGA,100v	1	88,000	88,000
カメラ埋込金具	EB400	1	16,500	16,500
ディスプレイ天吊り金具	FH-20	2	66,000	132,000
機器周辺補機類		1	330,000	330,000
小計				2,818,200
2) 設置工事部材				
ケーブル(制御・信号・HDMI)		1		440,000
端末処理		1		275,000
電源配線材		1		165,000
天井保持材、配線補助材、モール類		1		275,000
消耗品雑材料		1		220,000
小計				1,375,000
3) 設置工事費				
天井加工、機器据付、点検口取付		1		1,650,000
配線及び端末加工		1		1,377,200
電源配線調整・総合設定・調整費		1		550,000
小計				3,577,200
4) 機器組立、工事部材工具運搬費、養生費等				
		1		409,200
5) 諸経費(出張・宿泊・交通・車両費等)				
		1		572,000
計				8,751,600
合計				8,751,600

# 御見積書

高野山大学 御中 御中

御担当者 :

下記の通りお見積り申し上げます。

何卒ご用命の程、宜しくお願い申し上げます。

見積作成日 : 2020/02/25

見積番号 : M000126921-00

件名 : 令和2年度

納期 :

引渡場所 :

決済条件 : \_

見積有効期限 : 2020年6月末

合計金額 : ¥5,934,278-

--	--	--

No.	商品コード 型式 商品名	数量	単価	金額	備考
7	11490052 NFK-400L ケニス生物顕微鏡	41	43,200	1,771,200	在庫品
8	11500956 HS-LED-PC ケニス双眼実体顕微鏡	41	48,600	1,992,600	在庫品
5	11490850 DA-1 ケニス解剖顕微鏡	11	20,700	227,700	在庫品
1	11700779 E5-600T-ATZ モニタ付顕微鏡	1	178,200	178,200	在庫品
2	11360220 HH 取付型コルクポラー	1	52,200	52,200	在庫品
3	11370031 LN (天然/都市ガス) ガラス細工用バーナー	1	17,100	17,100	在庫品
4	11380762 NSGA (網入上・下段セット) ステンレス薬品庫	1	249,300	249,300	20日
5	11500423 KH-48TF 顕微鏡保管庫 (耐震固定具・除湿剤付)	1	178,200	178,200	在庫品
6	11630356 CLA-20K (20個組) 安全めがね (児童用)	2	13,320	26,640	在庫品
7	13470597 CL8 レンズクリーニングセット	1	1,980	1,980	在庫品
8	13390415 NDW ドライワゴン	1	46,800	46,800	在庫品
9	11390760 R-SSG3 (上・下段セット) 理科戸棚 (センター仕切板なし)	1	206,100	206,100	3日
10	11390710 G24S 理科戸棚 (上・下段セット)	1	211,500	211,500	3日
11	11500475 JKM (簡易スライサー式) 実習用簡易ミクロトーム	1	11,700	11,700	在庫品
12	11640180 TC ガラス管切	1	2,070	2,070	在庫品
13	11310012 300mL 丸底フラスコ (HARIO)	6	999	5,994	在庫品
14	11310030 300mL 三角フラスコ (HARIO)	6	675	4,050	在庫品
15	11310100 50mL ビーカー (HARIO)	12	387	4,644	在庫品
16	11310101 100mL ビーカー (HARIO)	12	360	4,320	在庫品

17	11310103	300mL ビーカー (HARIO)	12	504	6,048	在庫品
18	11310104	500mL ビーカー (HARIO)	6	756	4,536	在庫品
19	11310105	1000mL ビーカー (HARIO)	6	1,458	8,748	在庫品
20	11310165	B-16.5 (50本) 試験管 (マルエム)	1	3,150	3,150	在庫品
21	11310166	B-18 (50本) 試験管 (マルエム)	1	3,600	3,600	在庫品
22	11310428	60mL 茶色 スポイト瓶 S-60BB	6	522	3,132	在庫品
23	11310501	60mm ガラス製ロート	6	450	2,700	在庫品
24	11310519	60mmφ 活栓付ロート	6	2,610	15,660	在庫品
25	11310741	25L (10本組) ガラス攪拌棒	1	1,620	1,620	在庫品
26	11310783	85.5φ×20mm シャーレ (ペトリ皿) 90A	6	558	3,348	在庫品
27	11320026	S-7 (120mL 10個) スチロール棒瓶	1	2,250	2,250	在庫品
28	11320049	SB-5 石灰水採水びん	1	2,880	2,880	在庫品
29	11320273	120mm ハイスピードロート (ポリロート)	6	360	2,160	在庫品
30	11320311	R-300 300mmφ スチロール丸型水槽	6	1,152	6,912	在庫品
31	11530141	PW05BL 飼育ケース	2	2,880	5,760	在庫品
32	11330370	手札 ステンレス標準バット	6	585	3,510	在庫品
33	11350070	RW ロート台 (木製)	6	2,520	15,120	在庫品
34	11350181	TA 三脚台	6	720	4,320	在庫品
35	11350195	P-6 18mm 6本立 プラスチック試験管立	6	450	2,700	在庫品
36	17670808	2号 ビニール巻柄 全長340mm 瓶洗用ブラシ (両毛)	1	450	450	在庫品
37	17670817	ビニール巻柄 黒毛 馬毛 全長250mm 試験管用ブラシ	1	180	180	在庫品
38	11360090	No. 2 5mmφ×1穴 穴あき黒ゴム栓	3	117	351	在庫品
39	11360163	No. 2 (10個組) 赤ゴム栓	3	207	621	在庫品
40	11360165	No. 4 (10個組) 赤ゴム栓	3	270	810	在庫品
41	11360167	No. 6 (10個組) 赤ゴム栓	3	441	1,323	在庫品
42	11360400	3種組 薬さじ (ステンレス)	1	351	351	在庫品
43	11360441	木製 ガイド棒付き 試験管はさみ	6	252	1,512	在庫品
44	11360446	CT-18 並18cm トング (るつぼはさみ)	6	882	5,292	在庫品
45	11370060	15cm角 (10枚組) セラミック付金網	1	2,250	2,250	在庫品
46	11370086	AM アルコールランプ	6	1,260	7,560	在庫品
47	11380050	青 (500枚) リトマス試験紙	1	1,170	1,170	在庫品



48	11380051 赤 (500枚) リトマス試験紙	1	1,170	1,170	在庫品
49	11380288 No. 2 9cm 安積濾紙 定性ろ紙 (1箱100枚入)	1	414	414	在庫品
50	11380291 No. 2 15cm 安積濾紙 定性ろ紙 (1箱100枚入)	1	828	828	在庫品
51	33210782 水縁磨 1202 (100枚) スライドガラス (武藤化学製)	1	783	783	在庫品
52	13210790 1818 (200枚組) カバーガラス (武藤化学製)	1	756	756	在庫品
53	11030191 2mL (10入) R-2 駒込ピペット (赤乳豆付)	2	2,430	4,860	在庫品
54	11030192 5mL (10入) R-5 駒込ピペット (赤乳豆付)	2	3,420	6,840	在庫品
55	11640400 251-01 発泡スチロールカッター	1	1,485	1,485	在庫品
56	11660820 ポスタータイプ 小学校理科実験安全指導図集	1	7,200	7,200	4日
57	11030015 100mL ガラス製メスシリンダー	6	1,755	10,530	在庫品
58	11030016 200mL ガラス製メスシリンダー	6	2,160	12,960	在庫品
59	11030018 500mL ガラス製メスシリンダー	1	4,050	4,050	在庫品
60	11030019 1000mL ガラス製メスシリンダー	1	8,640	8,640	在庫品
61	11260674 2% 1L 希釈済試薬 うすいアンモニア水	1	1,440	1,440	在庫品
62	11260153 1kg 実験用試薬 塩化ナトリウム (食塩)	1	495	495	在庫品
63	11260154 100g ものの溶け方用コーヒーシュガー	1	495	495	在庫品
64	11260157 食用色素 (赤色) 50g 実験用試薬	1	4,770	4,770	7日
65	11260465 480mL 濃縮食塩水 (飽和食塩水)	1	585	585	在庫品
66	1SE-10 500g 石灰石 (大理石)	1	2,025	2,025	在庫品
67	1NI-6 500g 二酸化マンガン (粒状)	1	2,700	2,700	7日
68	11260256 500g 実験用試薬 沸騰石	1	3,420	3,420	在庫品
69	11260160 BTB溶液500mL 実験用試薬	1	2,880	2,880	在庫品
70	11260158 ほう酸500g 実験用試薬	1	1,620	1,620	在庫品
71	11260672 4% 1L 希釈済試薬 うすい硫酸	1	1,530	1,530	在庫品

--

小計	5,394,798	
消費税	539,480	
合計	5,934,278	

# 御見積書

高野山大学 御中 御中

御担当者 :

下記の通りお見積り申し上げます。

何卒ご用命の程、宜しくお願ひ申し上げます。

見積作成日 : 2020/02/25

見積番号 : M000126907-00

件名 : 令和3年度

納期 :

引渡場所 :

決済条件 : \_

見積有効期限 : 2020年6月末

合計金額 : ¥4,616,825-

--	--	--

No.	商品コード 型式 商品名	数量	単価	金額	備考
1	11370093 着火の鉄人 ガスライター	11	567	6,237	在庫品
2	11310446 500ml (ガラス丸フタ付) 底なし集气瓶	11	1,530	16,830	在庫品
3	11310481 500ml 集气瓶 (フタなし)	11	990	10,890	在庫品
4	11360390 A (5本組) フタ付燃焼さじ	3	3,420	10,260	在庫品
5	11360420 NC (オス・メス1組) 燃焼さじ	11	504	5,544	在庫品
6	11260446 (木製100x100mm) ろうそく台	11	540	5,940	在庫品
7	11650270 GV-50-2S 気体採取器	21	11,700	245,700	在庫品
8	11650115 2EL 気体検知管 二酸化炭素	10	1,530	15,300	在庫品
9	11650116 2EH 気体検知管 二酸化炭素	10	1,530	15,300	在庫品
10	11650272 31E-2 気体検知管 (ガス検知管) 酸素	20	1,242	24,840	在庫品
11	11260676 1L 希釈済試薬 石灰水	1	1,440	1,440	在庫品
12	11260495 酸素 5L (20本組) 実験用ガス	2	10,350	20,700	在庫品
13	11260496 窒素 5L (20本組) 実験用ガス	2	10,800	21,600	在庫品
14	11260497 二酸化炭素 5L (20本組) 実験用ガス	2	10,800	21,600	在庫品
15	11640600 GOCD-1 教材用デジタル気体測定器	11	49,500	544,500	在庫品
16	11260190 No. 000 (極細) スチールウール	1	2,070	2,070	在庫品
17	11500700 DK 道管観察実験セット	11	3,510	38,610	3日
18	11540920 TS-2 (木づち付) たたき染めセット	11	3,240	35,640	在庫品
19	11260156 よう素液1/10N 500mL 実験用試薬	1	2,070	2,070	在庫品

20	11260155	でんぶん500g 実験用試薬	1	1,710	1,710	在庫品
21	11600470	RP (肺の構造模型) 呼吸器模型	1	44,100	44,100	30日
22	11600385	MD 呼吸モデル実験器	1	16,200	16,200	在庫品
23	11600350	HL 心臓の構造模型	1	67,500	67,500	在庫品
24	11170420	PA 児童用聴診器	11	1,170	12,870	在庫品
25	11630005	MAB 心音器	1	52,200	52,200	在庫品
26	11600176	AL-16S (ケース付) 人体解剖模型 (トルソー型)	1	162,000	162,000	照会
27	11370778	ツインpH22B コンパクトpHメーター LAQUA	11	25,200	277,200	在庫品
28	11260670	4% 1L 希釈済試薬 うすい塩酸	1	1,350	1,350	在庫品
29	11260675	4% 1L 希釈済試薬 うすい水酸化ナトリウム	1	1,350	1,350	在庫品
30	11260160	BTB溶液500mL 実験用試薬	1	2,880	2,880	在庫品
31	11380025	UNIV (ユニバーサル) pH試験紙 ロールタイプ	11	1,620	17,820	在庫品
32	11330010	N-09 90mm 磁製乳鉢 (乳棒付)	11	621	6,831	在庫品
33	11150062	OB 三脚付強カランプ	1	15,750	15,750	在庫品
34	11410105	HKJS 月の満ち欠け説明器	1	35,820	35,820	在庫品
35	11410080	SA 三球儀	1	80,100	80,100	在庫品
36	11400500	ポルタIIA80Mf ビクセン天体望遠鏡	1	49,500	49,500	5日
37	11410025	TL-1 透視天球儀	1	35,100	35,100	在庫品
38	11410681	TDL-SET 大型地層のでき方実験器	11	27,900	306,900	在庫品
39	11410725	KM 火山地質模型	1	37,800	37,800	30日
40	11470015	1ORK 火成岩標本 (研磨) プレパラート写真付	1	19,800	19,800	在庫品
41	11470055	3RK たい積岩標本 (研磨・小学校用)	11	6,480	71,280	在庫品
42	11470115	宮崎県新燃岳 実習用火山灰	1	1,440	1,440	在庫品
43	31360716	150S (ステンレス製) 土壤ふるい	3	40,050	120,150	3日
44	11330037	90mmφ 蒸発皿 (丸底)	11	612	6,732	在庫品
45	11410790	MV 地層模型	1	32,400	32,400	30日
46	11470645	20F 動物化石標本	11	33,300	366,300	在庫品
47	11410580	ZHS 地震発生説明器	1	21,600	21,600	在庫品
48	11100101	マイテコ (おもり付) てこのはたらき体験セット	11	16,020	176,220	在庫品
49	11690501	NEP-02 てこのはたらき (説明ボード)	1	20,700	20,700	14日
50	11100010	CAS 実験用てこ (収納式)	11	14,400	158,400	在庫品

51	11100170 AH 輪軸	1	10,800	10,800	在庫品
52	11200485 PDH (基本セット) 電気の利用実験器	21	22,500	472,500	在庫品
53	11090130 基本2種セット (明るさ・GPIO) 電気の利用プログラミングセット (MESH対応)	21	20,520	430,920	在庫品
54	11230455 HG (青ハンドル) 手回し発電機	11	1,620	17,820	在庫品

--

小計	4,197,114	
消費税	419,711	
合計	4,616,825	

# 御見積書

高野山大学 御中 御中

見積作成日 : 2020/02/25

御担当者 :

見積番号 : M000126917-00

下記の通りお見積り申し上げます。

何卒ご用命の程、宜しく願い申し上げます。

件名 : 令和4年度

納期 :

引渡場所 :

決済条件 : -

見積有効期限 : 2020年6月末

合計金額 : ¥4,615,509-

--	--	--

No.	商品コード 型式 商品名	数量	単価	金額	備考
1	11540322 P-50 プラスチック枠ルーペ	21	324	6,804	在庫品
2	11540565 BL-004 観察カップ	21	315	6,615	在庫品
3	11530330 すくすく 園芸用具セット	4	19,800	79,200	在庫品
4	11530145 PW-02BL 飼育ケース	6	675	4,050	在庫品
5	11590200 KH-5 コン虫発育順序模型	1	41,400	41,400	30日
6	11100520 HA 送風機(整風板付)	11	8,820	97,020	在庫品
7	11020069 S-10 測量用巻尺	11	2,565	28,215	在庫品
8	11510191 T2-2K 捕虫網	5	7,740	38,700	10日
9	11100720 10セット ウインドカー工作セット	4	5,400	21,600	在庫品
10	11410281 SF-10K(10枚組) しゃ光板	4	17,100	68,400	在庫品
11	11410420 HSC 日時計実験器	11	2,610	28,710	在庫品
12	11180195 NH 小学校用方位針	21	612	12,852	在庫品
13	11070017 -20~105℃ アルコール温度計	10	252	2,520	在庫品
14	11170355 IDO 糸電話実験セット	5	5,400	27,000	在庫品
15	11170345 JKT 実験用たいこセット	11	16,200	178,200	在庫品
16	11150400 HJK 光の反射実験セット	11	8,550	94,050	在庫品
17	11070222 PC-8400II ポケット放射温度計	11	5,940	65,340	在庫品
18	11150218 LX-1108 デジタル照度計	11	20,700	227,700	在庫品
19	11150311 M-2 平面鏡(テーブルミラー)	21	1,620	34,020	在庫品

20	11230420 S (10個組) 乾電池ホルダ	2	4,500	9,000	在庫品
21	11240047 A リード線2.4cm付 (10個) 豆球ソケット	2	594	1,188	在庫品
22	11240078 2.5V 0.3A (50個組) 豆球	1	1,710	1,710	在庫品
23	11230578 みの虫・みの虫(小) 赤 10本組 リード線	2	1,710	3,420	在庫品
24	11230579 みの虫・みの虫(小) 黒 10本組 リード線	2	1,710	3,420	在庫品
25	11200749 R-2-K 電気を通すもの通さないもの実験器	11	12,420	136,620	在庫品
26	11180011 SA-18 180×18×6mm 角棒磁石 (2本組)	11	2,700	29,700	在庫品
27	11180097 UK U型磁石	11	2,520	27,720	在庫品
28	11050952 KS-513WT デジタルスケール	11	3,600	39,600	在庫品
29	11040977 S-2 自動上皿秤	11	7,200	79,200	7日
30	11050023 PM-2KC (2個組収納ケース付) 実習用上皿天秤	3	10,800	32,400	在庫品
31	11100265 6S 物の重さ比較素材セット	11	5,400	59,400	在庫品
32	11080048 MG 簡易検流計	11	7,650	84,150	在庫品
33	11160025 H-4 光電池学習セット	11	17,820	196,020	在庫品
34	11240119 イッツア スモールワールド 電子オルゴール	21	351	7,371	在庫品
35	11160381 C-500 光電池	21	1,170	24,570	在庫品
36	11200360 DG-1 演示用電気学習セット	1	27,000	27,000	在庫品
37	11420035 75T-S 百葉箱	1	257,400	257,400	3日
38	11420551 7230-00 シグマII型記録温度計	1	53,820	53,820	在庫品
39	31420640 SH 最高最低温度計(水銀式)	1	2,565	2,565	在庫品
40	11420760 SK-1 乾湿計	1	1,395	1,395	在庫品
41	11420250 RB 風向風速計	1	55,800	55,800	在庫品
42	11410175 スターディスク 星座早見盤	21	1,080	22,680	在庫品
43	11400335 アスコット ZR8×32WP ビクセン双眼鏡	11	19,800	217,800	5日
44	11410324 WPS-3 天体投影機	1	346,500	346,500	3日
45	11130250 HP ハンディ排圧ポンプ(簡易真空ポンプ)	1	16,650	16,650	在庫品
46	11130515 AW 空気と水の圧縮実験セット(10人分)	2	6,210	12,420	在庫品
47	11130295 A400(製作キットのみ) ペットボトルロケット	2	6,120	12,240	在庫品
48	11600075 XRAY-100 人体レントゲン写真セット	1	14,400	14,400	在庫品
49	11600090 MT-40 人体骨格模型	11	3,510	38,610	在庫品
50	11600775 ALKT 骨と筋肉の動き実験器	1	31,500	31,500	在庫品

51	11600745 AKH 骨と筋肉の動き実験器	11	7,650	84,150	在庫品
52	11600177 HS-LL 人体骨格模型 (格納ケース付)	1	164,700	164,700	照会
53	11130523 (丸底フラスコ付) HPS 発ぼうポリスチレン栓	11	1,782	19,602	在庫品
54	11140095 TV ものの体積と温度実験セット	11	3,420	37,620	在庫品
55	11140150 BR 金属球膨張試験器	1	8,550	8,550	在庫品
56	11140165 IV 生徒球膨張試験器	10	3,780	37,800	在庫品
57	11340970 HST 鉄製スタンド (固定タイプ)	11	25,200	277,200	在庫品
58	11360980 GS-2000 ポンベ無 理科実験用ガスコンロ	11	6,660	73,260	在庫品
59	11360986 2本組 小型ポンベ (液化ブタン 120g)	20	675	13,500	在庫品
60	11140221 TR-50 (25枚入) サーモテープ	2	4,050	8,100	在庫品
61	11140069 NT 熱の伝わり方実験板	11	4,050	44,550	在庫品
62	11370085 AG アルコールランプ	11	1,440	15,840	在庫品
63	11350055 CR フレキシブルスタンド	11	7,740	85,140	在庫品
64	11370141 HP 電熱器	11	5,220	57,420	在庫品
65	11410675 AS 雨水の浸み込み方観察器	11	16,200	178,200	在庫品
66	11140095 TV ものの体積と温度実験セット	11	3,420	37,620	在庫品
67	11550273 W352-ESK 実験用冷蔵庫 (デジタル温度計付)	1	144,000	144,000	4日

--

小計	4,195,917	
消費税	419,592	
合計	4,615,509	

2020年度 高野山大学文学部教育学科体育用備品 お見積り

(お見積り金額は消費税10%を含みます。お見積りの有効期間は令和2年6月30日です。)

備品名	品番	単価 (税込)	数量	計 (税込)
ゼット 木製跳び箱 (中・小向)	Z T 5 7 0 2	110,000	2	220,000
〃 送料				6,820
吉田体機 跳躍板	S P 2 D A	45,760	2	91,520
〃 送料				3,300
ゼット ソフト平均台	Z M 7 0 0 1	51,040	2	102,080
〃 送料				11,880
ゼット 移動式低鉄棒	Z A 1 1 0 0	119,680	2	239,360
〃 送料				15,180
〃 組み立て費				8,800
ライト 逆上がり補助板ワイド600A	T 1 7 8 4	50,820	2	101,640
ゼット ノンスリップマット6mm	Z M 6 0 2 1	26,620	5	133,100
ルイ高 ミニサッカーゴール折りたたみ式	R T - F 0 1 0 9 6 3	231,440	1 対	231,440
〃 送料				12,100
〃 組み立て費				17,600
ルイ高 デジログスコアボード45分計付	R T - S 1 8 0 9 0 4	1,232,000	1	1,232,000
〃 チャーター便				88,000
〃 組み立て費				26,400
ルイ高 テニスポスト屋上用	R T - T 0 7 0 3 3 0	545,600	1	545,600
〃 送料				7,700
〃 組み立て費				35,200
〃 専用ネット (加工代共)	R T - N 1 6 0 1 0 5	58,300	1	58,300
ルイ高 テニス審判台	R T - T 0 7 0 4 2 1	317,900	1	317,900
ルイ高 テニス審判台日除け	R T - T 0 7 0 4 9 0		1	
ルイ高 テニス審判台記録台	R T - T 0 7 1 4 9 1		1	
〃 送料				16,500
〃 組み立て費				17,600
ルイ高 バスケットゴール	R T - B 0 6 2 9 2 3	192,500	2	385,000
〃 送料				33,000
〃 組み立て費				70,400
ルイ高 バスケットゴール専用ウエイト	R T - B 0 6 0 9 3 1	2,805	10	28,050
〃 送料				16,500

2020年度体育用備品お見積り合計金額

¥4,072,970 (税込)

令和2年3月8日



## 2021年度 高野山大学文学部教育学科体育用備品 お見積り

(お見積り金額は消費税10%を含みます。お見積りの有効期間は令和2年6月30日までです。)

備品名	品番	単価 (税込)	数量	計 (税込)
ライト ノーパンクー輪車20	T2498	14,850	5	74,250
〃 一輪車ラック	T2838	39,600	1	39,600
一輪車・ラック 送料				4,400
〃 組み立て費				17,600
ライト 綱引きロープ36-50m	B2005	66,000	1	66,000
〃 巻き取り器	B4685	42,900	1	42,900
綱引きロープ・巻き取り器 送料				5,500
エバニュー 卓球台AVE-25N	EKD606	195,800	2	391,600
〃 送料				19,800
〃 組み立て搬入費				17,600
吉田体機 跳び箱運搬車	GM-23(3)	114,400	1	114,400
〃 送料				14,300
吉田体機 トランポリン	TP-208(B)	580,800	1	580,800
〃 送料				27,500
〃 組み立て費				93,500
吉田体機 ウレタンマット3つ折	7233	167,200	1	167,200
〃 送料・搬入費				26,400
吉田体機 バスケットゴール室内用	BS-5(A)	352,000	1対	352,000
〃 搬入・組み立て費				121,000
カワイ パラバルーン 8m	M-6	99,000	1	99,000
〃 送料				2,200
ライト カラー竹馬スライド式185	T2482	4,180	10	41,800
竹馬整理台30	T1757	31,900	2	63,800
竹馬・整理台 送料				1,430
〃 組み立て費				17,600
ルイ高 ミスティオアイス	RT-M321601	279,400	1	279,400
〃 送料				5,500

2021年度体育用備品お見積り合計金額

¥2,687,080 (税込)

令和2年3月8日

## 2022年度 高野山大学文学部教育学科体育用備品 お見積り

(お見積り金額は消費税10%を含みます。お見積りの有効期間は令和2年6月30日です。)

備品名	品番	単価 (税込)	数量	計 (税込)
エバニュー ミラーホワイトボード	EKK077	124,300	2	248,600
〃 送料				7,370
ゼット 木製跳び箱 (中・小向)	ZT5702	110,000	2	220,000
〃 送料				6,820
吉田体機 跳躍板	SP2DA	45,760	2	91,520
〃 送料				3,300
ゼット ソフト平均台	ZM7001	51,040	2	102,080
〃 送料				11,880
ゼット 移動式低鉄棒	ZA1100	119,680	2	239,360
〃 送料				15,180
〃 組み立て費				8,800
ライト 逆上がり補助板ワイド600A	T1784	50,820	2	101,640
ライト ノーパンク一輪車20	T2498	14,850	5	74,250
〃 一輪車ラック	T2838	39,600	1	39,600
一輪車・ラック 送料				4,400
〃 組み立て費				17,600
ライト カラー竹馬スライド式185	T2482	4,180	10	41,800
竹馬整理台30	T1757	31,900	1	31,900
竹馬・整理台 送料				1,430
〃 組み立て費				8,800
エバニュー 卓球台AVE-25N	EKD606	195,800	2	391,600
〃 送料				19,800
〃 組み立て搬入費				17,600
ゼット ノンスリップマット6mm	ZM6021	26,620	5	133,100
吉田体機 ウレタンマット3つ折	7233	167,200	2	334,400
〃 送料・搬入費				26,400
吉田体機 ウレタンマット3つ折	7233	167,200	2	334,400
〃 送料・搬入費				26,400
吉田体機 ウレタンマット3つ折	7233	167,200	2	334,400
〃 送料・搬入費				26,400

2022年度体育用備品お見積り合計金額

¥2,920,830 (税込)

令和2年3月8日

# 御 見 積 書

## 高野山大学 御中

下記の通り御見積申し上げます。  
何卒ご用命いただきますようお願いいたします。

件 名 : 大阪千代田短期大学内高野山大学学生用 什器

合計金額 **¥ 3, 375, 680 -**

受渡場所 : 大阪府河内長野市小山田町1685

受渡期日 : ご発注後、約3～4週間程度

御支払条件 : 月末締翌月末御振込

見積有効期限 : 2020年6月末

### 【御見積条件】

・配送エリア指定日、平日、昼間(9:00～17:00)の納品時間での御見積となります。(それ以外での納品日指定は別途御見積とします。)

又、標準施工時間内での作業見積と致します。

・土日、祝日、夜間での納品は別途御見積致します。(御発注後、手配変更になった場合も同様です)

・I F、平場又はE V使用可能である事を条件とします。手揚げ搬入、手降ろしでの搬入、搬出は別途御見積となります。

・事前連絡が無く、当日現地で手揚げ等追加作業が発生した場合は、別途御請求させていただきます。

・事前連絡が無く、当日現地で不用品の搬出の御申し出があっても承れない場合があります。

・上記不用品の搬出をお受けする場合は移動、搬出、運送費は有償となります。また、お引取りのみの御申し出は承れません。

・カタログ更新及び本体価格改訂に依り御見積単価が変動したり、商品生産が中止になる場合がございます。

・養生費は含んでおりませんので、養生が必要な場合は事前に御連絡下さい。別途御見積致します。

・今後打ち合わせに依って御見積内容に変更があった場合は増減精算させていただきます。

--	--	--





指摘を受けて修正したシラバス

- ・ 理科内容論
- ・ 生活科内容論
- ・ 音楽科内容論
- ・ 初等英語科内容論
- ・ 国語科指導法
- ・ 理科指導法
- ・ 生活科指導法
- ・ 音楽科指導法
- ・ 体育科指導法
- ・ 幼児と健康
- ・ 幼児と環境
- ・ 幼児と表現
- ・ 保育内容の指導法(健康)
- ・ 保育内容の指導法(環境)
- ・ 保育内容の指導法(音楽表現)

## (新旧対照表)シラバス「理科内容論」

新		
授業科目名： 理科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： <u>児島昌雄</u> 担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ)小学校理科授業の内容と教育方法についての理解を深め、理科の授業の基礎となる科学的知識を身につけると共に、授業の構成力を身に付ける。</p> <p>(到達目標)</p> <p>1)小学校学習指導要領に定められた、理科の「目的・内容」を理解することができる。</p> <p>2)小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。</p> <p>3)模擬授業を体験し、「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の実践的な授業構成ができるように学習する。また、それに基づいて学生が主体的に関わって模擬授業を体験し、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察</p> <p>第2回：小学校3年生理科「風とゴムの力の働き」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第3回：小学校3年生理科「身の回りの生物」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第4回：小学校4年生理科「月と星」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第5回：小学校4年生理科「空気と水の性質」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第6回：小学校4年生理科「季節と生物」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第7回：小学校4年生理科「電流の働き」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第8回：小学校5年生理科「天気の変化」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第9回：小学校5年生理科「植物の発芽、成長、結実」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第10回：小学校5年生理科「天気の変化」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第11回：小学校6年生理科「月と星」内容理解とねらい 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第12回：小学校6年生理科「てこの規則性」内容理解とねらい</p>		

予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認

復習：ワークシートの考察課題

第13回：方向目標と到達目標

予習：各単元の内容がどこに向かうか

復習：単元ごとの方向目標の作成

第14回：理科内容における小中連携を検討する

予習：小・中学校学習指導要領の内容の関連を調べる

復習：小学校理科の内容を整理する

第15回：授業のまとめと全体討論

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

・「シリーズ日本型理科教育 第2巻 『子ども』はどう考えているか-とらえやすい自然認識と化学概念-」 日置光久・星野昌治(編) 東洋館出版社 2007年

・「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定2版」 松原静郎・岩間淳子(編) オーム社 2018年

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、課題作成：30%、定期試験：50%



授業科目名： 理科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)小学校理科授業の内容と教育方法方についての理解を深め、理科の授業を実施できる知識技能を習得すると共に、授業の構成力を身に付ける。 (到達目標) 1)小学校学習指導要領に定められた、理科の「内容」を理解することができる。 2)小学校理科の内容の基礎となる科学的知識を身に付ける。 3)模擬授業を体験し、「主体的・対話的で深い学び」を理解し、指導することができる。		
授業の概要 小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の実践的な授業構成ができるように学習する。また、それに基づいて学生が主体的に関わって模擬授業を体験し、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。		
授業計画 第1回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察 第2回：小学校3年生理科「風とゴムの力の働き」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第3回：小学校3年生理科「身の回りの生物」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第4回：小学校4年生理科「月と星」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第5回：小学校4年生理科「空気と水の性質」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第6回：小学校4年生理科「季節と生物」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第7回：小学校4年生理科「電流の働き」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第8回：小学校5年生理科「天気の変化」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第9回：小学校5年生理科「植物の発芽、成長、結実」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第10回：小学校5年生理科「天気の変化」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第11回：小学校6年生理科「月と星」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：ワークシートの考察課題 第12回：小学校6年生理科「てこの規則性」内容理解と授業方法 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認		

<p>復習：ワークシートの考察課題</p> <p>第13回：<u>指導案作成方法・情報機器を授業に活かす手法</u></p> <p>予習：<u>模擬授業で行う単元の発掘</u></p> <p>復習：<u>指導案作成</u></p> <p>第14回：<u>グループワークによる模擬授業準備</u></p> <p>予習：<u>指導案の確認</u></p> <p>復習：<u>指導案の見直し</u></p> <p>第15回：<u>グループワークによる模擬授業</u></p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編」</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・「シリーズ日本型理科教育 第2巻 『子ども』はどう考えているか-とらえやすい自然認識と化学概念-」 日置光久・星野昌治(編) 東洋館出版社 2007年</p> <p>・「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定2版」 松原静郎・岩間淳子(編) オーム社 2018年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>講義への関心・意欲・態度：20%、<u>指導案</u>：20%、<u>模擬授業</u>：20%、<u>定期試験</u>：40%</p>

## (新旧対照表)シラバス「生活科内容論」

新		
授業科目名： 生活科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文
		担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)小学校生活科のねらいや内容等に関する基礎的な知識を習得する。 (到達目標) 1)生活科創設の意味、ねらいについて理解することができる。 2)新学習指導要領における生活科の改定趣旨と目標について理解することができる。 3)学習指導要領における生活科の学年の内容と目標について理解することができる。 4)年間指導計画の作成および指導案の作成ができる。		
授業の概要 新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。生活科の考えやその内容構成の考え方について理解し、 <u>生活科を学ぶ意義を理解する。</u>		
授業計画 第1回： 授業の進め方、評価方法、生活科創設とねらいについて 第2回： 生活科の内容と目標、情報機器を授業に活かす手法 予習：講義内容の情報を収集する 復習：情報機器を実際に試してみる 第3回： 「学校と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第4回： 「家庭と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第5回： 「地域と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第6回： 「公共物や公共施設の利用」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第7回： 「季節の変化と生活」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第8回： 「自然や物を使った遊び」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第9回： 「動植物の飼育・栽培」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第10回： 「生活や出来事の伝え合い」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第11回： 「自分の成長」内容とねらい 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習： <u>ねらいを実現する適切な内容とその展開を考える</u> 第12回：生活科と総合的学習について：グループ討議		

予習：自らの経験した総合的学習と生活科を整理しておく

復習：生活科と総合的な学習の意味を考える

第13回：生活科と幼児教育

予習：「幼稚園教育要領」の内容を調べる

復習：幼稚園から小学校への連続性と違いを整理

第14回：中学年科目内容との関連

予習：3年生理科・社会科の内容を調べる

復習：連続性と違いを整理

第15回：最終グループ討論とまとめ

予習：グループでの役割を検討する

復習：小学校教育における生活科の意味・役割を総括する

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編」

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、課題：30%、定期試験：50%

授業科目名： 生活科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文 担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 小学校生活科のねらいや内容等に関する基礎的な知識を習得する。 (到達目標)</p> <p>1) 生活科創設の意味、ねらいについて理解することができる。 2) 新学習指導要領における生活科の改定趣旨と目標について理解することができる。 3) 学習指導要領における生活科の学年の内容と目標について理解することができる。 4) 年間指導計画の作成および指導案の作成ができる。</p>		
<p>授業の概要 新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。生活科の考えやその内容構成の考え方について理解し、<u>具体的な実践ができるようにする。さらに、生活科授業の内容を理解の上、指導案を作成し模擬授業を行う。</u></p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回： 授業の進め方、評価方法、生活科創設とねらいについて 第2回： 生活科の内容と目標、情報機器を授業に活かす手法 予習：講義内容の情報を収集する 復習：情報機器を実際に試してみる 第3回： 「学校と生活」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第4回： 「家庭と生活」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第5回： 「地域と生活」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第6回： 「公共物や公共施設の利用」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第7回： 「季節の変化と生活」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第8回： 「自然や物を使った遊び」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第9回： 「動植物の飼育・栽培」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第10回： 「生活や出来事の伝え合い」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第11回： 「自分の成長」内容と指導法 予習：小学校生活の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：<u>単元の計画、展開、組み立を考える</u> 第12回： 指導案の作成 予習：指導案の大まかな構想を考える</p>		

復習： <u>指導案作成</u> 第13回： <u>指導案についてグループ討議</u> 予習： <u>指導案の確認</u> 復習： <u>グループ討議から指導案の見直し</u> 第14回： <u>模擬授業1</u> 予習： <u>指導案の確認</u> 復習： <u>模擬授業を体験して指導案を見直す</u> 第15回： <u>模擬授業2</u> 予習： <u>指導案の確認</u> 復習： <u>模擬授業を体験して指導案を見直す</u> 定期試験
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編」
参考書・参考資料等 必要に応じて指示する。
学生に対する評価 講義への関心・意欲・態度：20%、 <u>指導案</u> ：20%、 <u>模擬授業</u> ：20%、 <u>定期試験</u> ：40%

## (新旧対照表)シラバス「音楽科内容論」

新		
授業科目名： 音楽科内容論	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。</p> <p>(到達目標) 小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べるができる。歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。即興的に伴奏を付けることができる。小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。</p>		
<p>授業の概要 授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。 また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。</p>		
<p>授業計画 第1回：音楽科の目標と内容、わらべうた遊び(1) 第2回：わらべうた遊び(2) 第3回：音楽と身体表現 第4回：オルフ・シュールベルク 第5回：コダーイ・システム 第6回：音楽づくり 第7回：歌唱(1)小学校歌唱共通教材 第8回：歌唱(2)合唱 第9回：器楽(1)リコーダー 第10回：器楽(2)器楽合奏 第11回：鑑賞 第12回：指揮と伴奏 第13回：実技テスト(1)弾き歌い（コードを使った簡易伴奏で） 第14回：実技テスト(2)弾き歌い 弾き歌い（伴奏譜で） 第15回：子供の発達と音楽科教育について 定期試験は実施しない。</p>		
<p>テキスト 初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』（改訂版）音楽之友社 『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『「小学校学習指導要領解説 音楽科」』文部科学省</p>		
<p>参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。</p>		
<p>学生に対する評価 まとめのレポート(40%)、実技テスト(40%)、授業への参加度(20%)</p>		

旧

授業科目名： 音楽科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。 (到達目標) 小学校・幼稚園で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。即興的に伴奏を付けることができる。小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。		
授業の概要 授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。 また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。		
授業計画 第1回： <u>オリエンテーション</u> わらべうた遊び(1) 第2回：わらべうた遊び(2) 第3回：音楽と身体表現 第4回：オルフ・シュールベルク 第5回：コダーイ・システム 第6回：音楽づくり 第7回：歌唱(1)小学校歌唱共通教材 第8回：歌唱(2)合唱 第9回：器楽(1)リコーダー 第10回：器楽(2)器楽合奏 第11回：鑑賞 第12回：指揮と伴奏 第13回：実技テスト(1)弾き歌い(コードを使った簡易伴奏で) 第14回：実技テスト(2)弾き歌い 弾き歌い(伴奏譜で) 第15回： <u>授業の総括</u> 定期試験は実施しない。		
テキスト 初等科音楽教育研究会編/『最新 初等科音楽教育法』(改訂版) 音楽之友社 『小学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『「小学校学習指導要領解説 音楽科」』文部科学省)		
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価 まとめレポート(40%)、実技テスト(40%)、授業への参加度(20%)		



## (新旧対照表)シラバス「初等英語科内容論」

新		
授業科目名： 初等英語科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： <u>森本敦子</u> 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 小学校英語教育のねらいや内容等に関する基礎的な <u>理解と、指導者としての英語能力を身につけることを目的とする。</u> 1. 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 2. 新学習指導要領における外国語の改定趣旨と目標を理解する。 3. <u>初等英語科の内容・評価を理解し、指導者としての英語能力を高める。</u>		
授業の概要 新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解するとともに、 <u>指導者としての英語能力の向上を目指す。</u>		
授業計画 第 1 回：イントロダクション(講義のねらいと進め方、評価の仕方) 第 2 回：第二言語習得とは何か、脳科学と教育学の観点から 第 3 回：学習指導要領における 4 技能 5 領域についてと、最近の研究報告について 第 4 回：英語の音声 (聞くこと・話すこと) <u>について-web 教材を使って-</u> 第 5 回：英語の文字 (読むこと・書くこと) 第 6 回：英語の綴りと音声(フォニックスについて) 第 7 回：英米の児童文学(マザーグースや童話)について 第 8 回：異文化交流と言語コミュニケーションについて 第 9 回： <u>国際理解と英語教育</u> 第 10 回： <u>バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション</u> 第 11 回： <u>グループやペア等の学習形態とその効果について</u> 第 12 回： <u>英語教材の内容と構成</u> 第 13 回： <u>小学校における英語での発表について</u> 第 14 回： <u>グループ討論 小学校英語教育を考える</u> 第 15 回：全体のまとめ <u>豊かな初等英語教育を目指して</u> 定期試験		
小学校学習指導要領(文部省 H29)および配布資料キスト		
参考書・参考資料等 『小学校英語科教育法』(誠美堂)		
学生に対する評価 毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、試験(40%)		

旧

授業科目名： 初等英語科内容論	単位数： 2 単位	担当教員名： <u>伊藤佳世子</u> 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 小学校英語教育のねらいや内容等に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。 1. 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 2. 新学習指導要領における外国語の改定趣旨と目標を理解する。 3. <u>年間指導計画の作成および指導案の作成ができる。</u>		
授業の概要 新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解する。		
授業計画 第1回：イントロダクション(講義のねらいと進め方、評価の仕方) 第2回：第二言語習得とは何か、脳科学と教育学の観点から 第3回：学習指導要領における4技能5領域についてと、最近の研究報告について 第4回：英語の音声指導(聞くこと・話すこと)web教材の活用法 第5回：英語の文字による指導(読むこと・書くこと) 第6回：英語の綴りと音声(フォニックスについて) 第7回：英米の児童文学(マザーグースや童話)について 第8回：異文化交流と言語コミュニケーションについて 第9回： <u>バーバル・コミュニケーションとノンバーバル・コミュニケーション</u> 第10回： <u>グループやペア等の学習形態とその効果について</u> 第11回： <u>ITや視聴覚教材を活用した教育</u> 第12回： <u>小学校における英語での発表について</u> 第13回： <u>指導案とルーブリックの作成</u> 第14回： <u>指導案の合評会</u> 第15回：全体のまとめと振り返り 定期試験		
テ小学校学習指導要領(文部省 H29)および配布資料キスト		
参考書・参考資料等 『小学校英語科教育法』(誠美堂)		
学生に対する評価 毎時間の講義レポート(30%)、発表に対する評価(30%)、試験(40%)		

## (新旧対照表)シラバス「国語科指導法」

新		
授業科目名： 国語科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 村尾聡 担当形態：単独
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1) 国語科教育の現状について基本的な知識を習得し、学習指導要領に示された国語教育の特徴や指導法について理解し、説明できる。 2) 教材の特質や学年の発達段階に即した「ねらい」(教授課題)をふまえ、教材を分析し、発問や板書計画を含む学習指導案を立案し、模擬授業ができる。		
<b>授業の概要</b> 学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。 国語科には「詩、物語、小説などの文学教材の指導」「伝統的な言語文化である俳句、短歌の指導」「説明文(論説文)の指導」「作文教育」「読書指導」などがある。講義の前半は教員自らが文学教材の指導、説明文の指導などについて具体的な授業を示し、後半は、学生自らが学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その中で実践的な指導力の育成につとめる。		
<b>授業計画</b> 第 1 回：国語科教育の目的および現状と課題 第 2 回：教材研究のしかた(詩教材) 第 3 回：教材研究のしかた(物語教材 低学年) 第 4 回：教材研究のしかた(物語教材 中・高学年) 第 5 回：教材研究のしかた(説明文教材 低学年) 第 6 回：教材研究のしかた(説明文教材 中・高学年) 第 7 回：書写(硬筆・毛筆指導)の指導内容 第 8 回：「伝統的な言語文化と国語の特質」の指導について 第 9 回：学習指導案の書き方と国語科の評価法 第 10 回：模擬授業と振り返り(詩教材) 第 11 回：模擬授業と振り返り(物語教材 低学年) 第 12 回：模擬授業と振り返り(物語教材 中・高学年) 第 13 回：模擬授業と振り返り(説明文教材 低学年) 第 14 回：模擬授業と振り返り(説明文教材 中・高学年) 第 15 回：ICT を取り入れた授業の構想 定期試験		
<b>テキスト</b> 『小学校学習指導要領』文部科学省 講義時に適宜資料(テキスト)を配布		
<b>参考書・参考資料等</b> 村尾聡『文学教育論—西郷文芸学の教育学的考察—』ブイツーソリューション、2014 年 斉藤鉄也『たぬきの糸車』新読書社、2016 年 奥葉子『おおきなかぶ』新読書社、2017 年 辻恵子『一つの花』新読書社、2016 年		
<b>学生に対する評価</b> 授業への積極的参加 30% レポート 30% 定期試験 40%		

旧

授業科目名： 国語科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 村尾聡 担当形態：単独
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1) 国語科教育の現状について基本的な知識を習得し、学習指導要領に示された国語教育の特徴や指導法について理解し、説明できる。 2) 教材の特質や学年の発達段階に即した「ねらい」(教授課題)をふまえ、教材を分析し、発問や板書計画を含む学習指導案を立案し、模擬授業ができる。		
<b>授業の概要</b> 学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。 国語科には「詩、物語、小説などの文学教材の指導」「伝統的な言語文化である俳句、短歌の指導」「説明文(論説文)の指導」「作文教育」「読書指導」などがある。講義の前半は教員自らが文学教材の指導、説明文の指導などについて具体的な授業を示し、後半は、学生自らが学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その中で実践的な指導力の育成につとめる。		
<b>授業計画</b> 第 1 回：国語科教育の目的および現状と課題 第 2 回：教材研究のしかた(詩教材) 第 3 回：教材研究のしかた(物語教材 低学年) 第 4 回：教材研究のしかた(物語教材 中・高学年) 第 5 回：教材研究のしかた(説明文教材 低学年) 第 6 回：教材研究のしかた(説明文教材 中・高学年) 第 7 回： <u>学習指導案の書き方</u> 第 8 回：「伝統的な言語文化と国語の特質」の指導について 第 9 回： <u>国語科の評価法</u> 第 10 回：授業研究(詩教材) 第 11 回：授業研究(物語教材 低学年) 第 12 回：授業研究(物語教材 中・高学年) 第 13 回：授業研究(説明文教材 低学年) 第 14 回：授業研究(説明文教材 中・高学年) 第 15 回：ICT を取り入れた授業の構想 定期試験		
<b>テキスト</b> 『小学校学習指導要領』文部科学省 講義時に適宜資料(テキスト)を配布		
<b>参考書・参考資料等</b> 村尾聡『文学教育論—西郷文芸学の教育学的考察—』ブイツーンソリューション、2014 年 斉藤鉄也『たぬきの糸車』新読書社、2016 年 奥葉子『おおきなかぶ』新読書社、2017 年 辻恵子『一つの花』新読書社、2016 年		
<b>学生に対する評価</b> 授業への積極的参加 30% レポート 30% 定期試験 40%		

## (新旧対照表)シラバス「理科指導法」

新		
授業科目名： 理科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： <u>児島昌雄</u> 担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ)小学校理科授業に対する基本的な考え実践力を身に付けると共に、日常生活における科学的知識と応用が出来るようにする。</p> <p>(到達目標)</p> <p>1)小学校理科の目的・内容の理解の上で、理科の指導法について理解することができる。</p> <p>2)小学校理科の授業を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。</p> <p>3)科学的な知識を身につけ日常生活に応用できる。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>1)小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。</p> <p>2)実際に観察・飼育・実験をすることで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と指導法について理解を深める。</p> <p>3)小学校理科で扱う内容の理解から、災害や小学校で起こりうる事故を科学的な考えで理解し、災害からの避難方法、事故防止に役立つ実践的に学ぶ。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察</p> <p>第2回：小学校学習指導要領に定められた小学校理科の目的・目標および内容</p> <p>予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第3回：教科目標を達成するための指導法 1</p> <p>予習：講義内容をテキストで確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第4回：教科目標を達成するための指導法 2</p> <p>予習：講義内容をテキストで確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第5回：「エネルギー分野」の指導法</p> <p>予習：講義内容を文献で確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第6回：「粒子分野」の指導法</p> <p>予習：講義内容を文献で確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第7回：「生命分野」の指導法</p> <p>予習：講義内容を文献で確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第8回：「地球分野」の指導法</p> <p>予習：講義内容を文献で確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第9回：昆虫採集と飼育</p> <p>予習：身の回りで生息する昆虫を調べる</p> <p>復習：昆虫の飼育方法を調べる</p> <p>第10回：災害と科学・情報機器の利用法</p> <p>予習：講義内容の情報を集める</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第11回：指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む)</p> <p>予習：指導案の構想を練る</p>		

復習：指導案作成  
第12回：指導案グループ論議(情報機器の効果的な活用を含む)  
予習：指導案を確認する  
復習：グループ討議から指導案の見直し

第13回：模擬授業1  
予習：指導案を確認する  
復習：模擬授業から指導案を見直し

第14回：小中連携を検討する  
予習：小・中学校学習指導要領の内容の関連を調べる  
復習：小学校理科の内容を整理する

第15回：初等理科の学習評価について  
予習：指導要領の評価を確認する  
復習：指導と評価について自分の意見をまとめる

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定2版」 松原静郎・岩間淳子(編)  
オーム社 2018年 2000円

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、指導案：20%、模擬授業：20%、定期試験：40%

授業科目名： 理科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 小学校理科授業に対する基本的な考え実践力を身に付けると共に、日常生活における科学的知識と応用が出来るようにする。 (到達目標) 1) 小学校理科の目的・内容の理解の上で、理科の指導法について理解することができる。 2) 小学校理科の授業を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。 3) 科学的な知識を身につけ日常生活に応用できる。		
授業の概要 1) 小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。 2) 実際に観察・飼育・実験をすることで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と指導法について理解を深める。 3) 小学校理科で扱う内容の理解から、災害や小学校で起こりうる事故を科学的な考えで理解し、災害からの避難方法、事故防止に役立つ実践的に学ぶ。		
授業計画 第 1 回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然の観察 第 2 回：小学校学習指導要領に定められた小学校理科の目的・目標および内容 予習：小学校理科の教科書を読み、講義で行う大まかな内容確認 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 3 回：教科目標を達成するための指導法 1 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 4 回：教科目標を達成するための指導法 2 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 5 回：「エネルギー分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 6 回：「粒子分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 7 回：「生命分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 8 回：「地球分野」の指導法 予習：講義内容を文献で確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 9 回：昆虫採集と飼育 予習：身の回りで生息する昆虫を調べる 復習：昆虫の飼育方法を調べる 第 10 回：災害と科学・情報機器の利用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第 11 回：指導案作成 予習：指導案の構想を練る 復習：指導案作成		

第 12 回：指導案グループ論議(ICT 利用)

予習：指導案を確認する

復習：グループ討議から指導案の見直し

第 13 回：模擬授業 1

予習：指導案を確認する

復習：模擬授業から指導案を見直し

第 14 回：模擬授業 2

予習：指導案を確認する

復習：模擬授業から指導案を見直し

第 15 回：昆虫の飼育の発表

予習：発表内容を確認する

復習：発表内容をふり返る

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説理科編」

参考書・参考資料等

「解くコツがわかる小学校教員採用試験理科問題集 改定 2 版」 松原静郎・岩間淳子(編)

オーム社 2018 年 2000 円

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、指導案：20%、模擬授業：20%、定期試験：40%



## (新旧対照表)シラバス「生活科指導法」

新		
授業科目名： 生活科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文
		担当形態：単独
<p>授業のテーマおよび到達目標 (テーマ)生活科の内容や構成、ねらいを理解した上で、アクティブ・ラーニング、幼・保・小の連携、地域の財をテーマとしてその目的と指導法について学ぶ。 (到達目標)</p> <p>1) 様々な指導法について理解し、生活科への適用を考えることができる。 2) 小学校低学年の特質について理解し、中高学年との違いを踏まえた指導計画、指導案を作成することができる。 3) 地域を知ることで、地域の財を授業に取り込んだ指導ができる。 4) 幼・保・小の連携を生活科の授業を利用して、計画・実施することができる。</p>		
<p>授業の概要 まちたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。幼児教育から小学校への接続をスムーズにするために、発達段階に応じた幼児や児童の特性の理解など、実践例を示しながら講義を行い、指導案の作成、模擬授業などを行う。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第 1 回： 授業の進め方・評価方法、身の回りの自然観察 第 2 回： 生活科とアクティブラーニングの関わりを知る 予習：情報を収集する 復習：授業の展開を考察する 第 3 回： 接続プログラムから幼・保・小の連携を考える 予習：情報を収集する 復習：授業の展開を考察する 第 4 回：生活科の目的を理解し、指導内容の年間計画を立てる 予習：学習指導要領解説生活編に目を通す 復習：年間指導計画を構想する 第 5 回：情報機器の使用方法、野菜の栽培、観察 1 予習：情報を収集する 復習：野菜の栽培のお世話について考える 第 6 回：まちたんけん、野菜の栽培、観察 2 予習：情報を収集する 復習：まちたんけんの情報を確認する 第 7 回：まちたんけん動画作成、野菜の栽培、観察 3 予習：まちたんけん情報の確認 復習：動画発表の準備 第 8 回：まちたんけん動画発表、野菜の栽培、観察 4 予習：動画の確認 復習：野菜の栽培、観察のまとめをする 第 9 回：野菜の収穫、観察のワークシート発表 予習：野菜の栽培、観察のワークシート確認 復習：収穫した野菜の調理と試食 第 10 回：野菜栽培を授業に活かす指導法をグループで討議 予習：ワークシートの確認 復習：野菜の栽培の授業の展開を構想する 第 11 回：児童の特性を知り、地域の財を教材にする 予習：情報を収集する</p>		

復習：地域の財の教材化を考察する  
第12回：地域の財を使って指導案を作成する  
予習：情報を収集する  
復習：指導案作成  
第13回：指導案をグループ討議(ICT利用)  
予習：指導案確認  
復習：グループ討議から指導案の見直し  
第14回：模擬授業1  
予習：指導案確認  
復習：模擬授業から指導案の見直し  
第15回：生活科の学習評価について  
予習：学習指導要領を確認  
復習：授業全体を振り返りまとめる

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編」

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、まちたんけん動画20%、野菜の栽培、観察ワークシート20%、指導案20%、模擬授業20%

授業科目名： 生活科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文 担当形態：単独
<p>授業のテーマおよび到達目標</p> <p>(テーマ)生活科の内容や構成、ねらいを理解した上で、アクティブ・ラーニング、幼・保・小の連携、地域の財をテーマとしてその目的と指導法について学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>1)様々な指導法について理解し、生活科への適用を考えることができる。</p> <p>2)小学校低学年の特質について理解し、中高学年との違いを踏まえた指導計画、指導案を作成することができる。</p> <p>3)地域を知ることで、地域の財を授業に取り込んだ指導ができる。</p> <p>4)幼・保・小の連携を生活科の授業を利用して、計画・実施することができる。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>生活科の特徴について、内容論を踏まえた講義のみならず、まちたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。幼児教育から小学校への接続をスムーズにするために、発達段階に応じた幼児や児童の特性の理解など、実践例を示しながら講義を行う。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回： 授業の進め方・評価方法、身の回りの自然観察</p> <p>第2回： 生活科とアクティブラーニングの関わりを知る 予習：情報を収集する 復習：授業の展開を考察する</p> <p>第3回： 接続プログラムから幼・保・小の連携を考える 予習：情報を収集する 復習：授業の展開を考察する</p> <p>第4回：生活科の目的を理解し、指導内容の年間計画を立てる 予習：学習指導要領解説生活編に目を通す 復習：年間指導計画を構想する</p> <p>第5回：情報機器の使用方法、野菜の栽培、観察1 予習：情報を収集する 復習：野菜の栽培のお世話について考える</p> <p>第6回：まちたんけん、野菜の栽培、観察2 予習：情報を収集する 復習：まちたんけんの情報を確認する</p> <p>第7回：まちたんけん動画作成、野菜の栽培、観察3 予習：まちたんけん情報の確認 復習：動画発表の準備</p> <p>第8回：まちたんけん動画発表、野菜の栽培、観察4 予習：動画の確認 復習：野菜の栽培、観察のまとめをする</p> <p>第9回：野菜の収穫、観察のワークシート発表 予習：野菜の栽培、観察のワークシート確認 復習：収穫した野菜の調理と試食</p> <p>第10回：野菜栽培を授業に活かす指導法をグループで討議 予習：ワークシートの確認 復習：野菜の栽培の授業の展開を構想する</p> <p>第11回：児童の特性を知り、地域の財を教材にする 予習：情報を収集する 復習：地域の財の教材化を考察する</p>		

第 12 回：地域の財を使って指導案を作成する

予習：情報を収集する

復習：指導案作成

第 13 回：指導案をグループ討議(ICT 利用)

予習：指導案確認

復習：グループ討議から指導案の見直し

第 14 回：模擬授業 1

予習：指導案確認

復習：模擬授業から指導案の見直し

第 15 回：模擬授業 2

予習：指導案確認

復習：模擬授業から指導案の見直し

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説生活編」

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、まちたんけん動画 20%、野菜の栽培、観察ワークシート 20%、指導案 20%、模擬授業 20%

## (新旧対照表)シラバス「音楽科指導法」

新		
授業科目名： 音楽科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 1) 育成すべき資質・能力に対応した音楽科の授業を設計し、実践できるようになる。 2) 「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。		
授業の概要 本授業では、①「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。		
授業計画 第 1 回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 1 音楽科の目標と各学年の指導内容 第 2 回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 2 歌唱共通教材と器楽の実践 第 3 回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 3 音楽づくりの実践と「共通事項」 第 4 回：音楽科学習指導案 1 指導案の原理・形式と学習評価基準について 第 5 回：音楽科学習指導案 2 指導案の作成(情報機器の効果的な活用を含む) 第 6 回：模擬授業の準備 1 題材の選択と教材研究 第 7 回：模擬授業の準備 2 模擬授業の指導案作成(情報機器の効果的な活用を含む) 第 8 回：模擬授業 1 日本の伝統音楽・諸外国の音楽による授業の実践 第 9 回：模擬授業 2 わらべうた・日本の民謡による授業の実践(情報機器の効果的な活用を含む) 第 10 回：模擬授業 3 ポピュラー音楽・身体表現による授業の実践 第 11 回：模擬授業 4 音楽づくり・手作り楽器による授業の実践 第 12 回：模擬授業の総括 全模擬授業の振り返りと学生による討論 第 13 回：滝廉太郎作曲<花>の二部合唱と指揮の実践(クラス音楽会で発表) 第 14 回：クラス音楽会の企画と準備 第 15 回：クラス音楽会の開催と総括		
テキスト 『最新 初等科音楽教育法』(改訂版)(初等科音楽教育研究会編、音楽之友社) 「小学校学習指導要領」(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 「小学校学習指導要領解説」(平成 29 年 6 月 文部科学省)		
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価 模擬授業に関する総括レポート(40%)、模擬授業の発表内容(20%) 音楽科学習指導案の提出(20%)、クラス音楽会への参加と歌唱・指揮の実践(20%)		

授業科目名： 音楽科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治
		担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 1) 育成すべき資質・能力に対応した音楽科の授業を設計し、実践できるようになる。 2) 「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。		
授業の概要 本授業では、①「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。		
授業計画 第1回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 1 音楽科の目標と各学年の指導内容 第2回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 2 歌唱共通教材と器楽の実践 第3回：「小学校学習指導要領(音楽)」の理解 3 音楽づくりの実践と「共通事項」 第4回：音楽科学習指導案 1 指導案の原理・形式と評価規準 第5回：音楽科学習指導案 2 指導案の作成(ICTを活用して発表する) 第6回：模擬授業の準備 1 題材の選択と教材研究 第7回：模擬授業の準備 2 模擬授業の指導案作成 第8回：模擬授業 1 日本の伝統音楽・諸外国の音楽による授業の実践 第9回：模擬授業 2 わらべうた・日本の民謡による授業の実践 第10回：模擬授業 3 ポピュラー音楽・身体表現による授業の実践 第11回：模擬授業 4 音楽づくり・手作り楽器による授業の実践 第12回：模擬授業の総括 全模擬授業の振り返りと学生による討論 第13回：滝廉太郎作曲<花>の二部合唱と指揮の実践(クラス音楽会で発表) 第14回：クラス音楽会の企画と準備 第15回：クラス音楽会の開催と総括		
テキスト 『最新 初等科音楽教育法』(改訂版)(初等科音楽教育研究会編、音楽之友社) 「小学校学習指導要領」(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 「小学校学習指導要領解説」(平成 29 年 6 月 文部科学省)		
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。		
学生に対する評価 模擬授業に関する総括レポート(40%)、模擬授業の発表内容(20%) 音楽科学習指導案の提出(20%)、クラス音楽会への参加と歌唱・指揮の実践(20%)		

## (新旧対照表)シラバス「体育科指導法」

新		
授業科目名： 体育科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹
		担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標            授業の到達目標及びテーマ            (到達目標)</p> <p>① 小学校体育科教育の目的を理解する。            ② 小学校体育科教育の諸理論や実践方法を学び、初等体育科教育における自分自身の考えを深める。            ③ 小学校体育科の指導計画、授業実践及び授業評価ができるようになるための、知識や技術を身につける。</p> <p>(テーマ)            小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・過程などの理論と実際について、指導案作成及び模擬授業を通して、授業運営を行う方法を身に付ける。</p>		
<p>授業の概要            小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・集団・形態・過程などの理論と実際について、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。            小学校体育実技種目は、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ゲーム、ボール運動、表現運動などがあげられる。本授業では、体育科内容論で習得した知識をもとに、各種目の学習指導計画を作成し、技能習得のための理解と実践を行い、教材研究及び授業展開の実際を検証する。</p>		
<p>授業計画            第 1 回：本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容を説明する。            第 2 回：体育科の指導計画(年間計画、単元計画、単元時間計画)子供の認識・思考と授業設計            第 3 回：体育科の学習指導内容について            第 4 回：体育科の教材研究について            第 5 回：体育の技術指導の方法(授業を行う場所の設定、授業実践の基礎基本)について            第 6 回：体育の技術指導の方法(問題解決型学習・個別学習と集団学習)について            第 7 回：体育授業で使用する用具や場所等について            第 8 回：小学校体育における保健の授業の目的・内容・方法について            第 9 回：指導案の作成について            第 10 回：模擬授業(低学年)            第 11 回：模擬授業(中学年)            第 12 回：模擬授業(高学年)            第 13 回：模擬授業(保健)            第 14 回：体育や保健における学力のとらえ方と学習評価について            第 15 回：体育科の学習のまとめを ICT を用いて発表する。</p> <p>定期試験</p>		
<p>テキスト            『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018</p>		
<p>参考書・参考資料等            小学校指導要領解説 体育編(平成 29 年度 文部科学省)</p>		
<p>学生に対する評価            本試験 60% レポート他の提出物 20% 小テスト 20%</p>		

旧

授業科目名： 体育科指導法	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹
		担当形態：単独

授業のテーマ及び到達目標  
 授業の到達目標及びテーマ  
 (到達目標)  
 ④ 小学校体育科教育の目的を理解する。  
 ⑤ 小学校体育科教育の諸理論や実践方法を学び、初等体育科教育における自分自身の考えを深める。  
 ⑥ 小学校体育科の指導計画、授業実践及び授業評価ができるようになるための、知識や技術を身につける。  
 (テーマ)  
 小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・過程などの理論と実際について、指導案作成及び模擬授業を通して、授業運営を行う方法を身に付ける。

授業の概要  
 小学校体育科の目的・目標・内容、学習の指導方法・集団・形態・過程などの理論と実際について、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。  
 小学校体育実技種目は、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ゲーム、ボール運動、表現運動などがあげられる。本授業では、体育科内容論で習得した知識をもとに、各種目の学習指導計画を作成し、技能習得のための理解と実践を行い、教材研究及び授業展開の実際を検証する。

授業計画  
 第1回：本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。シラバスに沿って講義の内容を説明する。  
 第2回：体育科の指導計画(年間計画、単元計画、単元時間計画)子供の認識・思考と授業設計  
 第3回：体育科の学習指導内容について  
 第4回：体育科の教材研究について  
 第5回：体育の技術指導の方法(授業を行う場所の設定、授業実践の基礎基本)について  
 第6回：体育の技術指導の方法(問題解決型学習・個別学習と集団学習)について  
 第7回：体育授業で使用する用具や場所等について  
 第8回：小学校体育における保健の授業の目的・内容・方法について  
 第9回：指導案の作成について  
 第10回：模擬授業(低学年)  
 第11回：模擬授業(中学年)  
 第12回：模擬授業(高学年)  
 第13回：模擬授業(保健)  
 第14回：体育や保健における学力のとらえ方とその評価の仕方について  
 第15回：体育科の学習のまとめを ICT を用いて発表する。  
 定期試験

テキスト  
 『初等体育科教育』吉田武男監修、岡出美則編著、ミネルヴァ書房 2018

参考書・参考資料等  
 小学校指導要領解説 体育編(平成 29 年度 文部科学省)

学生に対する評価  
 本試験 60% レポート他の提出物 20% 小テスト 20%



## (新旧対照表)シラバス「幼児と健康」

新		
授業科目名： 幼児と健康	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 幼児期の健康について、運動遊びや運動指針を深く理解し、現在の子どもを取り巻く生活習慣と健康課題について深く理解することができる。		
授業の概要 健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。また幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることの大切さを理解する。		
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の進め方，成績評価の説明 第2回：幼児の「健康」についての目的と内容の理解 第3回：幼児の体と発育・発達と現在の健康課題について 第4回：幼児の心の発達について 第5回：幼児の身体の発達と運動能力について(健康なところと体を育む保育) 第6回：幼児の身体の発達と運動能力について(幼児の動機付けや意欲) 第7回：幼児の身体の発達と運動能力について(幼児理解と保育の視点) 第8回：幼児の安全について 第9回：幼児の病気(含感染症等)・ケガについて 第10回：保育現場における応急処置の基礎及び病気の予防 第11回：0～2歳児の生活について 第12回：0～2歳児の動作について 第13回：3～5歳児の生活について 第14回：3～5歳児の動作について 第15回：まとめと振り返り		
テキスト 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
参考書・参考資料等 適宜プリント等配布		
学生に対する評価 授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方(姿勢、態度)(20%) レポート提出(60%)		

旧

授業科目名： 幼児と健康	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 幼児期の健康について、運動遊びや運動指針を深く理解し、現在の子どもを取り巻く生活習慣と健康課題について深く理解することができる。		
授業の概要 健康の概念を明らかにし、乳幼児期の健康について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の領域「健康」に基づき、意義とねらい、内容を理解する。また幼児期に、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることの大切さを理解する。		
授業計画 第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明 第 2 回：幼児の「健康」についての目的と内容の理解 第 3 回：幼児の体と発育・発達と現在の健康課題について 第 4 回：幼児の心の発達について 第 5 回：幼児の <u>体力・運動能力について①(レクチャー)</u> 第 6 回：幼児の <u>体力・運動能力について②(グループ討議)</u> 第 7 回：幼児の <u>運動遊びについて①(レクチャー)</u> 第 8 回：幼児の <u>運動遊びについて②(グループ討議)</u> 第 9 回：幼児期の <u>運動指針の内容について①(レクチャー)</u> 第 10 回：幼児期の <u>運動指針の内容について②(グループ討議)</u> 第 11 回： <u>幼稚園における生活について</u> 第 12 回： <u>幼児が身につけていく内容と指導上の留意点</u> 第 13 回： <u>保育内容(健康)の指導の計画と評価(指導案の書き方)</u> 第 14 回： <u>保育内容(健康)の指導の実際(運動遊び、生活習慣、保健だより)</u> 第 15 回： <u>授業のまとめと振り返り、小学校とのつながりについて</u>		
テキスト 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
参考書・参考資料等 適宜プリント等配布		
学生に対する評価 授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方(姿勢、態度)(20%) レポート提出(60%)		

## (新旧対照表)シラバス「幼児と環境」

新		
授業科目名： 幼児と環境	単位数： 2 単位	担当教員名： <u>児島昌雄</u> 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)領域(環境)のねらいと内容について理解し、幼児と身近な環境との関わりの意義や自然認識の発達について学ぶ。 (到達目標) 1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)のねらいと内容を理解し、説明できる。 2) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、 <u>幼児と環境との関わりの意義や、自然認識の発達について理解する</u> 3) <u>幼児の生活における文字、数量・図形や、施設等の関わりについて、その意義や発達について理解する。</u>		
授業の概要 幼児は、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つ。この授業では、 <u>幼児の思考、自然認識の発達や、幼児と環境との関わりの意義、現代的な課題などについて学ぶ。授業は、アクティブラーニングの手法で行い、学生の主体的な学習が求められる。</u>		
<b>4 授業計画</b> 第1回 授業の進め方、評価方法、保育内容領域(環境)の全体構造 第2回 保育内容領域(環境)のねらいと内容 予習：講義内容の幼稚園教育要領解説に目を通す 復習：講義内容をふり返りまとめる 第3回 「森のようちえん」実践例と教育的効果 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第4回 自然保育の構成とそのねらい 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第5回 <u>幼児</u> の好奇心と探求心の芽生え 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第6回 <u>幼児と環境(1)</u> 自然環境とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第7回 <u>幼児と環境(2)</u> 生き物とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第8回 <u>幼児と環境(3)</u> 生活の中での文字・数・図形とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第9回 <u>幼児と環境(4)</u> 身近なモノ・標識・国旗とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第10回 <u>幼児と環境(5)</u> 生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法 予習：講義内容の情報を集める 復習：講義内容をふり返りまとめる 第11回 地域の自然・文化と保育内容(環境)とのかかわり 予習：講義内容の情報を集める		

復習：講義内容をふり返りまとめる  
第12回 幼児の好奇心と探求心を高める環境構成

予習：講義内容の情報を集める  
復習：講義内容をふり返りまとめる

第13回 幼児の自然認識の発達について

予習：情報を収集する  
復習：講義内容をふり返りまとめる

第14回 SDG'sなどの現代的課題について

予習：情報を収集する  
復習：講義内容を振り返りまとめる

第15回 まとめと振り返り

予習：これまでの授業を整理しておく  
復習：振り返りをまとめる

定期試験

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、発表・レポート：30%、定期試験：50%

授業科目名： 幼児と環境	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原高文
		担当形態：単独

授業のテーマ及び到達目標  
 (テーマ)領域(環境)のねらいと内容の理解を深め、保育実践の構成力を身に付けると共に、「環境」を目的にした自然保育への知識理解をする。

(到達目標)

- 1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)の示すことを理解し、説明できる。
- 2) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、子どもが遊び込む環境設定ができる。
- 3) 保育内容(環境)を理解した指導案を作成し、その評価の方法ができる。
- 4) 小学校への接続がスムーズにできるような知識理解ができる。

授業の概要

子どもは、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容(環境)に関する基礎的な理解と、自然環境を保育に活かした実践例を示し、様々な保育方法について学ぶ。

#### 4 授業計画

- 第1回 授業の進め方、評価方法、保育内容領域(環境)の全体構造  
 第2回 保育内容領域(環境)のねらいと内容  
 予習：講義内容の幼稚園教育要領解説に目を通す  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第3回 「森のようちえん」実践例と教育的効果  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第4回 自然保育の構成とそのねらい  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第5回 子どもの好奇心と探求心の芽生え  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第6回 子どもと環境(1)自然環境とのかかわり  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第7回 子どもと環境(2)生き物とのかかわり  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第8回 子どもと環境(3)生活の中での文字・数・図形とのかかわり  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第9回 子どもと環境(4)身近なモノ・標識・国旗とのかかわり  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第10回 子どもと環境(5)生活にかかわる情報や施設への興味・関心、情報機器の活用法  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第11回 地域の自然・文化と保育内容(環境)とのかかわり  
 予習：講義内容の情報を集める  
 復習：講義内容をふり返りまとめる

第12回 子どもの好奇心と探求心を高める環境構成

予習：講義内容の情報を集める

復習：講義内容をふり返りまとめる

第13回 保育内容(環境)と小学校との連携、異年齢交流を考える

予習：情報を収集する

復習：講義内容をふり返りまとめる

第14回 保育内容(環境)に関する指導案作成と評価方法

予習：指導案の構想を考える

復習：指導案を作成する

第15回 模擬保育 指導案に基づく模擬保育と振り返り

予習：指導案の確認

復習：模擬授業を体験して指導案を修正する

定期試験

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、指導案：20%、模擬授業：20%、定期試験：40%

## (新旧対照表)シラバス「幼児と表現」

新		
授業科目名： 幼児と表現	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、保育を構想できる。 3. 音楽表現などの表現活動の基礎的知識・技能を学び、保育に活用する際に必要な感性を豊かにする。		
授業の概要 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、 <u>幼児の表現を受け止め共感できる感性を養う。</u>		
授業計画 第 1 回:オリエンテーション、グループ作成、幼稚園教育要領・保育所保育指針における基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造 第 2 回: <u>乳幼児の表現の発達</u> 第 3 回: <u>領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性</u> 第 4 回:保育における音楽環境の変遷①：明治の唱歌と大正の童謡 第 5 回:保育における音楽環境の変遷②：戦後の「子どものうた」 第 6 回:領域「表現」と演奏活動 第 7 回:領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び① 第 8 回:領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び② 第 9 回: <u>総合的な表現活動</u> 第 10 回:領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向、レポート課題 第 11 回:領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び① 第 12 回:領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び② 第 13 回:領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇作り 第 14 回: <u>多様な教材と豊かな表現</u> 第 15 回:授業のまとめ、 <u>領域「表現」の評価の考え方</u> 定期試験 なし		
テキスト 三森桂子（著，編集），小畠エマ（著，編集），谷田貝公昭（監修）『音楽表現（〈新版〉実践保育内容シリーズ）』一藝社		
参考書・参考資料等 『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育 保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）		
学生に対する評価 授業時の取り組み(40%)、レポート課題(30%)、授業内テスト(30%)等により総合的に評価する。		

授業科目名： 幼児と表現	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治
		担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標		
<p>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>2. 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、保育を構想できる。</p> <p>3. <u>音楽表現を理解し、実際の保育に活用できる保育技術を身につける。</u></p>		
授業の概要		
<p>領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>		
授業計画		
第1回：オリエンテーション、グループ作成、幼稚園教育要領・保育所保育指針における基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造		
第2回：領域「表現」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法の理解		
第3回：幼稚園教育における評価の考え方、領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながり		
第4回：保育における音楽環境の変遷①：明治の唱歌と大正の童謡		
第5回：保育における音楽環境の変遷②：戦後の「子どものうた」		
第6回：領域「表現」と演奏活動		
第7回：領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び①		
第8回：領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：ごっこ遊び②		
第9回：指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成 総合的な表現活動		
第10回：領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向、レポート課題		
第11回：領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び①		
第12回：領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇遊び②		
第13回：領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法：劇作り		
第14回：模擬保育とその振り返り		
第15回：授業のまとめと授業内テスト		
定期試験 なし		
テキスト		
三森桂子（著，編集），小畠エマ（著，編集），谷田貝公昭（監修）『音楽表現（〈新版〉実践 保育内容シリーズ）』一藝社		
参考書・参考資料等		
『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育 保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房、『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）		
学生に対する評価		
授業時の取り組み(30%)、 <u>指導案の作成(20%)</u> 、レポート課題(30%)授業内テスト(20%)等により総合的に評価する。		



## (新旧対照表)シラバス「保育内容の指導法(健康)」

新		
授業科目名： 保育内容の指導法(健康)	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹
		担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 (到達目標) ① <u>幼児期に育みたい資質・能力を理解する。</u> ② <u>幼児期に起こりやすい怪我や感染症等を理解する。</u> ③ <u>幼児の健康の維持・増進につながる指導のあり方を身につける。</u> ④ <u>幼児の発育、発達の特徴を理解する。</u>		
(テーマ) <u>幼児の健康な心と体を育て、幼児自身が健康で安全な生活を作り出す力を培うために必要な教育方法を身につける。</u>		
授業の概要 <u>幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学び、指導方法を身につける。幼児の健康に関連したさまざまな事象について学び、幼児が健康を獲得するための知識や技能・指導方法を身につける。</u>		
授業計画 第1回：本授業の目的・概要、授業方針等を確認する。 第2回： <u>幼児の発達と認識・思考、身体特性について</u> 第3回： <u>幼児の体力・運動能力について①(レクチャー)</u> 第4回： <u>幼児の体力・運動能力について②(グループ討議)</u> 第5回： <u>幼児の運動遊びについて①(レクチャー)</u> 第6回： <u>幼児の運動遊びについて②(グループ討議)</u> 第7回： <u>幼児期の運動指針の内容について①(レクチャー)及び②(グループ討議)</u> 第8回： <u>基本的な生活習慣の獲得を目指した保育計画と評価(指導案の書き方&lt;ICTの活用&gt;)</u> 第9回： <u>基本的な生活習慣の獲得を目指した模擬保育</u> 第10回： <u>基本的な生活習慣の獲得を目指した模擬保育の評価と改善(振り返り)</u> 第11回： <u>運動遊びを中心とした保育計画と評価(指導案の書き方)</u> 第12回： <u>運動遊びを中心とした模擬保育</u> 第13回： <u>運動遊びを中心とした模擬保育の評価と改善(振り返り)</u> 第14回： <u>ICTを活用した保育構想と、学習評価について</u> 第15回： <u>授業のまとめと振り返り、保育実践の動向、小学校とのつながりについて</u>		
テキスト <u>『演習 保育内容 健康』川邊貴子, 建帛社, 2008</u>		
参考書・参考資料等 <u>『幼稚園教育要領解説書 平成29年度告示版』文部科学省</u> <u>『保育所保育指針解説書 平成29年度告示版』厚生労働省</u>		
学生に対する評価 定期試験 60% レポート他の提出物 20% 授業への積極的参加 20%		

旧

授業科目名： 保育内容の指導法(健康)	単位数： 2 単位	担当教員名： 青木宏樹 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園教育要領の領域「健康」についてのねらい及び内容について理解を深めるとともに、 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場 面を想定して、指導案を作成し、保育構想の向上に取り組むことができる。		
授業の概要 幼児期の健康について、幼稚園教育要領等の領域「健康」の意義とねらい、内容の取り扱い を理解し、生きる力の基本となる睡眠・食育・運動について正しい習慣を身につけることが 大切であることを理解する。また、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す 力を養うための必要な知識や技能、指導方法を身につける。		
授業計画 第 1 回：オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定 第 2 回：保育における「健康」について 第 3 回：基本的な生活習慣(食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣等)について 第 4 回：健康管理と安全能力(健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力)について 第 5 回：健康なこころと体を育む保育(健康指導、安全指導の保育場面)について① 第 6 回：健康なこころと体を育む保育(健康指導、安全指導の実際)について② 第 7 回：健康なこころと体を育む保育(幼児の動機付けや意欲)について③ 第 8 回：健康なこころと体を育む保育(幼児理解と保育の視点)について④ 第 9 回：幼児理解と保育の視点の評価と改善について 第 10 回：多様な動きの経験(遊びや生活の中の動きの経験)について 第 11 回：運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導案づくりの実際 第 12 回：生活習慣の指導案づくりの実際(情報機器の活用を含む) 第 13 回：指導案に基づく模擬保育とその振り返り 第 14 回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教育について 第 15 回：まとめ ー領域「健康」における課題と保育実践について		
テキスト 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生 労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
参考書・参考資料等 適宜プリント等配布		
学生に対する評価 授業の積極的な参加(20%)、授業への取り組み方(姿勢、態度)(20%) レポート提出(60%)		

## (新旧対照表)シラバス「保育内容の指導法(環境)」

新		
授業科目名： 保育内容の指導法(環境)	単位数： 2 単位	担当教員名 柳原高文 担当形態：単独
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ)保育者として、自然への気付きを育み、<u>領域「環境」の内容・ねらいを理解し、保育の構想・指導方法を身につける。</u></p> <p>また、<u>幼児の発達を理解し、環境とかかわる力を育てる保育内容から、内面を育てる豊かな環境の構成ができるようにする。</u></p> <p>(到達目標)</p> <p>1) 幼稚園教育要領における<u>領域「環境」のねらいや内容を理解し説明できる。</u></p> <p>2) 領域「環境」のねらいと内容に基づき、<u>指導上の留意点について理解できる。</u></p> <p>3) 幼児の<u>発達を理解し、具体的な保育を構想できる。</u></p> <p>4) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら、<u>保育構想の向上に取り組む。</u></p>		
<p>授業の概要</p> <p>幼児と環境の内容を踏まえて、<u>保育指導の実践力を身に付ける。</u></p> <p>幼児の発達段階を踏まえた<u>具体的な指導に加えて</u>、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然観察</p> <p>第2回：領域「環境」の変遷、実現したい具体的な内容と活動、情報機器の利用法 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第3回：自然保育とは <u>保育実践の動向について</u> 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第4回：絵本が育む幼児の自然観 予習：講義内容の情報を収集する 復習：絵本について自分なりの考えをまとめる</p> <p>第5回：幼児が体験できる教材開発 予習：講義内容の情報を集める 復習：教材作成</p> <p>第6回：教材発表 予習：発表準備 復習：発表内容をふり返りまとめる</p> <p>第7回：幼児教育における木育とは 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第8回：身の回りの樹木の観察と幼児教育との関わり 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第9回：行事とのかかわり：地域マップを作成 予習：講義内容の情報を収集する 復習：地域マップ作成</p> <p>第10回：幼児施設における動物の飼育方法(獣医師からの指導) 予習：講義内容をテキストで確認する 復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第11回：園内環境としての園具・遊具・素材、理想的な園庭とは</p>		

予習：講義内容をテキストで確認する  
復習：講義内容をふり返りまとめる  
第12回：指導案作成(ICTを活用した保育構想と評価のあり方を含む)  
予習：情報の収集  
復習：指導案を練る  
第13回：模擬授業(ICTを活用した保育構想と評価の在り方を含む)  
予習：指導案確認  
復習：模擬授業の振り返り  
第14回：保育内容(環境)と学習内容、小学校との連携を考える  
予習：情報を収集する  
復習：講義内容を振り返りまとめる  
第15回：まとめと振り返り

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

適宜プリント等配布

学生に対する評価

講義への関心・意欲・態度：20%、制作物：40%、指導案：20%、模擬授業：20%

授業科目名： 保育内容の指導法(環境)	単位数： 2 単位	担当教員名 柳原高文
		担当形態：単独

授業のテーマ及び到達目標  
 (テーマ)保育者として、自然への気付きを育み、「環境」という様々な視点から必要な基礎知識と技能を学び、習得する。  
 また、環境とかかわる力を育てる保育内容から、内面を育てる豊かな環境の構成ができるようにする。  
 (到達目標)  
 1) 幼稚園教育要領における保育内容(環境)の示すことが理解し説明できる。  
 2) 領域「環境」のねらいと内容について、変遷を踏まえて理解できる。  
 3) 幼児の育ちを支える保育環境を構成することができる。  
 4) 身近な地域環境の現状と課題を踏まえながら子どもが遊び込む環境設定ができる。

授業の概要  
 幼児と環境の内容を踏まえた知識に基づき、指導の実践力を身に付ける。  
 幼稚園教育要領「環境」で示している内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導だけではなく、  
 地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。

授業計画  
 第1回：授業の進め方、評価方法、身の回りの自然観察  
 第2回：領域「環境」の変遷、実現したい具体的な内容と活動、情報機器の利用法  
     予習：講義内容をテキストで確認する  
     復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第3回：自然保育とは  
     予習：講義内容をテキストで確認する  
     復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第4回：絵本が育む幼児の自然観  
     予習：講義内容の情報を収集する  
     復習：絵本について自分なりの考えをまとめる  
 第5回：幼児が体験できる教材開発  
     予習：講義内容の情報を集める  
     復習：教材作成  
 第6回：教材発表(ICTを活用)  
     予習：発表準備  
     復習：発表内容をふり返りまとめる  
 第7回：幼児教育における木育とは  
     予習：講義内容をテキストで確認する  
     復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第8回：身の回りの樹木の観察と幼児教育との関わり  
     予習：講義内容をテキストで確認する  
     復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第9回：行事とのかかわり：地域マップを作成  
     予習：講義内容の情報を収集する  
     復習：地域マップ作成  
 第10回：幼児施設における動物の飼育方法(獣医師からの指導)  
     予習：講義内容をテキストで確認する  
     復習：講義内容をふり返りまとめる  
 第11回：幼児施設における動物の飼育とは

<p>予習：講義内容をテキストで確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第12回：園内環境としての園具・遊具・素材、理想的な園庭とは</p> <p>予習：講義内容をテキストで確認する</p> <p>復習：講義内容をふり返りまとめる</p> <p>第13回：指導案作成</p> <p>予習：情報の収集</p> <p>復習：指導案を練る</p> <p>第14回：模擬授業準備</p> <p>予習：指導案確認</p> <p>復習：模擬授業の流れの確認と指導案確認</p> <p>第15回：模擬授業</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜プリント等配布</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>講義への関心・意欲・態度：20%、制作物：40%、指導案：20%、模擬授業：20%</p>

## (新旧対照表)シラバス「保育内容の指導法(音楽表現)」

新		
授業科目名： 保育内容の指導法(音楽表現)	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標		
<p>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</p> <p>2. 音楽表現を理解し、実際の保育に活用できる保育技術を身につける。</p>		
領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。		
授業計画		
<p>1 オリエンテーション、グループ作成</p> <p>2 表現とは何か、保育の基本と音楽表現</p> <p>3 幼稚園教育要領・保育所保育指針における音楽表現(ねらい、内容、評価)について</p> <p>4 指導案の校正と理解・情報機器を授業に生かす手法</p> <p>5 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現①：わらべうた 1</p> <p>6 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現②：わらべうた 2</p> <p>7 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現③：手遊びうた</p> <p>8 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法①：リトミック 1</p> <p>9 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法②：リトミック 2</p> <p>10 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法③：ハンドベル 1</p> <p>11 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法④：ハンドベル 2</p> <p>12 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑤：ダンス 1</p> <p>13 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑥：ダンス 2</p> <p>14 グループ発表</p> <p>15 小学校との連携を考える</p>		
テキスト		
<p>三森桂子(著, 編集), 小嶋エマ(著, 編集), 谷田貝公昭(監修)『音楽表現(〈新版〉実践 保育内容シリーズ)』一藝社</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』</p>		
参考書・参考資料等		
適宜、楽譜等を配布する		
学生に対する評価		
授業時の取り組み(30%)、課題の提出状況(35%)、グループ発表(35%)等により総合的に評価する。		

旧

授業科目名： 保育内容の指導法(音楽表現)	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤慶治 担当形態：単独
授業のテーマ及び到達目標 3. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 4. 音楽表現を理解し、実際の保育に活用できる保育技術を身につける。		
領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。		
授業計画 1 オリエンテーション、グループ作成 2 表現とは何か、保育の基本と音楽表現 3 幼稚園教育要領・保育所保育指針における音楽表現について 4 音楽表現を生成する過程 5 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現①：わらべうた 1 6 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現②：わらべうた 2 7 乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な音楽表現③：手遊びうた 8 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法①：リトミック 1 9 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法②：リトミック 2 10 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法③：ハンドベル 1 11 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法④：ハンドベル 2 12 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑤：ダンス 1 13 領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法⑥：ダンス 2 14 個人発表 15 グループ発表(ICT を活用)と授業のまとめ		
テキスト 三森桂子(著, 編集), 小嶋エマ(著, 編集), 谷田貝公昭(監修)『音楽表現(〈新版〉実践 保育内容シリーズ)』一藝社		
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』(文部科学省)、適宜、楽譜等を配布する		
学生に対する評価 授業時の取り組み(30%)、課題の提出状況(20%)、個人発表(25%)グループ発表(25%)等により総合的に評価する。		